大阪府埋蔵文化財調査報告2007－5

# 鳳東町４丁遺跡

## －堺南警察署庁舎建て替えに伴う発掘調査－

２００８年３月

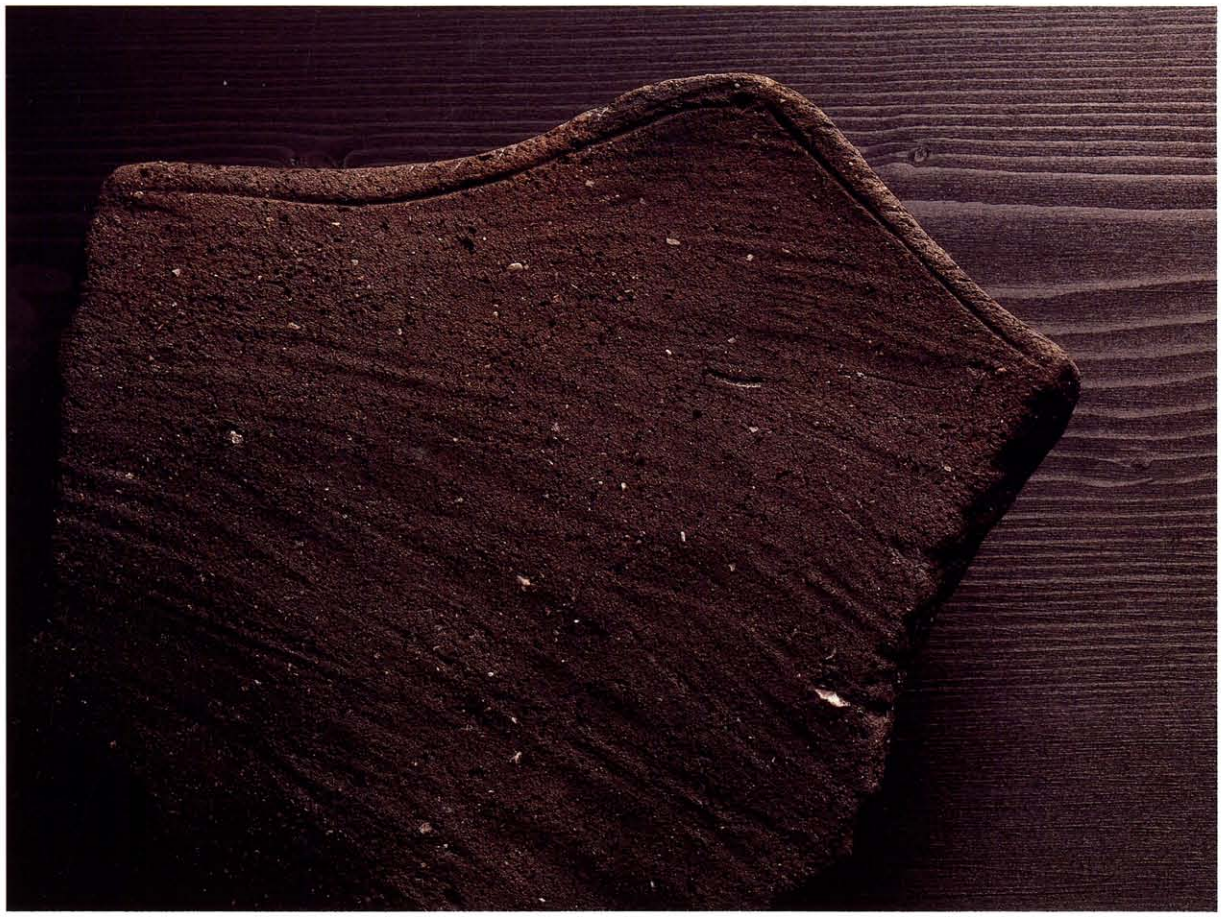
大阪府教育委員会

# 鳳東町４丁遺跡

－堺南警察署庁舎建て替えに伴う発掘調査－

２００８年３月

大阪府教育委員会



縄文土器（372）

縄文土器（372）

# 序　文

本書で報告いたします鳳東町４丁遺跡は、堺市西部のＪＲ鳳駅近くに位置しています。堺市内には旧石器時代以来、江戸時代に至るまで数多くの遺跡が残され、ことに仁徳陵古墳を始めとする百舌鳥古墳群、「黄金の日日」と称された堺環濠都市遺跡は、それぞれの時代の日本を代表する遺跡です。しかし遺跡周辺では市街化が進み、残念ながら近世以前の面影はほとんど留めていません。発掘調査を通じて往時の姿を見出すことができるのみです。

このたび堺南警察署の建て替えに伴って発掘調査を実施し、泉北丘陵側から大鳥大社方向に流れる奈良時代の大溝とその脇に平行した２条の溝、そして周辺に広がる水田域などを発見しました。３条の溝は当時の用水路と考えられ、古代における当遺跡周辺の土地開発を考える上で重大な発見となりました。さらに、そうした遺構の下層では、縄文時代の土器や石器が数多く出土しました。

そもそも今回の調査は、平成16年度の試掘調査で遺物や遺構を発見したことにもとづき実施したものです。この鳳東町４丁遺跡に限らず、本課では分布調査や試掘調査を重ね、遺跡という先人達の残した生活の痕跡の追求に努めています。今回の貴重な発見は、こうした作業の積み重ねが結びついたといえます。

調査にあたりましては、関係各位から多大なご指導、ご助力をいただき、厚く感謝いたしております。また今後とも文化財行政にいっそうのご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年３月

大阪府教育委員会

文化財保護課長　冨雄　昌秀

# 例　　言

1．本書は大阪府教育委員会が大阪府警察本部より依頼を受け、平成17年度に実施した、堺市西区鳳東町４丁所在、鳳東町４丁遺跡の堺南警察署建て替えに伴う発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、大阪府教育委員会文化財保護課調査第二グループ技師三木弘（調査番号：０５０１２）を担当として、平成17年６月～18年１月まで実施した。これらに伴う遺物整理事業については、平成18・19年度に調査管理グループ主査三宅正浩・技師藤田道子を担当として実施した。

3．本調査の写真測量は、株式会社シー・エム・シーに委託した。撮影フィルムは、株式会社ジオテクノ関西で保管している。

4．本書で掲載した遺物写真の撮影は、有限会社阿南写真工房に委託した。

5．縄文土器の胎土分析については、株式会社パレオ・ラボに委託した。

6．出土遺物および記録資料は、大阪府教育委員会で保管している。

7．本書の編集・執筆は三木が行なった。ただし、Ⅳ章２（１）は京都大学大学院生河本純一が分担執筆し、Ⅴ章は株式会社パレオ・ラボの報告を掲載した。

8．堺南警察署建て替えに伴う発掘調査・遺物整理および本書の作成に要した経費は、全額を大阪府警本部が負担した。

9．現地での発掘調査、遺物整理事業および本書作成にあたっては、下記の方々、機関から助言および協力を得た。記して感謝いたします。　（敬称略）

工楽善通、堺市教育委員会、堺市文化財調査事務所、（財）大阪府文化財センター、
大阪府立狭山池博物館、堺南警察署

10．本報告書は300部作成し、一部あたりの単価は2,720円である。

# 本　文　目　次

序文　　大阪府教育委員会文化財保護課　冨尾昌秀

例言

Ⅰ　鳳東町４丁遺跡の立地環境と歴史
　１　鳳東町４丁遺跡の立地環境……(三木)……1
　２　鳳東町４丁遺跡周辺の歴史……(三木)……3
Ⅱ　調査の経緯と経過
　１　調査に至る経緯……(三木)……7
　２　調査経過……(三木)……9
　３　調査方法……(三木)……9
Ⅲ　調査の成果
　１　基本層序……(三木)……19
　２　第１面の調査……(三木)……19
　３　第２面の調査……(三木)……23
　４　出土遺物……(三木)……35
Ⅳ　中央トレンチ（縄文時代）の調査成果
　１　中央トレンチの調査……(三木)……64
　２　縄文時代の遺物
　（１）縄文土器 ……(河本)……73
　（２）縄文石器 ……(三木)……86
Ⅴ　縄文土器の胎土分析の成果……(パレオ・ラボ)……99
Ⅵ　総括……(三木)……110

実測遺物観察表……118
縄文土器観察表……140
縄文石器観察表……146
参考文献……115

# 挿　図　目　次


第１図　遺跡の位置 …… 1
第２図　遺跡周辺の地形 …… 2
第３図　鳳東町４丁遺跡と周辺の主要遺跡 …… 4
第４図　調査地の位置 …… 7
第５図　調査区の分割 …… 8
第６図　グリッド位置 …… 10
第７図　調査区基本土層図（１）…… 11・12
第８図　調査区基本土層図（２）…… 13・14
第９図　第１面全体図 …… 15・16
第10図　第２面全体図…… 17・18
第11図　００２溝…… 20
第12図　０２３井戸…… 21
第13図　０３８・０８９溝…… 22
第14図　００１溝…… 25・26
第15図　００１・Ａ溝木製樋管検出状況…… 27
第16図　水田域…… 28
第17図　水田域土層…… 29
第18図　００１・Ｃ溝と水口…… 30
第19図　掘立柱建物１…… 31
第20図　掘立柱建物２…… 32
第21図　柵…… 33
第22図　井戸２４…… 34
第23図　００１・Ａ溝出土遺物（１）…… 36
第24図　００１・Ａ溝出土遺物（２）…… 37
第25図　００１・Ａ溝出土遺物（３）…… 38
第26図　００１・Ｂ溝出土遺物（１）…… 40
第27図　００１・Ｂ溝出土遺物（２）…… 42
第28図　００１・Ｃ溝出土遺物／一括遺物（１）…… 44
第29図　００１溝一括遺物（２）…… 45
第30図　００１溝一括遺物（３）…… 47
第31図　００１溝一括遺物（４）…… 48
第32図　平安整地土・耕作土出土遺物…… 49

第33図　中世整地土・耕作土出土遺物……50
第34図　包含層出土遺物（１）……51
第35図　包含層出土遺物（２）……52
第36図　攪乱土出土遺物……53
第37図　遺構出土遺物……55
第38図　金属生産関連資料……55
第39図　００１・Ａ溝出土遺物－拓影－……56
第40図　００１・Ａ･Ｂ･Ｃ溝、００２溝出土遺物－拓影－……57
第41図　００１溝一括遺物（１）－拓影－……58
第42図　００１溝一括遺物（２）－拓影－……59
第43図　００１溝一括遺物（３）－拓影－……60
第44図　平安整地土出土遺物－拓影－……61
第45図　平安耕作土、中世整地土出土遺物－拓影－……62
第46図　包含層・攪乱土出土遺物－拓影－……63
第47図　中央トレンチの位置……64
第48図　中央トレンチグリッド位置……65
第49図　中央トレンチ遺物出土状況（全体）……66
第50図　２・３段上面遺物出土状況……67
第51図　４・５段上面遺物出土状況……68
第52図　２・３段上面堆積土状況……69
第53図　４・５・６段上面堆積土状況……70
第54図　中央トレンチ土層……71・72
第55図　縄文土器（１）……73
第56図　縄文土器（２）……74
第57図　縄文土器（３）……75
第58図　縄文土器（４）……76
第59図　縄文土器（５）……76
第60図　縄文土器（６）……77
第61図　縄文土器（７）……78
第62図　縄文土器（８）……79
第63図　縄文土器（９）……80
第64図　縄文土器（10）……81
第65図　縄文土器（11）……82
第66図　縄文土器（12）……82

第67図　縄文土器（13）……83
第68図　縄文土器（14）……84
第69図　縄文土器（15）……86
第70図　土製品……86
第71図　縄文石器（1）……87
第72図　縄文石器（2）……88
第73図　縄文石器（3）……89
第74図　縄文石器（4）……90
第75図　縄文石器（5）……90
第76図　縄文石器（6）……91
第77図　縄文石器（7）……92
第78図　縄文石器（8）……93
第79図　縄文石器（9）……94
第80図　縄文石器（10）……95
第81図　縄文石器（11）……96
第82図　縄文石器（12）……97
第83図　縄文石器（13）……98
第84図　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度……107
第85図　土器胎土の孔隙・砂粒・基質の割合……108
第86図　土器胎土中の砂の粒径組成……109
第87図　現況の水路……113

# 表　目　次

表1　分析資料一覧表および胎土分類……99
表2　薄片観察結果（1）……105
表3　薄片観察結果（2）……106
表4　行基関連記事……111
表5　和泉国の飢饉史料……112

# 図　版　目　次


巻頭図版　縄文土器

図版１　鳳東町４丁遺跡遠景（南から）　鳳東町４丁遺跡遠景（垂直）

図版２　１区　001溝・002溝・023井戸・024井戸・水田域

図版３　２区　001溝・002溝

図版４　３区　001溝

図版５　１区　水田域　２区　水田域・畦

図版６　１区　001溝全景（南から）　１区　001溝全景（南東から）

図版７　３区　001溝全景（北から）　３区　001溝全景（北西から）

図版８　１区　木製樋管検出状況（北から）　１区　001・Ａ溝土層断面（北から）

図版９　１区　001溝　木製樋管検出状況（北から）　１区　001溝　木製樋管検出状況（東から）

図版10　１区　023井戸　木枠検出状況（東から）　１区　024井戸　半裁状況（南から）

図版11　３－58区　001・Ｂ溝（北から）　３－60区　001・Ｂ溝（北から）

３区　001・Ｂ溝Ｋベルト断面（南から）　３区　001・Ｂ溝Ｊベルト断面（北から）

３区　001・Ａ溝Ｌベルト断面（北から）　３区　001・Ａ溝Ｍベルト断面（南から）

１区　001・Ｂ溝Ａベルト断面（南から）　２区　001・Ｂ溝Ｆベルト断面（南から）

図版12　１区　水田域・畦（南から）　１区　畦土層断面（南から）

図版13　１区　水田域全景（南から）　２区　水田域全景（北から）

図版14　中央トレンチ　南壁西半（北東から）　中央トレンチ　北壁（南西から）

図版15　001溝出土遺物　須恵器

図版16　001溝出土遺物　須恵器　001溝出土遺物　須恵器

図版17　001溝出土遺物　須恵器　001溝出土遺物　須恵器

図版18　001溝出土遺物　須恵器　001溝出土遺物　須恵器

図版19　001溝出土遺物　須恵器

図版20　001溝出土遺物　須恵器

図版21　001溝出土遺物　須恵器　001溝出土遺物　須恵器

図版22　001溝出土遺物　須恵器　001溝出土遺物　須恵器

図版23　001溝出土遺物　土器

図版24　001溝出土遺物　土器　001溝出土遺物　土器

図版25　出土遺物　須恵器　出土遺物　土器

図版26　出土遺物　黒色土器　出土遺物　瓦器

図版27　出土遺物　瓦器　出土遺物　瓦器

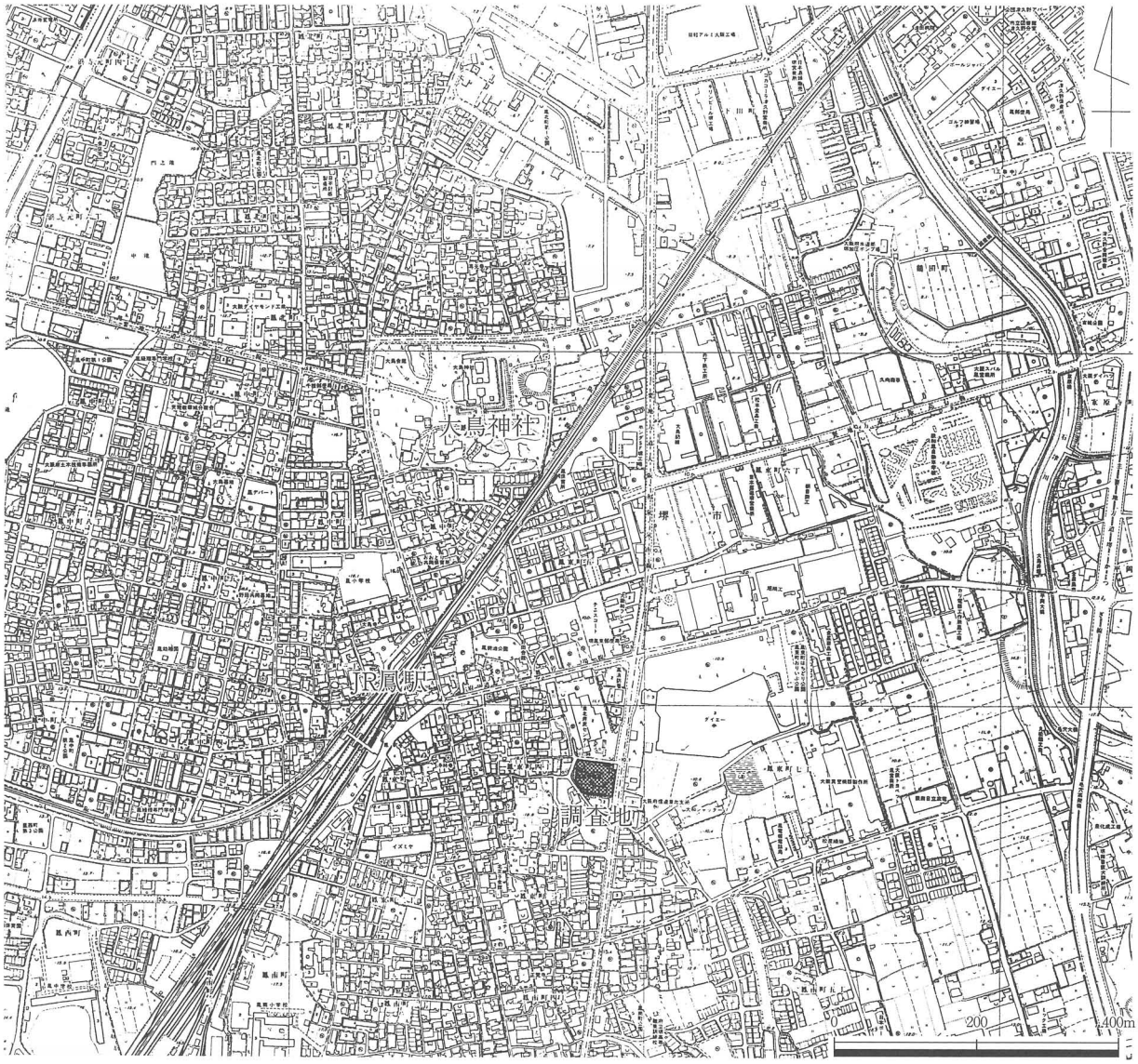
| | | |
|---|---|---|
| 図版28 | 出土遺物　蛸壺・土錘 | 出土遺物　羽口・坩堝・鉄滓 |
| 図版29 | 縄文土器　有文深鉢 | 縄文土器　有文深鉢 |
| 図版30 | 縄文土器　有文深鉢 | |
| 図版31 | 縄文土器　有文深鉢 | |
| 図版32 | 縄文土器　有文深鉢 | |
| 図版33 | 縄文土器　有文浅鉢 | |
| 図版34 | 縄文土器　有文浅鉢 | 縄文土器　無文深鉢 |
| 図版35 | 縄文土器　無文深鉢 | |
| 図版36 | 縄文土器　無文深鉢 | |
| 図版37 | 縄文土器　無文浅鉢 | 縄文土器　注口土器 |
| 図版38 | 縄文土器　注口土器 | 土製品 |
| 図版39 | 縄文土器　底部 | 縄文土器　底部 |
| 図版40 | 縄文石器　石鏃 | 縄文石器　石刃 |
| 図版41 | 縄文石器　剥片 | 縄文石器　石皿 |
| 図版42 | 木製樋管全形 | 木製樋管小口部 |

# Ⅰ　鳳東町４丁遺跡の立地環境と歴史

## １　鳳東町４丁遺跡の立地環境

鳳東町４丁遺跡は堺市西区鳳東町４丁に位置する。遺跡の範囲は、堺南警察署の敷地に対応する。遺跡は石津川の西岸に位置し、その氾濫原・沖積平野に当たる。この面は日部神社東方の、和田川との合流点より下流の石津川東西両岸に沿って広がっている。よって、調査地周辺の地形は北および西方向の大阪湾方面に緩やかに下降していく。この地形が当遺跡および周辺の土地開発の在り方を決定付ける要因となった。

鳳東町４丁遺跡が位置する和泉地域は和歌山県との障壁をなす和泉山脈、そこから北西方向に広がる丘陵地帯、丘陵の前線に広がる洪積丘陵、海岸線までの沖積平野に大別される。

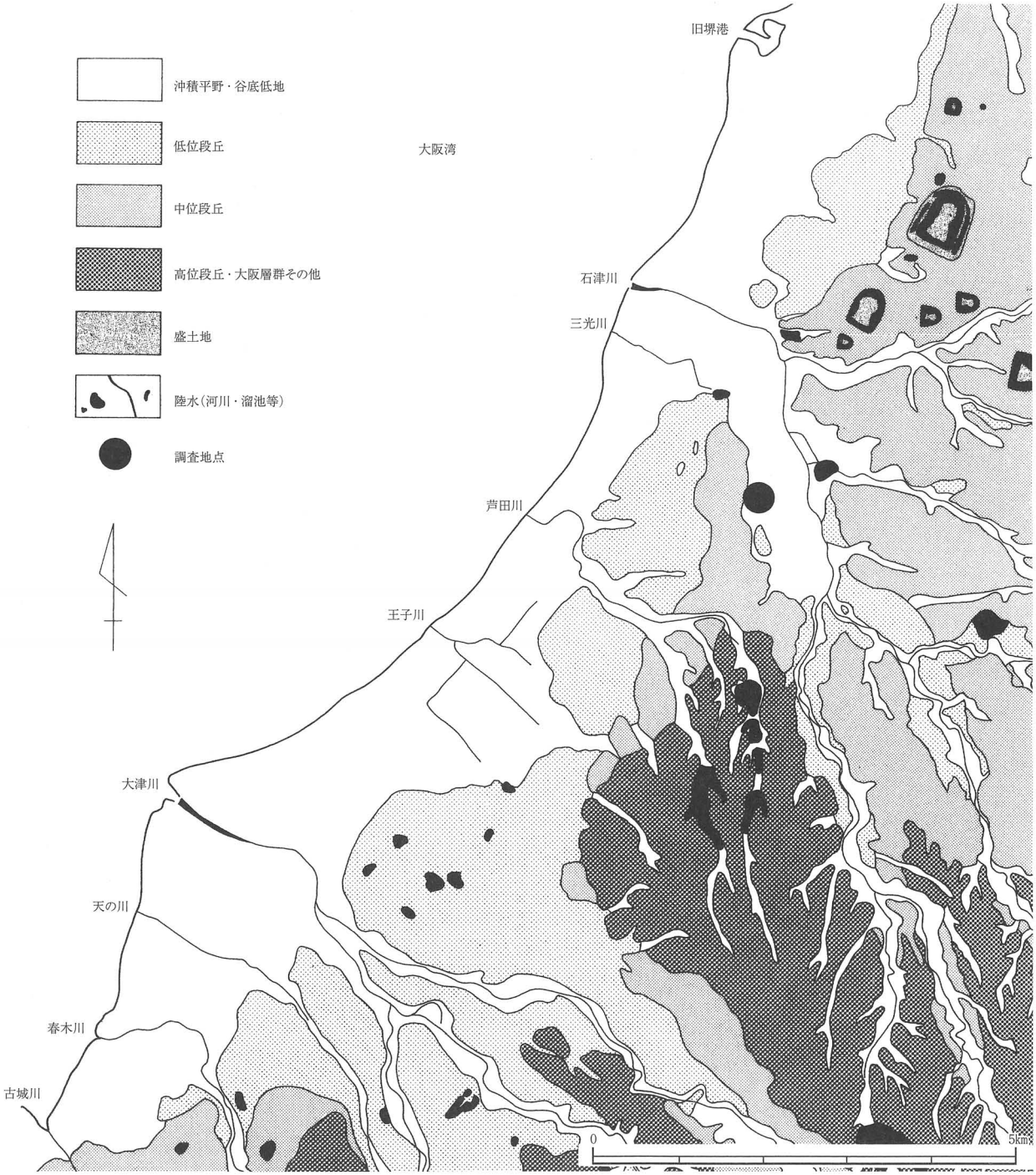



第１図　遺跡の位置

和泉山脈は標高800ｍ前後とあまり高くはない。また山部は割合に緩やかである。この山脈は領家花崗岩類、泉南酸性火砕岩類を基盤層として、それを覆って凝固の不充分な礫岩・砂岩・泥岩が互層をなして堆積している。

和泉山脈は、大阪湾方向には緩やかに、これに対して和歌山県側には比較的急峻に傾斜している。さらに大阪湾側には山脈の基盤層が張り出し、岸和田市神於山を始めとする前衛山地が４～５kmほどにわたって形成されている。

前衛山地の北には丘陵地帯が広がる。丘陵地帯は大阪層群と呼ばれる、充分に凝固していない礫岩・砂岩・泥岩およびこれらの互層からなる地層によって形成されている。そして和泉山脈に




第２図　遺跡周辺の地形（(財) 大阪府文化財調査研究センター1996より転載・改編）

源をもつ中・小河川がこの丘陵地帯を深く切り込み、南北方向を幾つも分断している。鳳東町４丁遺跡の南では泉北丘陵が石津川の東西岸に広がっている。

丘陵地帯の縁辺には、中・小河川に沿った河岸丘陵、あるいは海岸段丘が広がる。段丘は比高30～50ｍほどの高位段丘、10～30ｍの中位段丘、10ｍ以下の低位段丘に分かれる。鳳東町４丁遺跡周辺では、石津川西岸に信太台地、東岸に泉北台地が広がる。和泉地域では主として中位段丘面が発達している。なお、鳳東町４丁遺跡から至近距離の高位段丘面は、鶴田池付近から南東方向に広がっている。

低位段丘面は、和泉山脈から大阪湾に注ぐ河川の縁辺に広がり、春木川以北で比較的発達するものの、本遺跡周辺では仁徳陵古墳西方や信太台地西方の三光川から春木川間に広がる程度である。河岸段丘は河川の両岸に広がるが、石津川流域では西岸の発達が顕著である。

沖積平野は大阪湾の沿岸に広がるとともに、各河川に沿っても認められる。ただし河川沿いの沖積平野はあまり発達していない。和泉地域における沖積平野は概して狭小であり、ことに南ほど面積は狭くなっている。

上述したように遺跡付近は大阪湾方向に緩やかに下降していくが、遺跡の東方にあたる石津川方向にも緩傾斜する。この地形のため、遺跡周辺では、現在南から北、および西から東方向へ用水路の導水がなされている。

一方、遺跡の西には中位段丘が存在し、その段丘崖が遺跡の間際までせまっている。そのため遺跡内でも、東から西方向へ微傾斜ながら上昇している。段丘崖の比高は５～６ｍほどである。この段丘面の雨水は、調査地などの崖線際地点に注ぎ込む。

Ⅲ章で述べるが、発掘調査によって発見された溝は、鶴田池が設けられている泉北丘陵から大鳥神社方面に延びる、奈良時代に開削された農業用の幹線用水路であるとみられる。泉北丘陵の存在する南から北方向へ微下降することに加え、雨水の集積が可能である崖線下辺という地形的要因が、農業用の大溝をこの場所に設定した最大の理由といえる。

## ２　鳳東町４丁遺跡周辺の歴史

次章で述べるように、鳳東町４丁遺跡は平成16年度に新規発見された遺跡である。この遺跡範囲を囲むように、北に大鳥神社遺跡と鳳遺跡、東に鳳東町遺跡と毛穴西遺跡、南に長承寺遺跡が周知の遺跡として所在している。

大鳥神社遺跡では、15世紀前・中葉の瓦質皿・羽釜・擂鉢、中国製の青磁などが出土した幅5.3ｍ、深さ0.8ｍほどの南北溝が検出された。また10世紀頃の土器溜りも見つかった。

鳳遺跡では奈良～平安時代の掘立柱建物と井戸、中・近世の遺構が検出されている。大鳥神社遺跡の南に広がる奈良～平安時代の集落の存在が予測されている。

本遺跡と最も近距離にあるのが鳳東町遺跡である。本遺跡から東方約200ｍの地点にある。この鳳東町遺跡は、堺市教育委員会により昭和59年に発掘調査が実施され、井戸、土坑、溝が検出

され、縄文晩期の土器、弥生～古墳時代の土器、須恵器、土師器皿、瓦器椀・皿、瓦質羽釜・火舎、土師質羽釜、須恵質鉢、近世陶磁器、鉄滓、木製品などが出土した。

昭和61年の発掘調査では、地山とみられた黄褐色粘質土中より縄文時代の石器（石鏃、スクレイパー、くさび形石器、石核・剥片）が出土した。さらに古墳時代前～後期の遺構、遺物が検出され、奈良時代および13世紀後半の遺物包含層も確認された。その後の平成２年の調査では奈良時代を下限とする自然河道、12～13世紀中頃の自然流路および縄文時代の石器（石匙）、平成４

第３図　鳳東町４丁遺跡と周辺の主要遺跡

年の調査では奈良～平安時代の遺物、13世紀末～14世紀の遺物をそれぞれ検出し、13世紀代に土地利用のひとつの画期が求められている。これら鳳東町遺跡における成果は、鳳東町４丁遺跡と共通する点が多く、両遺跡間のつながりを窺うことができる。

毛穴西遺跡では、本格的な発掘調査は実施されていないため、遺跡の詳細な内容については不明である。ただ、包含層から瓦器片が出土し、13世紀代に集落が形成され、条里地割が整備されたと考えられている。

長承寺遺跡では、白鳳期の瓦の出土が知られている。遺跡の詳細は不明であるが、鳳東町４丁遺跡との関係が留意される。

このように鳳東町４丁遺跡周辺では、この遺跡で検出された縄文時代後・晩期の遺物、古墳時代の遺物、奈良～平安時代の溝と遺物、そして平安時代および中世の耕作痕跡などと共通・関連する遺物や遺構の広がり、すなわち各時代の生活空間の広がりを認めることができる。

さらに視野を広げてみると、本遺跡と符合する調査成果の得られた遺跡を認めることができる。ことに、南方に位置する遺跡が注目される。

まず、縄文時代後・晩期の遺構・遺物についてみる。本遺跡と同じく石津川西岸の氾濫原、沖積平野に位置する遺跡には、上遺跡と草部遺跡が挙がる。

上遺跡では縄文時代後期の遺物包含層（土器、耳栓、サヌカイト剥片）、縄文晩期の自然河川や遺物包含層が検出され、土器、石棒、石刀、石斧、叩石などが出土した。さらにその南には草部遺跡があり、縄文晩期の遺物が出土している。

上遺跡や草部遺跡と石津川を挟んだ対岸に位置する鈴の宮遺跡でも、縄文後期の土器および晩期の河道と遺物が検出されている。さらに石津川上流寄りの西浦橋遺跡では、縄文中期末～晩期の土器が出土している。

次に、奈良時代の遺構・遺物が検出された遺跡についてみる。本遺跡より南西約800ｍの中位段丘上に鳳南町遺跡がある。この遺跡は小栗街道（熊野街道）に沿った位置にあり、街道沿いの集落形成を捉える上で注目される。８～13世紀の遺物が出土している。

先述の草部遺跡では８世紀前半～中頃の須恵器や土師器が、鈴の宮遺跡でも奈良時代の須恵器、土師器が出土している。

このように、石津川の氾濫原・沖積平野においては、縄文時代後期～晩期の遺構・遺物の検出される遺跡が連続的に存在し、その一連でこの鳳東町４丁遺跡を捉えることができる。

さらに本遺跡における最大の調査成果であった奈良時代の大溝もまた、石津川の氾濫原・沖積平野における遺跡の動向と一致するように形成されていることから、奈良時代に石津川沿岸の開発が積極的に進められていたことが明らかである。

上述のように本遺跡およびその周辺では、地域開発の大きな画期を奈良時代に求めることができるが、最後にその要因となった鶴田池の歴史的状況に目を向ける。とはいえ、鶴田池自体の本格的な発掘調査はこれまで実施されていない。そこで、その東に近在する鶴田池東遺跡における

状況を捉えることで手掛かりとしたい。

昭和54年度の大阪府教育委員会による発掘調査では瓦窯、瓦器あるいは燃料用炭を焼いたと考えられる窯、掘立柱建物、柵列、溝、土坑、小穴、鍛冶炉跡、石組遺構、瓦組遺構、古墳の周溝および木製樋管が検出された。掘立柱建物には奈良～平安時代と鎌倉時代の２時期のものがある。溝もその２時期に分かれる。また木製樋管は、設置時期が８世紀前葉以降とみられていて、建物群の形成時期と一致する。このように調査地では、奈良時代に本格的な開発が始まるとともに、谷地形を利用した溜池が構築され、そこには堤と樋門が設けられたと考えられている。

９～10世紀代にはいったん遺構・遺物数は減少するが、平安末から鎌倉時代にかけて再び増加傾向をみせ、室町時代に至って大型土坑、井戸、鍛冶炉跡、石組遺構、瓦組遺構などが形成された。この間の集落は、８世紀代の溜池の開削と父鬼街道に面する立地とがその基盤であったと考えられる。

昭和56年度の大阪府教育委員会による発掘調査でも、掘立柱建物、井戸、溝、土坑、小穴、古墳の周溝が検出された。建物、井戸、溝は13～15世紀に比定される。この調査の主要時期に当るが、小穴の幾つかは８世紀代に遡るとみられている。

昭和61年度の堺市教育委員会の発掘調査では、瓦窯に関連する可能性のある方形土坑と井戸、小穴が検出された。ともに中世の遺構と考えられている。

方形土坑からは、多量の瓦が出土した。その中には、昭和54年度の大阪府教育委員会の発掘調査で発見された瓦窯から出土した軒丸瓦と同笵のものも含まれているが、その一方で15世紀に比定できる瓦器小皿も共伴したとされている。

昭和62年度の堺市教育委員会の発掘調査では溝や自然河道が検出され、奈良時代の遺物を包含した溝の存在も確認されている。また同時期の遺物が多量に出土し、「口殿」「新家」と記された墨書土器も含まれていて、鶴田池院や日部駅との関係が想定されている。

平成３年度の堺市教育委員会の発掘調査では、奈良～平安時代の掘立柱建物のほか溝、土坑、小穴などが検出されている。また奈良時代の土器甕・鉢・皿・杯、須恵器杯・壺・鉢・硯、平安時代の黒色土器椀などが多量に出土した。

さらに、下降する地形に盛土を施して基盤整備を行なっている状況が確かめられた。その時期は奈良時代であると考えられている。

このように、鶴田池東遺跡では本格的な開発が奈良時代に始まり、ほぼ同時期に集落が形成されたとみられる。集落は平安時代後半期にはいったん縮小するのかも知れないが、鎌倉・室町期には再び活性化している。

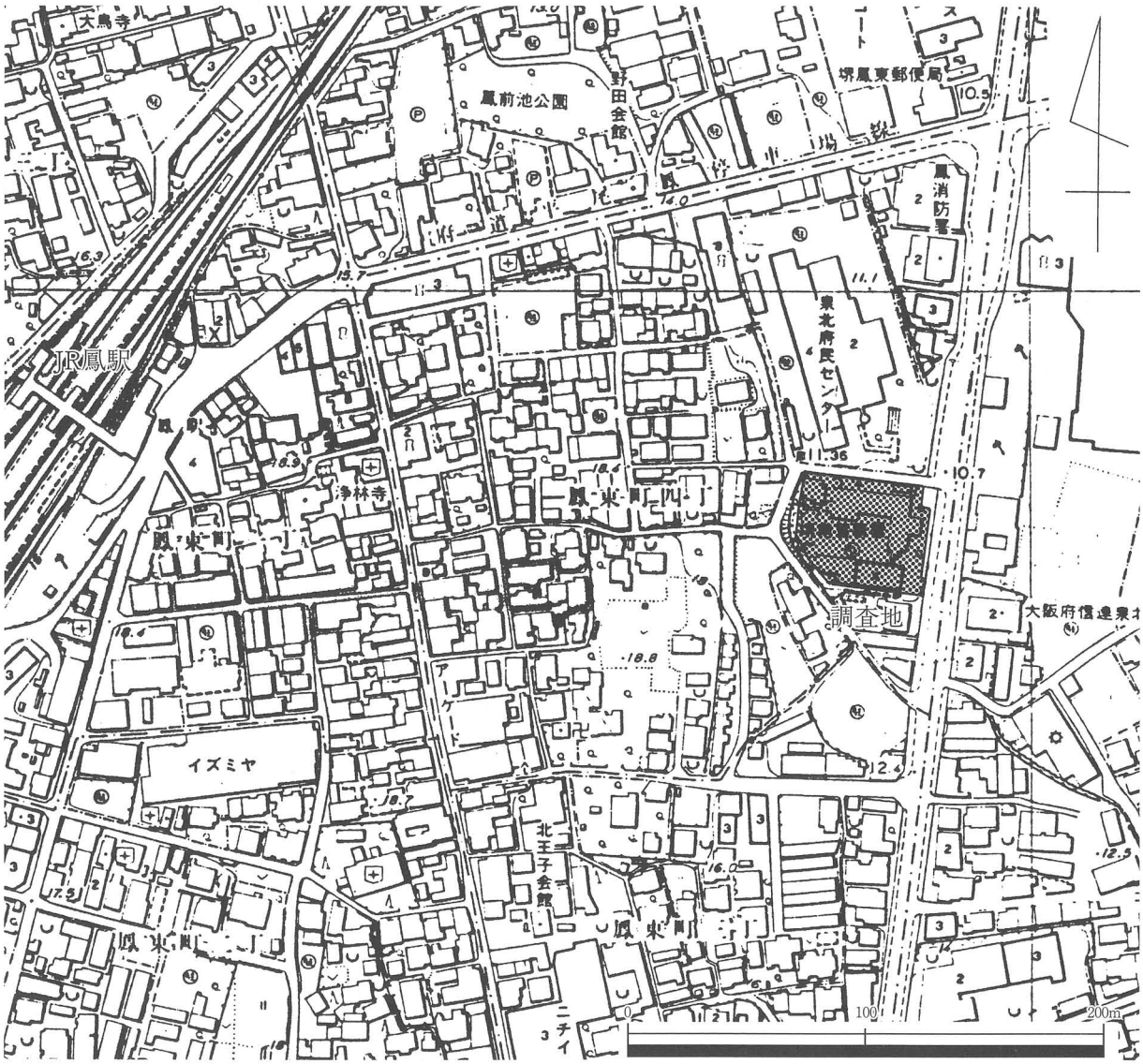
奈良～平安時代の遺構・遺物は草部遺跡や鈴の宮遺跡をはじめ、鳳南町遺跡、長承寺遺跡、鳳東町遺跡、鳳遺跡でも認められ、鶴田池北方域の集落化が奈良時代以降に急速に進んだと推定される。この背景には、溜池である鶴田池の構築と用水路の整備があると考える。

## Ⅱ　調査の経緯と経過

### 1　調査に至る経緯

堺市西区鳳東町４丁地内に所在する堺南警察署が老朽化したため、大阪府警察本部では建て替えの準備を進めていた。敷地内は周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったが、庁舎東方には鳳東町遺跡が近在し、さらに北には大鳥神社遺跡、鳳遺跡、鶴田町遺跡が、南には長承寺遺跡が敷地を取り囲むように分布している。ところが敷地内における遺跡の存否確認調査は行なわれていなかった。そのため、遺跡の有無を確認するため、大阪府警察本部施設課と協議し、平成16年６月３日～６月14日に試掘調査を実施した。

堺南警察署は既に仮移転していたが、旧庁舎は解体されないままであったので、試掘調査は建




第４図　調査地の位置

物のない駐車場部分に４×３ｍ程度のトレンチ３ヶ所を設定して行なった。

その結果、ひとつのトレンチにおいて平安時代の遺物を包含した溝が見つかり、全てのトレンチで中世の耕作痕および近世、中世、奈良・平安時代、古墳時代の遺物が出土し、さらに縄文時代の石器剥片も見つかった。なおこの試掘で発見された溝は、本調査で検出された001溝の東辺部にあたる。

以上の試掘調査の結果を受けて、警察本部施設課と発掘調査の実施方法について協議するとともに、堺市教育委員会にも連絡して、新規発見の遺跡とした。

遺跡の範囲については、その広がりが不明であることから、ひとまず警察署敷地内とすること、遺跡名については「鳳東町遺跡」が府道を挟んだ東に既存していて、それとの混同をさけるために警察署の所在住所である鳳東町４丁を取って、「鳳東町４丁遺跡」とすることを堺市教育委員会と申し合わせた。

発掘調査は平成17年度に実施することとなったが、既存建物の解体工事によって遺構面や遺物包含層の崩れる恐れがあったため、建物の解体は地上面以上の部分のみについて行ない、地中の基礎部分（地中梁・フーチングなど）については発掘調査終了後に撤去することとした。そのため、試掘トレンチを設定した旧駐車場部分を除いて建物の基礎が縦横に走り、多くの範囲で坪掘り状の調査になった。また旧建物の基礎構築時において、遺構面や遺物包含層が既に崩された部分もあった。

第５図　調査区の分割

## 2　調査経過

発掘調査は平成17年６月上旬より開始し、翌年１月末で終了した。調査面積は2284㎡。調査時の掘削作業に伴う廃土を場外に出さないため、その置き場確保の必要性から調査対象範囲を３区に分け、１区ずつ調査を進め、残りの２区分に廃土を仮置きした。調査区は北より１・２・３区と呼ぶ。また調査は１区、３区、２区の順で進めた。

既述したように、建物の基礎を全て残したままであったので、旧駐車場が大半を占めている２区以外では、縦横に走る基礎内を坪掘りするようにして発掘を実施した。

各区ともまず旧庁舎建設に伴う盛土および攪乱土、さらに基礎内の埋め土などを重機で除去することから始めた。基礎内が狭小なため、重機のバケットが入りづらい部分もあったが、ほとんどは重機で除去することができた。また、基礎の底面に敷かれたコンクリートを重機で解体できない部分があり、そこについては調査を断念せざるを得なかった。

１区は６月上旬より調査を開始し、８月９日にヘリコプターによる空中撮影測量を実施、９月上旬に終了した。３区は９月上旬より調査を開始し、10月７日に空中撮影測量を実施、10月上旬に終了した。２区は10月月上旬より調査を開始し、11月30日に空中撮影測量を実施した。その後、縄文時代の遺構、あるいは遺物包含層を明らかにするため、建物基礎のない範囲に調査区（中央トレンチ）を設定し、第２遺構面から150㎝下まで掘り下げた。この中央トレンチ調査を１月下旬まで行ない、１月末に全調査を終了した。

## 3　調査方法

【地区割り】調査区の地割りは、大阪府発行の10,000分の１地形図を基準にして、第Ⅰ～第Ⅳの最少４段階の細分で示している。

第Ⅰ区画は、10,000分の１地形図の南西隅を基点にして、南北を15分割（Ａ～Ｏ）、東西を９分割（０～８）して、縦（南北）６㎞、横（東西）８㎞に分割した区画である。

第Ⅱ区画は、第Ⅰ区画を南北・東西それぞれ４分割した縦（南北)1.5㎞、横（東西)2.0㎞の区画で、南西端区画を１番として順次横方向に施番する。

第Ⅲ区画は、第Ⅱ区画の北東隅を基点にして南北を15分割（Ａ～Ｏ）、東西を20分割（１～20）した、１辺100ｍの区画である。

第Ⅳ区画は、第Ⅲ区画の北東隅を基点として南北10分割（ａ～ｊ）、東西10分割（１～10）した１辺10ｍの区画である。

本調査地は第Ⅵ座標系に属し、第Ⅰ区画Ｅ４、第Ⅱ区画16、第Ⅲ区画14Ｈにあたり、第Ⅳ区画１～６ｄ、１～６ｅ、１～６ｆ、１～６ｇ、１～５ｈが該当する。

なお遺物の取り上げにあたっては、第Ⅳ区画を１辺５ｍの方眼に４分割したグリッドを基本とするが、本調査地の場合、既述したように地中内の基礎がほぼ全体にわたって縦横に残り、画一

的なグリッド設定では詳細な遺物の出土状況を捉えることができないため、基礎に囲まれた範囲および基礎方向に沿って分割した単位で遺物の取上げを行なった。遺物取り上げグリッドは110区を数える。

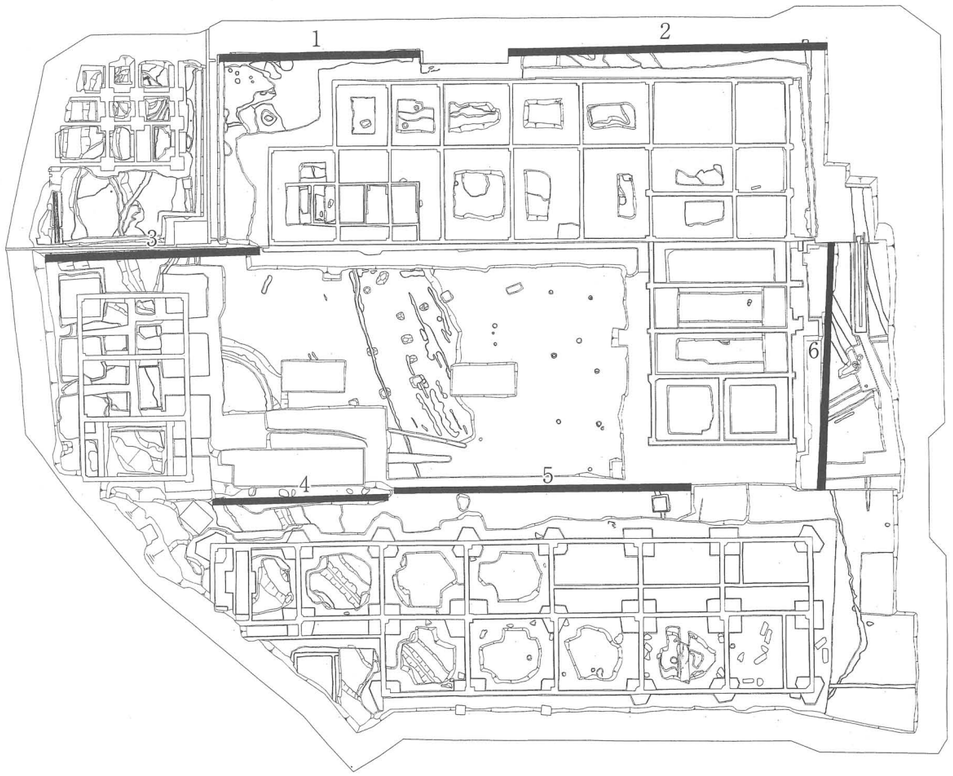
【水準】標高値は東京湾平均海面（T.P.）を用いた。

【座標値】国際基準に基づく座標値を、方位は座標北を用いた。

【遺構番号】検出の順に３桁の通し番号を与えた。したがって、遺構の時期ごとに遺構番号はまとまっていない。

【図化】１~３区いずれの最終面においても、ヘリコプターによる航空測量・図化（20分の１・100分の１）を測量委託により行なった。その上面および、遺構の微細図や土層断面図などについては、人手により実測作業（10・20分の１ほか）を行なった。

第６図　グリッド位置

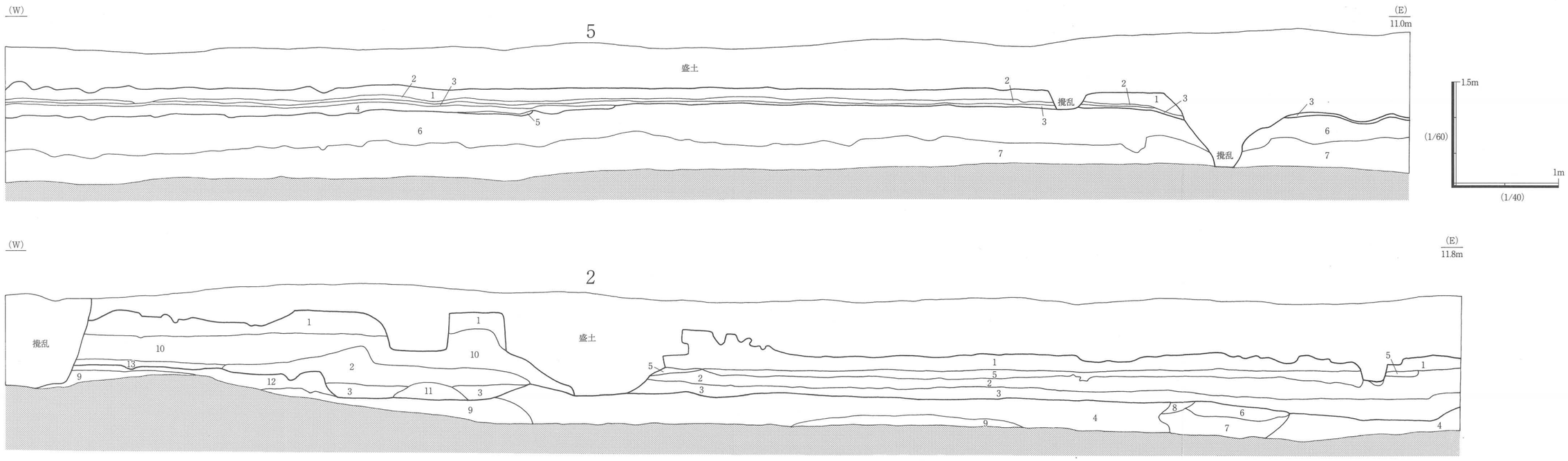



5

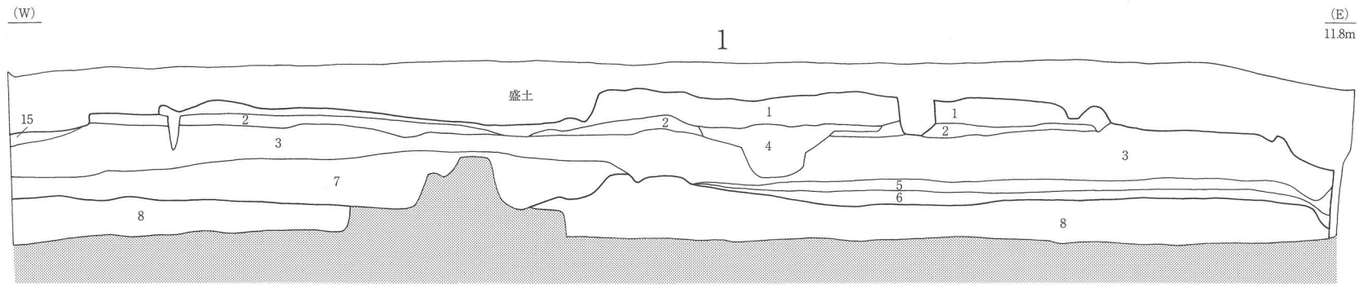
1　オリーブ黒色(5Y3/2)砂シルト
　　小礫混入, 粘性欠く, 旧耕作土
2　暗灰黄色(2.5Y4/2)砂シルト
　　小礫混入, 酸化, 旧耕作土
3　褐色(10YR4/4)砂シルト
　　小礫混入, 酸化, 床土
4　灰色(5Y4/1)粘シルト
　　小礫混入, 酸化, 旧耕作土
5　オリーブ灰色(10Y5/2)砂シルト
　　小礫混入, 酸化, 旧耕作土
6　オリーブ灰色(10Y4/2)粘土
　　酸化, 粘性あり, C層
7　オリーブ灰色(5GY6/1)粘土
　　酸化, 粘性あり, マンガン含む, D層

2

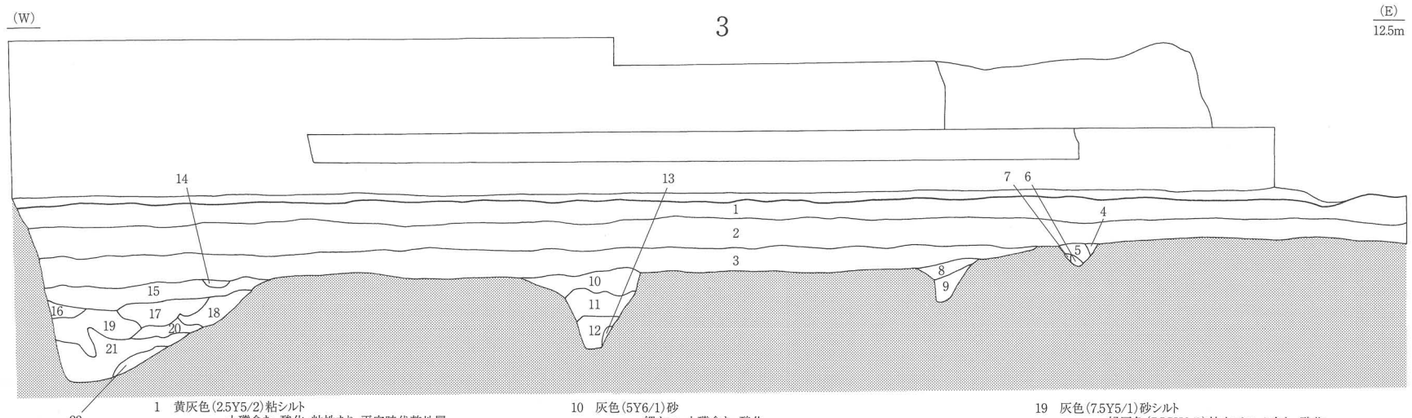
1　灰色(5Y4/1)砂シルト
　　やや粗質, 旧耕作土
2　黄灰色(2.5Y5/1)粘シルト
　　鉄分あり, 締りあり, 旧耕作土
3　灰色(5Y5/1)粘シルト
　　やや砂質, 締り欠く, 旧耕作土
4　オリーブ灰色(5GY6/1)粘土
　　粘性・締りあり, 縄文土器・サヌカイト片出土
5　にぶい黄色(2.5Y6/3)砂シルト
　　やや粗質, 床土
6　灰色(5Y6/1)砂質土
　　鉄分あり, 粗質
7　灰色(N6/0)砂
　　粗質
8　灰色(5Y6/1)粘土
　　鉄分若干あり, 締りやや欠く
9　明青灰色(5B7/1)粘土
　　鉄分あり, 酸化
10　にぶい黄褐色(10YR5/4)砂シルト
　　やや青灰色, 中世整地土
11　灰色(5Y5/1)粘土
　　鉄分あり, 締りあり, 畦
12　灰色(7.5Y6/1)粘土
　　鉄分若干あり, やや粗質
13　灰黄色(2.5Y7/2)砂シルト
　　粘性やや欠く, 細質



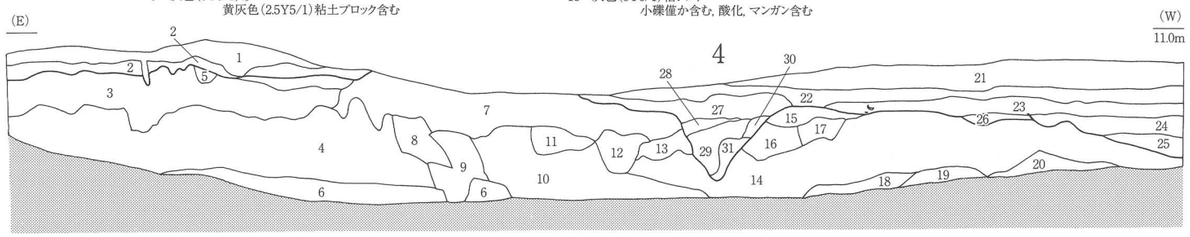

第７図　調査区基本土層図（１）



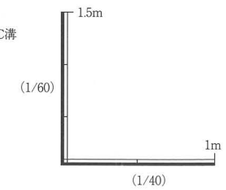

1　灰色(5Y4/1)砂シルト
　　やや粗質, 旧耕作土
2　にぶい黄色(2.5Y6/3)砂シルト
　　やや粗質, 床土
3　褐灰色(10YR6/1)砂シルト
　　明黄褐色(10YR6/1)砂質土含む, 粗質
4　暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土
　　粗質, 粘性欠く
5　黄灰色(2.5Y5/1)粘シルト
　　鉄分あり, 締りあり, 旧耕作土
6　灰色(5Y5/1)粘シルト
　　やや砂質, 締り欠く, 旧耕作土
7　黄灰色(2.5YR5/1)粘土
　　黄灰色(2.5YR5/1)砂質土含む, 粗質
8　明青灰色(5B7/1)粘土
　　鉄分あり, 酸化




1　黄灰色(2.5Y5/2)粘シルト
　　小礫含む, 酸化, 粘性あり, 平安時代整地層
2　暗灰黄色(2.5Y4/2)粘シルト
　　小礫含む, 酸化, 粘性あり, 平安時代整地層
3　暗灰黄色(2.5Y4/2)砂シルト
　　小礫含む, 酸化, 粘性あり
4　灰色(5Y5/1)粘シルト
　　小礫僅か含む, 酸化, 粘性欠く
5　オリーブ褐色(2.5Y4/4)粘シルト
　　小礫含む, 酸化, 粘性欠く
6　灰色(7.5Y5/1)粘シルト
　　小礫僅か含む, 粘性やや欠く
7　オリーブ灰色(2.5GY6/1)砂
　　細かい, 酸化
8　灰黄色(2.5Y7/2)砂
　　細かい, 酸化, 小礫含む
9　灰色(5Y6/1)砂
　　黄灰色(2.5Y5/1)粘土ブロック含む
10　灰色(5Y6/1)砂
　　細かい, 小礫含む, 酸化
11　黄灰色(2.5Y/1)砂
　　細かい, 小礫含む, 酸化
12　灰色(5Y6/1)砂
　　細かい, 小礫含む, 灰色(5Y5/1)粘土ブロック僅か含む, 酸化
13　明緑灰色(10GY7/1)砂質土
　　酸化, 粘性欠く
14　暗褐色(10YR3/4)粘シルト
　　小礫含む, 酸化, 炭化物含む
15　黒褐色(10YR2/3)粘シルト
　　小礫含む, 酸化, 炭化物含む
16　オリーブ黒色(5Y3/1)粘シルト
　　小礫含む
17　灰色(5Y5/1)砂
　　小礫含む, 酸化, マンガン含む
18　灰色(5Y6/1)粘シルト
　　小礫僅か含む, 酸化, マンガン含む
19　灰色(7.5Y5/1)砂シルト
　　緑灰色(7.5GY6/1)粘土ブロック含む, 酸化
20　灰色(5Y5/1)粘シルト
　　酸化
21　灰色(5Y4/1)粘土
　　やや酸化, 礫若干含む
22　オリーブ灰色(2.5GY6/1)砂シルト
　　粘性ややあり

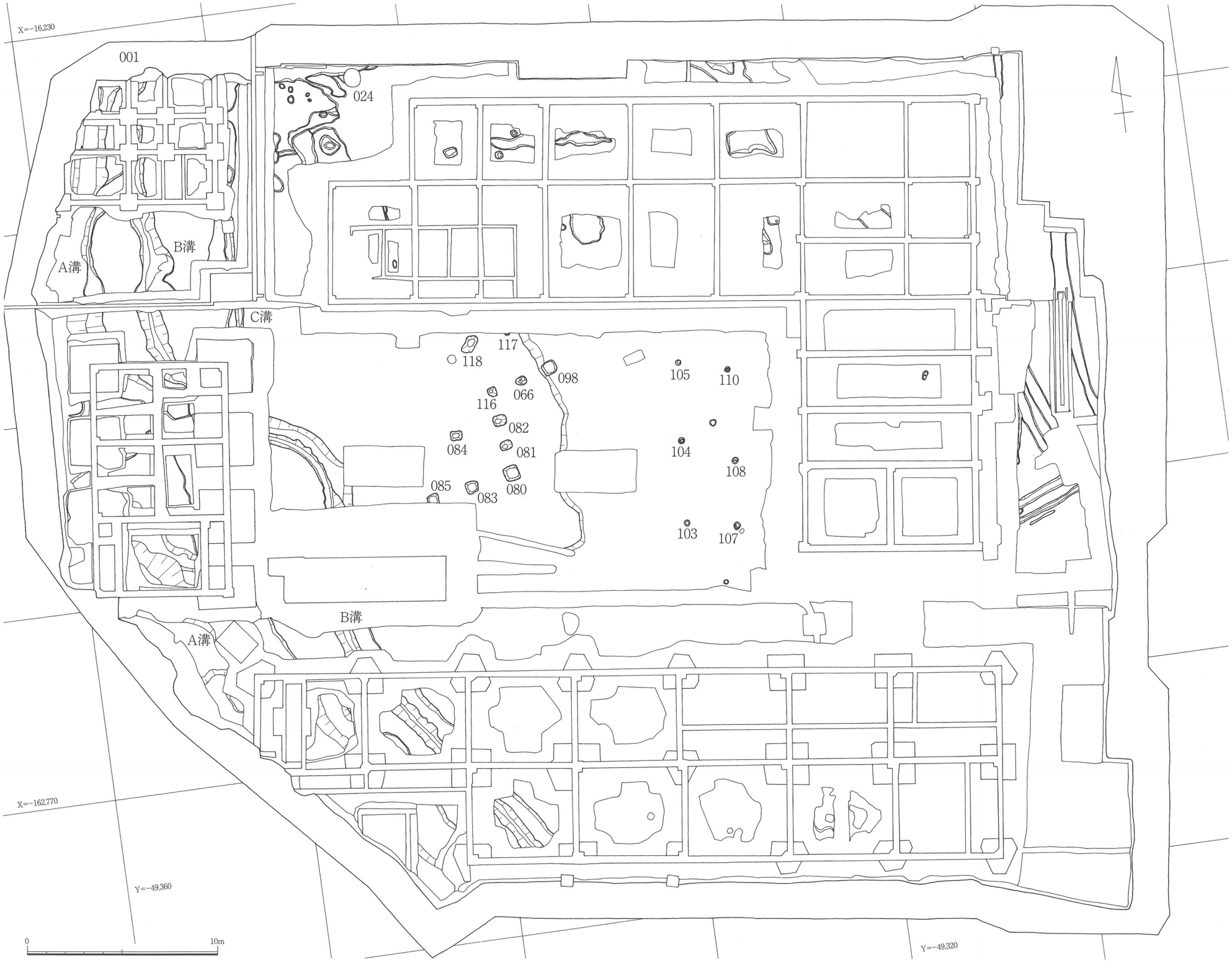



1　暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土
　　破砕礫僅か含む, 粗質, 旧耕作土
2　灰色(5Y6/1)粘シルト
　　破砕礫僅か含む, 粗質, 旧耕作土
3　明青灰色(10BG7/1)粘シルト
　　酸化, C層
4　灰白色(N8/0)粘土
　　黄褐色(10YR5/6)粘土含む, マンガン含む, D層
5　明黄褐色(2.5Y6/6)粘シルト
　　3層と同質土, 酸化, C層
6　灰白色(N7/0)粘土
　　粘性強い, 締りやや欠く, D層
7　青灰色(5Y6/1)粘シルト
　　明黄褐色(5B7/6)粘シルト含む, 酸化, やや粗質, C層
8　青灰色(10BG6/1)粘土
　　黄褐色(2.5Y5/6)粘土含む, 硬質, D層
9　明青灰色(5B7/1)粘土
　　明黄褐色(2.5Y6/8)粘シルト若干含む, やや粗質, D層
10　明青灰色(5B7/1)粘シルト
　　9層に似るがより細質, D層
11　灰白色(N8/0)粘シルト
　　明黄褐色(2.5Y6/8)粘シルト含む, 鉄分含む, D層
12　明青灰色(10BG7/1)砂シルト
　　明黄褐色(2.5Y6/8)粘シルト若干含む, D層
13　灰白色(N8/0)砂
　　明黄褐色(2.5Y6/8)砂シルト含む, D層
14　明青灰色(10BG7/1)砂
　　明黄褐色(2.5Y6/8)砂シルト僅か含む, D層
15　青灰色(5BG6/1)砂シルト
　　明黄褐色(2.5Y7/6)粘シルト含む, 酸化, C層
16　明青灰色(10BG7/1)粘シルト
　　明黄褐色(2.5Y7/8)粘シルト若干含む, 年生やや欠く, D層
17　明青灰色(10BG7/1)砂シルト
　　明黄褐色(2.5Y7/8)粘シルト僅か含む, 硬質, D層
18　明緑灰色(7.5GY7/1)砂
　　灰色(N5/0)砂僅か含む, D層
19　灰色(N6/0)粗砂
　　灰色(N6/0)粘土若干含む, D層
20　明黄褐色(10YR6/6)粘シルト
　　明黄褐色(10YR6/6)砂含む, 締り欠く, D層
21　黄灰色(2.5Y5/1)粘土
　　破砕礫僅か含む, やや粗質, 整地土
22　暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土
　　明黄褐色(10YR6/6)粘土シルト含む, 整地土
23　灰色(5Y5/1)粘シルト
　　明黄褐色(10YR6/6)粘シルト若干含む, やや粗質, 整地土
24　黒褐色(10YR2/2)粘土
　　灰色(N6/0)砂シルト僅か含む, 締りあり, 001・A溝
25　灰色(N6/0)砂シルト
　　明黄褐色(25.5Y6/6)砂僅か含む, 001・A溝
26　明黄褐色(10YR7/6)粘シルト
　　灰白色(10YR7/1)砂シルト若干含む, 001・A溝
27　黄灰色(2.5Y6/1)粘シルト
　　明黄褐色(10YR6/6)粘シルト若干含む, 001・C溝
28　灰白色(2.5Y7/1)砂シルト
　　黄褐色(10YR5/4)粘シルト含む, 粗質, 001・C溝
29　青灰色(5B6/1)砂シルト
　　粘性欠く, マンガン含む, 001・C溝
30　灰白色(N7/0)砂シルト
　　部分的に砂質, マンガン含む, 001・C溝
31　明オリーブ灰色(2.5GY7/1)砂
　　灰色(7.5Y5/1)砂シルト含む, 鉄分含む, 001・C溝




第８図　調査区基本土層図（２）

第９図　第１面全体図


X=−16,230
001
024
A溝
B溝
C溝
117
118
098
066
116
082
084
081
085
083
080
105
110
104
108
103
107
B溝
A溝
X=−162,770
Y=−49,360
Y=−49,320
0
10m

第10図　第２面全体図

# Ⅲ　調査成果

## 1　基本層序

基礎が残る範囲を除くと、基本層序はほぼ共通している。調査地に建っていた堺南警察署の旧庁舎の解体を地上部分のみに留めたので、基礎およびその設置のための掘方を除いた部分では旧地表面以下が遺存していた。

その部分における基本層序は、盛土・攪乱土（60～140㎝）、中世耕作土であるオリーブ灰色粘シルト（10～30㎝）、平安時代の耕作土・整地土である灰黄色粘シルト（10～30㎝）、および古代の遺構検出面である緑灰色・灰色粘土となる。この灰色系粘土は厚さ15㎝ほどで、その下は黄褐色・オリーブ灰色・青灰色系の粘土となる。なおこのうち、中世耕作土は調査区の北東半のみに遺存し、しかもかなりの部分で既に削平を受けていた。

調査最終段階に設けた中央トレンチで縄文時代の遺物包含層を確認するまでは、緑灰色・灰色粘土を基盤層の最上面と考えていた。なお調査時に緑灰色・灰色粘土をＣ層、黄褐色・オリーブ灰色・青灰色系粘土をＤ層と呼んで区分した。

遺構検出面は、平安時代の整地層上面と緑灰色・灰色粘土上面の２面である。前者を第１面、後者を第２面と呼ぶ。

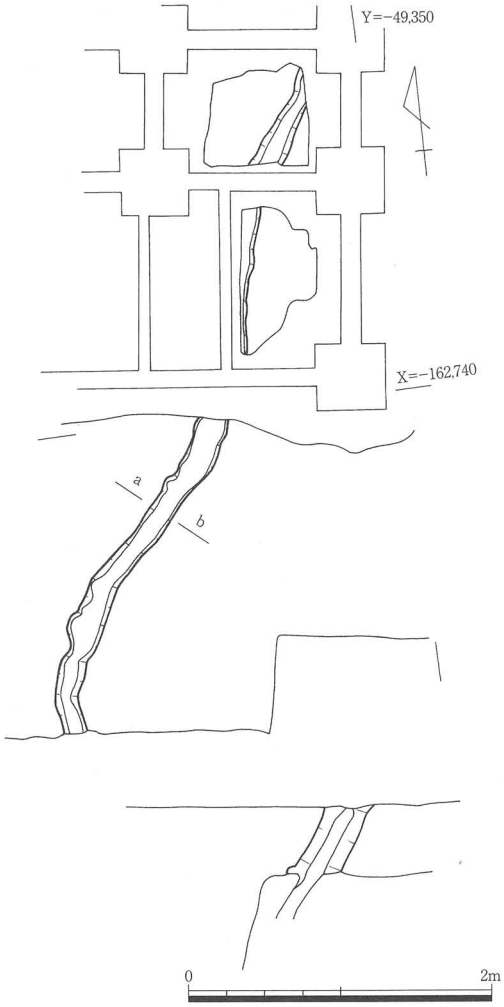
## 2　第１面の調査

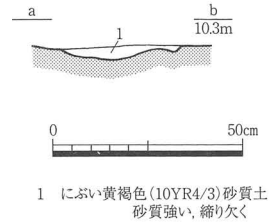
平安時代の整地土上面における遺構は、溝、井戸および小穴と、不定形な落込みであり、建物は検出されなかった。小穴は２区中央に、不定形の落込みは１区西寄りと３区南東に集中する傾向がみられた。

溝は３条あり、後述するように一定範囲を囲む区画溝であった可能性が高い。井戸は調査区北西で検出されたが、建物の基礎により４分割された状態であった。この３条の溝と井戸は第２面で検出されたものであるが、遺構年代としては平安時代より後出するので、この面の遺構として扱うことにした。

小穴や不定形の落込みは、中世期の耕作痕である可能性が高い。平安末に水田面上に整地土を施して、その上に中世耕作土が形成される。下層の水田で認められたような粘質土壌ではなく、また繰り返し攪拌されたようにも観察されなかったが、畠作にともなって形成された土壌ではないかと推測する。

第２面の調査で判明するが、調査区の西端を走行する幹線水路・用水路は平安時代末で埋没する。農耕用水の供給が停止したことで、それと同時に水路の東に広がる水田も廃棄され、一帯は畠地化したと考えられる。小穴や不定形落込みは、その畠作における畝作りや起耕時に生じた痕




第11図　００２溝

跡であろうと考える。

【００２溝】

１区および２区の西で検出された溝である。098グリッドおよび036グリッドから建物基礎内の028グリッド方向にかけて検出された。036グリッド内では００１・Ｂ溝と交差している。また036グリッド南辺と098グリッド北辺とでは１ｍほどの間隔が開くが、その間に３ｍほどのずれが生じている。この１ｍ間で西へ急激に向きを変えたのだろうが、理由は不明である。堆積土はにぶい黄褐色砂質土の単一層である。その状態から、空溝であったとみられる。また出土遺物のうち、須恵器甕の胴部２点の拓影を掲載したが、この溝の時期を示すものではないと考える。したがって詳細な時期を求めることはできないが、００１・Ｂ溝を切ってはいる。

００２溝は、後述する０８９溝や０３８溝とともに、当該地の区画をなしていた可能性が考えられる。

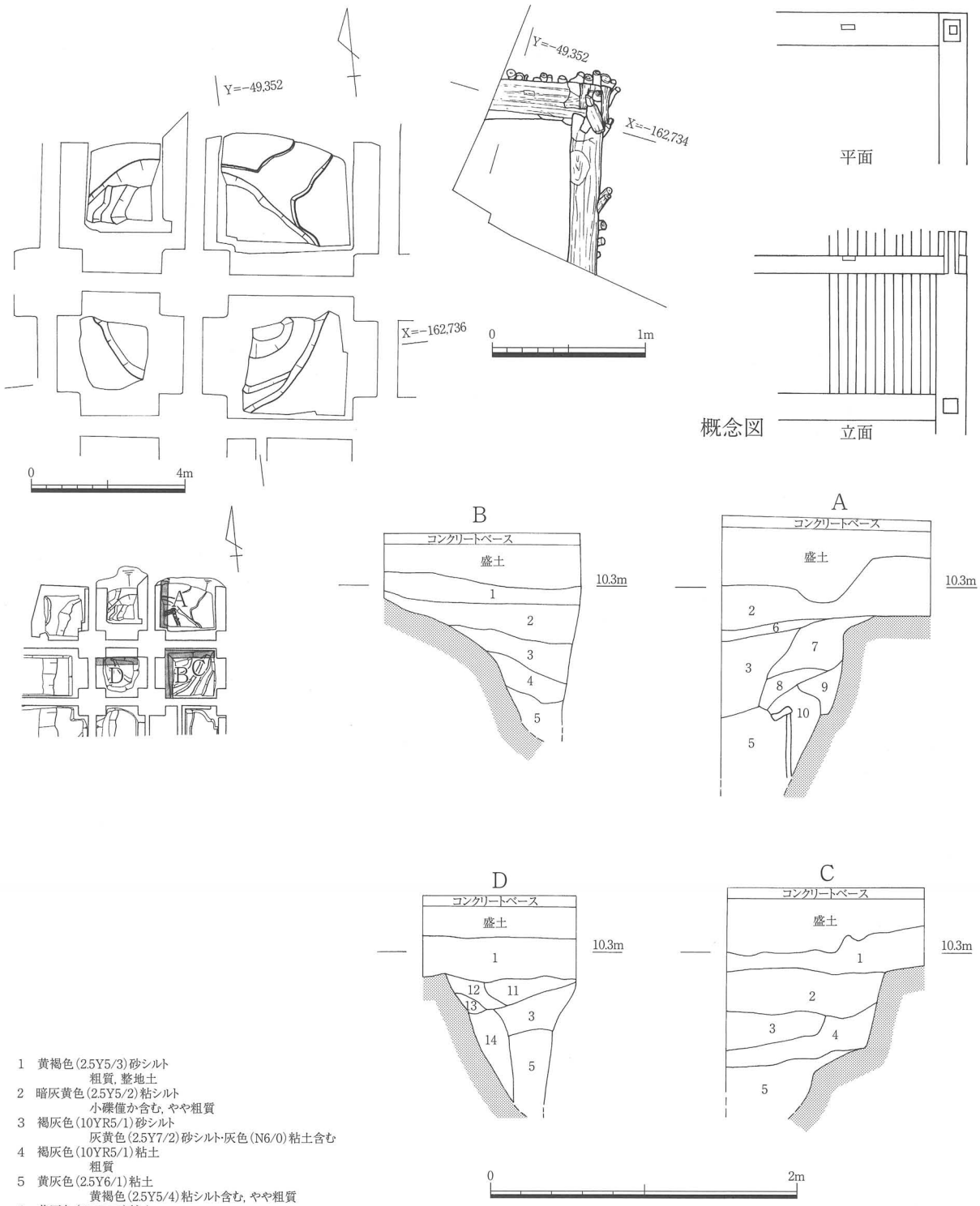
【０２３井戸】

１区北東で検出された井戸である。旧庁舎のコンクリート床面を解体して検出した。直径3.0～3.5ｍを測り、平面形は長円形を呈している。深さは検出面から約1.8ｍ下まで確認したが、壁面崩落の恐れがあることからそれ以下の掘削は中止した。

井戸は、井桁に木組みし、背後に竹を刺し並べて壁面の崩落を防止するという、丁寧な作りがなされている。16世紀の擂鉢が出土しているが、使用された用材が新しそうなので近代の井戸ではないかと推測する。ただし、掘り直しのあった可能性は否定できず、開削自体は中世に遡るかも知れない。

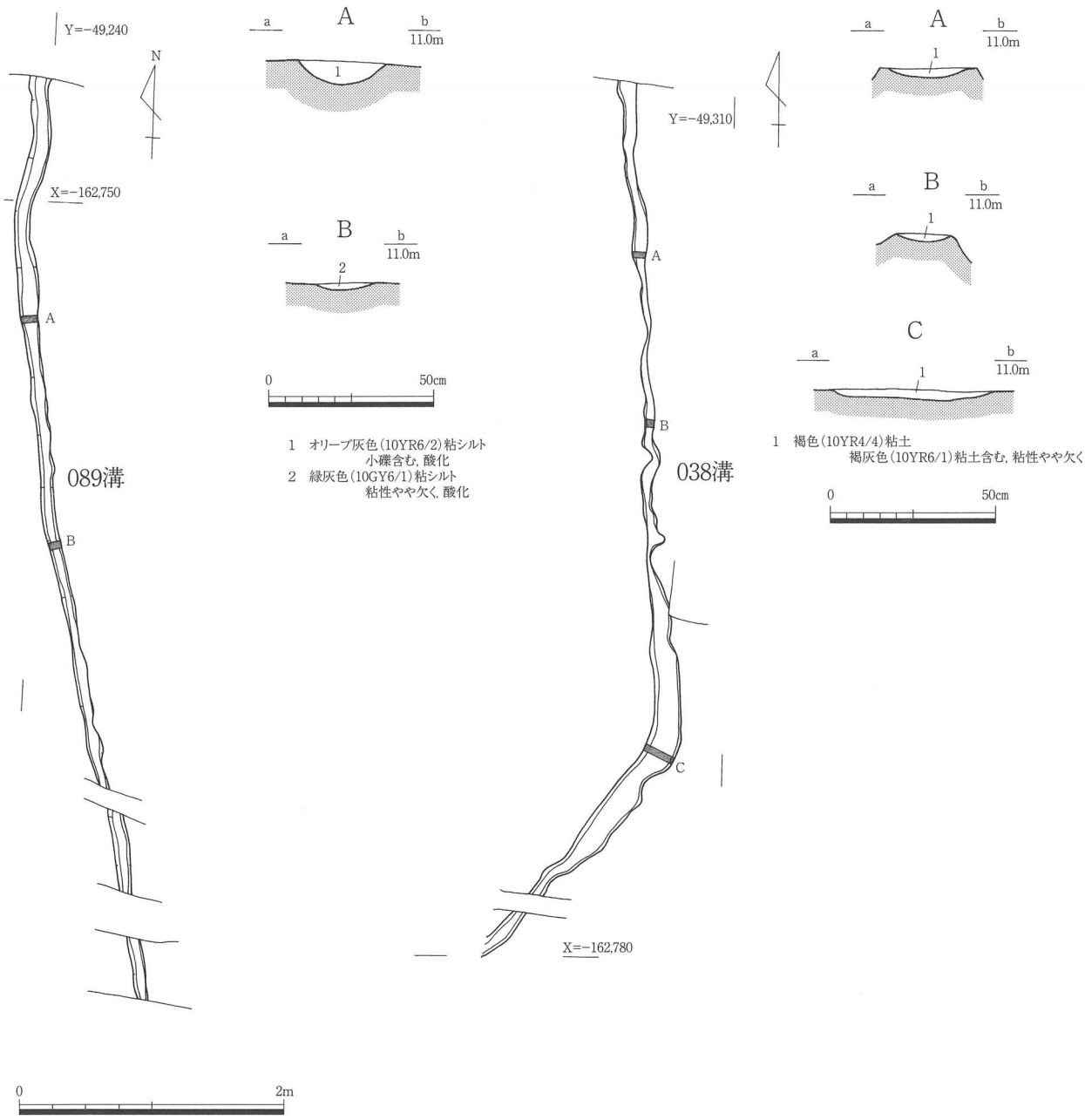
【０８９溝】

２区の中央で長さ15ｍにわたって検出された溝である。北西－南東方向に主軸をとり、直線的に延びるが、北端付近では東方に僅かに湾曲気味となっている。




1　黄褐色(2.5Y5/3)砂シルト
　　粗質，整地土
2　暗灰黄色(2.5Y5/2)粘シルト
　　小礫僅か含む，やや粗質
3　褐灰色(10YR5/1)砂シルト
　　灰黄色(2.5Y7/2)砂シルト･灰色(N6/0)粘土含む
4　褐灰色(10YR5/1)粘土
　　粗質
5　黄灰色(2.5Y6/1)粘土
　　黄褐色(2.5Y5/4)粘シルト含む，やや粗質
6　黄灰色(2.5Y5/1)粘土
　　黄褐色(2.5Y5/4)粘シルト若干含む
7　黄灰色(2.5Y6/1)砂シルト
　　明黄褐色(2.5Y6/6)粘シルトブロック若干含む
8　黄灰色(2.5Y6/1)砂シルト
　　7層と同質土だが締りあり
9　明黄褐色(2.5Y6/6)粘シルト
　　青灰色(10BG6/1)粘シルトブロック若干含む
10　灰色(5Y5/1)砂質土
　　明黄褐色(2.5Y6/6)粘シルトブロック若干含む，粗質
11　褐灰色(10YR5/1)砂質土
　　灰色(N6/0)粘土ブロック若干含む，やや粗質
12　黄灰色(2.5Y6/1)粘土
　　にぶい黄色(2.5Y6/3)砂質土含む，粗質
13　灰色(7.5Y6/1)砂シルト
　　マンガン含む，やや粗質
14　青灰色(5BG6/1)砂シルト
　　明黄褐色(10YR6/8)砂シルト含む

第12図　０２３井戸




第13図　０３８・０８９溝

幅は狭く、10～30cmを測るにすぎない。深さも５～10cmと浅い。堆積土は酸化した粘シルトである。出土遺物はなく、時期比定はできない。ただ、次に述べる０３８溝の北部分と平行関係にあり、また規模も類似していることから、一連のものと考えられる。また、先にみた００２溝とも関連する可能性がある。

【０３８溝】

３区南東で長さ14ｍにわたって検出された溝である。緩やかに「く」字状を呈して北方向に延びて行く。幅10～40cm、深さ５cm程度で、０８９溝と同規模である。堆積土は褐色粘土の単一層である。出土遺物はなかった。

上述したように０８９溝とともに一連の区画をなしているとすれば、東西約25ｍの範囲が囲ま

れることになる。また０８９溝と同じく時期を確定することはできないが、耕作痕などの方向と一致していることから、平安時代末に水田面を埋め立てたのちの溝だと考える。

## ３　第２面の調査

調査区全域に遺構が散在的に認められる。主な遺構は大溝、水田域、井戸、柵および掘立柱建物である。その中には重複関係がみられる遺構もあるので、異時期のものが同時に検出されていることになる。

とはいえ、この面における主な遺構は奈良～平安時代の溝とその東に広がる水田域である。旧庁舎の基礎のため検出状態は悪く、断片的にしか捉えられないものも少なくないが、全体的な様相を推測することは充分に可能である。以下、主要な遺構について記述していく。

【００１溝】

調査区西辺に沿うように検出された溝である。溝は西辺が調査区外に延びているため全体の形状や規模を捉えることができないが、幅は現状でも10ｍほどある。

この溝は、２段の落込みからなっている。つまり、深さ10～20㎝ほどの掘方の中に２条の溝が走行し、さらに脇に１条の溝が沿うように延びている。２つの落込みを、西からＡ溝、Ｂ溝、それらを取り込んだ掘方に沿う溝をＣ溝と呼ぶ。

それぞれ溝には切り合い関係がなく、同時に開口していたとみられる。また本来は、各溝間に堤状の高まりのあった可能性が高いが、その痕跡は全く留めていなかった。なお地形からみて、水の流れは南から北への方向である。

Ａ溝は西半が調査区外にあるため、全形、幅および最大深度が不明である。現状での最大幅は2.6ｍで、本来は５ｍ以上と考えられる。Ｈベルトでは、深さは現状で最大1.4ｍを測る。状況的に溝の中央に近いとみられるが、湧水のため底部を確認できていないので、さらにどれほど下がるか不明である。Ｂ・Ｍベルトでは深さが最大1.2ｍほどなので、深度は1.4ｍを大きく上回ることはないと推測される。よって1.5ｍ程度の深さではないかと推定する。

掘方は、上面より0.6ｍほど下がったあたりで掘り込み角度が強くなる。この２段掘りの状況はＡ・ＢベルトおよびＭベルトでも確認されるので、部分的なものではなく、Ａ溝全体になされた掘削形状といえる。

堆積土は主として粘土、粘シルト、砂シルトからなっている。また炭化物、有機物を含んだ層も存在する。Ｂベルトをみると、有段部以下ではオリーブ黒色粘土（15～18層）が主体を占め、最下層に砂質土（19層）が堆積している。これに対して有段部以上では黄褐色・灰色系の粘土・粘シルトが主流である。Ｍベルトにおいても有段部以下では、最下層を除いてオリーブ黒色・黒色系の粘土・粘シルトが主体であるのに対して、有段部以上ではやはり黄褐色・灰色系の粘土・粘シルトあるいは砂シルトが主流である。したがって、常時溜水していたのは有段部以下だけと考えられる。ただし、その有段部以上でも粘土や粘シルトの存在が認められるので、最終的には

上流から流された粘質土壌により埋没したとみられる。

またＢベルトでは木製樋管を取り巻くように20層（黄灰色粘土）が確認された。しかしこれは木質分の腐食による変質と考えられる。したがって樋管を埋置するための掘方は設けられていなく、溝の堆積過程の中で廃棄されたと考える。

木製樋管は、現状の長さが3.5ｍ、幅は南端で36㎝、中程で30㎝、北端で25㎝である。検出時には、導水部分を上に向けていたが、本来の位置を保っているとは考えられない。なおAMS分析によりB.P.1740±20年、B.P.1745±20年という暦年較正年代が示された。この木製樋管が本来溝に伴ったものであれば、倒木を利用して製作された可能性が考えられる。

Ｂ溝は、Ａ溝の約２ｍ東に位置する。ただし、２区中央では東方に弧を描きながらいったん張り出し、１区で再びＡ溝に平行している。この張り出し部では、溝全体の掘方も相似的に湾曲しているので、溝全体がそうした形状になるように設計されたといえる。

規模は、幅0.8～1.1ｍ、深さは40㎝ほどである。「Ｖ」字状に近い断面形状を呈している。堆積土は、Ａベルトでは褐色砂質土と灰白色砂・砂シルト、Ｂベルトでは灰白色砂、Ｆ・Ｇベルトでは褐色系の粘土・粘シルト・砂質土、Ｊ・Ｋベルトでは褐色粘土と灰色粘土・粘シルトが主体である。Ａ溝のように、どのベルトにおいてもほぼ共通した様相が認められるという状況にはない。ただ、割合に多く認められる砂は、上流から流入した可能性があろう。

Ｃ溝は、Ｂ溝の約３ｍ東に位置する。この溝は、１区から２区の北辺にかけては確認できるが、２区北では建物の基礎により崩され、それより南のＢ溝が湾曲した部分の東や、さらに３区では存在を認めることができない。Ｃ溝は、Ｂ溝が東に湾曲したのち北流するにつれて再び西に位置を寄せた付近で、Ｂ溝から分かれて北上する溝であったのかも知れない。

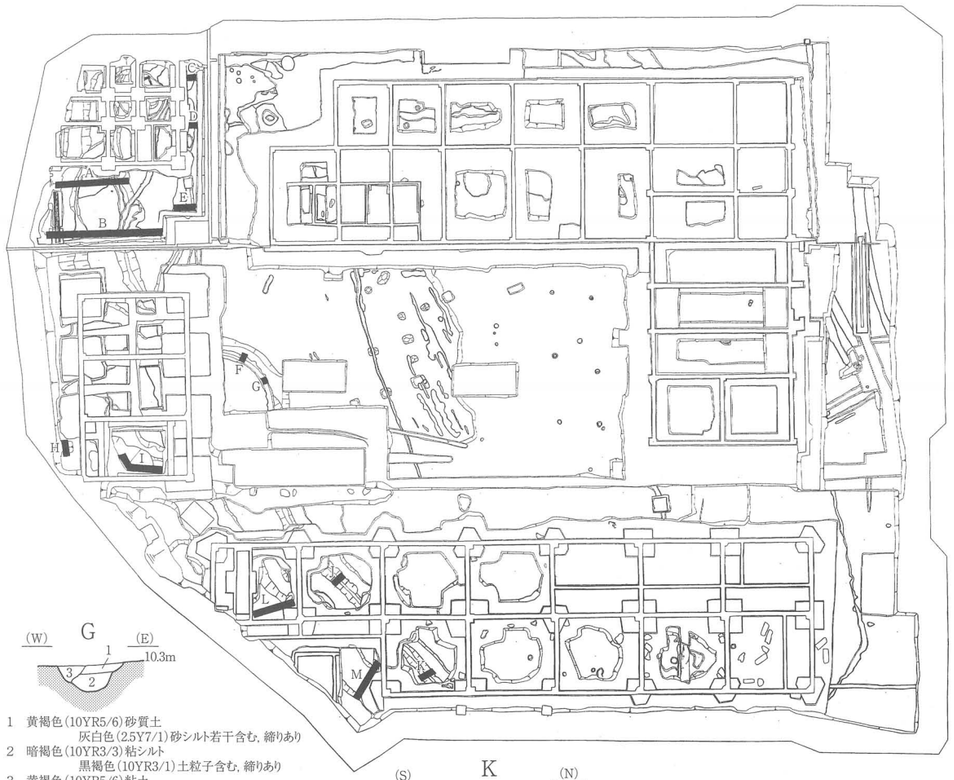
また、調査区北辺で東西方向に延びる溝の南辺が確認された。後述するように、この溝から水田域に導水がなされている。この東西溝は、Ｃ溝が調査区北辺付近で90度東に方向を変えたものと考えられる。

Ｃ溝の幅は0.5ｍ、深さは10㎝ほどである。底部は比較的平坦である。堆積土は灰色系の砂・砂シルト・砂質土で、Ｂ溝内堆積土に比較的近似している。

Ａ・Ｂ・Ｃ溝および溝全体の掘方内から出土した遺物は少なくない。とはいえ、弥生土器も含んでいて、出土遺物そのものが各溝の年代を示すとは限らない。掲載した出土遺物については後述するが、全体的な傾向としては、８世紀以降の遺物が比較的まとまっていること、最も新しいものは12世紀代の瓦器であることから、溝全体として奈良時代に同時に開削され、平安時代末にほぼ埋没したと考えられる。

このように、ひとつの掘方内におさまった深さの異なるＡ溝とＢ溝、および調査区の北半付近から出現する、掘方に沿ったＣ溝が一体的な機能を果たしていたと捉えられる。そしてこのＣ溝はＢ溝から分離したものである可能性が高いのである。

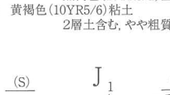
またＡ溝下半部における溜水状況を考えれば、３条は水を流すための溝である。つまり、溝の



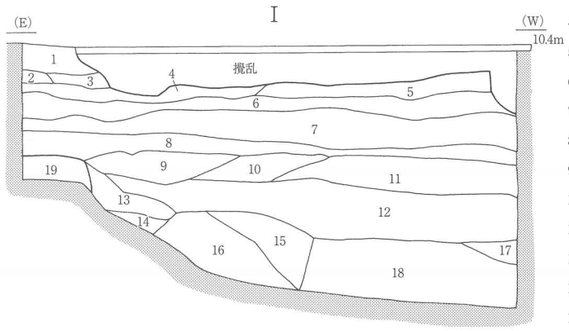




1 黄褐色(10YR5/6)砂質土
灰白色(2.5Y7/1)砂シルト若干含む, 締りあり
2 暗褐色(10YR3/3)粘シルト
黒褐色(10YR3/1)土粒子含む, 締りあり
3 黄褐色(10YR5/6)粘土
2層土含む, やや粗質

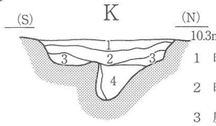



1 暗褐色(10YR3/4)粘土
褐灰色(10YR6/1)粘シルト含む, 粘性やや欠く
2 暗褐色(10YR3/4)粘土
1層に類似するが粘性ある
3 灰色(5Y5/1)粘土
暗褐色(10YR3/4)粘土粒含む, 粘性強い



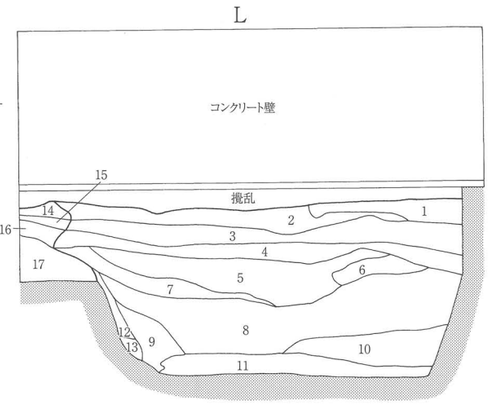


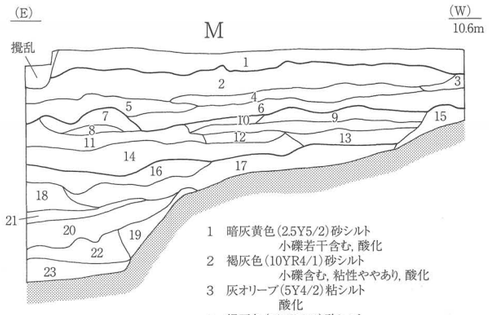




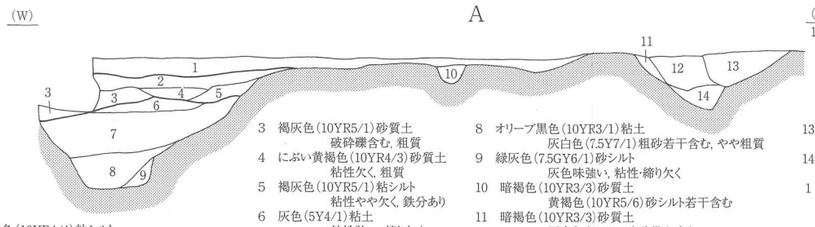

1 暗褐色(10YR3/4)粘土
褐灰色(10YR6/1)粘シルト含む, 粘性やや欠く
2 暗褐色(10YR3/4)粘土
1層に類似するが粘性ある
3 灰色(5Y5/1)粘シルト
暗褐色(10YR3/4)粘土若干含む, やや粗質
4 灰色(5Y5/1)粘土
暗褐色(10YR3/4)粘土粒含む, 粘性強い
5 灰色(5Y5/1)粘シルト
黄褐色(10YR5/8)粘土含む, 粘性強い

1 黄灰色(2.5Y6/1)粘シルト
破砕礫含む, やや粗質, 酸化
2 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂シルト
4層土僅か含む, 締りあり
3 オリーブ黄色(5Y6/3)砂シルト
粘性・締りあり
4 灰オリーブ(5Y6/2)砂シルト
青灰色(10BG6/1)砂シルト僅か含む, 細質
5 褐色(10YR4/4)粘シルト
灰白色(5Y7/1)粘シルト含む, やや酸化, 粘性あり
6 暗褐色(10YR3/4)砂質土
粘性やや欠く, 硬質
7 灰色(7.5Y4/1)粘シルト
8層土僅か含む, 締り欠く
8 明オリーブ灰色(2.5GY7/1)粗砂
9～11層土僅か含む, 締り欠く
9 灰色(N4/0)粘シルト
締り欠く, 有機物含む
10 灰色(10YR6/1)砂シルト
粘性やや欠く
11 灰色(N4/0)粘シルト
9層より暗味あり, 12層土僅か含む
12 灰色(7.5Y5/1)粘シルト
粘性・締りややや欠く, 細質
13 灰色(N6/0)粘土
粘性あり, 締り欠く, 細質
14 灰色(N5/0)粘土
細礫含む, やや粗質
15 灰色(N5/0)粘土
細礫多包, やや粗質, 16層土僅か含む
16 明青灰色(10BG7/1)粘土
粘性強い, 酸化
17 灰色(5Y5/1)粘土
やや粗質, 締り欠く, 有機物多包
18 灰色(N4/0)砂質土
細礫含む, 粗質, 締りあり
19 青灰色(10BG6/1)粘土
基盤層

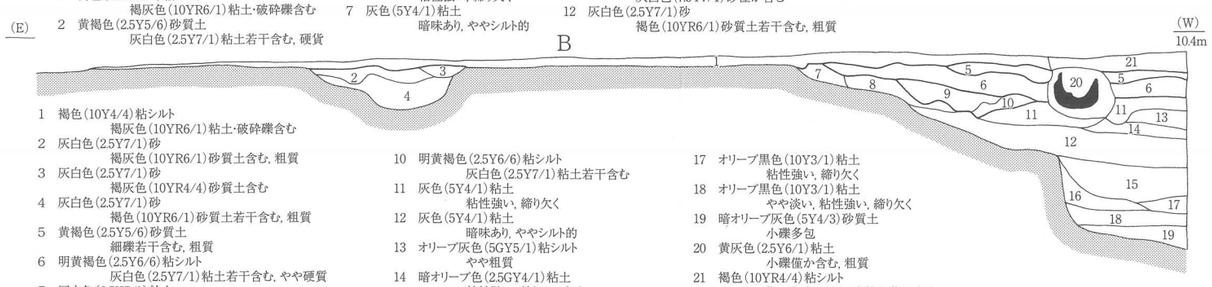



1 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂シルト
小礫若干含む, 酸化
2 褐灰色(10YR4/1)砂シルト
小礫含む, 粘性ややあり, 酸化
3 灰オリーブ(5Y4/2)粘シルト
酸化
4 褐灰色(10YR4/1)砂シルト
小礫若干含む, 粘性ややあり, 酸化

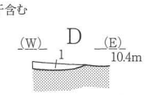



1 褐色(10YR4/4)粘シルト
褐灰色(10YR6/1)粘土・破砕礫含む
2 黄褐色(2.5Y5/6)砂質土
灰白色(2.5Y7/1)粘土若干含む, 硬質
3 褐灰色(10YR5/1)砂質土
破砕礫含む, 粗質
4 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
粘性欠く, 粗質
5 褐灰色(10YR5/1)粘シルト
粘性ややや欠く, 鉄分あり
6 灰色(5Y4/1)粘土
粘性強い, 締り欠く
7 灰色(5Y4/1)粘土
暗味あり, ややシルト的
8 オリーブ黒色(10YR3/1)粘土
灰白色(7.5Y7/1)粗砂若干含む, やや粗質
9 緑灰色(7.5GY6/1)砂シルト
灰色味強い, 粘性・締り欠く
10 暗褐色(10YR3/3)砂質土
黄褐色(10YR5/6)砂シルト若干含む
11 暗褐色(10YR3/3)砂質土
灰白色(7.5Y7/1)砂僅か含む
12 灰白色(2.5Y7/1)砂
褐色(10YR6/1)砂質土若干含む, 粗質
13 暗褐色(10YR3/3)砂質土
灰白色(7.5Y7/1)砂含む, 粗質
14 灰白色(2.5Y7/1)砂シルト
粘性・締りやや欠く
1：整地土　2～9：A溝堆積土　10：小穴　11～14：B溝

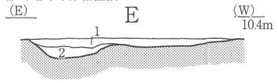



1 褐色(10Y4/4)粘シルト
褐灰色(10YR6/1)粘土・破砕礫含む
2 灰白色(2.5Y7/1)砂
褐灰色(10YR6/1)砂質土含む, 粗質
3 灰白色(2.5Y7/1)砂
褐灰色(10YR4/4)砂質土含む
4 灰白色(2.5Y7/1)砂
褐色(10YR6/1)砂質土若干含む, 粗質
5 黄褐色(2.5Y5/6)砂質土
細礫若干含む, 粗質
6 明黄褐色(2.5Y6/6)粘シルト
灰白色(2.5Y7/1)粘土若干含む, やや硬質
7 灰白色(2.5Y7/1)粘土
明黄褐色(10YR6/6)粘土若干含む, 締り欠く
8 灰白色(2.5Y7/1)粘土
粘性・締りあり, マンガン含む
9 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘土
灰白色(2.5Y7/1)粘土若干含む
10 明黄褐色(2.5Y6/6)粘シルト
灰白色(2.5Y7/1)粘土若干含む
11 灰色(5Y4/1)粘土
粘性強い, 締り欠く
12 灰色(5Y4/1)粘土
暗味あり, ややシルト的
13 オリーブ灰色(5GY5/1)粘シルト
やや粗質
14 暗オリーブ色(2.5GY4/1)粘土
粘性強い, 締りやや欠く
15 オリーブ黒色(10YR3/1)粘土
灰白色(7.5Y7/1)粗砂若干含む, やや粗質
16 オリーブ黒色(10Y3/1)粘土
15層より暗味あり, 粘性強い
17 オリーブ黒色(10Y3/1)粘土
粘性強い, 締り欠く
18 オリーブ黒色(10Y3/1)粘土
やや淡い, 粘性強い, 締り欠く
19 暗オリーブ灰色(5Y4/3)砂質土
小礫多包
20 黄灰色(2.5Y6/1)粘土
小礫僅か含む, 粗質
21 褐色(10YR4/4)粘シルト
褐灰色(10YR6/1)粘土若干含む
1·21：整地土　2～4：B溝堆積土　5～19：A溝堆積土

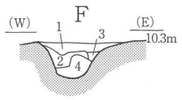
1 黄灰色(2.5Y5/1)粗砂
黄褐色(10YR5/6)粗砂若干含む



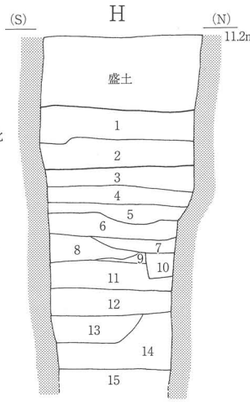

1 褐灰色(10YR6/1)砂質土
黄褐色(10YR5/6)砂質土含む, 粗質




1 灰白色(2.5Y7/1)砂シルト
明黄褐色(10YR6/8)砂質土若干含む, やや粗質
2 黄灰色(2.5Y6/1)砂シルト
やや砂質土的



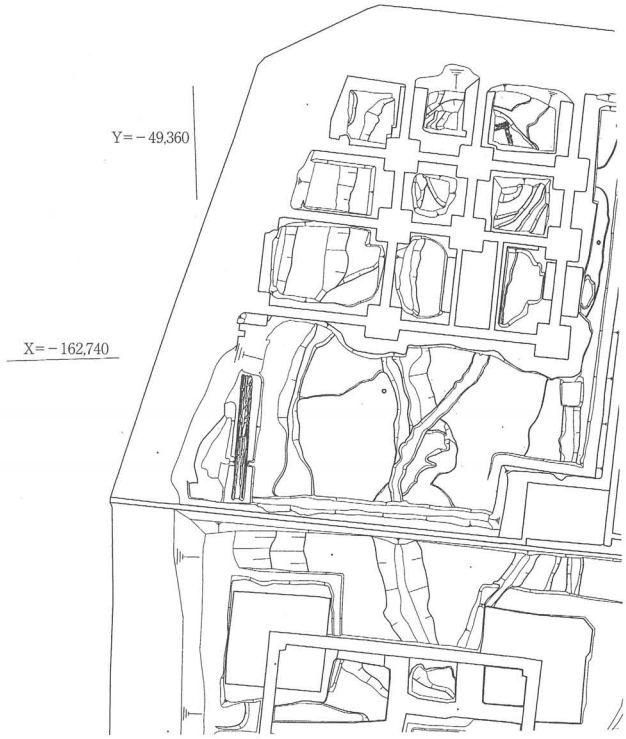

1 黄褐色(10YR5/6)砂質土
灰白色(2.5Y7/1)砂シルト若干含む, 締りあり
2 暗褐色(10YR3/3)粘シルト
黒褐色(10YR53/1)土粒子含む, 締りあり
3 黄褐色(10YR5/6)粘土
2層土含む, やや粗質
4 黒褐色(10YR3/2)粘シルト
褐灰色(10YR6/1)粘シルト含む, 締りやや欠く




1 黒褐色(10YR3/1)粘土
黒褐色(10GY6/8)砂質土若干含む, 酸化
2 灰色(7.5Y5/1)粘シルト
オリーブ灰色(10Y5/2)粘シルトブロック若干含む, 酸化
3 黄灰色(2.5Y5/1)粘土
粘性あり, 酸化, 有機物含む
4 黄灰色(2.5Y5/1)粘シルト
小礫含む, 粘性ややあり
5 灰色(5Y4/1)粘土
小礫僅か含む, 粘性強い, 酸化
6 黒褐色(2.5Y5/1)粘土
オリーブ灰色(2.5GY5/1)粘シルトブロック若干含む, 酸化
7 黒褐色(2.5Y3/1)粘土
黄灰色(2.5Y4/1)粘土ブロック若干含む, 礫若干含む
8 黒褐色(2.5Y3/1)粘土
灰色(N6/1)粘シルトブロック若干含む, 小礫僅か含む
9 黒褐色(2.5Y3/2)粘土
黄灰色(2.5Y4/1)粘土ブロック多包, 有機物含む
10 灰色(5Y4/1)粘土
粘性あり, 有機物含む
11 黄灰色(2.5Y4/1)粘シルト
粗砂・小礫含む, 有機物若干含む
12 オリーブ灰色(2.5GY5/1)粗砂
小礫含む, 粘性ややあり
13 黄灰色(2.5Y4/1)粘土
小礫・炭化物僅か含む
14 黄灰色(2.5Y4/1)粘土
小礫・炭化物僅か含む, 粘性あり
15 灰色(5Y5/1)砂シルト
粘性ややあり, 酸化, 基盤層
16 灰色(5Y5/1)砂シルト
酸化, 基盤層
17 灰色(7.5Y5/1)砂シルト
粘性ややあり, 酸化, 基盤層
1 灰色(10Y4/1)粘シルト
小礫含む, 粘性あり, 旧耕作土
2 灰色(5Y4/1)粘シルト
小礫含む, 粘性あり, 酸化, 平安整地土
3 灰色(7.5Y4/1)砂シルト
小礫含む, 酸化
4 黄灰色(2.5Y4/1)砂シルト
小礫若干含む, 酸化
5 黒褐色(10YR2/2)粘シルト
小礫若干含む, 酸化
6 灰色(5Y5/1)粘シルト
細礫含む, 炭化物僅か含む
7 灰色(5Y4/1)砂シルト
粘性あり, 有機物含む
8 灰色(7.5Y5/1)砂
細礫僅か含む
9 黄灰色(2.5Y4/1)砂シルト
やや粗質
10 灰色(5Y4/1)粘シルト
粘性ややあり
11 オリーブ黒色(5Y3/1)砂シルト
小礫僅か含む, 粘性ややあり
12 オリーブ黒色(5Y3/1)粘シルト
小礫若干含む, 粘性ややあり
13 灰色(7.5Y4/1)砂シルト
小礫・有機物僅か含む, 粘性ややあり
14 灰色(5Y4/1)粘土
有機物多包
15 オリーブ黒色(5Y3/1)粘シルト
小礫・有機物多包, 粘性ややあり

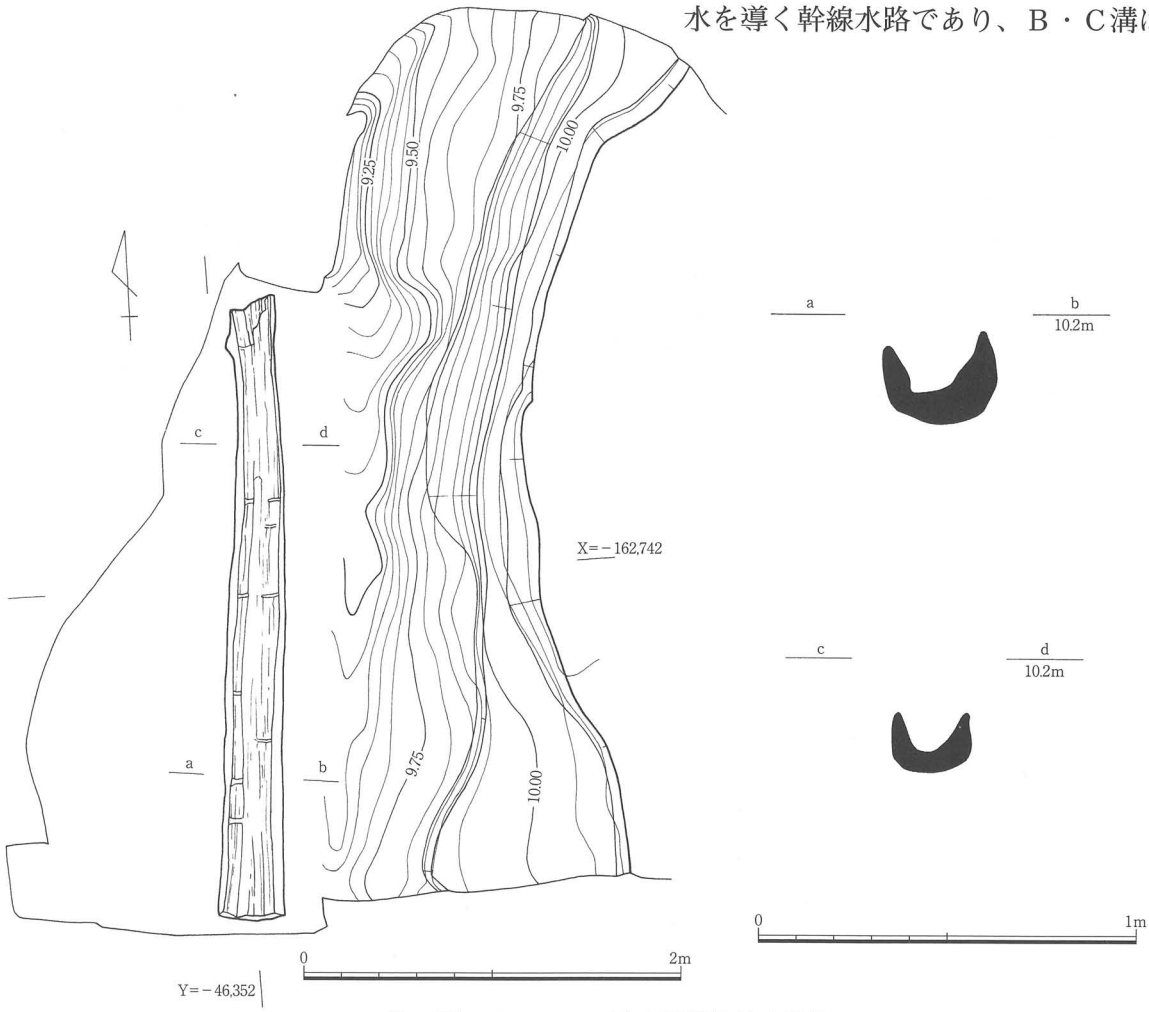
5 オリーブ褐色(2.5Y3/3)砂シルト
明黄褐色(10YR6/8)砂シルトブロック若干含む, 酸化
6 黄灰色(2.5Y5/1)砂シルト
粘性ややあり, 酸化
7 黒褐色(2.5Y3/1)粘シルト
酸化
8 褐灰色(10YR4/1)粘シルト
酸化
9 黄灰色(2.5Y5/1)粘シルト
細礫若干含む, 酸化
10 黄灰色(2.5Y5/1)砂シルト
黄褐色(2.5Y5/6)砂シルトブロック若干含む, 酸化
11 褐灰色(10YR4/1)砂シルト
粘性ややあり, 酸化
12 黄灰色(2.5Y4/1)砂シルト
砂若干含む, 有機物含む, 酸化
13 灰色(7.5Y5/1)粘土
有機物含む, 酸化
14 灰色(7.5Y5/1)粘土
有機物含む, やや酸化
15 黄灰色(2.5Y5/1)粘土
やや酸化
16 黒褐色(2.5Y3/1)粘シルト
灰色(5Y4/1)砂シルトブロック・小礫含む, 有機物若干含む
17 黒色(2.5Y2/1)粘土
小礫・有機物含む
18 オリーブ黒色(5Y3/1)粘土
粘性ややあり, 小礫・有機物含む
19 オリーブ黒色(5Y3/1)粘土
灰色(7.5Y4/1)粘土含む
20 オリーブ黒色(5Y3/1)粘土
有機物含む
21 黄灰色(2.5Y4/1)砂シルト
オリーブ黒色(5Y3/1)粘土含む, 粘性ややあり
22 灰色　(5Y4/1)粘土
有機物含む
23 灰色(7.5Y5/1)粗砂
小礫・有機物含む
1：整地土　2～6：C層　7～24：A溝堆積土

第14図　００１溝



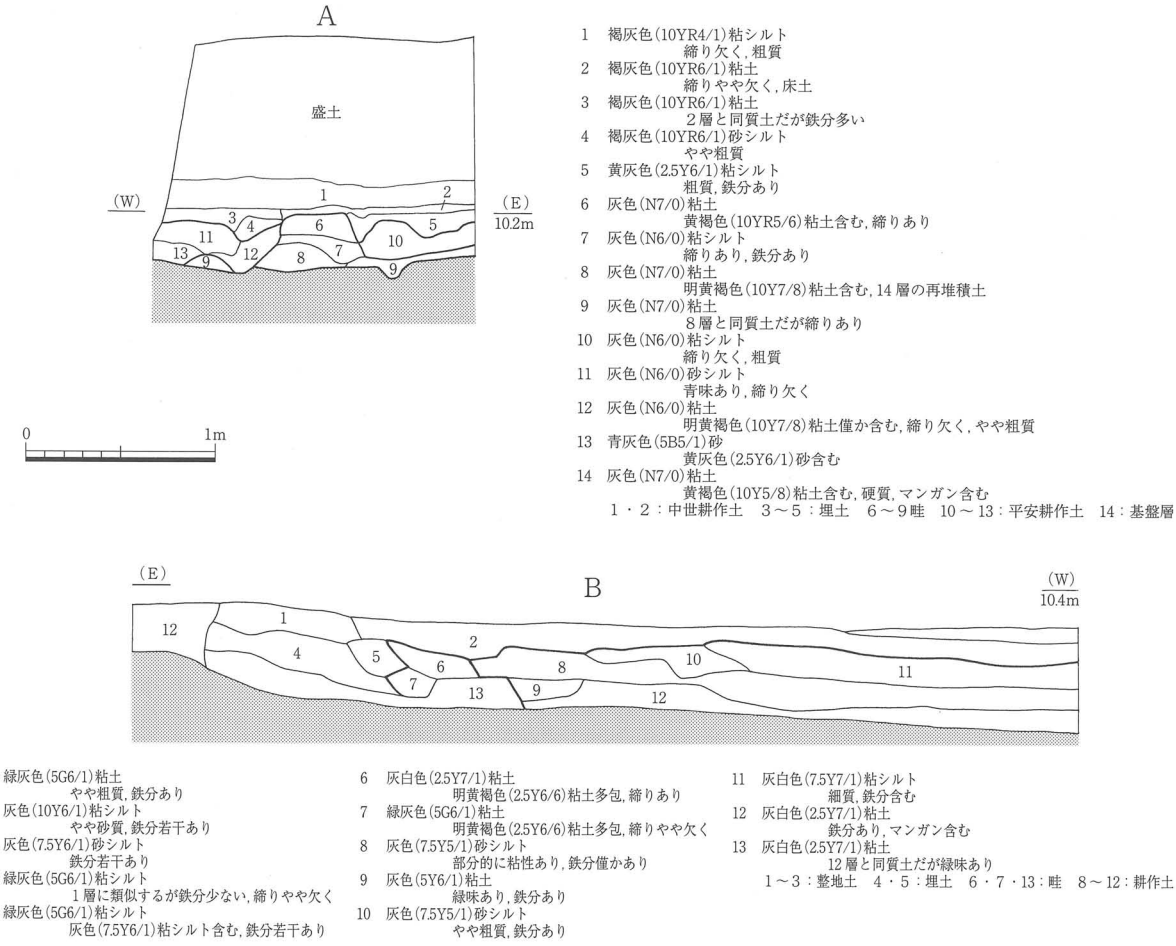

途中に堰を設けて水位を上げることによって、Ａ溝からＢ溝、Ｂ溝からＣ溝へと順次導水され、最終的にＣ溝から水田に水が供給されたと考えられる。また出土した木製樋管は、Ａ溝からＢ溝への導水のためのものとみられる。

Ｉ章２「鳳東町４丁遺跡周辺の歴史」において、調査地から鶴田池までの間の遺跡の様相を概観した。その結果、多くの遺跡で、奈良時代に集落形成が本格化する状況が確認できた。そしてその背景には、溜池である鶴田池の構築と用水路の整備があったと結論付けた。こうした状況を踏まえれば、推定幅５ｍ、深さ1.5ｍという規模をもつＡ溝は、鶴田池から大鳥方面に農業用水を導く幹線水路であり、Ｂ・Ｃ溝はそこ




第15図　００１・Ａ溝木製樋管検出状況

第16図　水田域




第17図　水田域土層

から各水田に水を供給するための用水路であったと考えられる。

【水田域】

１区の北西から東にかけて水田域が検出された。基本的に、灰色系の粘土・粘シルトを耕作土としている。

既述したように、１区の北西ではＣ溝から水の供給を受けるための水口が３箇所認められた。３箇所が同時に開口していたかは不明であるが、いずれも黄灰色砂シルトにより埋まっていることから、同時開口の可能性は高い。この付近では、畦畔は確認できなかった。

調査区北辺に沿うように水田面が広がっている。やや東寄り付近で北西－南東に若干傾いた畦が検出された。この畦の南東延長方向で50㎝ほどの間隔を開けて平行する２条の畦が存在しており、同一の畦とみられる。

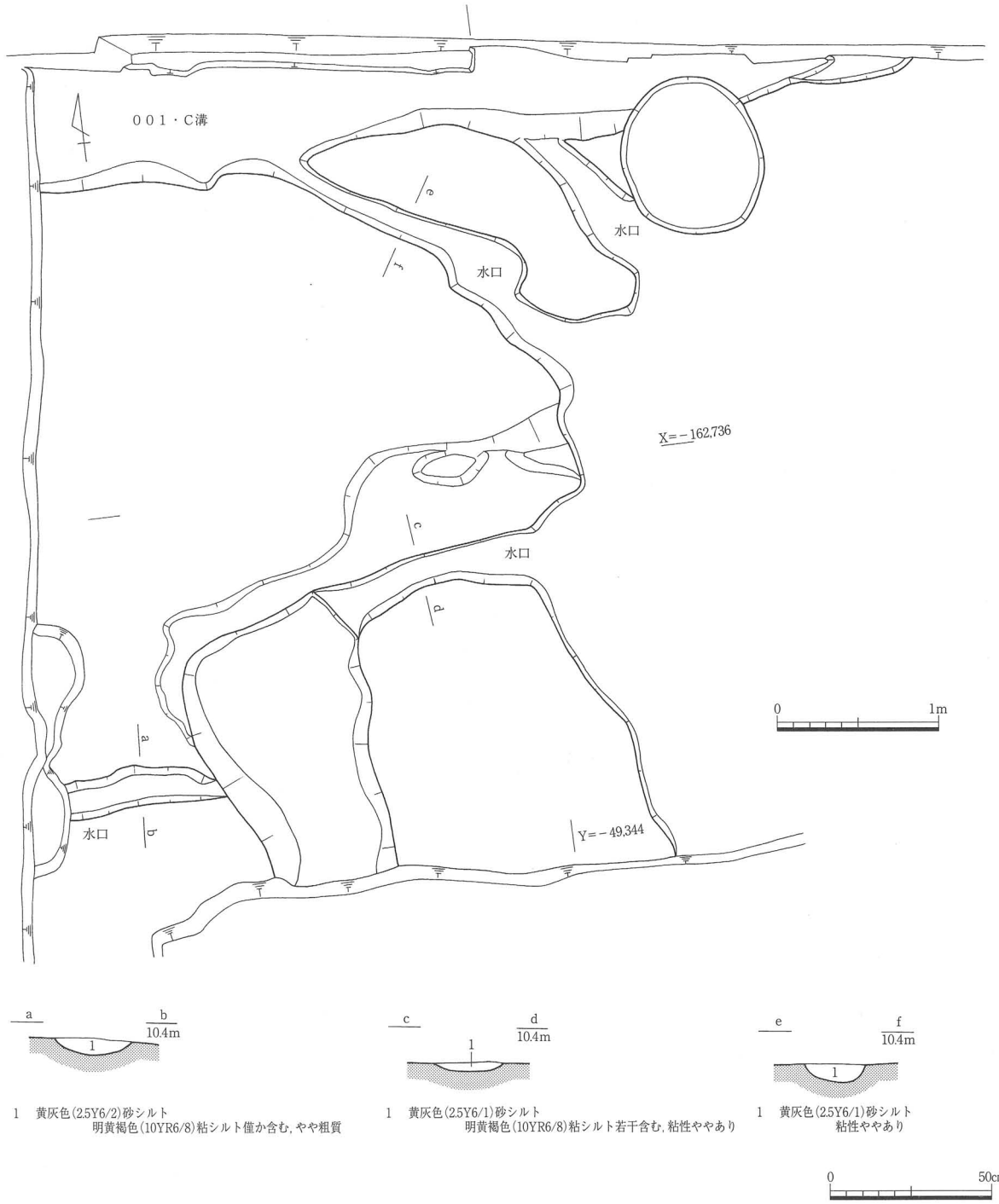
１区東では、上述の平行した２条の畦と、その２ｍほど東にさらに１条の畦が南北方向に延びている。この畦は、高さ30㎝、下幅60㎝の規模であったことがＡトレンチの土層断面から判明している。畦上部からは12世紀代の瓦器が出土している。また耕作土からは８世紀後葉の土器のほか13世紀の瓦器や須恵質土器、15世紀の瓦質擂鉢も出土している。しかしながらその耕作土を覆う整地土には８～12世紀の遺物が含まれていた。したがって13世紀以降の遺物は上層からの混入

の可能性もあり、この水田域はおおむね平安時代末に廃絶されたとみられる。００１溝とその東に広がる水田域とは一体のものであったといえる。

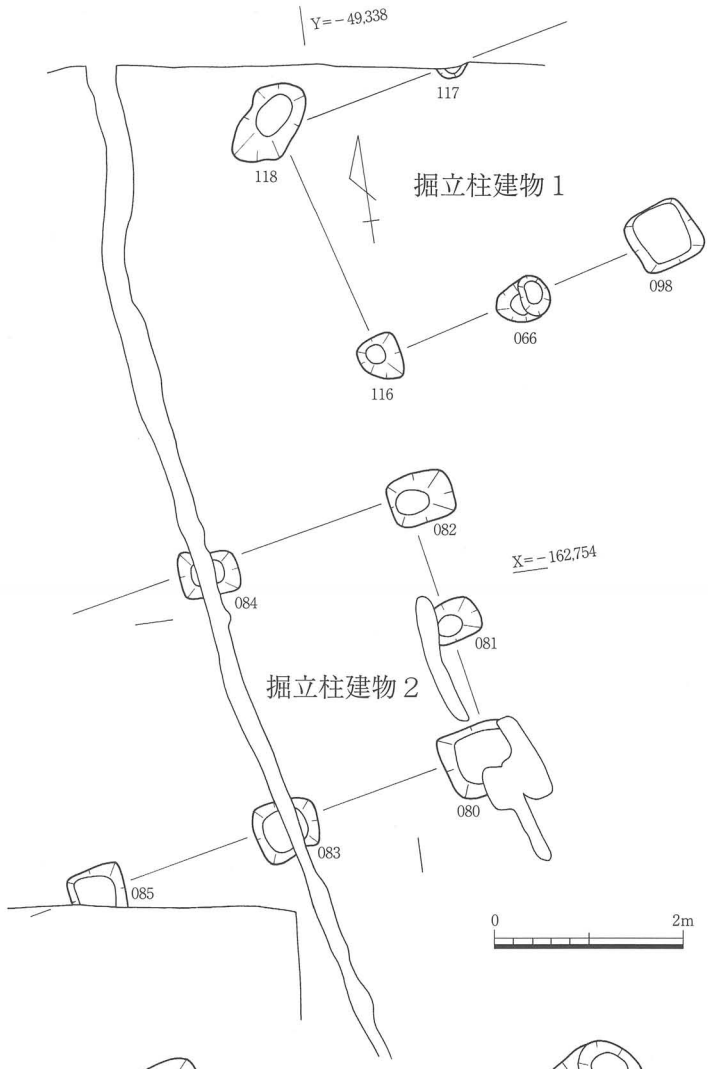
【掘立柱建物１】

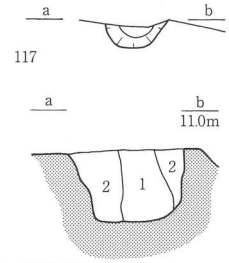
柱穴である066・098・116～118土坑により形成された掘立柱建物である。南北方向に１間分、東西方向に２間分の柱穴が認められる。柱穴間の距離を勘案すると北西－南東が桁行方向である可能性が高く、とすれば総柱建物となる。柱穴の芯々距離は桁行が2.5ｍ、梁行は1.5ｍである。

大半の柱穴で柱痕を認めることができる。その痕跡からすると直径15㎝程度の柱材が使用され

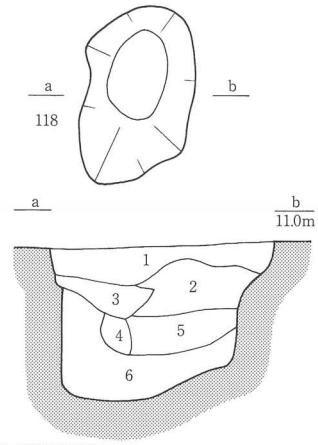



第18図　００１・C溝と水口

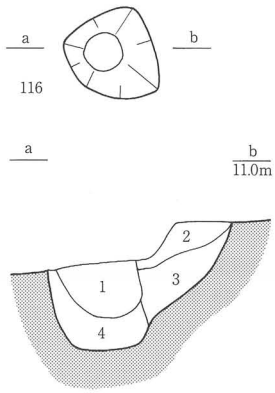


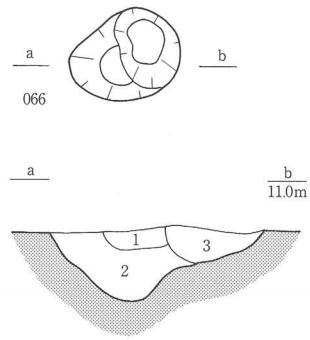

1　黄灰色(2.5Y6/1)粘シルト
　　粘性・締りあり，酸化，柱痕
2　明黄褐色(2.5Y7/6)粘土
　　粘性強い，締りあり，埋土



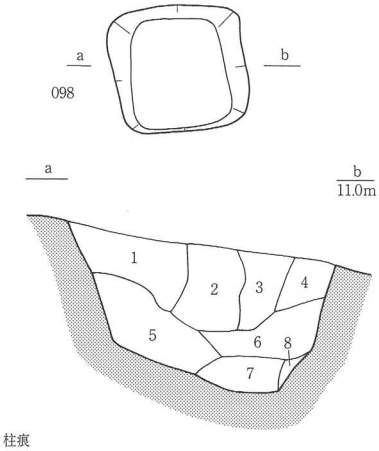

1　明黄褐色(2.5Y7/6)粘シルト
　　灰白色(5Y7/1)砂シルト含む，粘性・締りあり
2　暗灰褐色(2.5Y4/2)粘シルト
　　灰白色(5Y7/1)砂シルト含む，粘性・締りあり
3　明黄褐色(2.5Y7/6)粘シルト
　　１層と同質土だが６層土も含む
4　灰白色(5Y7/1)砂シルト
　　明黄褐色(2.5Y7/6)粘シルト僅か含む，柱痕
5　明黄褐色(2.5Y7/6)粘シルト
　　灰白色(5Y7/1)砂シルト含む，粘性・締りあり，埋土
6　暗灰色(2.5Y4/2)粘土
　　明黄褐色(2.5Y7/6)粘土ブロック若干含む，締りあり，埋土




1　褐灰色(10YR5/1)粘土
　　明黄褐色(10YR6/6)粘土僅か含む，締りやや欠く，柱痕
2　褐灰色(10YR5/1)粘土
　　粘性・締りあり，埋土
3　褐灰色(10YR5/1)粘土
　　２層と同質土だが粘性強い，埋土
4　褐灰色(10YR5/1)粘土
　　明黄褐色(10YR6/6)粘土含む，締りあり，埋土




1　にぶい黄褐色(10YR4/3)粘シルト
　　小礫若干含む，酸化，埋土
2　暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土
　　酸化，マンガン含む，埋土
3　黒褐色(10YR3/1)粘土
　　明黄褐色(10YR6/6)粘土ブロック僅か含む，柱痕

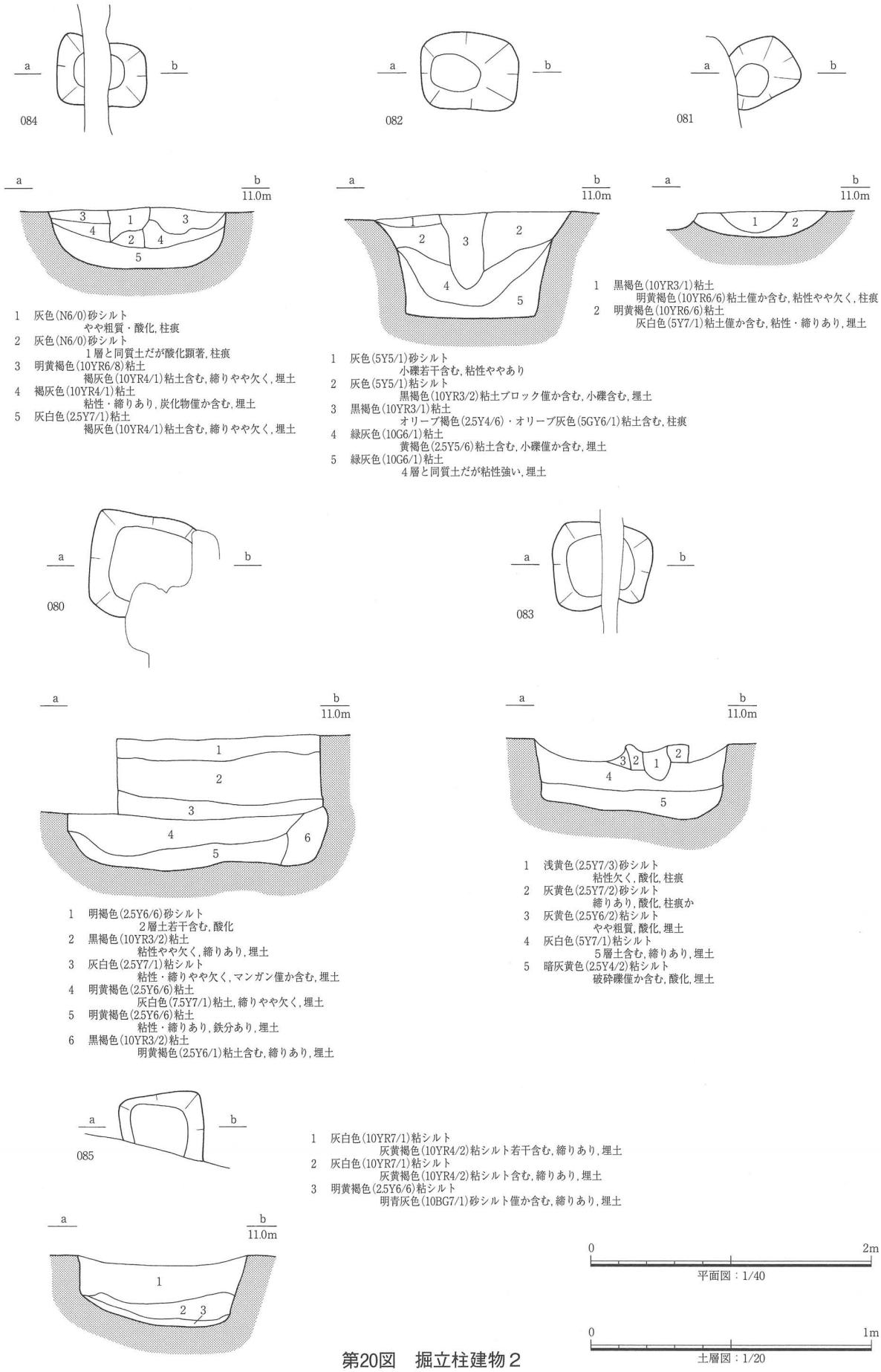



1　灰色(5Y5/1)砂シルト
　　オリーブ黒色(5Y3/1)砂シルトブロック含む，粘性ややあり，埋土
2　灰色(5Y6/1)粘シルト
　　酸化，マンガン含む，柱痕
3　灰色(5Y5/1)砂シルト
　　粘性ややあり，酸化，埋土
4　黄灰色(2.5Y5/1)粘シルト
　　酸化，マンガン含む，埋土
5　黒褐色(10YR3/1)粘土
　　暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土ブロック僅か含む，埋土
6　黄灰色(2.5Y4/1)粘土
　　灰色粘土(10Y6/1)粘土僅か含む，酸化，埋土
7　灰色(7.5Y4/1)砂シルト
　　黄灰色(2.5Y4/1)粘土僅か含む，酸化，埋土
8　明青灰色(5BG7/1)粘土
　　酸化，粘性強い，埋土

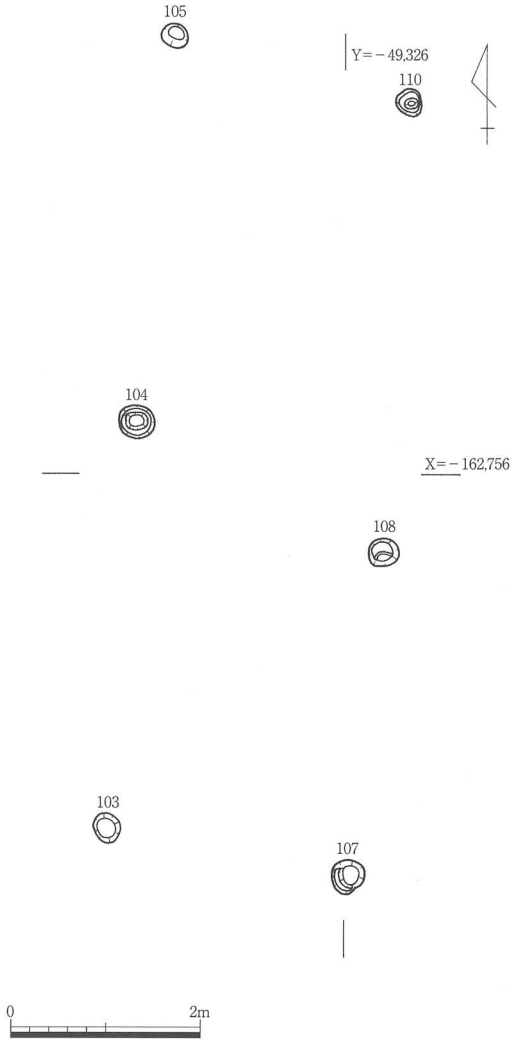
0　1m
平面図：1/40

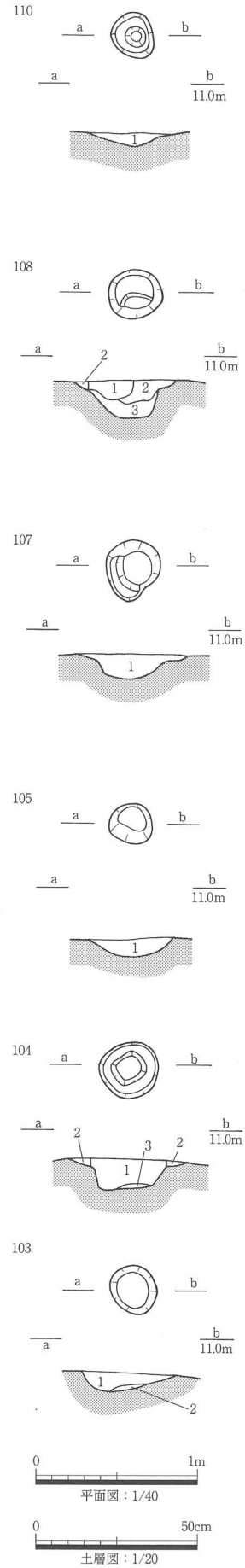
0　50cm
土層図：1/20

第19図　掘立柱建物１


084
082
081
a
b
11.0m
1 灰色(N6/0)砂シルト
やや粗質・酸化, 柱痕
2 灰色(N6/0)砂シルト
1層と同質土だが酸化顕著, 柱痕
3 明黄褐色(10YR6/8)粘土
褐灰色(10YR4/1)粘土含む, 締りやや欠く, 埋土
4 褐灰色(10YR4/1)粘土
粘性・締りあり, 炭化物僅か含む, 埋土
5 灰白色(2.5Y7/1)粘土
褐灰色(10YR4/1)粘土含む, 締りやや欠く, 埋土
1 灰色(5Y5/1)砂シルト
小礫若干含む, 粘性ややあり
2 灰色(5Y5/1)粘シルト
黒褐色(10YR3/2)粘土ブロック僅か含む, 小礫含む, 埋土
3 黒褐色(10YR3/1)粘土
オリーブ褐色(2.5Y4/6)・オリーブ灰色(5GY6/1)粘土含む, 柱痕
4 緑灰色(10G6/1)粘土
黄褐色(2.5Y5/6)粘土含む, 小礫僅か含む, 埋土
5 緑灰色(10G6/1)粘土
4層と同質土だが粘性強い, 埋土
1 黒褐色(10YR3/1)粘土
明黄褐色(10YR6/6)粘土僅か含む, 粘性やや欠く, 柱痕
2 明黄褐色(10YR6/6)粘土
灰白色(5Y7/1)粘土僅か含む, 粘性・締りあり, 埋土
080
083
1 明褐色(2.5Y6/6)砂シルト
2層土若干含む, 酸化
2 黒褐色(10YR3/2)粘土
粘性やや欠く, 締りあり, 埋土
3 灰白色(2.5Y7/1)粘シルト
粘性・締りやや欠く, マンガン僅か含む, 埋土
4 明黄褐色(2.5Y6/6)粘土
灰白色(7.5Y7/1)粘土, 締りやや欠く, 埋土
5 明黄褐色(2.5Y6/6)粘土
粘性・締りあり, 鉄分あり, 埋土
6 黒褐色(10YR3/2)粘土
明黄褐色(2.5Y6/1)粘土含む, 締りあり, 埋土
1 浅黄色(2.5Y7/3)砂シルト
粘性欠く, 酸化, 柱痕
2 灰黄色(2.5Y7/2)砂シルト
締りあり, 酸化, 柱痕か
3 灰黄色(2.5Y6/2)粘シルト
やや粗質, 酸化, 埋土
4 灰白色(5Y7/1)粘シルト
5層土含む, 締りあり, 埋土
5 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘シルト
破砕礫僅か含む, 酸化, 埋土
085
1 灰白色(10YR7/1)粘シルト
灰黄褐色(10YR4/2)粘シルト若干含む, 締りあり, 埋土
2 灰白色(10YR7/1)粘シルト
灰黄褐色(10YR4/2)粘シルト含む, 締りあり, 埋土
3 明黄褐色(2.5Y6/6)粘シルト
明青灰色(10BG7/1)砂シルト僅か含む, 締りあり, 埋土
0
2m
平面図：1/40
0
1m
土層図：1/20

第20図　掘立柱建物２




110
1　灰色（5Y5/1）砂シルト
　　マンガン含む，酸化

108
1　灰色（5Y4/1）粘シルト
　　粘性やや欠く，酸化，柱痕？
2　緑灰色（10GY5/1）粘シルト
　　粘性やや欠く，酸化
3　明緑灰色（10GY7/1）粘シルト
　　粘性やや欠く，炭化物含む，酸化

107
1　緑灰色（5G6/1）砂シルト
　　粘性欠く，酸化

105
1　明オリーブ灰色（2.5GY7/1）粘シルト
　　マンガン含む，酸化

104
1　灰色（5Y5/1）粘シルト
　　炭化物若干含む，酸化
2　オリーブ灰色（2.5GY6/1）砂シルト
　　粘性ややあり，酸化
3　明緑灰色（7.5Y7/1）粘シルト
　　粘性やや欠く，酸化

103
1　暗緑灰色（10GY4/1）砂シルト
　　粘性ややあり，炭化物若干含む，酸化
2　緑灰色（5G5/1）粘シルト
　　粘性やや欠く，酸化

第21図　柵

ていたとみられる。

【掘立柱建物２】

柱穴である080～085土坑により形成された掘立柱建物である。掘立柱建物１と同じく正方位に対して西に主軸を振っている。掘立柱建物１とは主軸方向を90度異にして、北東－南西を桁行方向としている。現状、梁行２間、桁行２間である。梁方向に拡大する可能性はないが、桁方向についてはさらに１間分拡大する可能性を残している。柱穴の芯々距離は、桁行が1.8ｍ、梁行はやや不均一で、1.4～1.5ｍほどである。

掘立柱建物２でも、半数の柱穴で柱痕を認めることができる。その痕跡からすると、掘立柱建物１と同じく直径15㎝程度の柱材が使用されていたようである。

２棟の掘立柱建物とも、時期比定の根拠となるほどの遺物がないため、時期不明である。ただ、建物の東には奈良～平安時代の水田が広がり、本来は建物場所も水田域であったと考えられる。したがって水田化される前の、古墳時代に構築されたのではないかと推測する。

【柵】

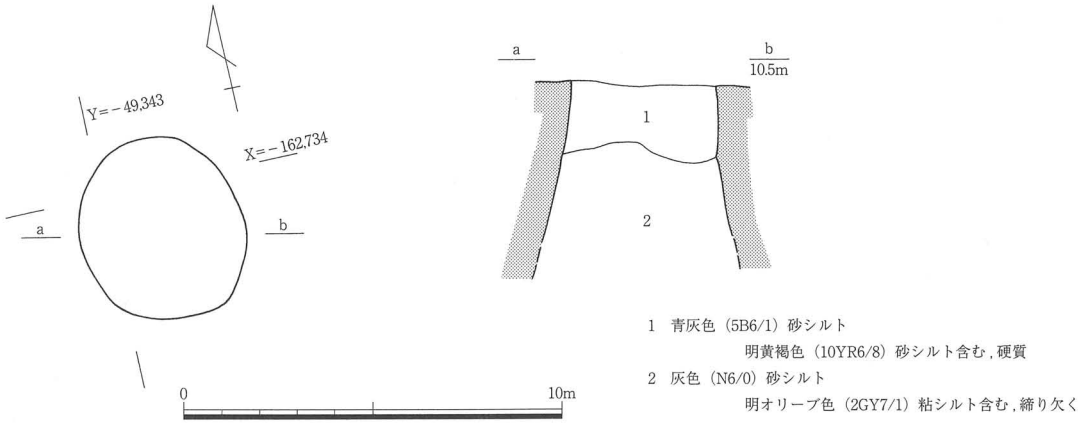
103～105小穴と107・108・110小穴からなる２列の柵である。両柵の間隔は２ｍほどある。杭あるいは柱を据えた掘方とみられる小穴は、直径約30㎝、深さは５～15㎝程度である。108小穴のみに柱痕状の堆積土が認められたが、それ以外では確認できなかった。

この柵の位置も奈良～平安時代の水田域に当たっている。ほぼ北－南方向に延び、先の掘立柱建物１・２とは主軸が異なる。平安時代あるいは中世に時期を求めることができよう。

【０２４井戸】

調査区北辺の西寄りで検出された素掘りの井戸である。直径0.8～1.0ｍを測り、この井戸も平面形は若干長円形を呈している。深さ0.9ｍまで確認したが、それ以下の掘削は中止した。

この井戸は、確認した範囲においては、下方ほど直径が広がっていた。堆積土は上半が青灰色砂シルト、下半が灰色砂シルトであった。出土遺物がないため時期を求めることはできないが、平安時代の水田面を整地して形成された耕地に伴う野井戸の可能性もある。




第22図　井戸２４

## 4　出土遺物

実測図により示した遺物は267点、拓影を示したものは86点である。以下にまず実測図を掲示した遺物について、出土遺構や層ごとにみていく。なお大半の遺物が遺存率10％以下の小破片であり、ほとんどの実測図は反転復元により作成した。

１～172は００１溝出土の遺物である。そのうち１～62は、幹線水路であるＡ溝から出土したものである。

１～３は弥生土器である。１は甕蓋、２は甕底部、３は壺底部で、いずれも詳細な時期比定はできない。４はＶ様式系甕の底部である。底部の突出は弱い。

土器のうち７は磨耗のため器面調整は不明であるが、胴部上半から口縁部にかけて直立し、ユビナデのため口縁部下が屈曲している。６世紀代に遡るとみられる。６・８～10は７世紀代、11～13の甕は８世紀後半代に比定できよう。８と10は類似した形態を示しているが、前者の口縁部端が直立しているのに対して、後者では丸くおさめられていて後出的である。

９の口縁部は短いが、開きが強い。端部は、内面が僅かに肥厚している。また胴部の球形度は高い。

11は、口縁部の開きが強い一方、胴部の張りが乏しいため、口径が胴部最大径を上回り、鉢形を呈する。摩滅のため内外面の調整は不明である。

14は頚部が「く」字状に屈曲している。口縁部の上下が強くユビナデされているため、ナデの弱い中央付近が肥厚している。端部はやや丸くおさまる。９～10世紀のものとみられる。

このように土器については、弥生時代のものも含まれているが、大半は飛鳥時代～奈良時代のもので、下限は平安時代前半であった。

須恵器は34点を掲載した。５の甕胴部は時期比定できないが、その以外のものについては５世紀後半～12世紀に時期が求められる。

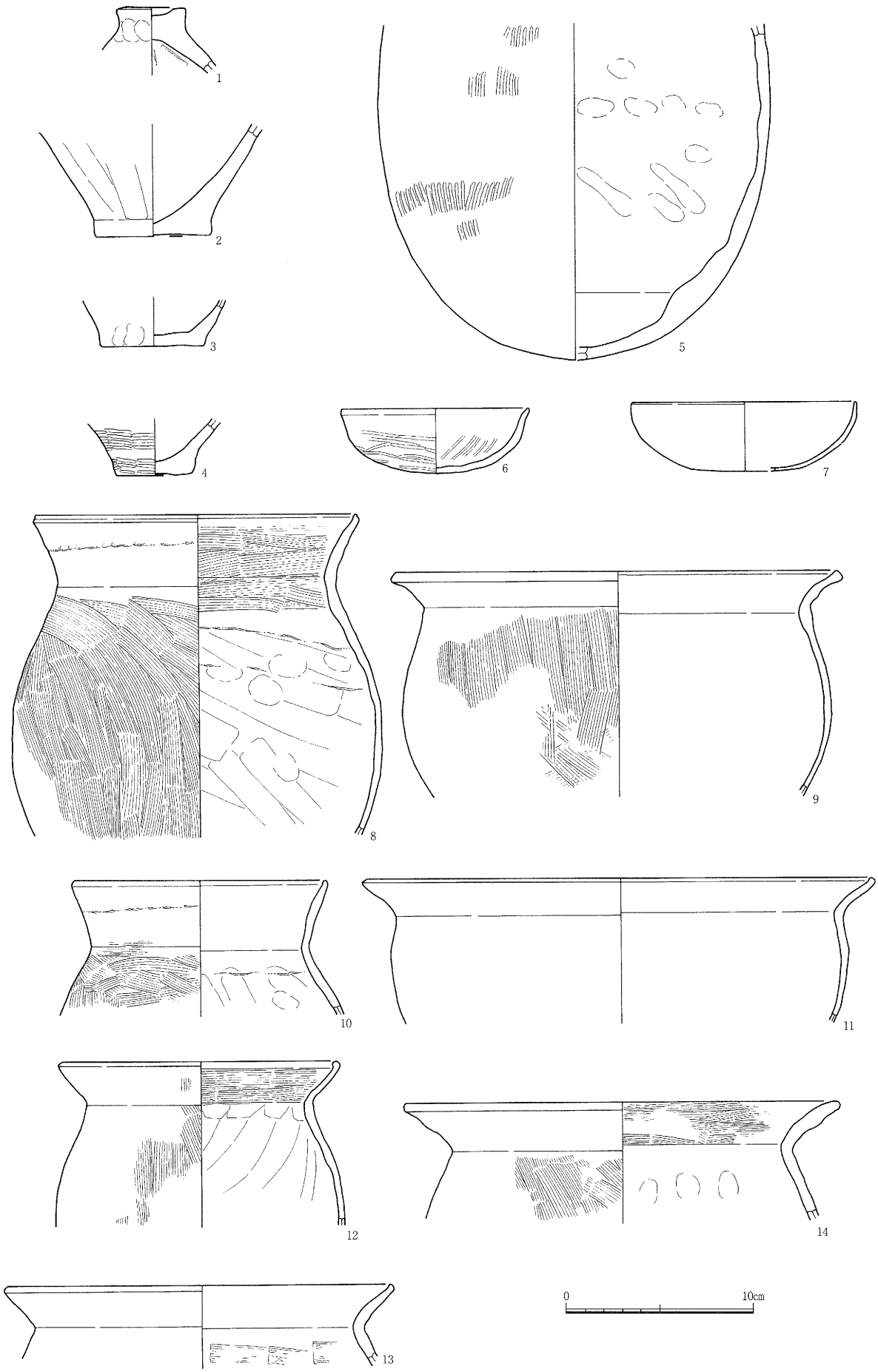
15はTK23型式、５世紀後半のものと考える。Ａ溝出土の掲載須恵器の中では、最も時期が遡る。胴部は深く、底部にかけて丸味をもつ。16の杯蓋は、15に続くTK47型式のものである。口縁部は直立し、天井部にかけて丸味をもち、器高がある。

17～23は６世紀代のものである。杯蓋は口縁部が外方に開き気味である。杯身では、胴部の深さや底部にかけての丸味が乏しくなっている。

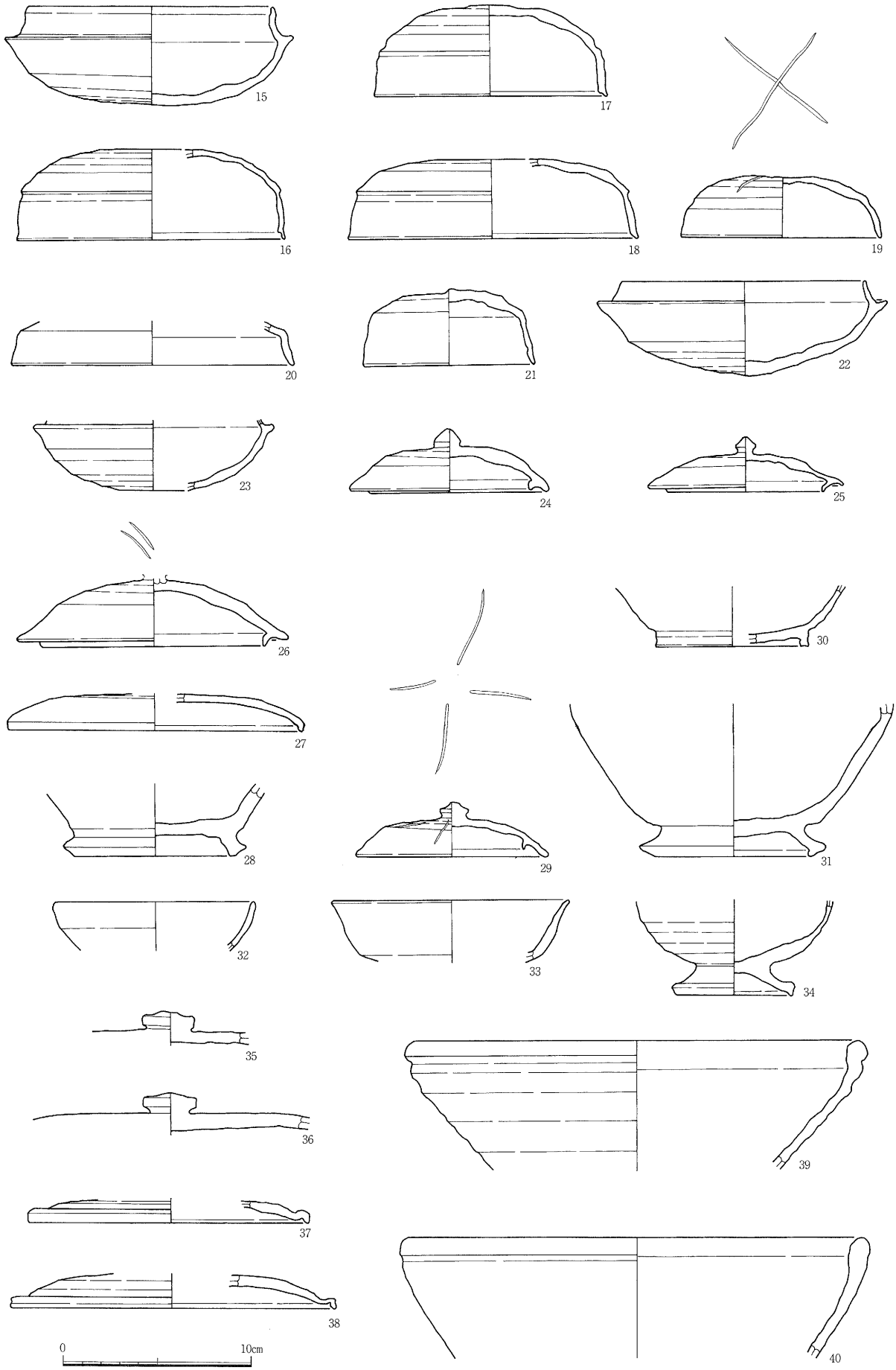
22の底部は、尖り気味になっている。23は幾分丸底に近いとみられる。

24～31は７世紀代のものとみられるが、30・31は８世紀代に下るかも知れない。32～44は８世紀代のものであるが、43・44は９世紀代に下る可能性をもつ。

26は本来、宝珠つまみの付いていた蓋である。24・25に比べると大振りである。28は胴部上半から口縁部にかけて直立気味に立ち上がる杯であるとみられる。31は上半が欠損していて、形態が不明であるので、瓶類として捉えた。




第23図　００１・Ａ溝出土遺物（１）




第24図　００１・Ａ溝出土遺物（２）

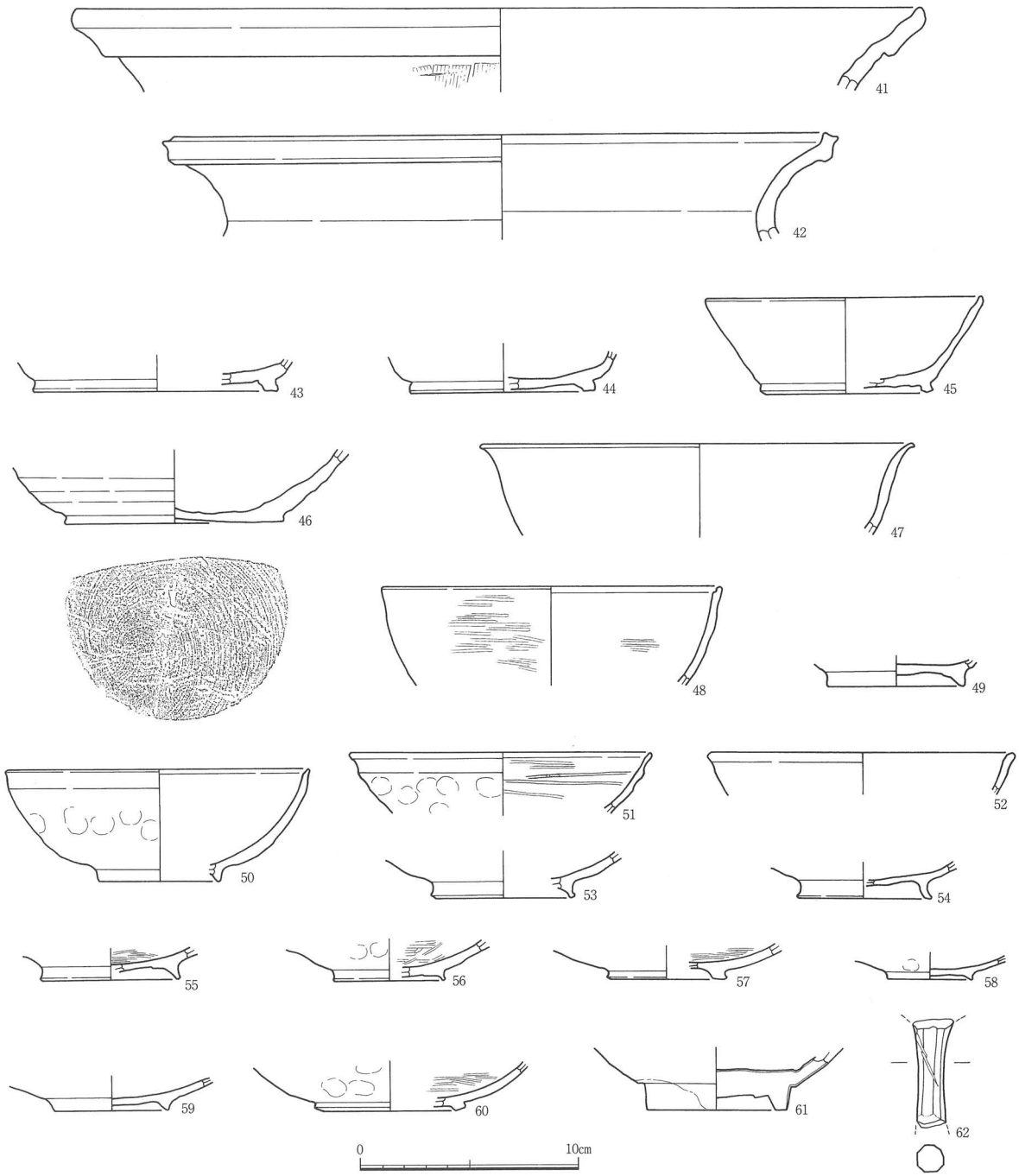
32・33は杯である。前者は口縁部が内湾気味、一方後者は外反するが、ともにＭＴ21型式に比定できよう。

39・40は鉢である。後者の方が全体に作りが鈍い。

41・42は甕の口縁部である。前者は直線的に立ち上がり、貼付けによって有段化している。後者は「く」字状に鈍く屈曲し、端部は直立する。前者は８世紀前半、後者は８世紀後半に位置付けられる。

45・46の杯は９世紀代、47の椀は12世紀のものと考える。

45は、復元実測によるが、全形を捉えることができる数少ない資料である。胴部から口縁部に




第25図　００１・Ａ溝出土遺物（３）

かけて直線的に立ち上がり、逆「ハ」字状を呈する。

46は高台部のない杯である。底部にかけて器厚を増し、僅かに上底気味になっている。底部に回転糸切痕を残す。

須恵器については、古墳時代中期から平安時代後半までのものがある。ただしその中でも、奈良時代以降のものが半数を占めている。

48・49は黒色土器である。48はＢ類、49はＡ類。48は胴部上半から口縁部にかけて内湾し、口縁部内面がヨコナデによって段がつく。Ｂ類の中でも古相を呈するものとみられる。49の高台部は断面三角形である。48・49はともに、10世紀代に比定できよう。

50～60は瓦器椀である。全形が捉えられるのは50だけである。高台部が脆弱化した58・59は13世紀代に下ると考えられるが、その他は12世紀代に収まるであろう。

50は復元実測により全形を捉えることができる。器高をやや欠いているが、胴部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がり、やや丸味がある。

61は白磁碗である。今回の調査で検出された唯一の白磁である。底部、高台部ともに厚い。削り出し高台をもつ。断面は方形を呈している。高台部の一部に釉掛けが及んでいる。

62は土馬の脚部である。土馬もこの62が唯一の出土例である。奈良時代のものであろうが、確証を欠く。

63～91はＡ溝に平行して走行するＢ溝から出土したものである。土器、須恵器、黒色土器、瓦器があり、遺物の種類としてはＡ溝とほぼ変わらない。

63～68は土器である。63は弥生中期の壺の底部と考えられる。摩滅が著しく、器面内外の調整は不明。68は口縁部を欠いているが、庄内期新段階とみられる甕である。胴部外面には、細ハケ調整前のタタキ調整の痕跡が僅かに残っている。内面はヘラケズリがなされている。器厚は、現状最大で0.3cmにすぎず、薄い。

64は古墳時代中期の甕、65は７世紀後半の椀、66は８世紀後葉の甕、そして67は13世紀代の椀の底部と考える。

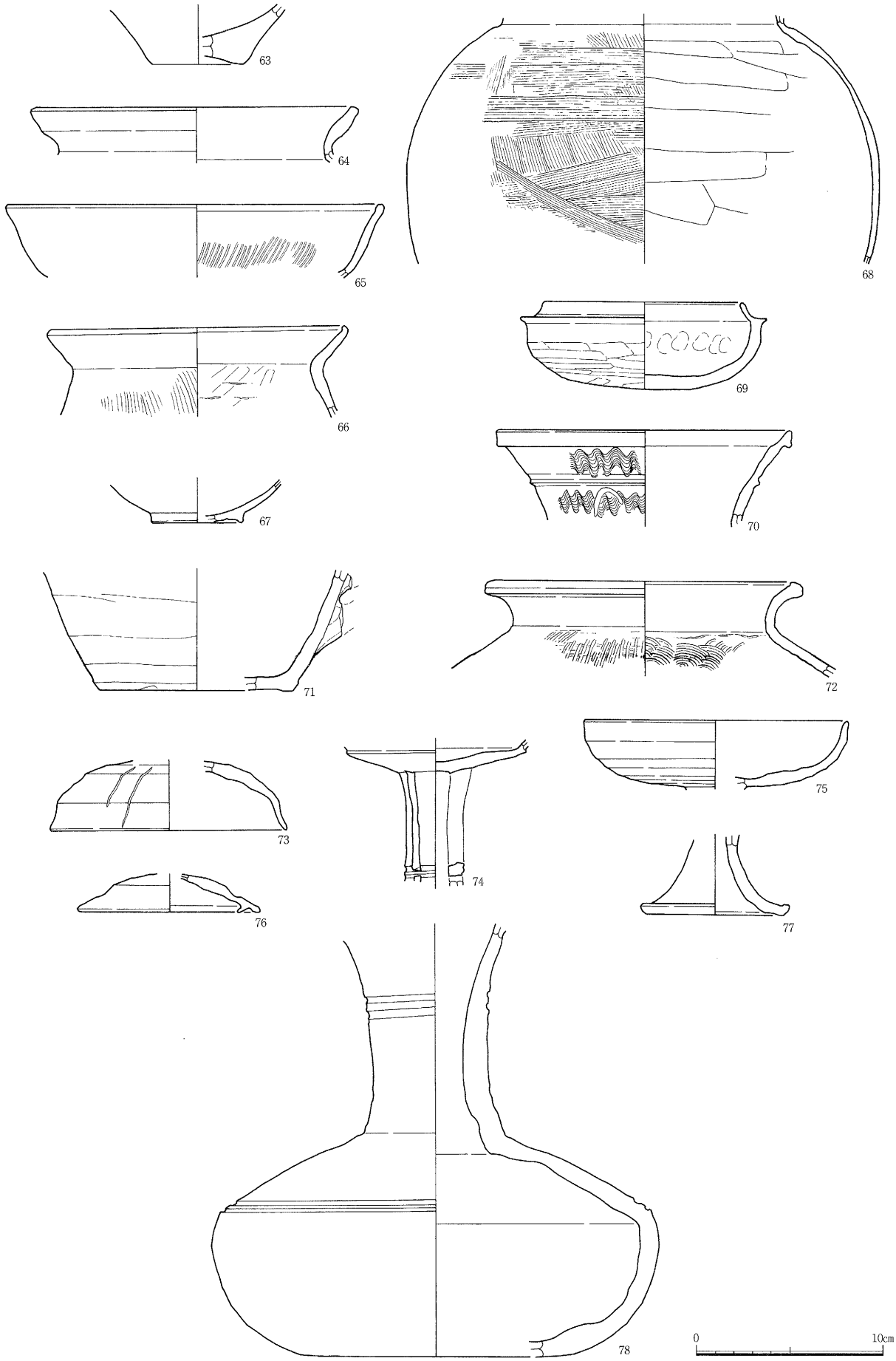
65の椀は、胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部端が丸く収まる。胴部内面にはミガキによる格子状暗文が認められる。

66の甕は、頸部が「く」字状に鈍く屈曲し、口縁部の端部は肥厚する。先述の12と形態が類似していて、同時期と考えられる。

67の椀の高台部は、断面三角形を呈している。

Ｂ溝の土器には弥生時代から鎌倉時代までのものがみられ、Ａ溝出土の土器より下限が延びている。しかし、Ａ溝出土の遺物全体と比較すると年代幅はほぼ一致している。

Ｂ溝出土の須恵器は20点を図示した。そのうち69の杯身は土釜形を呈し、胴部外面にヘラケズリ調整を留めている。底部は平坦に近い。ＴＫ73型式に比定でき、胎土や色調から陶邑窯跡群で生産されたとみられる。




第26図　００１・Ｂ溝出土遺物（１）

70の甕は、口縁部中央に鋭い突線を巡らせ、それを挟んで上下に波状文を施している。口縁部端正面は面をもつ。５世紀後半のTK23型式に比定できる。

71は把手付鉢である。底部は平坦であるとみられる。胴部外面には、丁寧なヘラケズリが施されている。型式比定はできないが、５世紀中葉の初期須恵器の範疇で捉えられよう。

72～75は６世紀代のもの、76～80はほぼ７世紀代のもの、81～87は８世紀代のもの、そして88は９世紀前半と考える。

72の甕は、口縁部が短く、端部は丸味をもって玉縁状に肥厚している。端部内面はユビナデのため僅かに窪む。

73の杯蓋の天井部には２本線のヘラ記号が記されていて、Ａ溝出土26と共通する。口縁部は外反気味に開き、端部は丸く収まる。

74は長脚高杯で、２段の透孔をもつ。75は無蓋高杯。77は低脚高杯。

78は長頸壺である。胴部は扁平で上半部に２条の沈線を巡らせている。底部はほぼ平坦とみられる。

79は大型甕の口縁部である。口径は50.2cmを測り、器高は１ｍ前後であろうと推定する。口縁部は直線的に立ち上がり、端部は肥厚して断面三角形を呈し、正面に面をなす。２条１対の沈線を３対巡らせて３段に仕切る。上２段に太いヘラナデを加えていて、ヘラ描き状の痕跡となっている。

80は甕の口縁部である。頸部で折損している。口縁部の長さは4.5cmほどと短い。端部上面が平坦に仕上げられている。

81の甕の口縁部は上半が緩やかに屈曲し、僅かに有段化している。２条１対の沈線を３対巡らせて口縁部を３段に分割している。その前段階に縦方向のヘラナデを施していて、それがヘラ描き状の痕跡として認められる点は、先の79と同じである。

82の鉢は40に比べるとやや浅いが、ほぼ同じ時期のものと考える。

83の杯は、Ａ溝出土の杯33に形態が類似するが、胴部から口縁部にかけての立ち上がり形状から後出するとみられる。

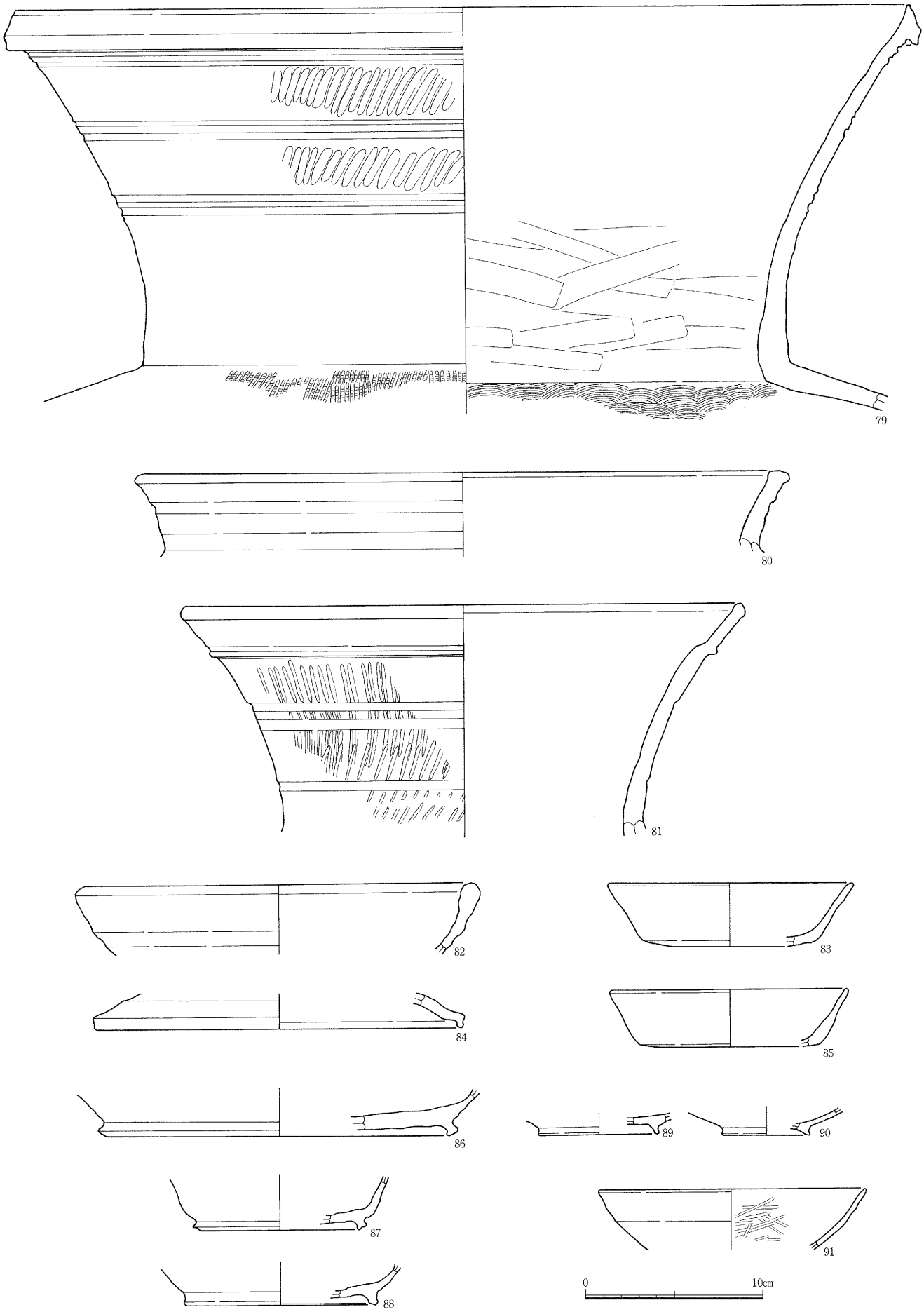
Ｂ溝出土の須恵器には、Ａ溝で認められたような平安時代後期のものはなかった。しかし、その点を除くと、５世紀～９世紀のものであること、40％が奈良時代以降のものであることは、Ａ溝出土の須恵器とほぼ共通している。

89はＡ類黒色土器である。高台部は細い長方形を呈している。10世紀代に比定できる。

90・91は瓦器椀である。90の高台部は脆弱化し、断面は三角形を呈している。13世紀代に比定できよう。

91は胴部から口縁部にかけての破片である。直線的に立ち上がる形状は形骸的な様相を示しているが、幾分深さを保っているようで、12世紀代のものと考える。

したがって土器椀67と瓦器椀90が13世紀代に下るが、それ以外は平安時代末までに収まるとい




第27図　００１・Ｂ溝出土遺物（２）

える。

Ｃ溝出土の遺物のうち、図示できたものは92～94の３点にすぎない。92は土器の甕で、７世紀後半とみられる。口縁部は短く、直立する。端部は尖り気味である。

93は須恵器の杯である。胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。８世紀後半に比定できる。Ｂ溝出土の83に形態が類似している。

94はＢ類黒色土器である。高台部断面は長方形を呈し、高さを保っていることから、10世紀後半～11世紀前半に位置付けられよう。

Ｃ溝出土の図示遺物は少ないが、各遺物とも平安時代末までに収まる点はＡ溝やＢ溝と一致している。したがって各溝とも埋没時期は共通していたとみられる。

95～172は００１溝一括として取り上げたものである。Ａ・Ｂ・Ｃ溝から出土したものを峻別できず一括的に取り上げたものもあるが、多くは各溝が埋没し、それらの上部に堆積した全体の掘方内の覆土から出土したものである。

95～104は土器である。95は弥生時代の壺の底部。96は布留式甕の口縁部～胴部上半の破片資料である。口縁部端の内面肥厚は僅かである。口縁部は大きく外反して立ち上がる。胴部外面には細かなハケ調整痕が残る。内面にはユビナデ・ユビオサエがなされている。

97・100は古墳時代後期の高杯の脚部である。97は柱状脚部で、裾部は内湾気味に開く。脚部外面に幅広いヘラケズリが施されている。

98は半球形を呈する椀である。器厚は0.2㎝と薄い。口縁部はやや直立気味に立ち上がり、端部は尖り気味である。

99は、12や66と同じく口縁部端が直立する甕である。胴部外面のハケ調整は粗い。

101の甕は、口縁部が短く外反して水平に張り出したのち、端部が上方に肥厚している。102の甕は、胴部から口縁部にかけて「く」字状に屈曲する形態を呈し、口縁部端内面が肥厚している。101は、この102に近い形状であるとみられる。

103は胴部上半から口縁部にかけて直線的に立ち上がる椀である。口縁部端の内面がやや肥厚している。

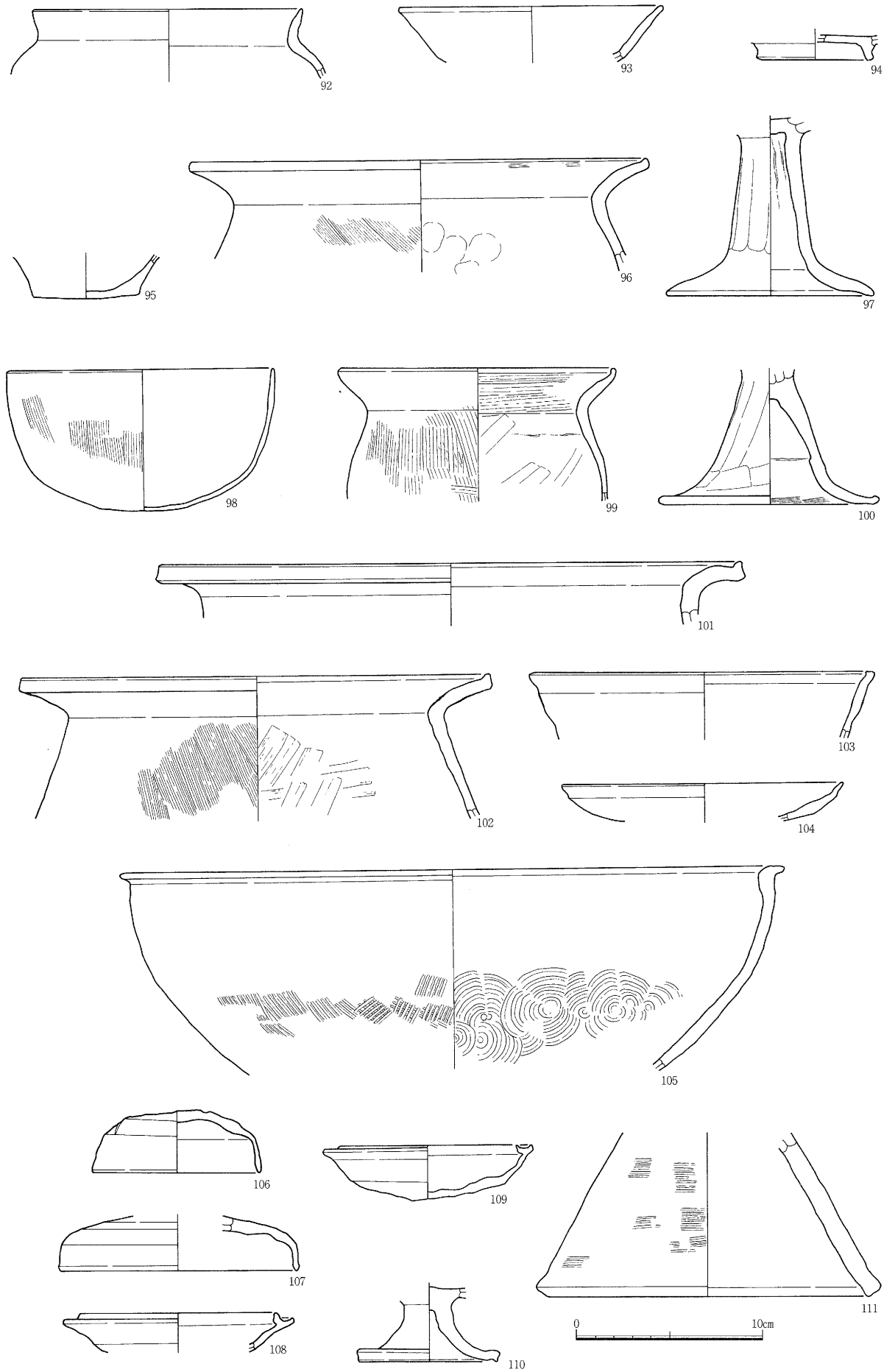
98・99・101～103は８世紀代に、104の皿は９世紀前半に、それぞれ年代を求めることができよう。

105～166は須恵器である。この中には、５世紀代に遡るものは見当たらない。105～112は６世紀代に比定できる。

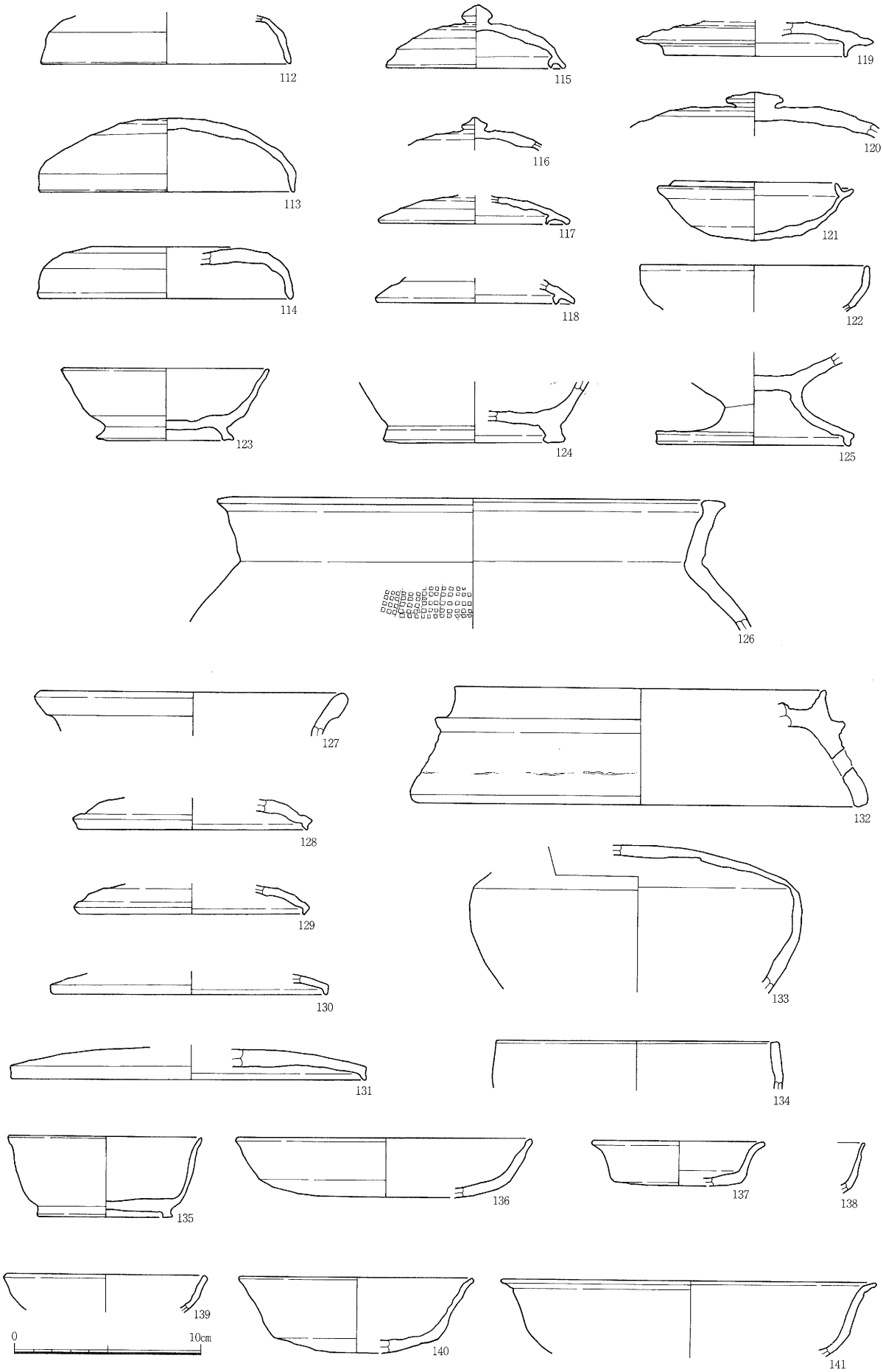
105は鉢型を呈する大型器台である。器受部上半は丸味をもって立ち上がるが、下半は丸味を欠く。端部は鋭く外反する。胴部外面下半に平行タタキ痕跡、内面に当具痕を残す。

111は大型器台の脚部と考えるが、詳細は不明である。直線的に「ハ」字状を呈して立ち上がり、端部は断面方形を呈している。外面にタタキ調整の痕跡を残している。

110は低脚高杯の脚部とみられるが、他器種の脚部である可能性も残る。




第28図　００１・Ｃ溝出土遺物／一括遺物（１）




第29図　００１溝一括遺物（２）

112の杯蓋は、口縁部から天井部にかけて幾分丸味をもって立ち上がり、口縁部はやや外反気味である。ＴＫ209型式に位置付けられよう。

113～127は、一部に８世紀代に下る可能性のあるものも含まれるが、ほぼ７世紀代に位置付けられる。

113は口縁部が短く、直立する。天井部にかけて丸味をもって立ち上がる。天井部の回転ヘラケズリの範囲は狭い。ＴＫ217型式に位置付けられよう。

122は、口縁部が直立する椀である。123は、復元実測により全形を捉えることができた杯である。胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。口径に対する身高は乏しい。ＴＫ48型式に比定できる。

124は高台部が厚く瓶類の底部と考えるが、全体の器形は不明。125は低脚高杯の脚部。

126は甕。口縁部は短く、直立気味である。端部は平坦で、内面が若干肥厚する。ＴＫ216型式に比定できよう。127は壺の口縁部である。貼付口縁部で、端部は丸く肥厚する。

128～157のうち、133が古墳時代後期とみられる以外、多少の年代幅はあるが、ほぼ８世紀代に比定できるものである。

132は円面硯である。復元実測によるが、その外形を捉えることができる。脚部中程に透穴が配され、下半は内湾する。７世紀後半に遡る可能性がある。

133は平瓶の胴部。胴部に丸味があり、肩部が張り気味である。割合に高さがある。６世紀後半に位置付けられよう。

135は杯で、８世紀中葉に比定できる。胴部上半から口縁部にかけてほぼ直線的に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。口縁部端は丸く収まる。小片のため復元実測できない138は、ほぼ同じ形状であるとみられる。これらに比べて、胴部から口縁部への立ち上がりがなだらかな140は後出するものである。

141は、短く外反する口縁部をもつ杯である。口径20.0cmを測り、大型品である。

142は鉢の胴部下半以下の資料と捉えたが、瓶類あるいは大型杯の可能性もある。143は瓶類の底部と考えるが、全体の器形は不明である。142に似ているが、ひとまわり大きく、底部はやや丸味がある。

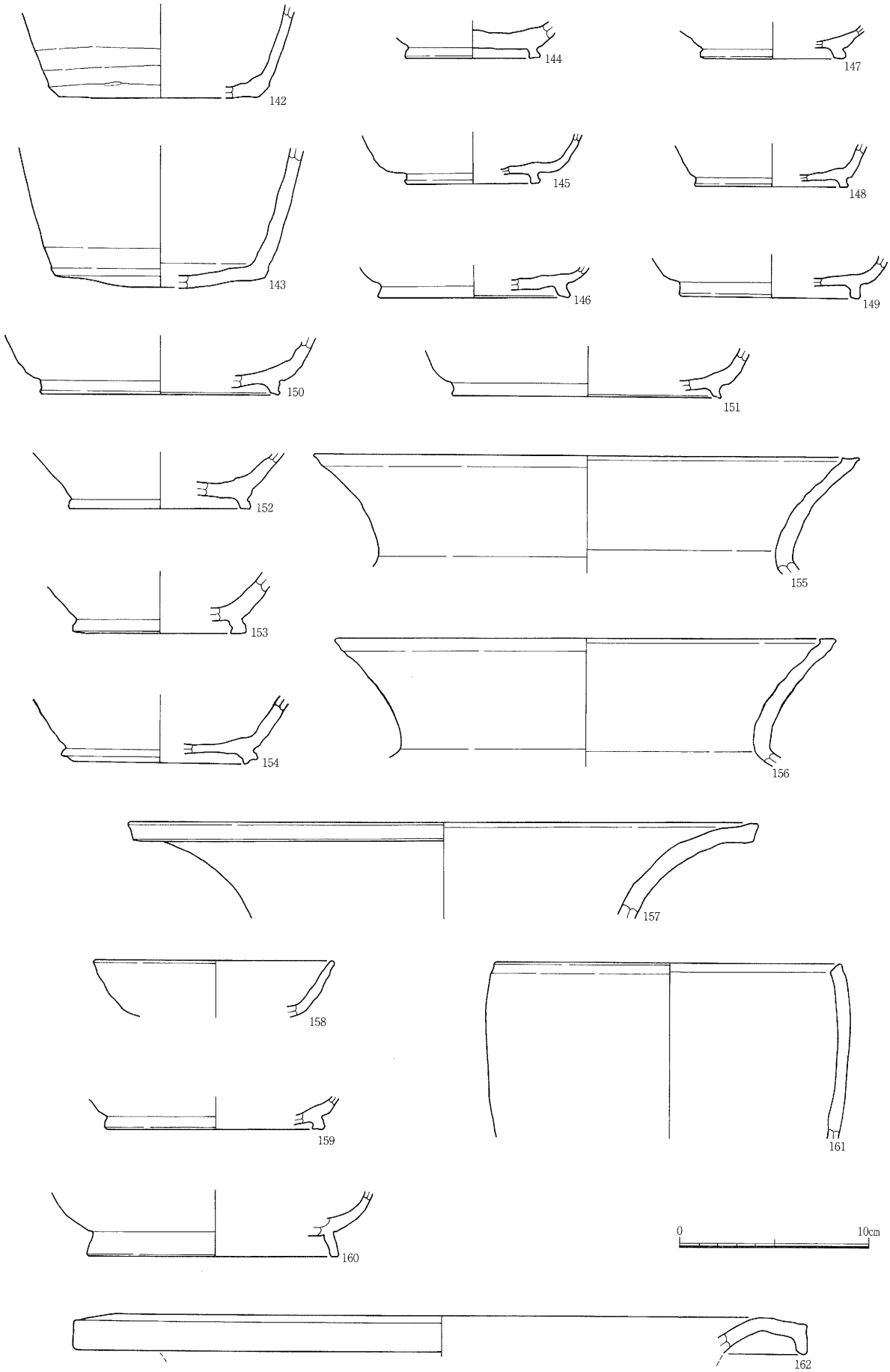
155と156は、形状の近似した甕である。ともに口縁部が大きく外反し、口縁部上端がユビナデによって水平に平坦化している。同一個体の可能性もあるが、両者は口径が若干異なり、後者のほうが少し大きい。また出土位置や検出日も異なることから、別個体とした。

158～162は９世紀代に比定できると考える。

158は杯である。胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。器高に乏しい。

160は高台部が高く、鉢であろう。161も深さのある鉢と考えた。胴部から口縁部にかけてやや内湾しつつ直立する。口縁部端は平坦で、内傾する。

162は、大きく開く口縁部をもつ大型甕である。端部は折り返されている。




第30図　００１溝一括遺物（３）

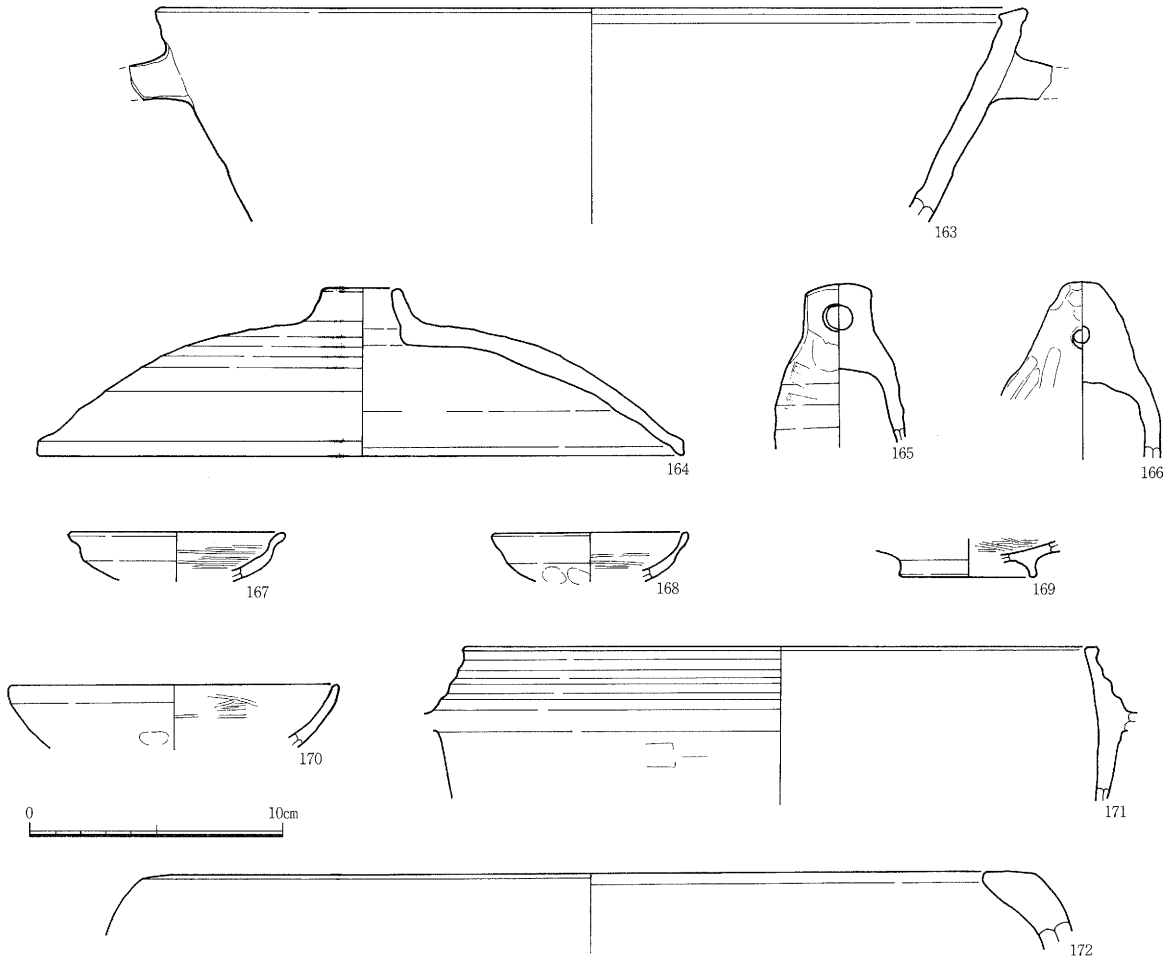
163～166も須恵器であるが、年代比定ができないものである。163は甑である。164は蓋とみられるが、突起する頂部中央に穿孔がなされている。口縁部端は若干直立している。天井部外面には回転ヘラケズリ、口縁部外面には回転ユビナデを施す。天井部から口縁部にかけて丸味があり、口縁部端は面をなす。

165・166は飯蛸壺である。

167～170は瓦器である。167は瓦器皿で、口縁部が強いユビナデのため屈曲外反する。口径に比して器高がある。168は胴部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がる。口縁部は屈曲外反しないが、167と同様に口縁部外面にユビナデがなされていて、調整法は共通している。また口径に対する器高の割合もほぼ等しい。ともに12世紀代に位置付けられよう。

169の椀底部は断面長方形の高台部をもち、やはり12世紀代に比定できる。これに対して170の椀は、器高が浅く、口縁部が僅かに内湾する形状から13世紀代に下ろう。171・172は瓦質土器で、前者は羽釜、後者は火舎である。後者は15世紀代に位置付けられよう。

173～183は平安時代の整地土、184～189は平安時代の耕作土から出土したものである。173・174は土器である。前者は８世紀後半の皿。後者は椀の底部で、高台部の断面が三角形に形骸化していることから、平安時代のものとみられる。




第31図　００１溝一括遺物（４）

175～177は須恵器である。175は８世紀代の杯、176は７世紀後葉の杯である。177は瓶としたが、全体の器形は不明である。

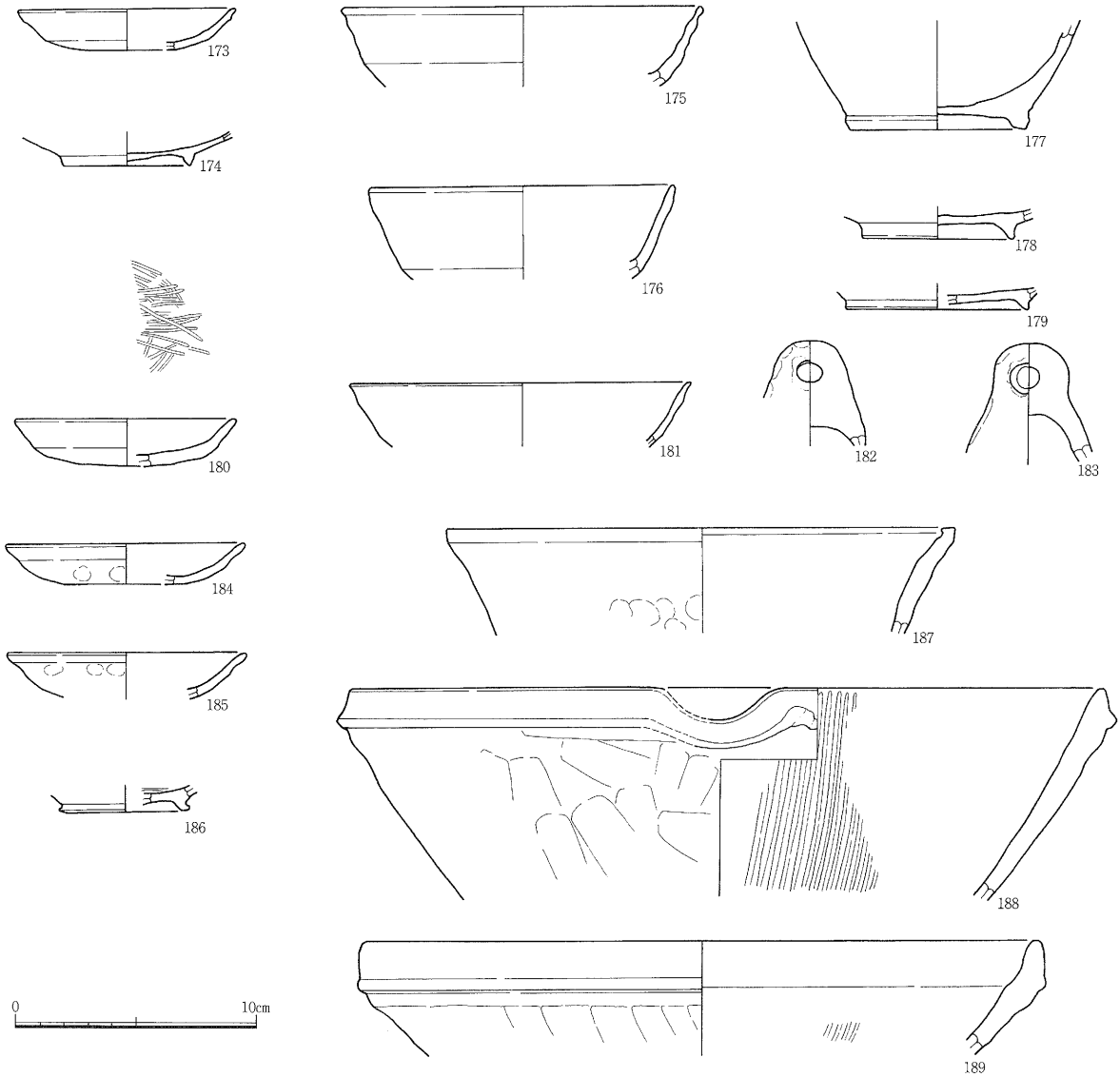
175は、胴部から口縁部にかけて僅かに内湾して立ち上がる。ユビナデにより口縁部外面には稜が立つ。端部は丸味がある。

176は、胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がり、端部は尖り気味である。ＴＫ48型式に比定できる。

178・179は黒色土器の底部で、前者はＡ類、後者はＢ類である。178は10世紀代、179は11世紀代にそれぞれ年代付けられよう。180・181は瓦器である。前者は皿、後者は椀で、ともに12世紀代に比定できる。182・183は飯蛸壺である。ともに年代比定はできない。

平安時代の耕作土から出土したものには、まず184～186の瓦器がある。184・185は皿で、胴部から口縁部にかけて浅く立ち上がる形状から13世紀代のものとみられる。

186は畦上部から出土した瓦器椀である。高台部の断面は方形を呈していて、12世紀代に遡る




第32図　平安整地土・耕作土出土遺物

と考える。

187は土器の甕の口縁部である。口縁部端は直立し、平坦になっている。外面に煤が付着している。８世紀後葉のものとみられる。

188・189は須恵質土器である。前者は東播系の片口擂鉢で、13世紀代に比定できる。189は擂鉢である。15世紀代に比定できる。

耕作土の基盤となった平安整地土からは奈良～平安時代の遺物が出土したが、より新しい時期のものは検出されなかった。これに対して平安耕作土から出土した遺物のほとんどは13～15世紀代のものであった。しかしこれらは、耕作土の上層である中世整地土・耕作土内の遺物が混入した可能性を否定できない。畦上部から出土した12世紀の瓦器椀が、耕作土形成の最終年代を示していると考える。

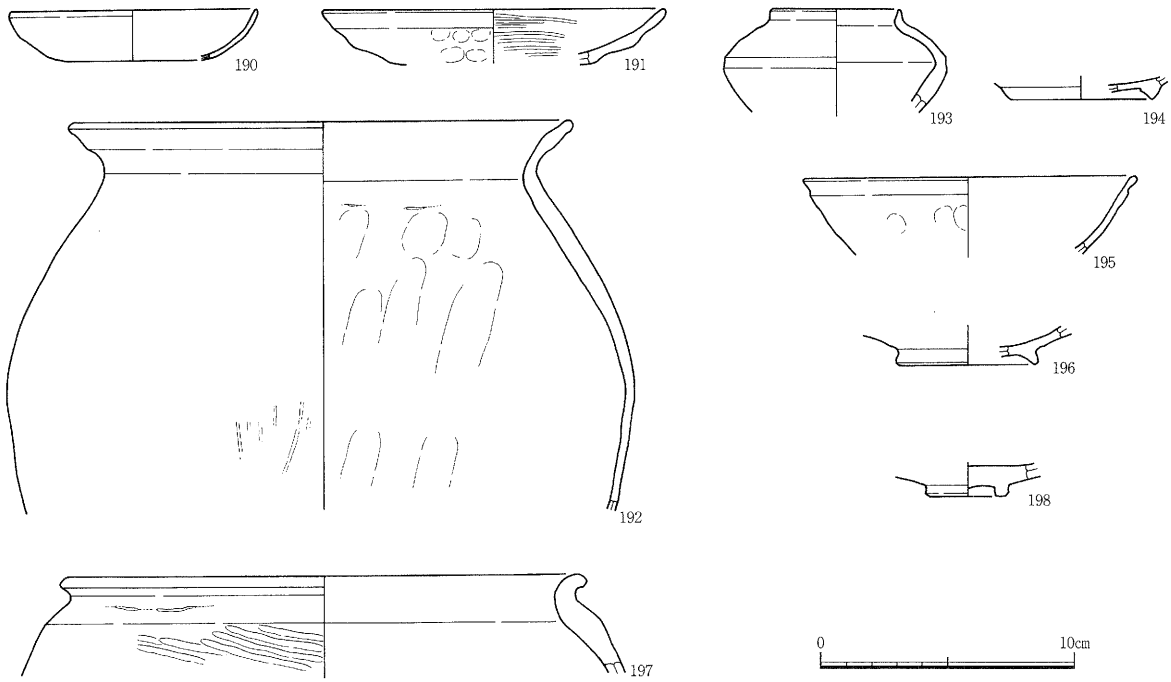
190～191は中世整地土、192～198は中世耕作土から出土したものである。

190は土器の皿、191は瓦器椀である。前者は８世紀後葉のものである。後者は器高に乏しく、胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がることから、13世紀代に比定できる。

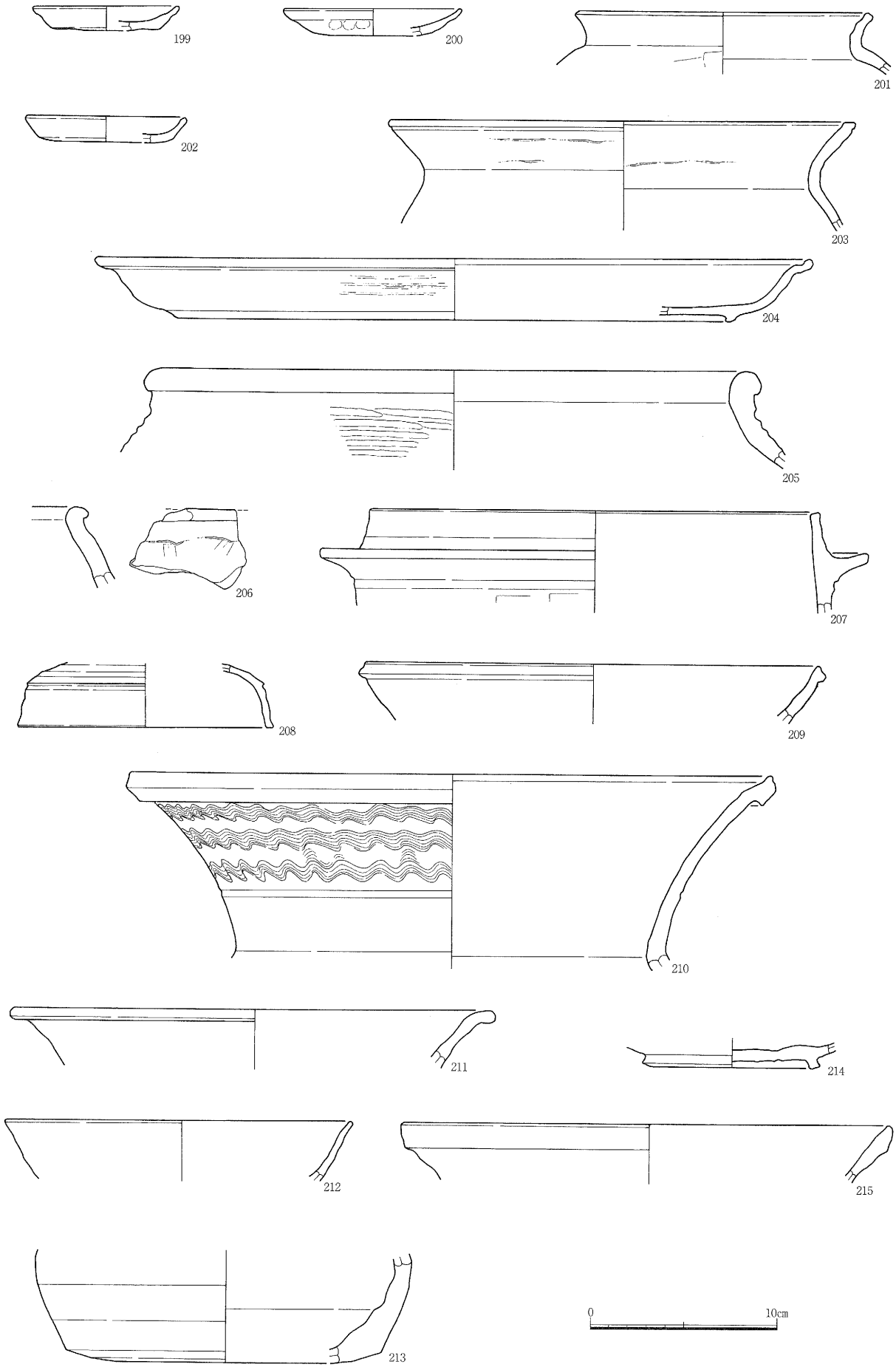
192は土器の甕、193は須恵器の小壺で、ともに６世紀代のものである。194は黒色土器Ｂ類で、高台部は脆弱化しており、11世紀代に比定できよう。

195・196は瓦器椀で、前者は胴部から口縁部にかけての立ち上がりの状態から13世紀代に、後者は方形で外方に張出す高台部の形状から12世紀代に位置付けられよう。198は陶器の碗である。

以上の出土遺物の様相から、平安時代の水田域を埋め、再度耕作地化したのは13世紀頃とみられる。




第33図　中世整地土・耕作土出土遺物



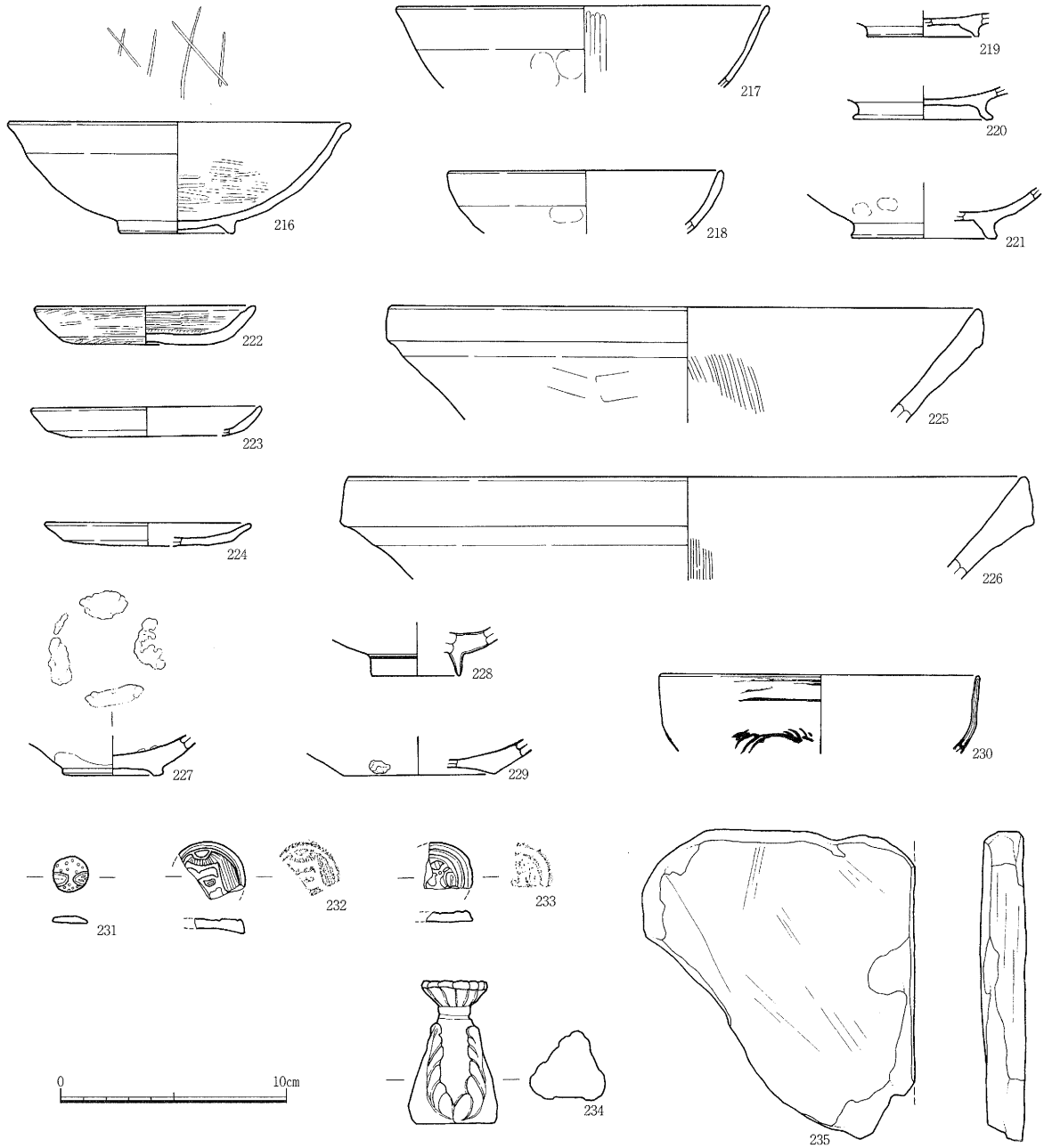

第34図　包含層出土遺物（1）

199～235は取り上げ時に古代や中世の整地土および耕作土の峻別ができず、包含層として一括して扱ったものである。したがって本遺跡の出土遺物の最大時期幅をみることができる。

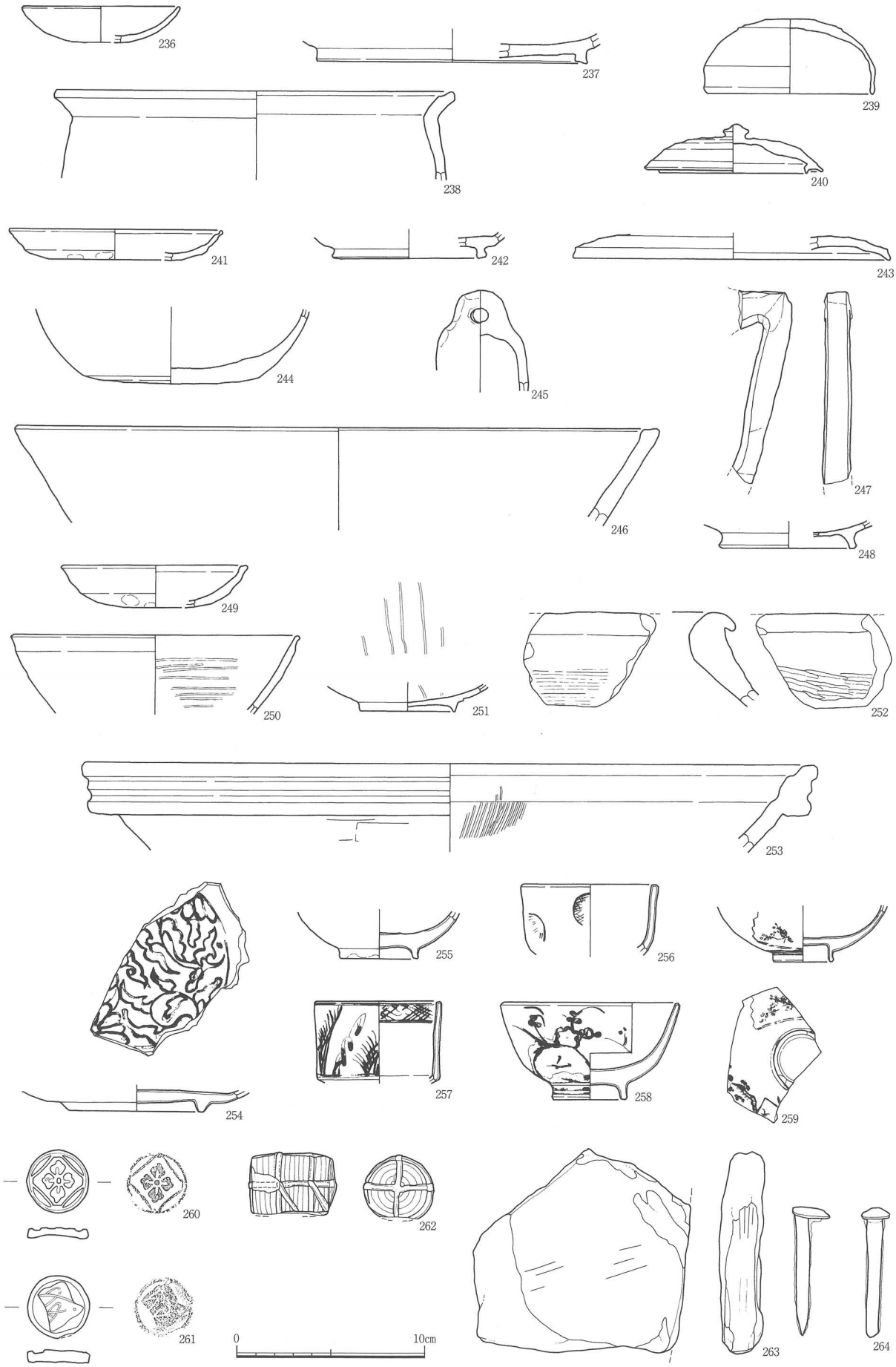
199～204は土器である。このうち202の皿が13世紀代のものとみられるほかは、いずれも８世紀代に比定できる。

205・206はともに土師質土器の在地甕、207は土師質土器の羽釜で、いずれも16世紀代のものと考えられる。

208～214は須恵器である。208の杯蓋はＴＫ216型式、５世紀中葉に位置付けられる。209の鉢、210の甕は６世紀代に比定でき、これらも古墳時代に収まる。これらに対して211～213は８世紀代、214の杯は８世紀後半～９世紀前半のものと考えられ、001溝の開削時期と一致している。215は須恵質土器の捏鉢である。




第35図　包含層出土遺物（２）




第36図　攪乱土出土遺物

216～224は瓦器である。216の高台部は断面が三角形だが、張出しが強く、また胴部から口縁部にかけての形状に丸味があることから、12世紀代に収まるであろう。217・220・221～223もまた12世紀のものと考えられる。一方、口径の小さくなった218や高台部の脆弱化した219、器高の乏しい224は13世紀代に下るであろう。

225・226は瓦質の擂鉢である。ともに胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部外面は直立する。15世紀代に位置付けられる。

227～234は近世の資料である。近世の資料は、出土遺物の中でも少なく、調査地周辺が集落ではなく、耕地であったことを暗示している。231は芥子面と捉えたが、玩具の一部分である可能性もある。232・233は泥面子。

235は、表裏面および側面いずれもがよく研磨され、平滑になった石製品である。用途は不明である。

236～264は攪乱土から出土したものである。堺南署の旧庁舎建設時に、遺構や包含層（耕作土・整地土）が掘削され、再度基礎の掘方内に埋まった資料である。本来、この遺跡に伴うものであり、包含層出土遺物として一括して取り上げたものと同様の扱いができる。

226～238は土器。236・237の皿、238の甕はいずれも８世紀後半のものであり、大溝の開削時期のものと捉えることができよう。

239～247は須恵器である。239が６世紀中葉、240が７世紀代に位置付けられるほかは、年代不詳の245の飯蛸壺と247の把手を除くと、８世紀代あるいは９世紀前半にそれぞれ比定でき、大溝が機能している時期のものといえる。

248はＡ類とみられる黒色土器の椀である。高台部は断面長方形を呈している。10世紀代に位置付けられよう。

249は瓦器皿、250・251は瓦器椀である。251の高台部の断面は脆弱化した三角形を呈していて、13世紀代に位置付けられる。一方、249・250は12世紀代に収まろう。

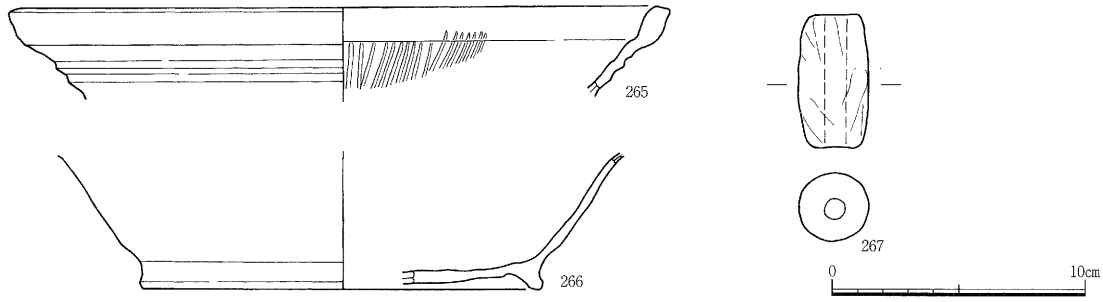
252は瓦質土器の甕である。口縁部は玉縁状をなす。胴部外面には平行タタキの痕跡が認められる。15世紀代に比定できる。

253は堺焼の擂鉢である。18世紀代に位置付けられよう。

254は漳州窯系青花の皿と考えられる。255～258は近世の磁器である。259は銅版転写により絵付けされた近代の磁器碗。260・261は泥面子、262は玩具の一部分の俵である。馬形の置物の背に取り付けられたものであろうか。263は、先述の235と同じく、各面とも研磨された石板である。264は角釘である。時期比定はできないが、中～近世のものであろう。

265は０２３井戸から出土した擂鉢である。口縁部が肥厚し、直立気味となる。16世紀代に比定できるが、井戸の埋没時期を示すかは不明である。

266は１１９土坑から出土した須恵器の杯である。ＴＫ７型式、８世紀後半に位置付けられよう。




第37図　遺構出土遺物

267は０６８土坑から出土した土錘である。時期は不明。

268～273は金属生産関連資料である。００１溝、平安整地土、包含層から出土しているので、奈良～平安時代の一時期のものである可能性が高い。268・269は羽口、270は坩堝、271～273は鉄滓である。本調査地内あるいは近接地で鉄製品の生産が行なわれていたとみられる。

274～359は、小破片であるため復元実測ができない資料や瓦類などである。断面形状と表裏面の拓影を示した。

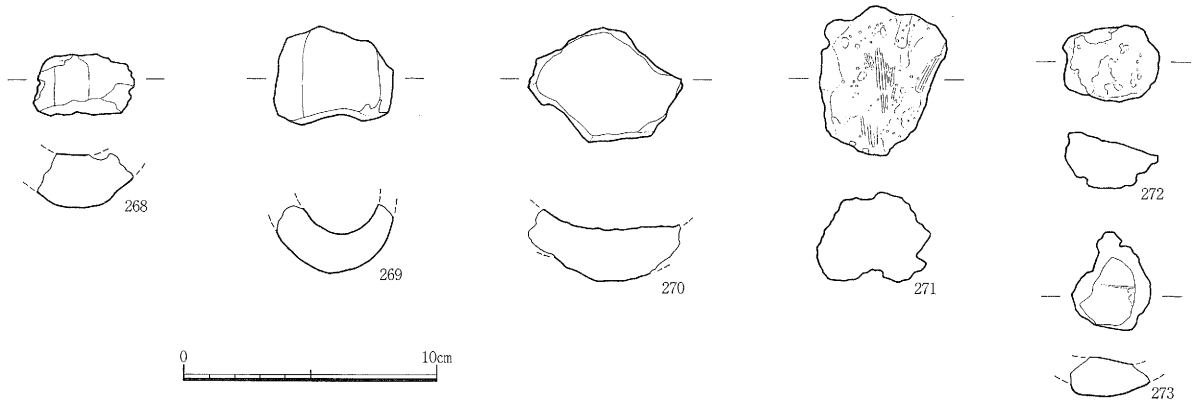
274～285は００１・Ａ溝出土資料である。

274は土器の胴部の小破片である。外面に細かなハケ調整がみられる。内面はハケ・ヘラナデ調整である。布留式甕であろう。

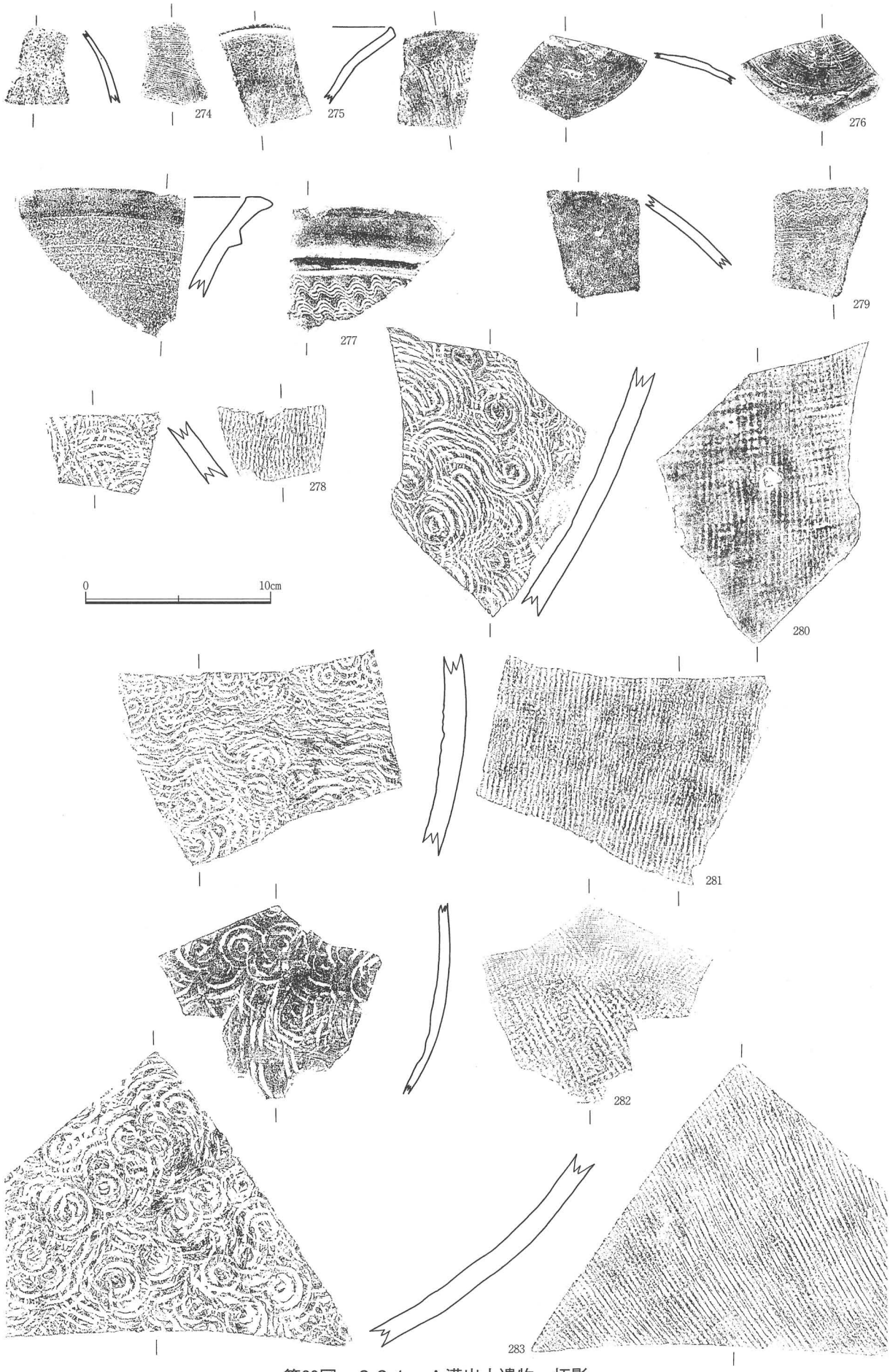
275は土器の口縁部である。外面はミガキ状にヘラナデされている。内面はユビナデ調整。口縁部端が肥厚している。庄内式甕の可能性が高い。279も土器である。胴部に波状文と櫛描直線文が描かれている。庄内期の壺とみられる。

276・277・278～283は須恵器である。276は杯蓋の天井部。277は甕の口縁部で、断面三角形の突線があり、その下に櫛描波状文を施している。口縁部端は外方に張り出し、頂部は平坦である。

278・280～283は甕の胴部破片である。278の外面には縄簾文の痕跡が残る。内面の当具痕である同心円文は磨消されずに残っている。282の外面は格子タタキ痕跡がみられ、上部にカキメが加えられているようにみえる。




第38図　金属生産関連資料




第39図　００１・Ａ溝出土遺物－拓影－

284・285はともに内面に布目圧痕を残す須恵質の平瓦片で、平安時代のものの可能性がある。同様の瓦片は、以下にも数点掲載しているが、調査地南方に存在したと伝えられる白鳳期建立の長承寺との関係が推測できよう。

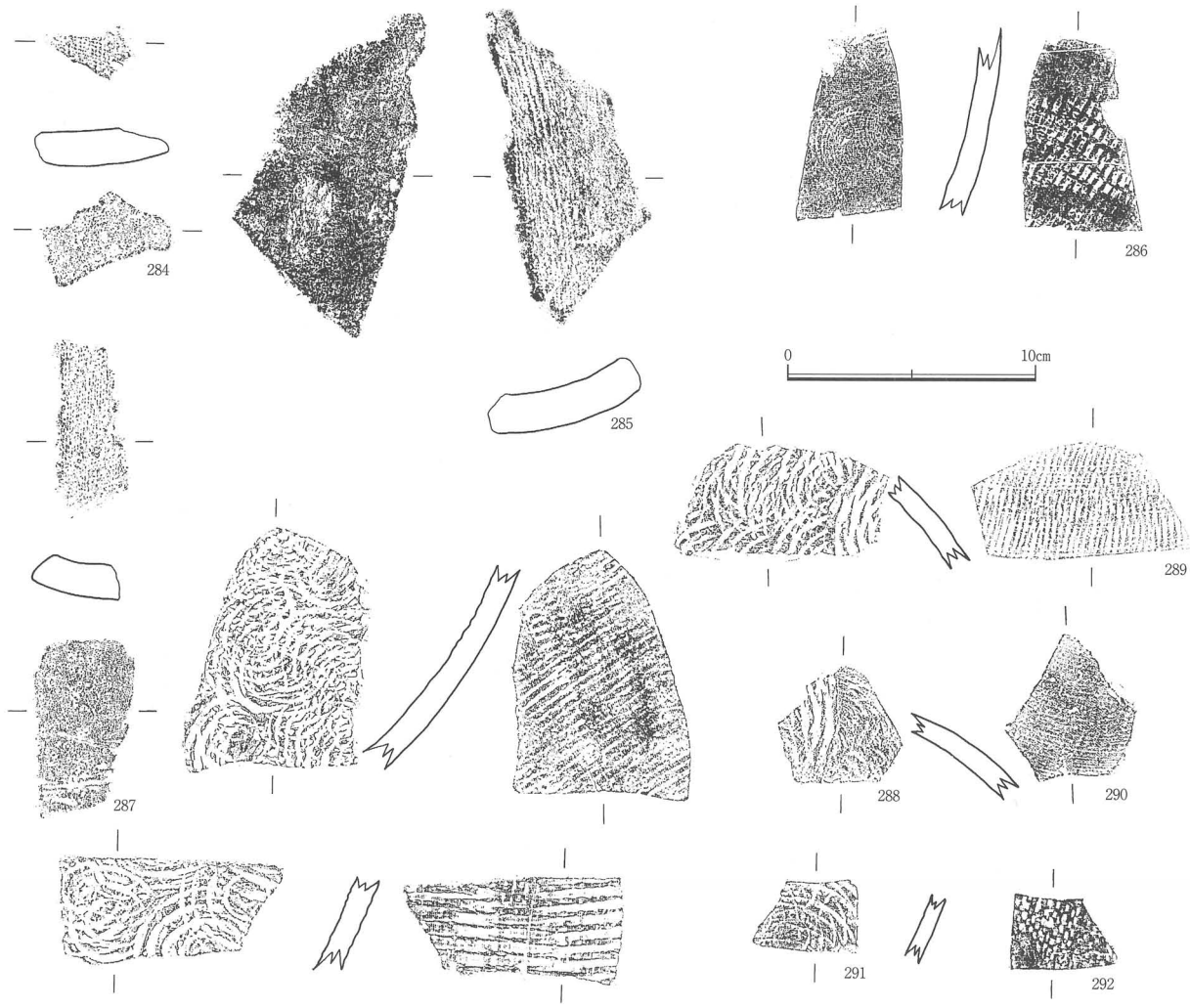
286は００１・Ｃ溝から出土した須恵器甕の胴部である。内面の当具痕がユビナデにより幾分消されている。

287～290は００１・Ｂ溝から出土したものである。287は先の284・285と同類の須恵質の平瓦である。

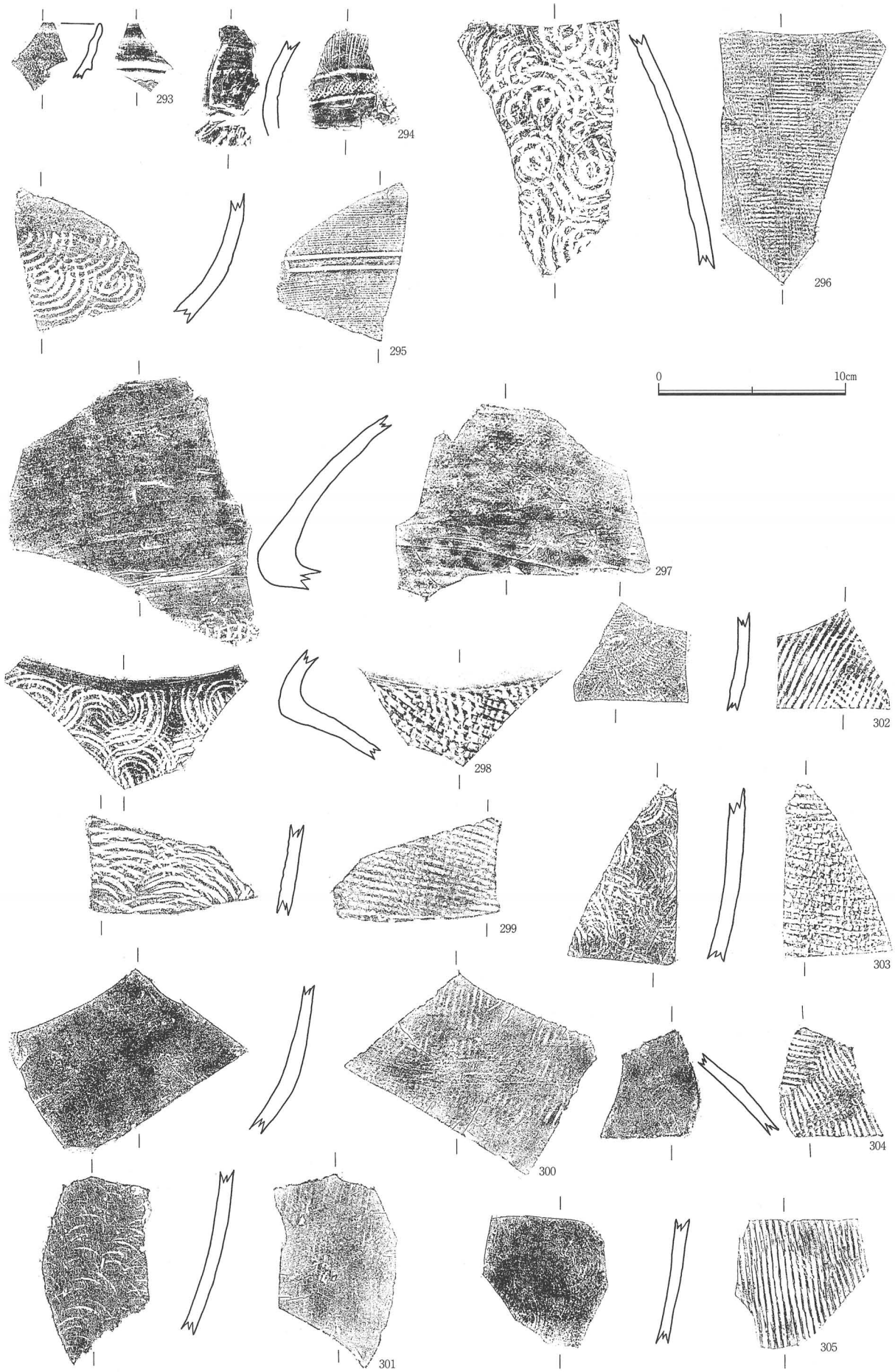
288・289は須恵器甕、290は須恵器壺の胴部破片である。290の外面には平行タタキ調整とその後の板ナデによるカキメが残る。

291・292は００２溝から出土した須恵器甕の胴部破片である。ともに外面のタタキ痕や内面の当具痕が、調整を加えられないまま残っている。

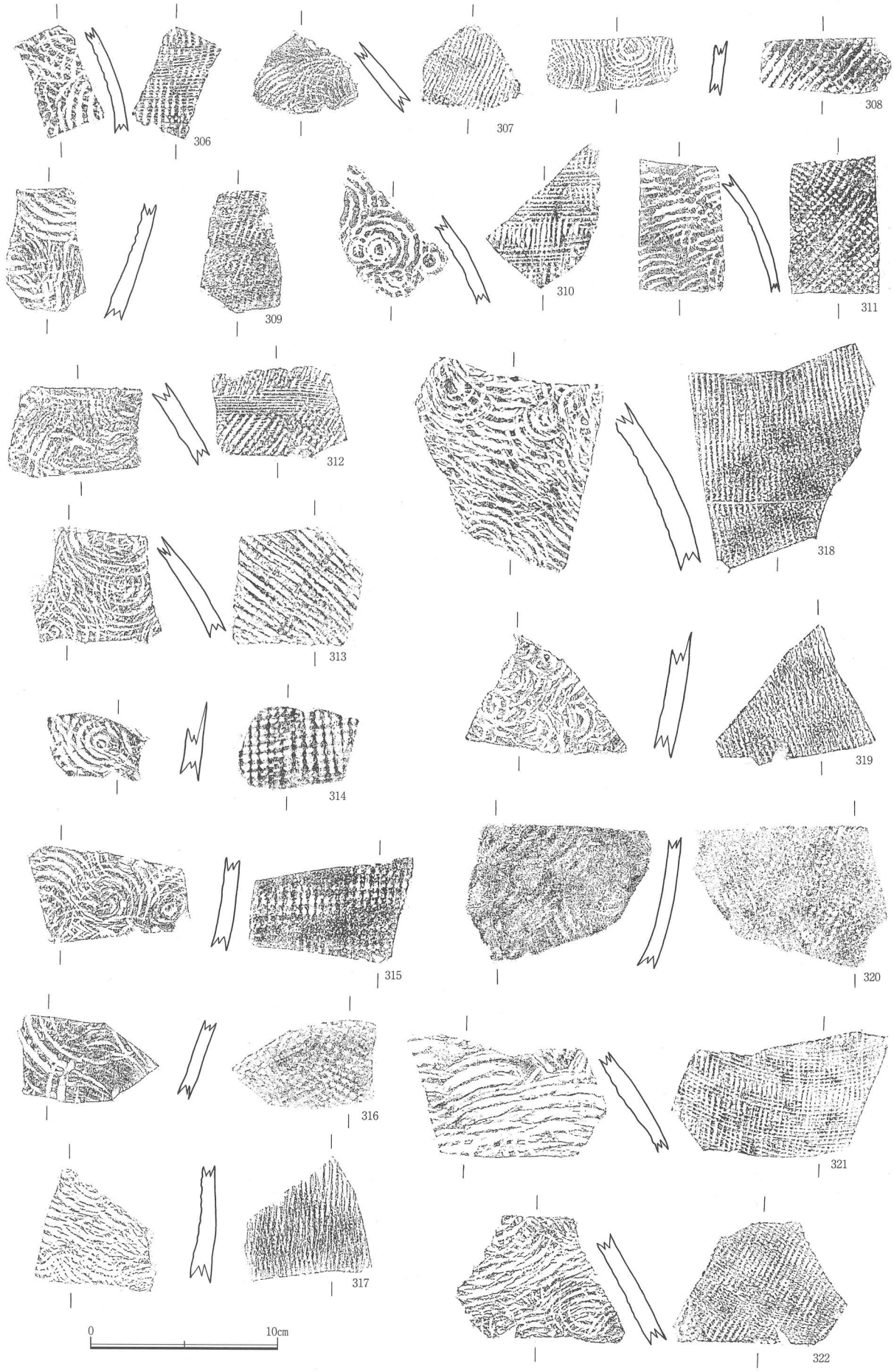
293～327は００１溝一括で取り上げた資料である。いずれも須恵器である。293・294は瓶の破片である。前者は口縁部資料で、屈曲して立ち上がり、端部は直立気味である。後者は頸部の破片で、２条の沈線で挟まれた間に櫛歯刺突文が施されている。ともに５世紀後半に位置付けられ




第40図　００１・A・B・C溝、００２溝出土遺物－拓影－




第41図　００１溝一括遺物（１）－拓影－



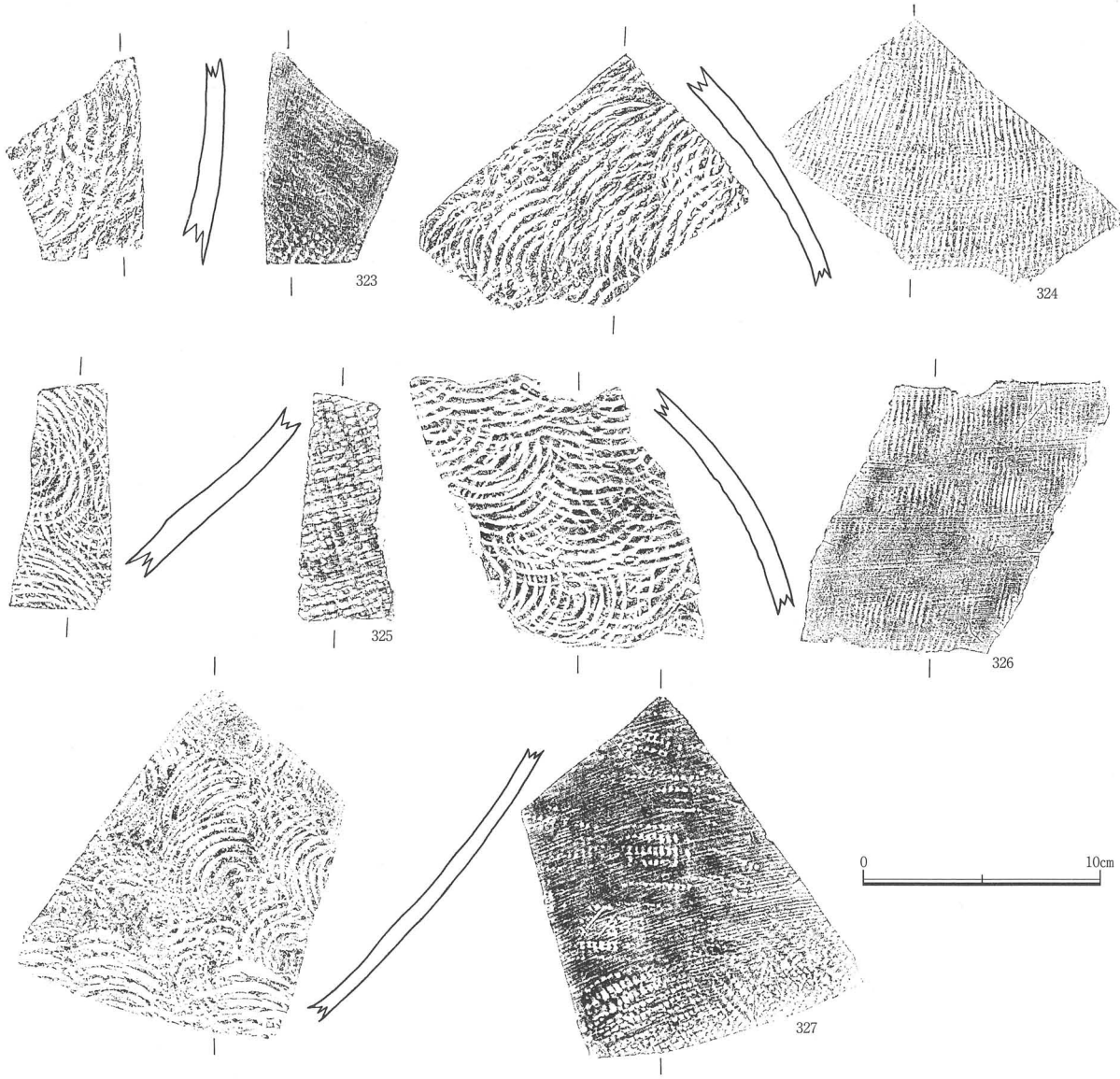

第42図　００１溝一括遺物（２）－拓影－

よう。295・296は胴部外面にカキメが施され、器厚が割合に薄いことから、壺であるとみられる。時期比定はできない。

297～327はいずれも甕の胴部破片である。このうち300では内外面、304・312では内面に磨消調整がなされている。また301と311の内面の当具痕は青海波状を呈している。これらの甕は５世紀代のものの可能性がある。これら以外については、胴部外面に平行タタキあるいは格子タタキの痕跡を、内面には当具痕の同心円文を残している。大半は古墳時代のものと考えられるが、具体的な年代の比定はできない。

328～338は平安整地土から出土したものである。そのうち328～330は、いずれも胴部外面にハケ調整、内面にヘラケズリを施していて、しかも器厚が薄い。布留式甕の胴部破片と考えられる。

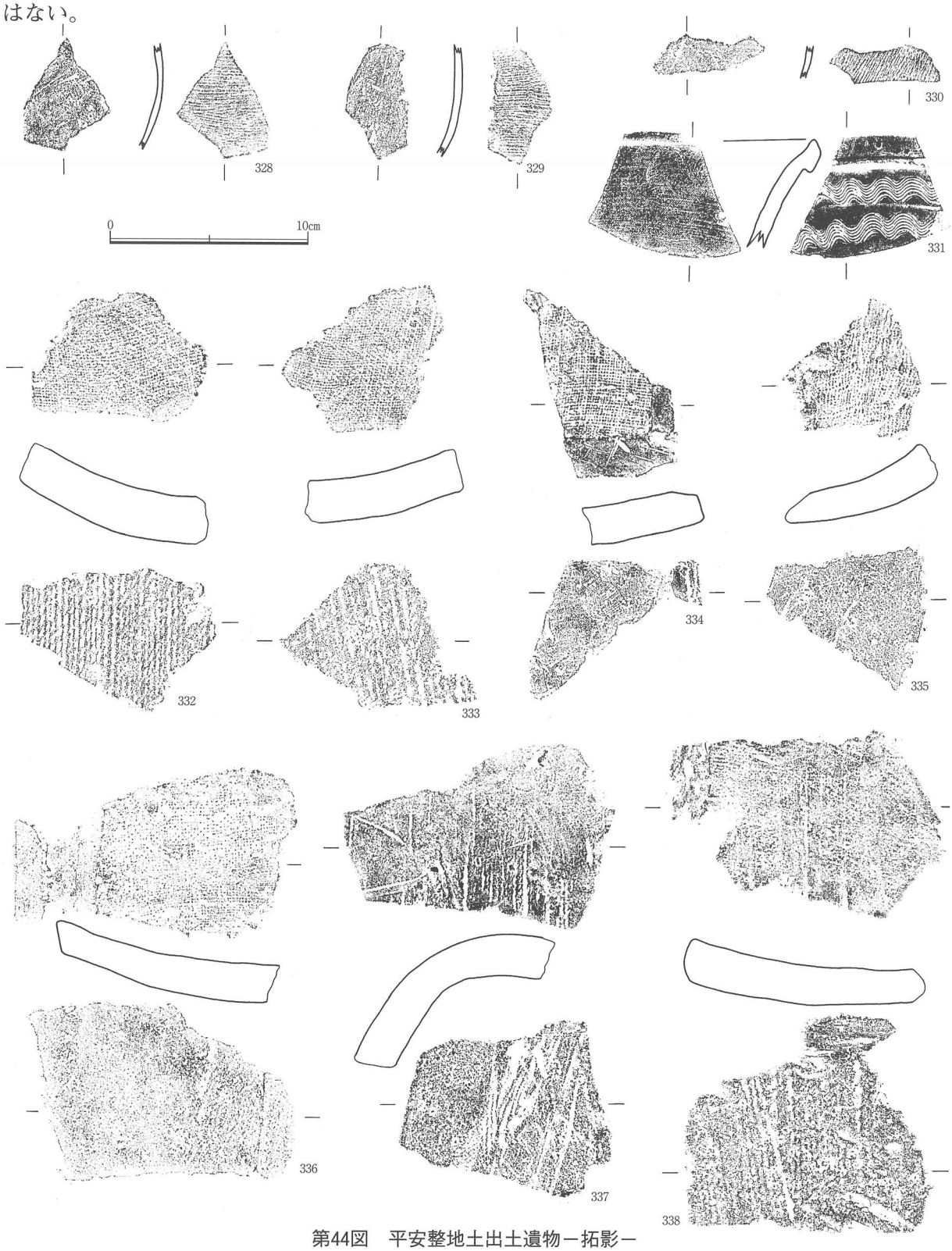
331は、須恵器甕の口縁部破片である。口縁部端は肥厚し、内面がユビナデにより窪む。外面には現状２段の波状文が認められる。




第43図　００１溝一括遺物（３）－拓影－

332～338は瓦片で、337は丸瓦、それ以外は平瓦である。平瓦はいずれも内面に布目圧痕を残している。外面は、縄目タタキ痕を残すもの（332・333・338）と、ヘラケズリによりタタキ痕跡が消されているもの（334～336）がある。いずれも平安時代のものであろう。337の丸瓦も、内外面の調整は平瓦と差異がない。

339～340は、平安耕作土から出土した平瓦の破片である。平安整地土から出土したものと違いはない。




第44図　平安整地土出土遺物－拓影－

341・342は中世整地土から出土したものである。ともに胴部に平行タタキ痕跡を残す瓦質土器の甕である。15世紀代に比定できよう。

343～355は包含層一括、356～359は攪乱土出土の資料である。343は布留式甕の口縁部である。口縁部端内面が丸く肥厚している。

344～349は須恵器破片である。そのうち344は波状文と２条の沈線を施している椀の口縁部である。口縁部は直立気味で、端部は平坦である。ＴＫ208型式、５世紀後半に収まると考える。

345は瓮の口縁部である。端部を欠いているが、直線的に立ち上がっている。２条の突線を巡らせた下に波状文を施している。これも５世紀後半代に位置付けられよう。

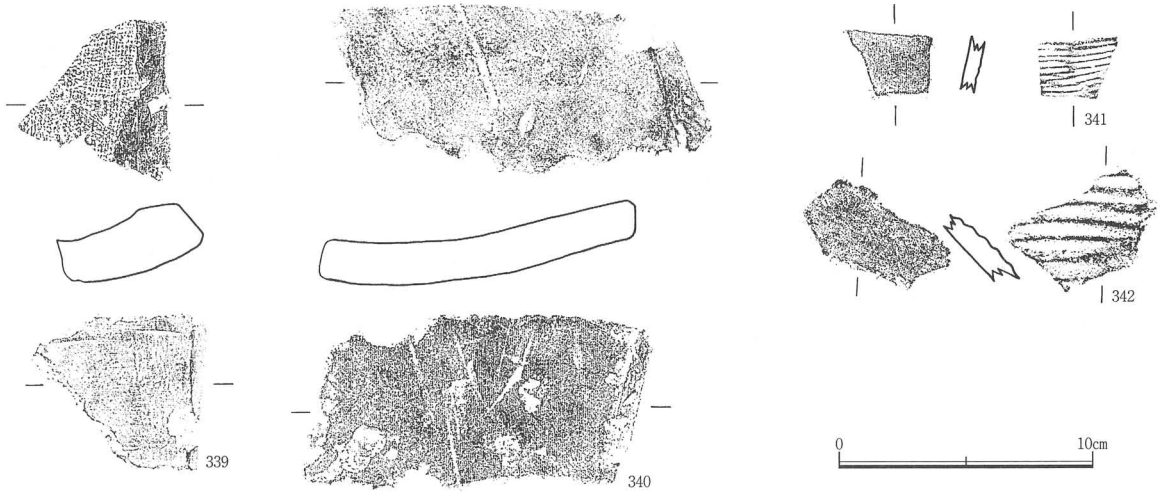
346は甕の口縁部である。口縁部端外面が肥厚し、その下に波状文を施す。これも含め、甕の破片は時期比定できない。

350は瓦質土器の甕の胴部である。外面に平行タタキ痕跡を残す。351は瓦質土器の火舎である。350・351はともに小破片のため年代比定が難しいが、15世紀頃のものと考えられる。352は軒丸瓦、353～355は平瓦である。

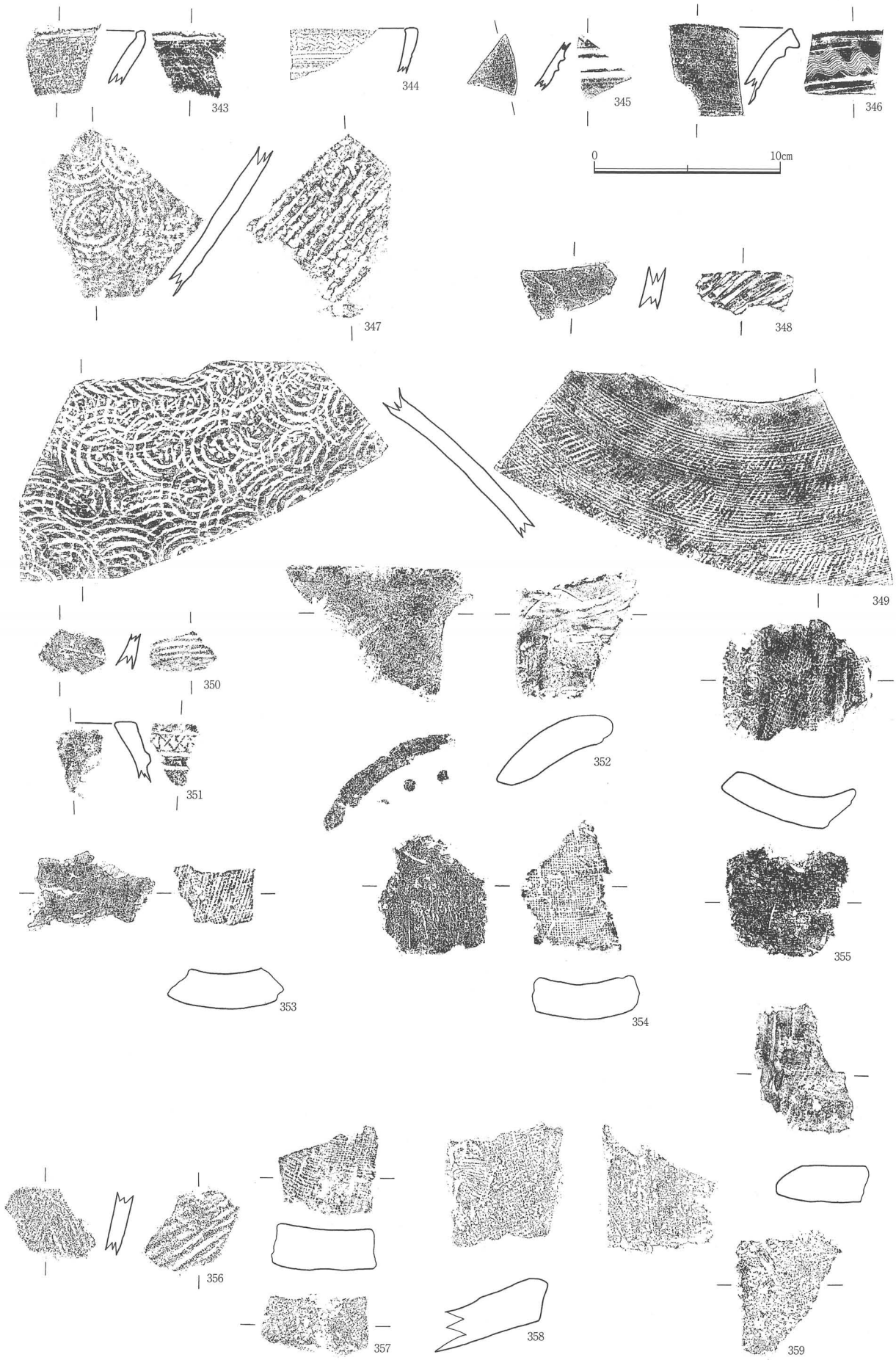
攪乱土から出土したもののうち、356は弥生後期、あるいはＶ様式系の甕である。357～359は内面に布目圧痕を残す須恵質の平瓦破片で、いずれも平安時代のものと考えられる。

以上の出土遺物に加えて、縄文時代後・晩期の土器および石器も出土している。よって本調査区では縄文時代後期以降、近代までの遺物が出土したことになる。

００１溝が機能していた奈良・平安時代およびその上に耕作土が形成された鎌倉・室町時代の遺物は無論であるが、古墳時代の須恵器の多さには留意する必要がある。２棟の掘立柱建物は、既述したようにその構築時期を限定することはできない。ただし出土遺物や検出の状況からすると、古墳時代後期の可能性が高い。そうだとすれば、古墳時代後期以降にこの調査地周辺では集落の形成が始まり、奈良時代になって大溝が開削され、水利が整備されたことで本格的な地域開発が進められたと考えられる。そしてまた、縄文・弥生時代や近世については、今回は遺構が検出されなかったが、近接地に存在している可能性はある。




第45図　平安耕作土、中世整地土出土遺物－拓影－




第46図　包含層・攪乱土出土遺物－拓影－

# Ⅳ　中央トレンチ（縄文時代）の調査成果

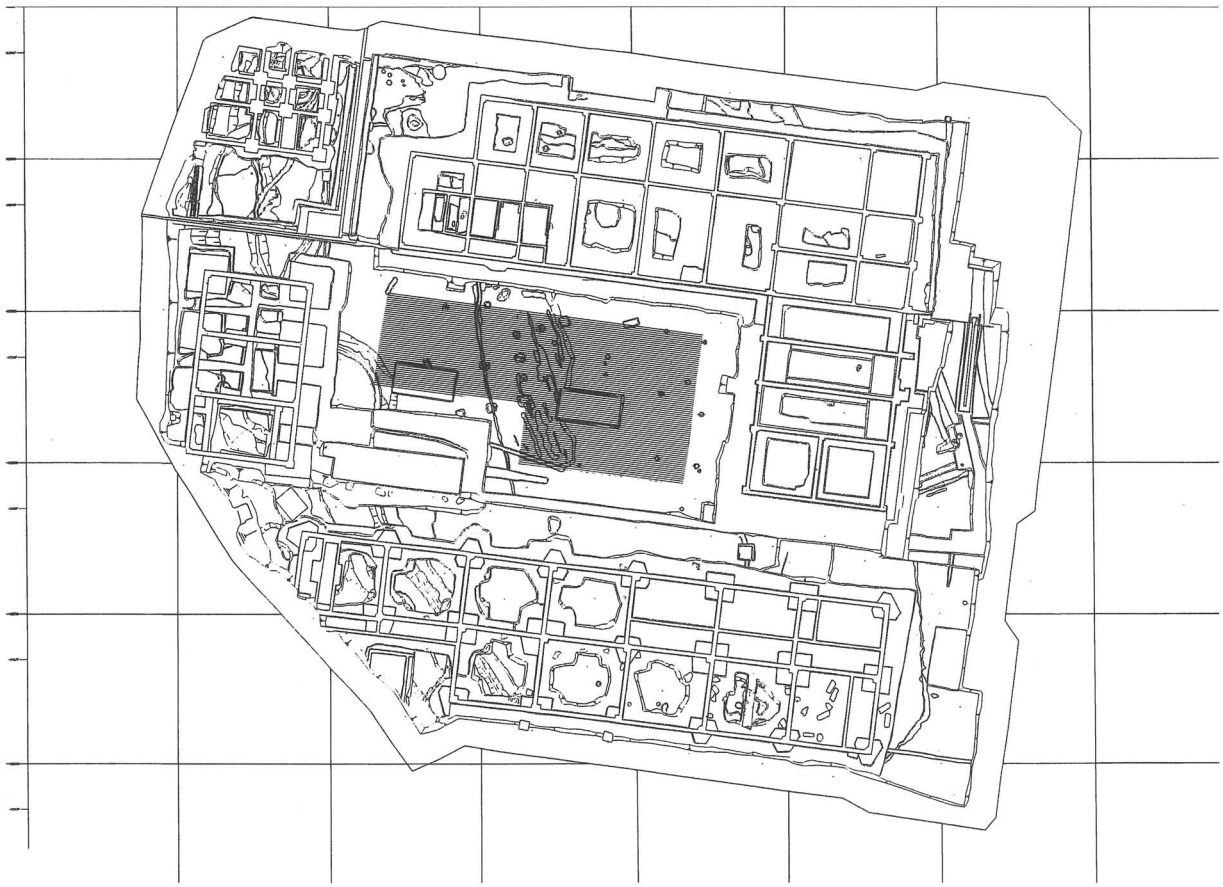
## 1　中央トレンチの調査

第２面の基盤面となる緑灰色・灰色粘土およびその下の黄褐色・オリーブ灰色・青灰色系粘土の中にサヌカイト片が含まれていると観察されたことから、旧庁舎の基礎がない範囲にトレンチを設定し、遺物および遺構の有無について確認調査を行なった。

当遺跡の東に位置する鳳東町遺跡においても、地山とみられた黄褐色粘質土から縄文時代の石器が出土し、また縄文晩期の土器も見つかっている。このことから、当調査地でも当該期の遺構・遺物の存在する可能性が考えられた。

２区中央部の基礎のない範囲に調査トレンチを設定し、中央トレンチと呼称した。この中央トレンチを最大範囲で設定するため、北辺21ｍ、南辺11ｍ、東辺10ｍ、西辺６ｍの鍵形の形状となった。その内部を基本的に１辺２ｍの正方形に区画割りしたが、東端１列分は１×２ｍの大きさにせざるを得なかった。この結果、総計45枠のグリッドを設定できた。

調査は20㎝単位で掘り下げ、遺構・遺物の存在確認を行なった。出土遺物は、その出土地点を極力記録し、各面の状況については図化した。



第47図　中央トレンチの位置

掘り下げ開始面から20㎝下までの間を１段、その20㎝下の面を２段上面と呼び、それ以下６段上面まで、１ｍにわたってトレンチ調査を実施した。

また掘り下げに先立って、各グリッドの中央において１辺30㎝、厚さ20㎝規模でサンプル土を採取し、0.25㎝目のフルイにかけて微細遺物の抽出に努めた。ただ、サヌカイトの小剥片と僅かな炭化物が検出されただけ、注目される微細遺物は認められなかった。

なおトレンチ内の各壁の土層図を作成するため、壁面に沿って50㎝ほどの深さでさらに掘り下げた。よって、壁面の深度と、トレンチ掘り下げの深度とは異なる。

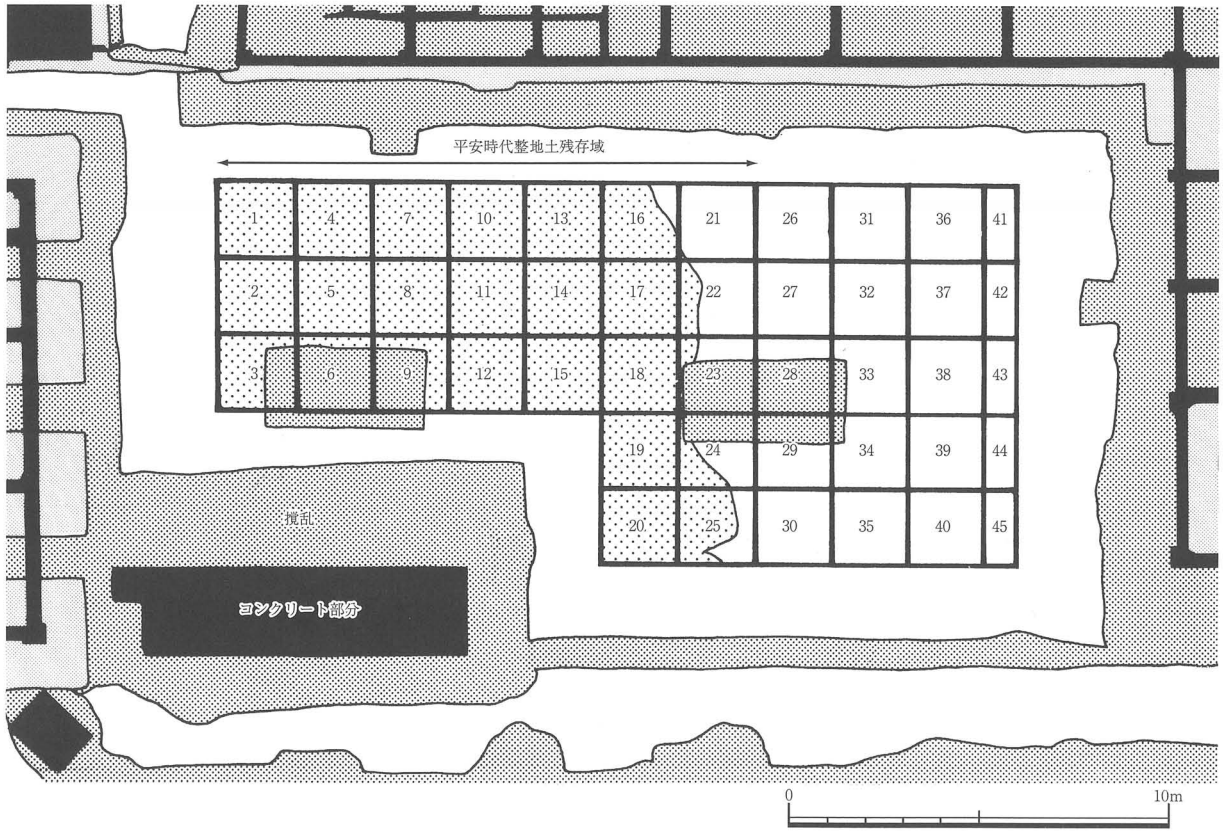
トレンチ調査の結果、各面で縄文後期の土器と石器が出土した。なお各段に包含された遺物は、各掘削上面に投影した（２段上面～３段上面間の遺物は、２段上面に投影）。

２段上面で記録した遺物は、南で見つかった２点に留まった。しかし、トレンチを掘り下げるにつれて出土遺物量が増加した。

３段上面では、破片化した同一個体４点を含め、17点の遺物の出土を確認した。この面では、トレンチ範囲全体に分布がみられるが、その中でも南東にやや集中が認められた。

４段上面では、記録遺物数は29点を数えた。ただし、南東に遺物が集中する傾向は、３段上面と同じである。

５段上面では、さらに遺物の出土量が多くなり、40点以上を数えた。この面では、２・３段上面と異なり、北西～北中央にかけて集中域が認められる。ただし、南東にも一定の集中がみられるので、この面より上では北西～北中央での出土が減少し、それによって南東での集中が相対的

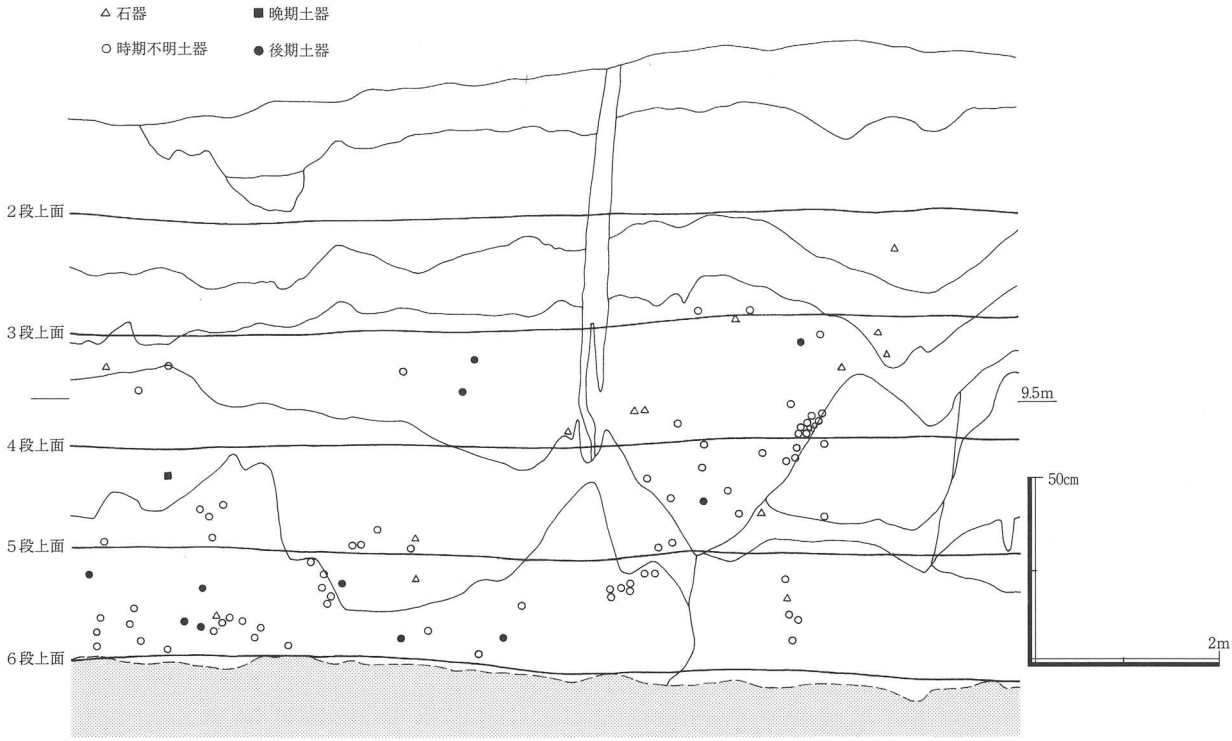



第48図　中央トレンチグリッド位置

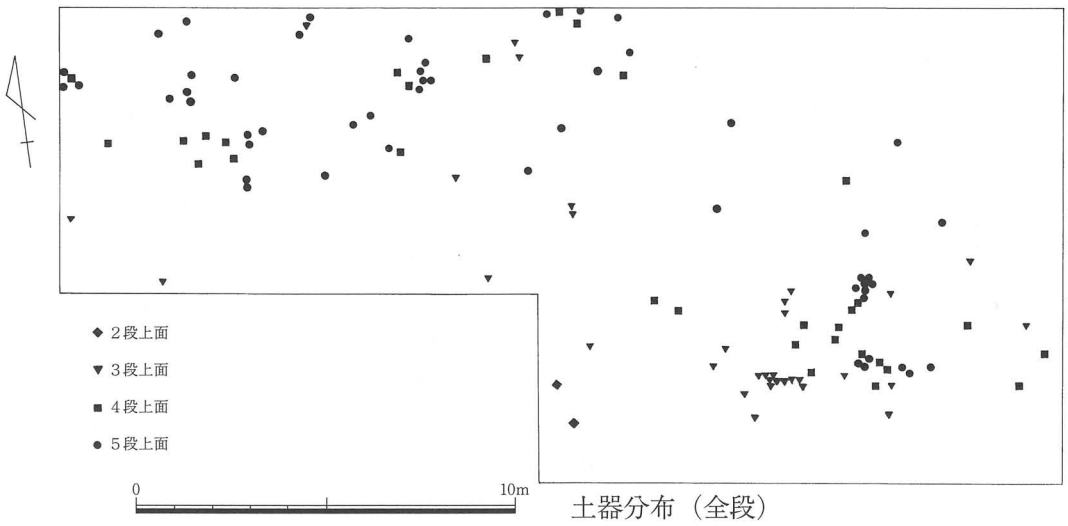
に目立つようになったといえる。

しかし、１ｍ下の６段上面以下では遺物の出土は認められなかった。そしてそれと対応するように、それ以下では地質が異なる。このように、包含層は１ｍほどの厚みであり、地山にあたる面（６段上面）まで遺物が含まれていた。

なお上部遺物と下部遺物との間に時期差が認められないことから、この１ｍ間は比較的短期間内で形成された遺物包含層であるといえる。また３～５段上面における遺物分布状況についてみると、特定場所に偏在するという傾向は認められなかった。




東壁投影



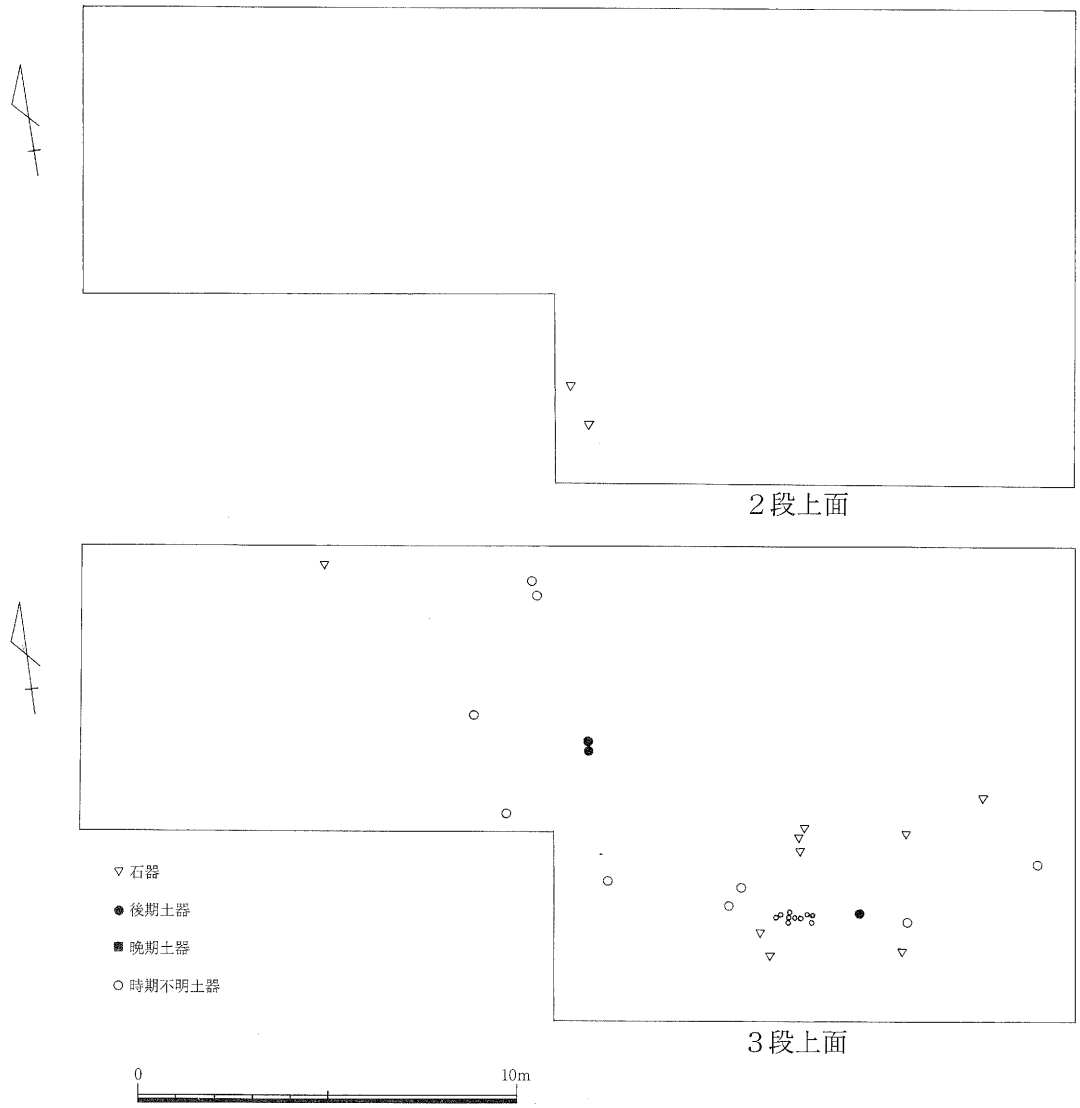

土器分布（全段）

第49図　中央トレンチ遺物出土状況（全体）

遺構はどの面においても検出されなかった。ただ、自然河道が時間とともに北に押されながら埋没していく状況を捉えることができた。遺物は河道の内部だけではなく、埋まりつつある層からも出土している。したがって、出土した遺物自体は、このトレンチ内に遺棄されたのではなく、河道によって流され、埋没したものの可能性が高い。

トレンチ内堆積土は灰白色粘土、褐色粘土、褐灰色粘土、明黄褐色粘土、にぶい黄褐色粘土、灰色粘シルト、灰白色砂シルト、灰白色粗砂からなる。このうち灰白色の砂シルトと砂が河道内堆積土の主体であり、それ以外は周辺から河道を埋没させた堆積土である。また6段上面の南で検出された硬質の灰白色粘土が、本来の地山である。

2段上面では、灰白色粘土と褐色粘土のみが確認された。大半が灰白色粘土である。この面では自然河道の存在は認められない。そのため両粘土層とも軟質であったが、一見すると安定的な基盤層のようにみえた。3段上面では、2段上面で検出された堆積土に加え、褐灰色粘土が部分的に存在している。この面でも自然河道の存在は認められず、2段上面と同様に安定した基盤層



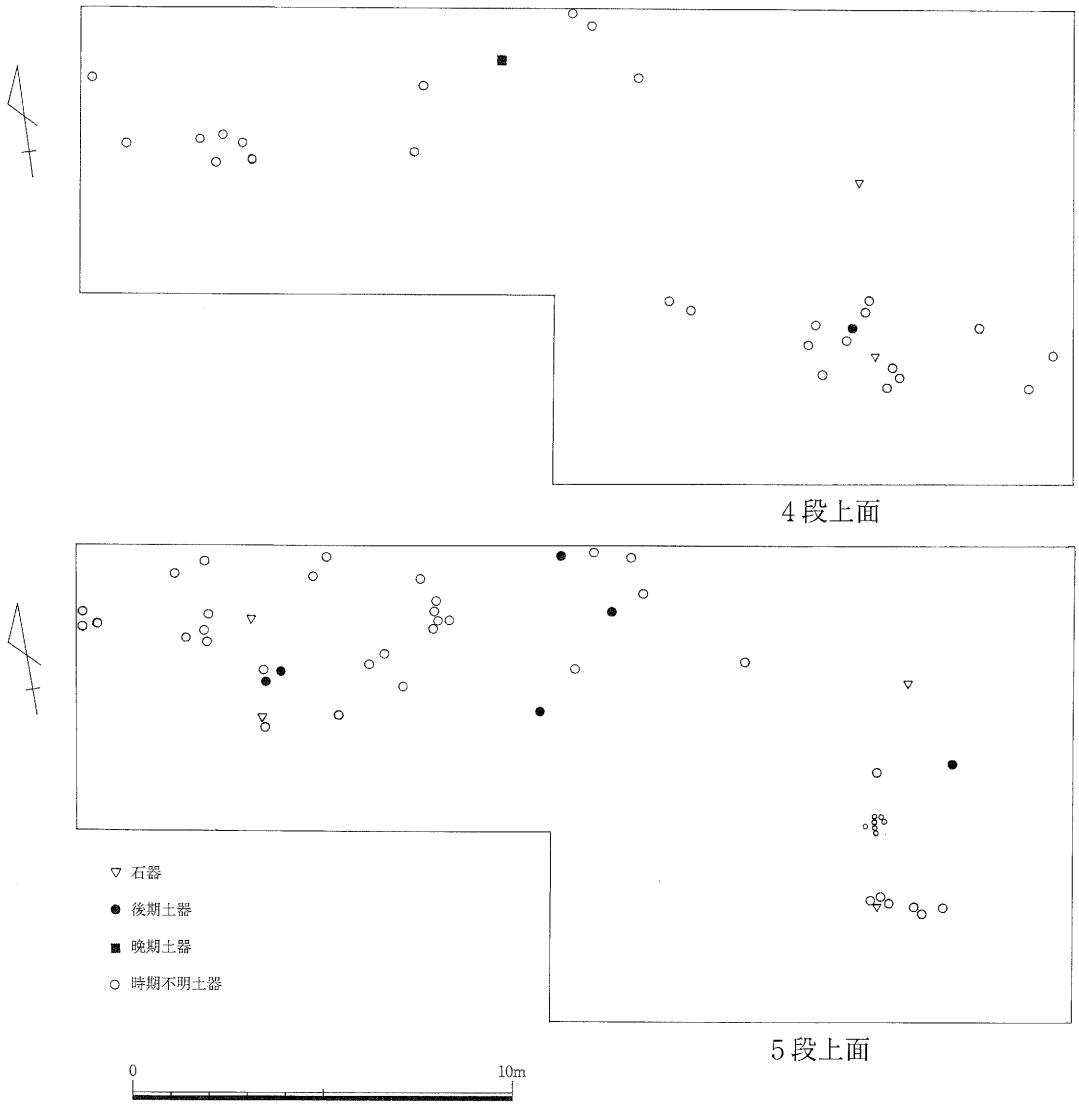

第50図　2・3段上面遺物出土状況

のようであった。

ところが４段上面になると、トレンチ北半で灰白色砂シルトが広がりをみせた。この面において、自然河川の存在が捉えられたとともに、２・３段上面において大半を占めていた灰白色粘土は、自然河川を覆った堆積土であることが明らかとなった。

５段上面では自然河道の幅が広くなったとともに、河道内堆積土の中心が灰白色粗砂であることが判明した。この状況は６段上面でも捉えられたが、この面では上述したようにトレンチ南で地山土の存在も確認された。

中央トレンチ西壁（⑥）において、河道の堆積状況が明確に捉えられる。そこでは比較的穏やかな流れにより堆積土が運ばれ、埋没した状況が窺える。急流により一気に堆積した、あるいは堆積と侵食が繰り返されたという状況は認められなかった。河道内外に同一時期の土器・石器が散在的に広がる様相からも、そうした堆積状況を追認できる。出土遺物の中には、石鏃や石刃などのサヌカイト製石器もあるが、多量のサヌカイトの剥片も存在している。未成品は見つかって

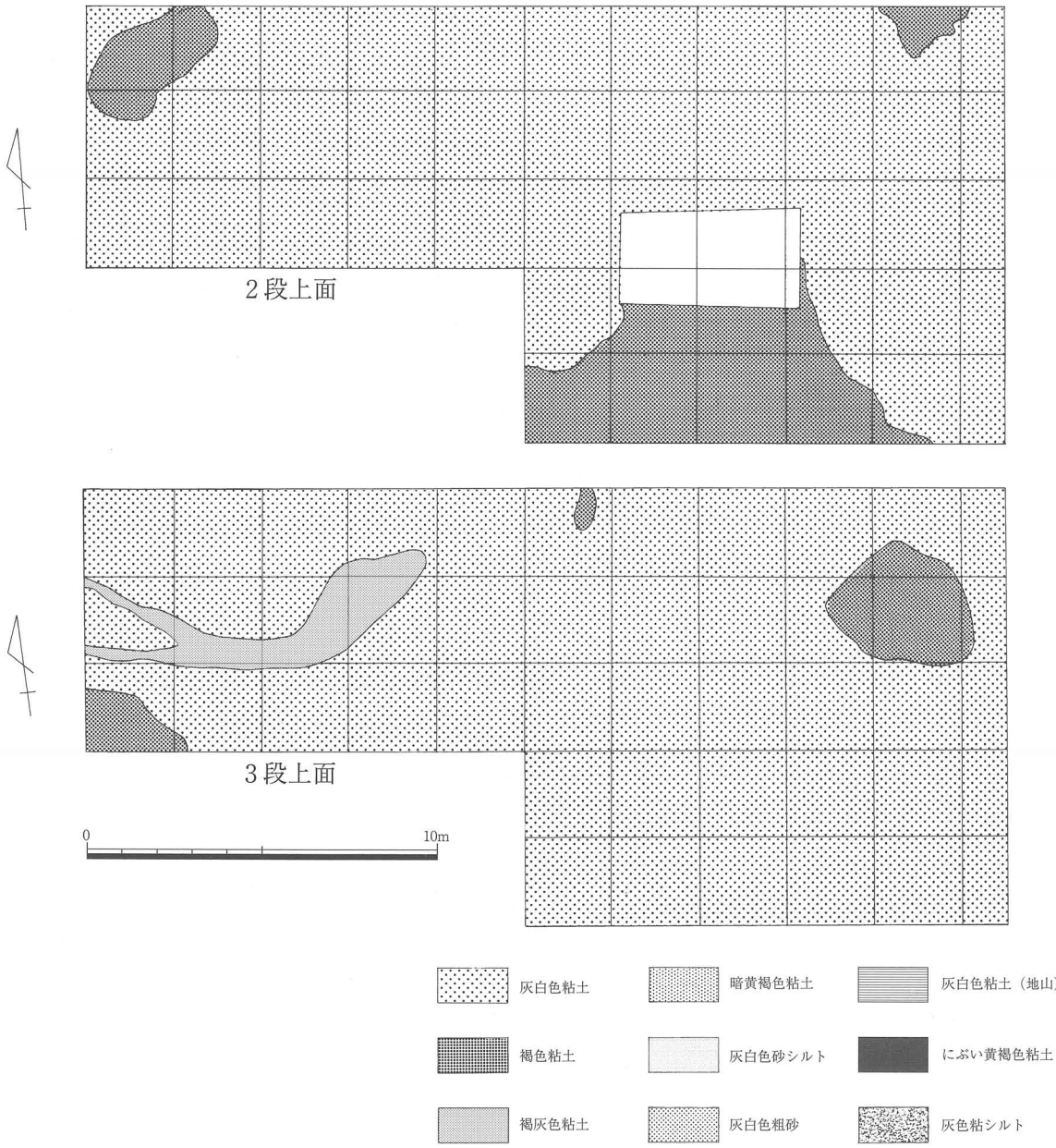



第51図　４・５段上面遺物出土状況

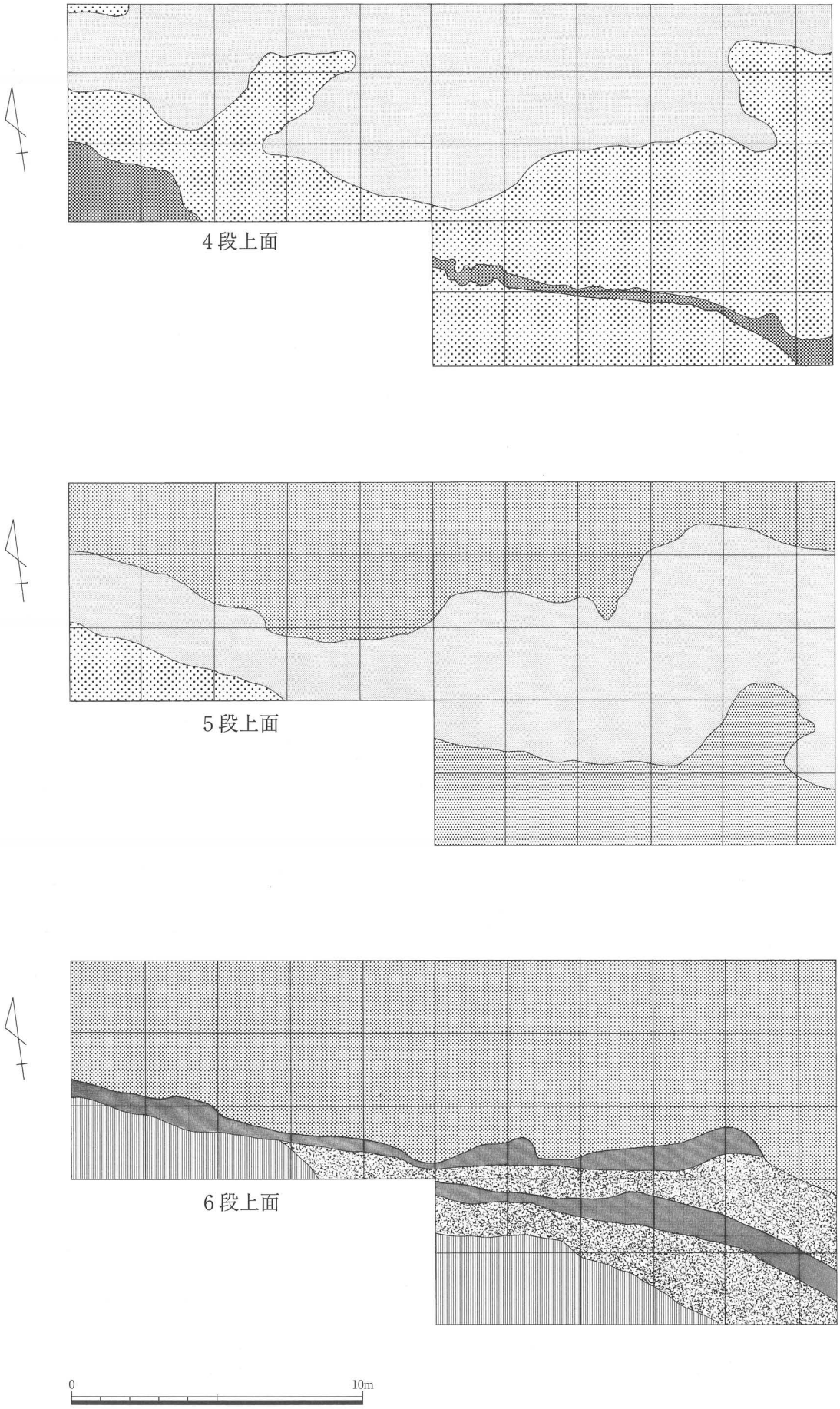
いないが、当該地周辺で石器製作が行なわれていたことを暗示している。石器製作は、この中央トレンチ内でも行なわれていたかも知れない。しかし、トレンチ内全域におよぶ河道の存在を考えると、仮にトレンチ内で石器製作が行なわれたとしても、その時に排出された剥片の大半は河道下流に流されたであろう。そしてこの場所で発見された剥片は、上流で排出されたものが新たに流入してきたと考えられる。

なお堆積土の状況から、河道は南東から北西方向に流れていたとみられる。ただし調査区西には崖線がせまっているので、調査区北西隅付近で向きを変えて北流したのであろう。

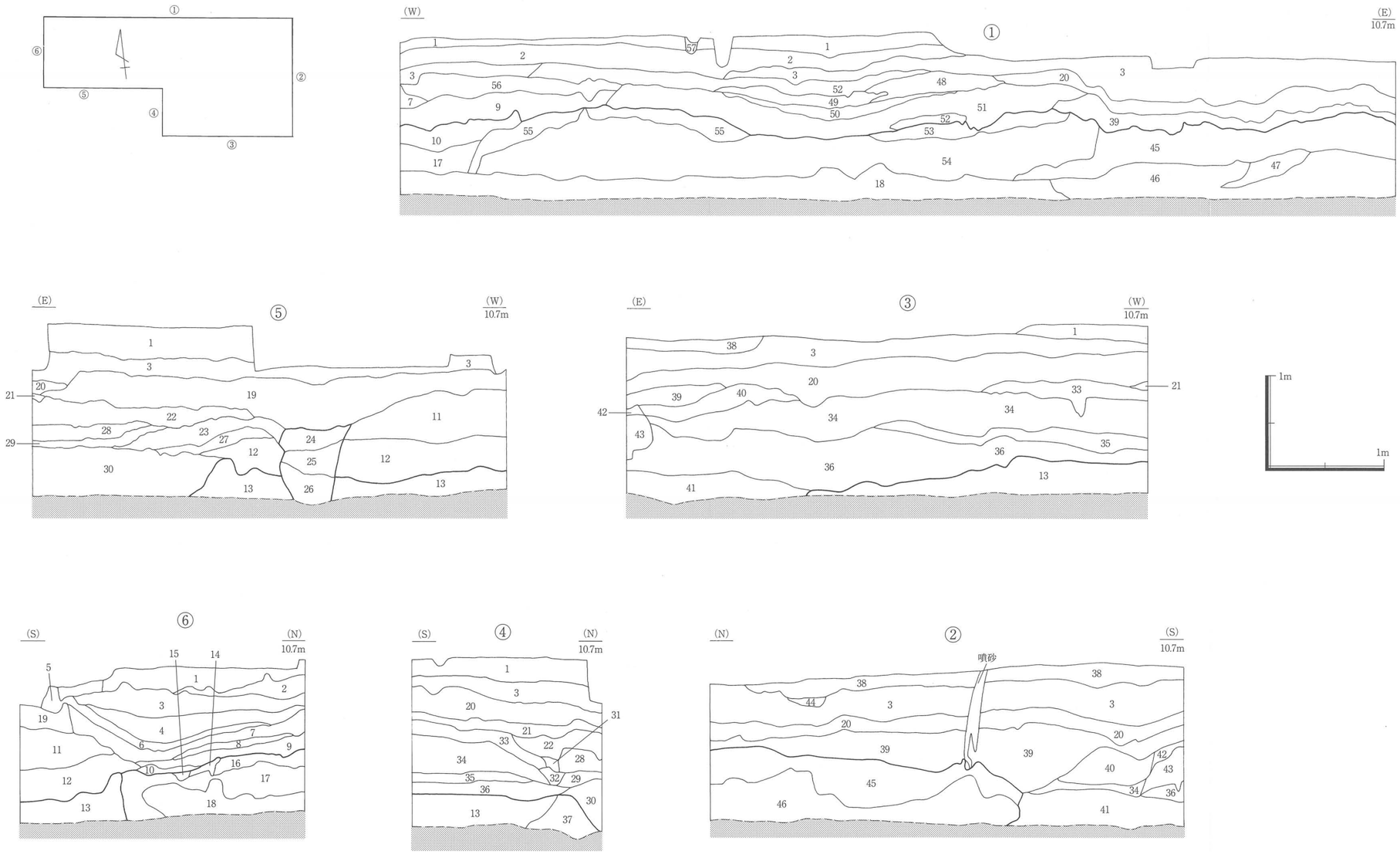
いずれにせよ調査区を含む周辺で石器製作が行なわれ、さらに鳳東町遺跡を含む200ｍ近い範囲で縄文時代の生活痕跡が検出される可能性は高い。




第52図　２・３段上面堆積土状況




第53図　4・5・6段上面堆積土状況



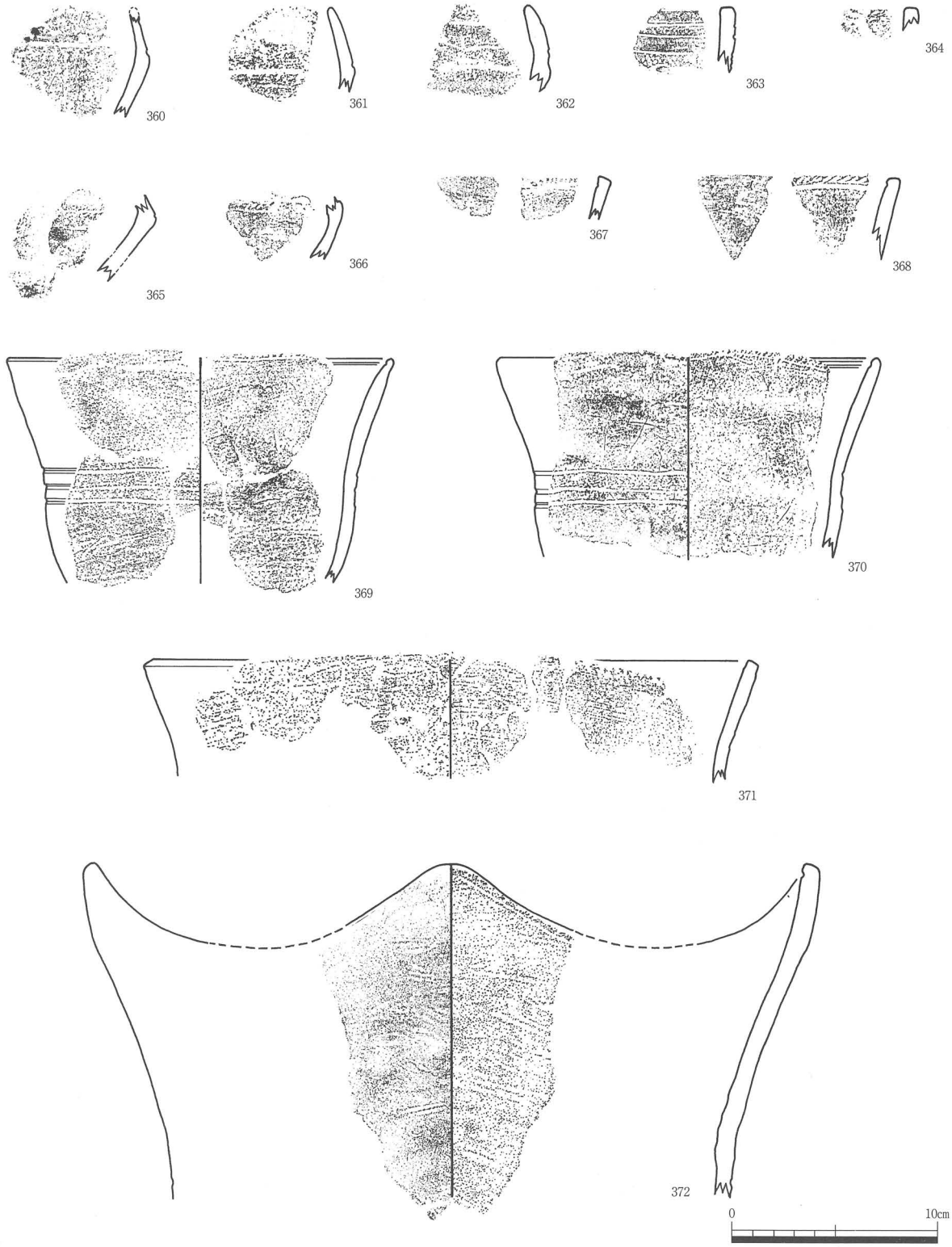

1　灰白色（2.5Y7/1）砂シルト
　　にぶい黄褐色（10YR7/2）粘土僅か含む、締りあり、酸化
2　灰白色（2.5Y7/1）砂シルト
　　1層と同質土だが黒褐色（7.5YY3/1）を含む
3　明黄褐色（10YR6/6）粘シルト
　　にぶい黄褐色（10YR7/2）粘土僅か含む、締りあり、酸化
4　灰白色（10YR8/1）粘土
　　3層に近似するが細質
5　明黄褐色（10YR6/6）粘土
　　3層に近似するが粘性やや欠く
6　褐灰色（7.5Y5/1）粘シルト
　　明黄褐色（10YR6/8）粘土含む、粘性・締りあり
7　灰白色（2.5Y8/1）粘シルト
　　明黄褐色（10YR6/8）粘土若干含む、粘性・締りやや欠く
8　明青灰色（5B7/1）細砂
　　同色の粘シルト僅か含む、9層土僅か含む
9　灰白色（5Y7/1）粘土
　　明黄褐色（10YR6/8）粘湿度若干含む、粘性・締りやや欠く
10　褐灰色（7.5Y6/1）粘土
　　6層に近似、締りやや欠く
11　暗褐色（10YR3/2）粘土
　　灰黄色（2.5Y7/2）粘土含む、炭化物僅か含む、堅固、酸化
12　灰白色（2.5Y7/1）粘土
　　炭化物僅か含む、粘性・締りあり、酸化
13　灰白色（2.5Y7/1）粘土
　　粘性強い、堅固
14　灰色（5Y6/1）粗砂
　　炭化物僅か含む
15　灰白色（5Y7/1）粘土
　　灰色（5Y6/1）粗砂含む
16　灰白色（5Y7/1）砂シルト
　　17層土僅か含む、締り欠く
17　灰白色（10Y7/1）粗砂
　　灰白色（7.5Y7/1）砂シルト含む
18　灰色（10Y6/1）粗砂
　　灰白色（10Y7/1）砂シルト含む
19　灰白色（2.5Y8/1）粘土
　　炭化物僅か含む、粘性・締りあり、酸化
20　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘土
　　灰色（10YR7/1）粘土含む、締りあり
21　灰白色（2.5Y8/1）粘土
　　堅固、酸化
22　灰白色（5Y7/1）砂
　　明黄褐色（10YR6/6）砂シルト若干含む
23　灰白色（2.5Y7/1）粘土
　　締りあり、マンガン僅か含む、酸化
24　灰白色（2.5Y7/1）粘シルト
　　明黄褐色（10YR7/6）粘土含む、締りやや欠く
25　褐灰色（10YR5/1）砂シルト
　　炭化物僅か含む、粘性・締りあり、酸化
26　黄灰色（2.5Y5/1）粘土
　　13層土僅か含む、締りあり
27　灰白色（2.5Y7/1）粘土
　　23層と同質土だが暗味あり
28　黄褐色（10YR7/8）細砂
　　炭化物僅か含む
29　明黄褐色（10YR6/6）砂シルト
　　炭化物僅か含む、やや粗質、締りあり
30　黄灰色（2.5YR6/1）粘シルト
　　炭化物若干含む、粘性あり
31　黄橙色（10YR7/8）砂
　　28層土・炭化物僅か含む
32　灰白色（2.5Y7/1）粘土
　　同色の砂僅か含む、締りあり、酸化
33　にぶい黄褐色（10YR5/3）粘土
　　灰白色（2.5Y8/1）粘土含む、締りあり
34　灰白色（2.5Y8/1）粘土
　　炭化物・マンガン若干含む、酸化
35　明黄褐色（10YR6/6）粘土
　　灰白色（2.5Y8/1）粘土若干含む、締りあり
36　明黄褐色（10YR6/6）粘土
　　35層と同質土だが灰白色粘土量少ない
37　青灰色（10BG6/1）粘土
　　灰白色（5Y7/1）砂若干含む、堅固
38　明オリーブ灰色（5GY7/1）粘シルト
　　灰白色（5Y8/1）粘土僅か含む、締りあり
39　灰白色（2.5Y8/1）粘土
　　明黄褐色（10YR7/6）粘土含む、締りあり
40　灰白色（2.5Y8/1）粘土
　　39層と同質土だが暗味あり、炭化物若干含む
41　青灰色（5B6/1）粘シルト
　　締りやや欠く、やや粗質
42　灰白色（5Y8/1）粘土
　　炭化物含む、締りやや欠く、酸化
43　灰白色（5Y8/1）粘土
　　42層と同質土だが炭化物多い
44　灰黄褐色（10YR5/2）粘土
　　灰白色（2.5Y7/1）粘土含む、締りあり、やや粗質
45　灰白色（2.5Y7/1）砂シルト
　　同色の砂若干含む、締りやや欠く
46　灰白色（5Y7/1）粗砂
　　同色の砂シルト・小礫含む、粗質
47　灰白色（7.5Y7/1）細砂
　　黄色（2.5Y7/8）粗砂・炭化物含む
48　明黄褐色（10YR6/8）粘土
　　灰白色（5Y7/1）粘土含む、締りあり
49　灰白色（7.5Y7/1）細砂
　　黄色（2.5Y7/8）粗砂・褐灰色（7.5YR4/1）粘シルト若干含む
50　黄灰色（2.5Y6/1）砂
　　灰色（5Y4/1）粗砂若干含む
51　灰白色（5Y8/1）粘土
　　締りあり、やや粗質、酸化
52　灰白色（2.5Y8/1）粘シルト
　　褐灰色（7.5YR4/1）粘土ブロック僅か含む、酸化
53　灰色（7.5Y5/1）砂
　　54層土僅か含む
54　灰白色（7.5Y7/1）粗砂
　　18層土僅か含む、細礫多包
55　灰色（7.5Y5/1）粗砂
　　54層土僅か含む、細礫多包
56　黄褐色（10YR5/8）粘土
　　粘性やや欠く、締りあり、やや粗質、酸化
57　灰黄褐色（10YR4/2）粘土
　　炭化物僅か含む、締りあり、やや粗質

第54図　中央トレンチ土層

## 2　縄文時代の遺物

### （1）縄文土器

本遺跡からは、３㎝×３㎝以上の破片数にして176片の縄文土器が出土した。長原式にあたる２点を除き、他ほぼ全ての有文土器が元住吉山Ⅰ式の範疇に収まる。元住吉山Ⅰ式土器は、本遺



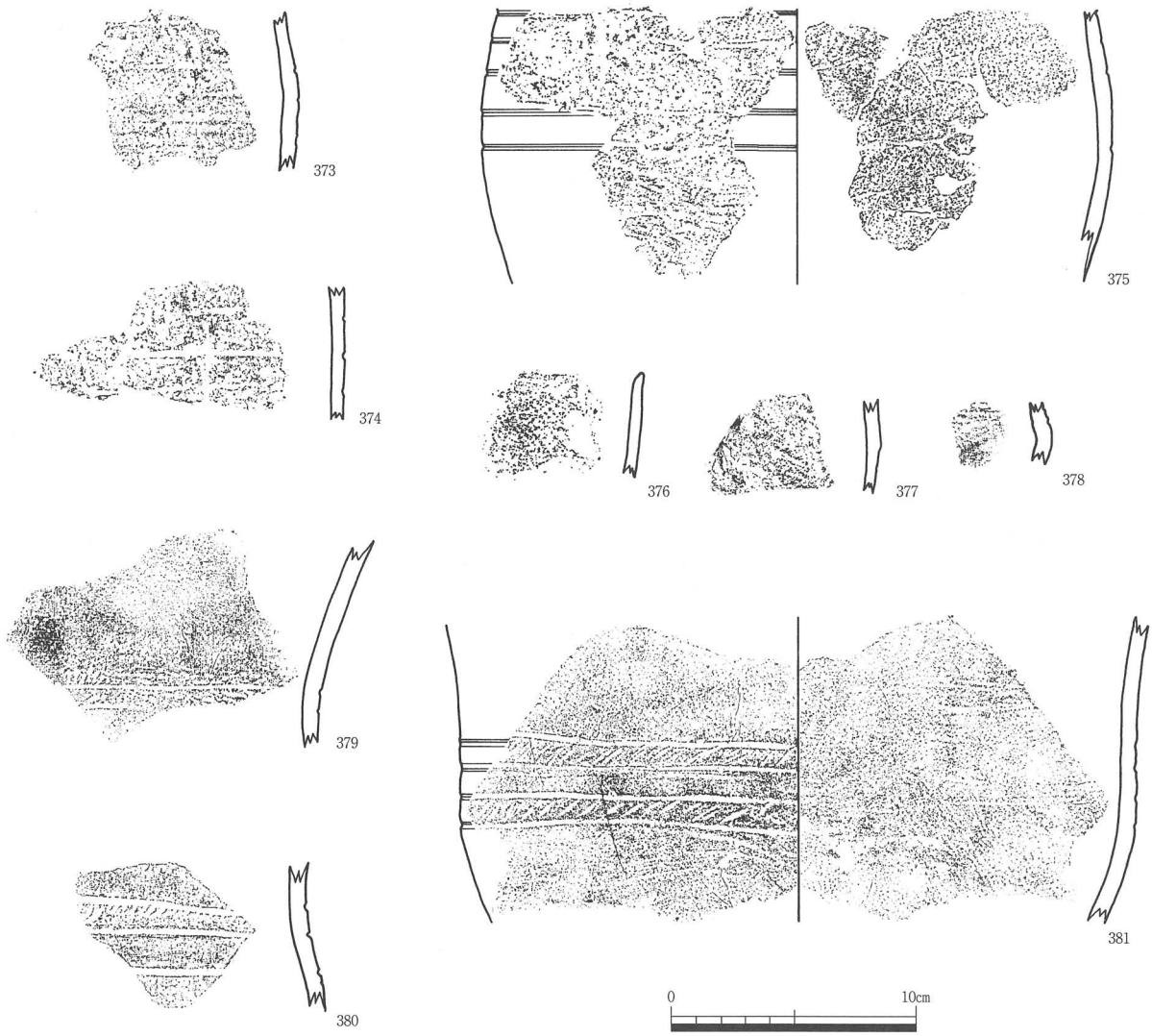

第55図　縄文土器（１）

跡周辺では西浦橋遺跡、三軒屋遺跡、向出遺跡、石津町東遺跡、春木八幡山遺跡、森の宮遺跡、池島・福万寺遺跡、山ノ内遺跡などで出土している。以上の遺跡は、一乗寺K式や元住吉山Ⅱ式といった、前後の時期の土器も出土している。本遺跡では、有文土器の出土量がそれほど多いとは言えず、そのため、必ずしも元住吉山Ⅰ式期の良好な一括資料であるとは言えない。しかし、本遺跡では、その前後の型式に該当するような土器が出土していない。つまり、時期的には、元住吉山Ⅰ式期に限定される。それゆえに、泉州地域における元住吉山Ⅰ式期の土器の、無文土器をも含めた、その器種構成の様相を考える上での１参考事例になりうると考えられる。

報告するにあたり、有文土器については出土全点、無文土器については部位の判断が可能な、残りのよいものを選んで図化・掲載した。

出土した縄文土器の各々について詳述する前に、全体的な様相を概観した上での、特記事項を挙げると、

（1）　赤色顔料の付着した無文深鉢が１点出土




第56図　縄文土器（2）

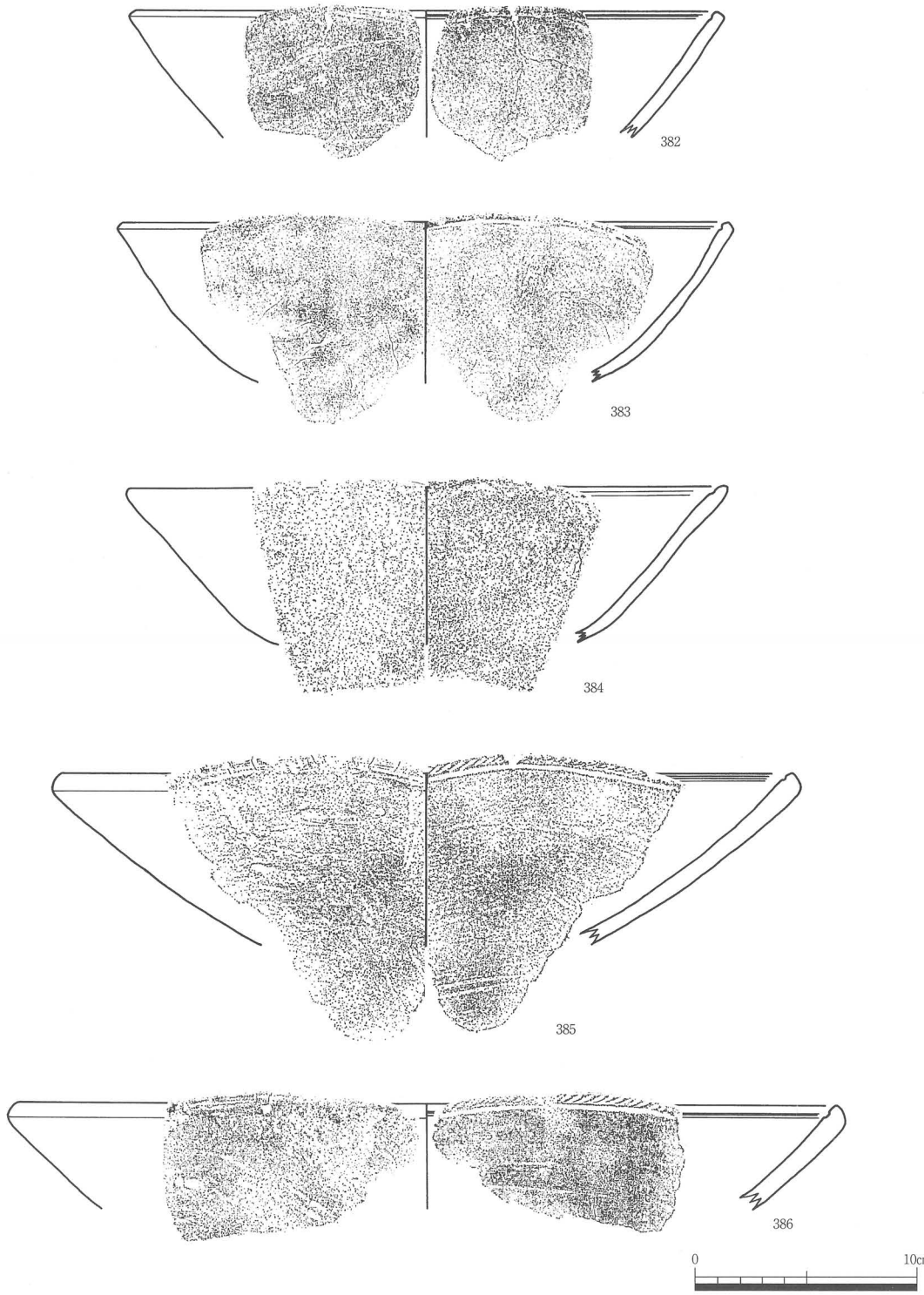
（2） 176点中、16点の土器に炭化物・ススが付着している

（3） 176点中、46点の土器が胎土に角閃石を含む

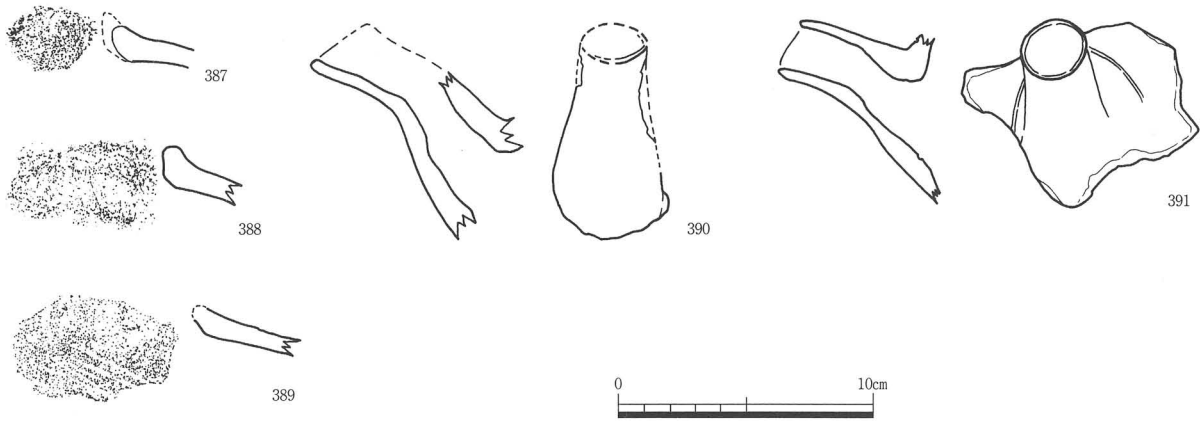
といった点を挙げることができる。以下、各遺物について詳述する。

360～452は縄文後期中葉、元住吉山Ⅰ式期の土器。

360～391は有文土器。有文土器では器種として深鉢、浅鉢、注口土器が出土した。調整手法の傾向に無文土器と違いがあり、有文土器には条痕が観察されるものが少ない。




第57図　縄文土器（3）




第58図　縄文土器（４）

360～381は有文深鉢。口縁部の外面に文様を施しているか、内面に文様を施しているかで大きく２つに分類することができる。

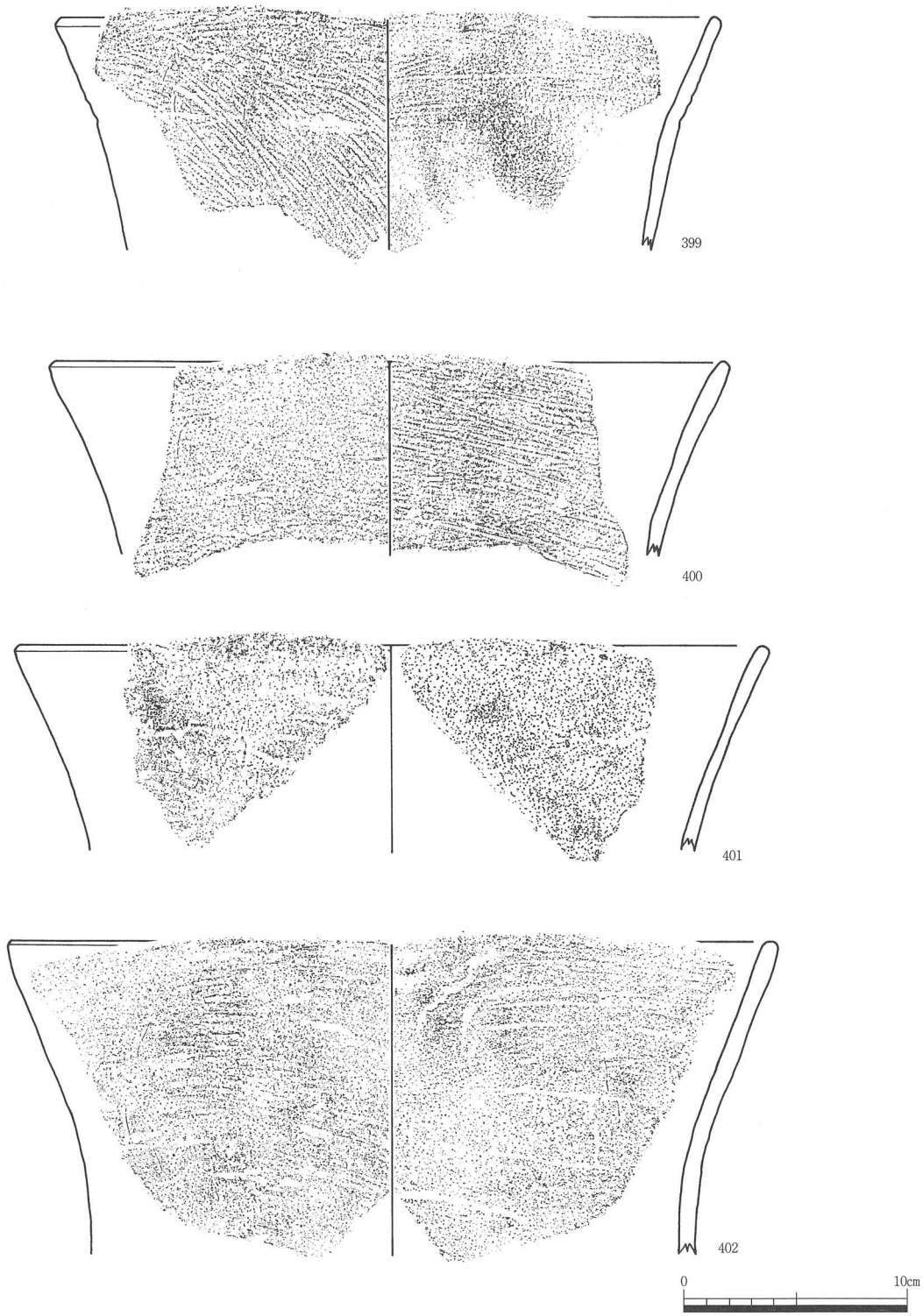
360～366は口縁部の外面に文様を持つ個体。いずれも破片であるが、他遺跡出土例を参考にすると、口縁部外面に文様を持つものは、完形ならば口縁部が内湾、又は直立する個体であったと考えられる。360は内湾する口縁部外面に２本の沈線を引く。374と同一個体か。胎土に角閃石らしきものを含む。摩滅のため調整不明。361は内湾する口縁部外面に１本の沈線を引き、その上部には巻貝による擬縄文らしきものが確認されるが、摩滅のためよくわからない。胎土に角閃石を含む。摩滅のため調整不明。362は内湾する口縁部外面に３本の沈線を引き、２本目の沈線を上弦の連弧状にしている。胎土に角閃石を含む。摩滅のため調整不明。363は直立する口縁部外面に４本の沈線を引き、その内最も下の沈線を上弦の連弧状にしている。沈線間に縄文帯（ＲＬ）を２帯形成している。内外ともにナデ調整。362、363は浅鉢の可能性もある。364、365は同一個体。内湾する口縁部外面を２本の沈線で区画し、その上下に左下がりの刻みを施す。口縁端部を面取りしている。内外ともにナデ調整。366は１本の沈線の下に左下がりの刻みを施す。外面はナデ、内面に巻貝条痕が見られる。

367～372は口縁部の内面に文様を持つ個体。いずれも完形ならば、369、370のような口縁部が外に広がる個体であったと考えられる。367は口縁部内面に沈線を引き、口端との間を垂直に刻む。内外ともにナデ調整。368は口縁部内面に沈線を引き、口端との間を左下がりに刻む。内外

第59図　縄文土器（５）

第60図　縄文土器（6）

ともにナデ調整。367、368ともに浅鉢の可能性もある。369、370は口縁部内面に沈線を引き、口端との間にやや左下がりの刻みを施す。胴部外面に３本の沈線を引き、その間に巻貝による擬縄文帯を持つ。369は外面及び内面頸部以上はナデ調整、内面胴部以下もナデてはいるが、縦方向のケズリらしき痕跡も見られる。370は369とほぼ同様の調整だが、縦方向のケズリらしき痕跡が内面頸部以上にも見られる。また、370は口縁部内面直下にめぐらす沈線が不連続になっている。371は内面に垂直の刻みを入れるのみで、沈線は省略されている。内外ともに巻貝による調整後



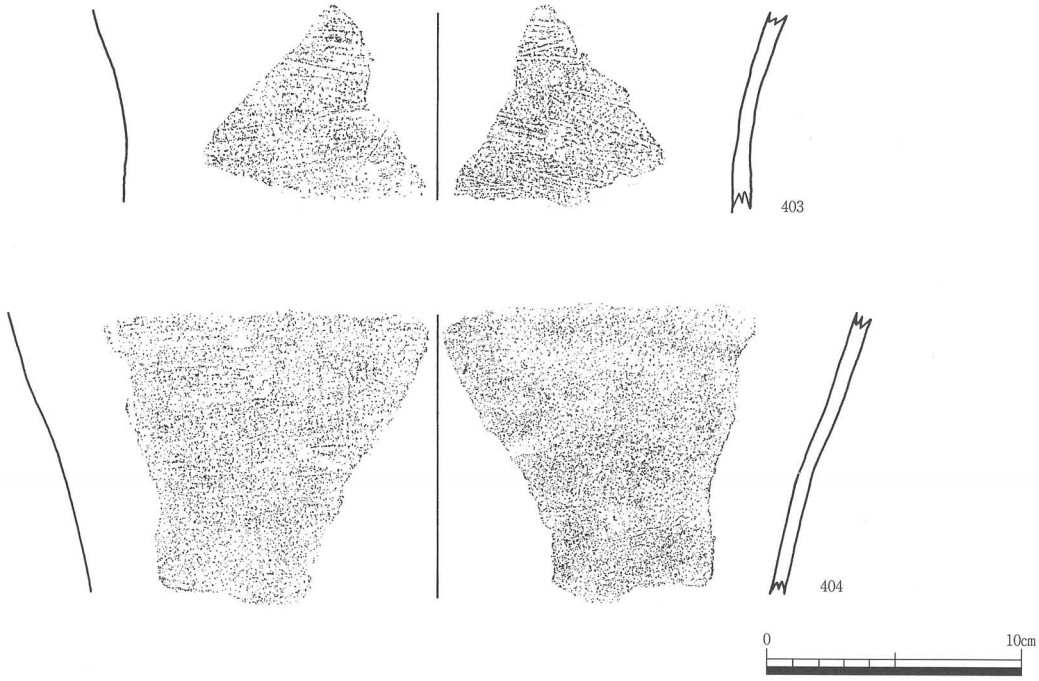

第61図　縄文土器（7）

にナデか。375と同一個体。372は波状口縁。波頂部内面に刺突を加え、その点より沈線を引き、口縁端部との間を左下がりに刻む。胴部上半まで残存し、胴部にわずかであるが沈線らしきものが１本確認できる。内外ともに巻貝で器面調整した後にナデて仕上げていると思われる。胎土に角閃石を含む。

369、370は一見、元住吉山Ⅰ式によく見られる文様構成の土器に見える。ただし、胴部外面の沈線は４本以上引くものが一般的であり、369、370のような胴部外面に３本の沈線を引くものは珍しく、向出遺跡、春木八幡山遺跡にのみ類例がある。ただし、向出出土例は、高さにして２倍以上サイズの大きいものであり、また擬縄文帯ではなく、ＬＲの縄文帯を持ち、上弦の連弧文を施すといった違いがある。春木八幡山出土例は、大きさの違いについてはよくわからないが、こちらも上弦の連弧文であり、縄文帯ではなく、沈線間は刻んでいる。元住吉山Ⅰ式がまとまって出土した兵庫県佃遺跡や京都府森山遺跡、滋賀県穴太遺跡の報告に１点も３本の沈線のものが存在しないことを考えると、和泉地域の特徴を示している可能性があるのかもしれない。

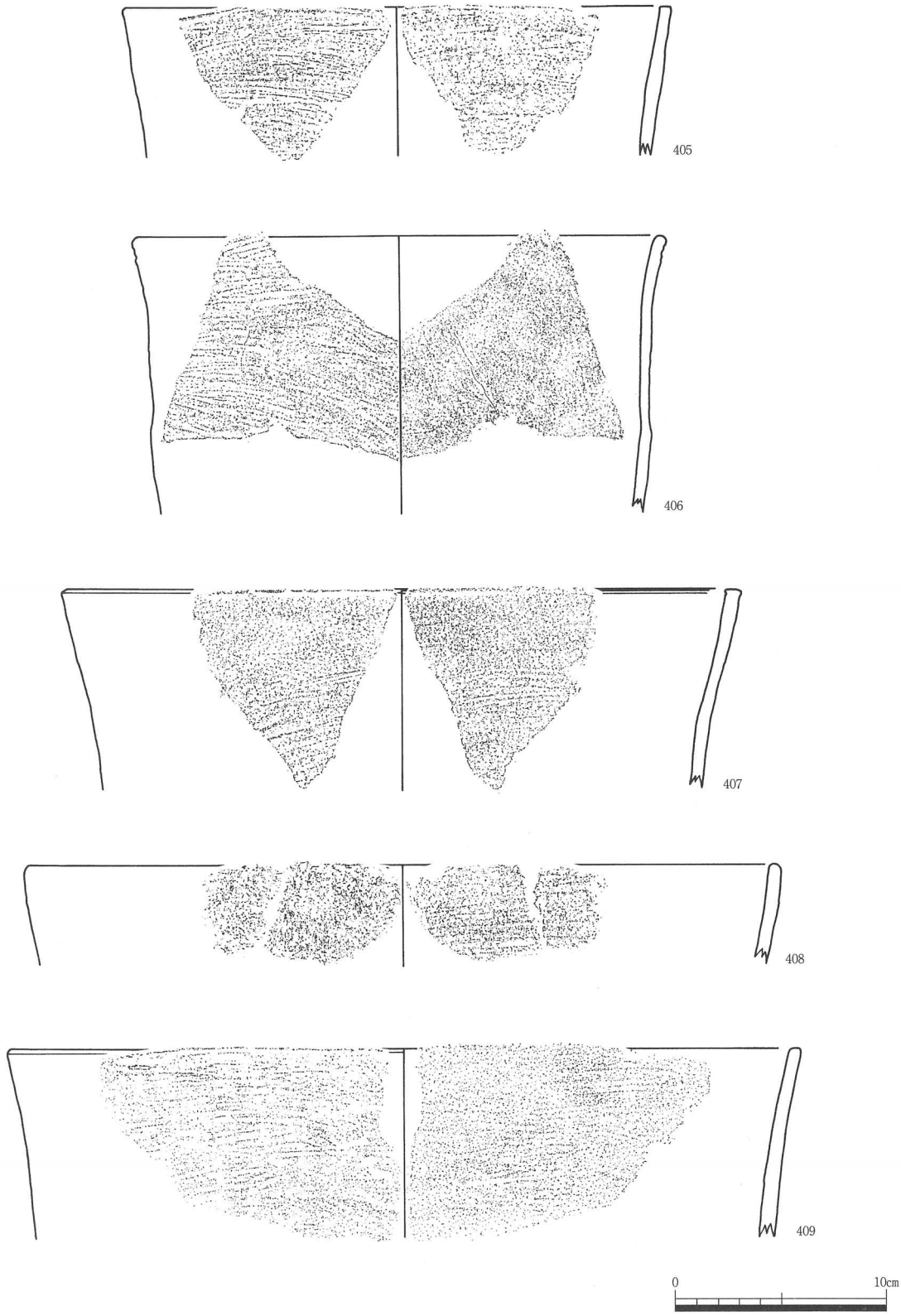
371、372についても詳細に観察すれば、類例の少ないものである。371のような口縁部内面の沈線を省略しているものは私見の及ぶ範囲で類例がない。また、372のような、内面施文で波状口縁となる深鉢は、私見の及ぶ範囲では穴太遺跡に１点しか類例を見ず、珍しい個体であると考えられる。

373～381は有文深鉢の胴部。373、375～378は縄文、379は擬縄文、380、381は刻みが沈線間に施文されている。373は３本の沈線、２帯の縄文帯（ＲＬ）が見られる。内外ともにナデ調整。374は３本の沈線が引かれる。調整は不明。胎土に角閃石らしきものを含む。360と同一個体か。

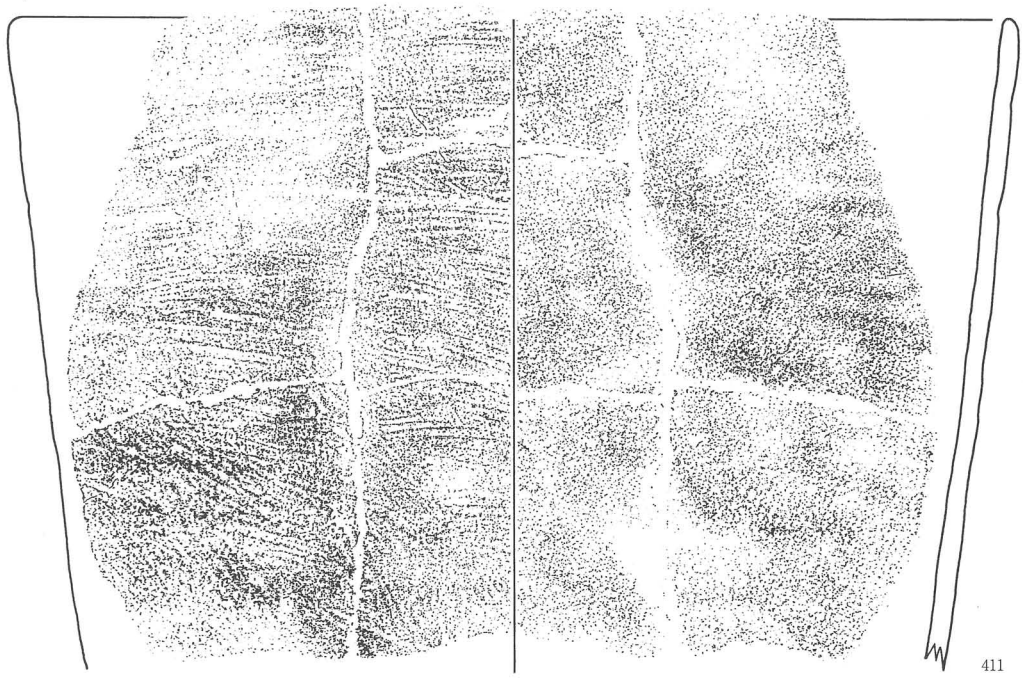


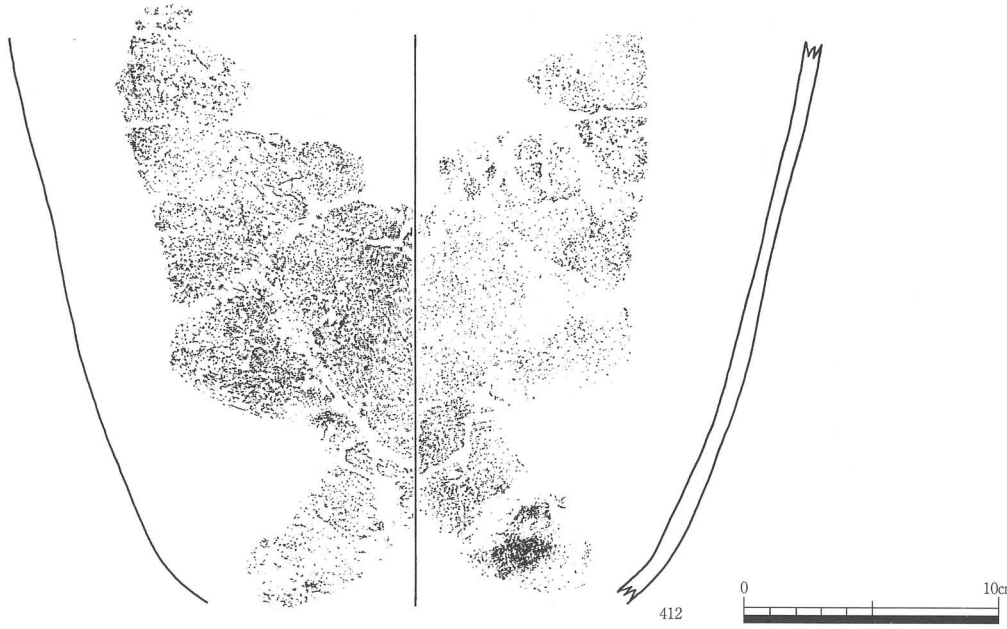

第62図　縄文土器（８）

375は５本の沈線を引き、３帯の縄文帯（ＬＲ）を形成する。また、最下端の縄文帯には帯を形成する区画となる沈線の下方を欠く。内外ともに巻貝による調整後にナデ調整か。371と同一個体。376、377は摩滅が激しく調整不明、わずかに縄文（ＲＬか）の痕跡が確認されるのみである。376は口縁部の可能性がある。378は上半に縄文（ＲＬ）が残る。内外ともにナデ調整。379は２



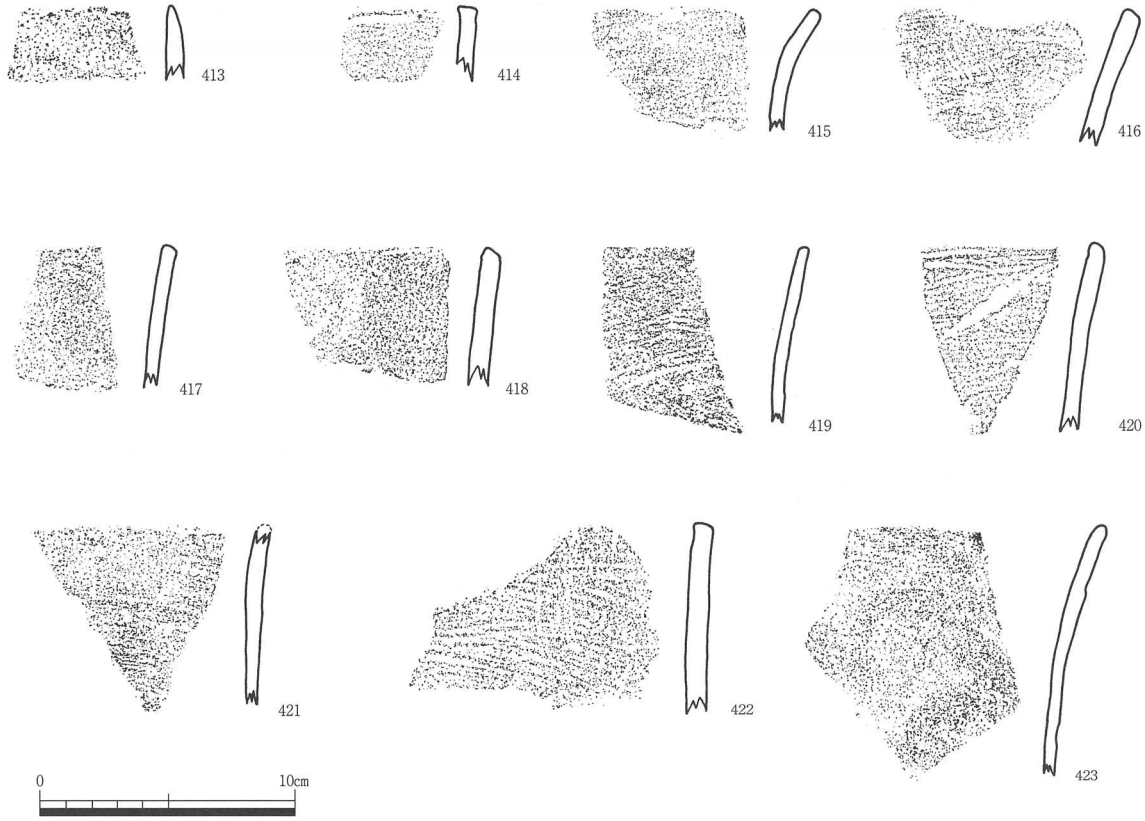

第63図　縄文土器（９）



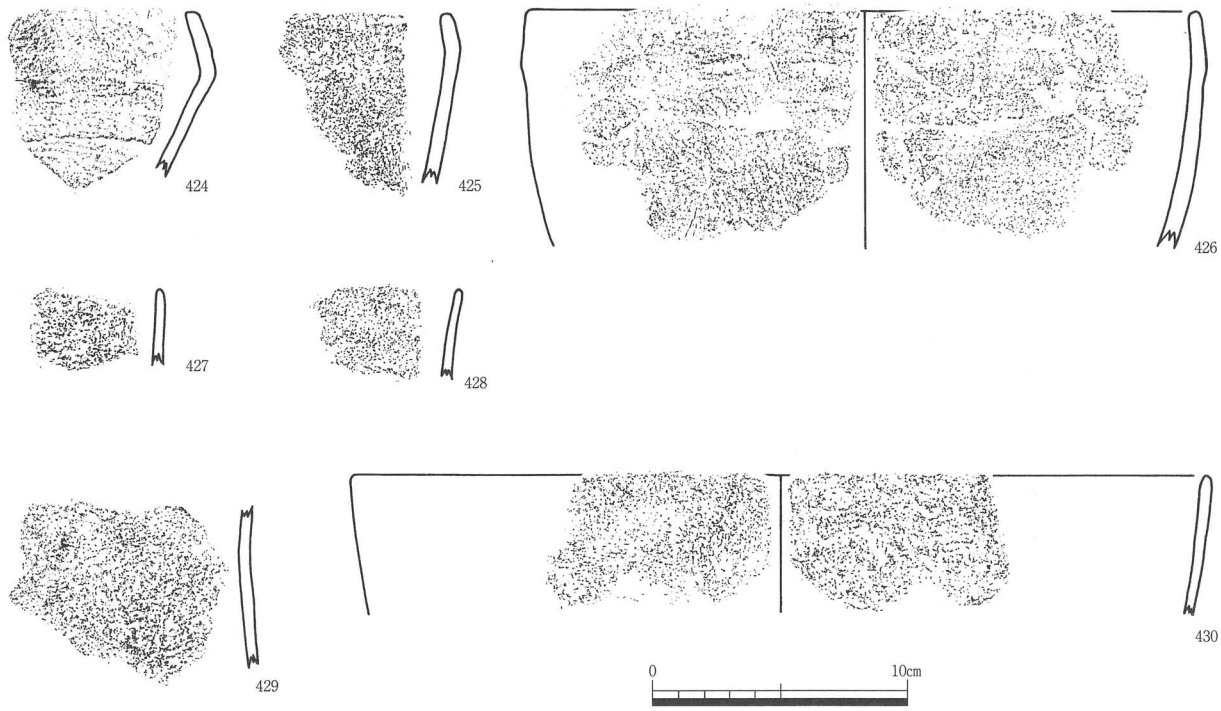




第64図　縄文土器（10）

本の沈線、２帯の巻貝擬縄文帯を持つ。内外ともにナデ調整。外面に炭化物付着。380は３本の沈線が引かれている。最も上の沈線は、刻みというよりは爪形文に見える文様を切るように引かれている。また、最も下の沈線の下には、刺突らしきものも見られる。私見の及ぶ範囲では他に類例を見ず、珍しい個体であると考える。外面はナデ、内面の上半はナデ、下半はケズリ後にナ




第65図　縄文土器（11）




第66図　縄文土器（12）

デて仕上げているようだ。外面に炭化物付着。381は４本の沈線を引き、その間に左下がりの刻みを充填した２帯の文様帯を持つ。内外ともにナデ調整。外面に炭化物付着。

382～386は有文浅鉢。いずれも内面に１本の沈線を引き、口端との間を刻む。調整は内外ともにナデ調整。382は沈線と口端との間の刻み目が他のものよりも細く、垂直に刻んでいる。383は口端の摩滅が激しく、左下がりの刻みをわずかに確認できるのみである。384は口縁部内面に１本の沈線を施しているが、口端との間の刻みを確認できない。また口縁部が丸く膨らむといった特徴を持つ。胎土にクサリ礫を含む。385、386は左下がりの刻み目を施す。385の内面、沈線内には炭化物が残存している。

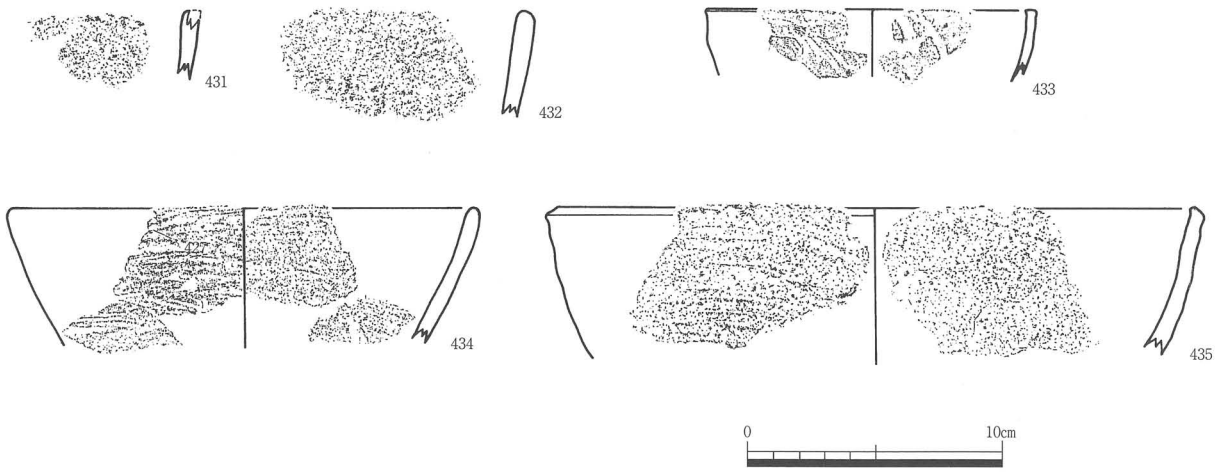
387～391は注口土器。いずれも内外ともにナデ調整。387～389は口縁部。387は小破片であるため、他器種の他部位である可能性がある。389は粘土の貼り付けの痕跡と考えられるものが２ヶ所観察できる。外面には、何らかの条痕が一部に見られる。390、391は注口部。391は胴部との接続部に１本の沈線らしきものをめぐらすようだが、摩滅のためによく分からない。胎土に角閃石を含む。

392～435は無文土器。無文土器には、深鉢と浅鉢が出土。調整手法としては、巻貝によると思われる条痕が多くの個体に観察される。

392～430は無文深鉢。他遺跡の出土事例も参考にすると、法量、口縁部の立ち上がり、胴部の形状から、数種類のヴァリエーションが存在していたと考えられる。本遺跡で出土した土器については、以下の６種類に分類した。しかし、本遺跡での出土個体には、完形のものが無く、分類の適用が困難なものもあり、今回の分類は、あくまでも目安程度の分類である。

392、393は小型の個体。一般的なサイズの１/２～２/３程度になると思われる。392は口端を丸く収める。頸部からこれほど急な角度で外反するものは少ない。胎土に角閃石を含む。内外ナデ調整。393は口縁部。内外ともにナデ調整。胎土に角閃石を含む。

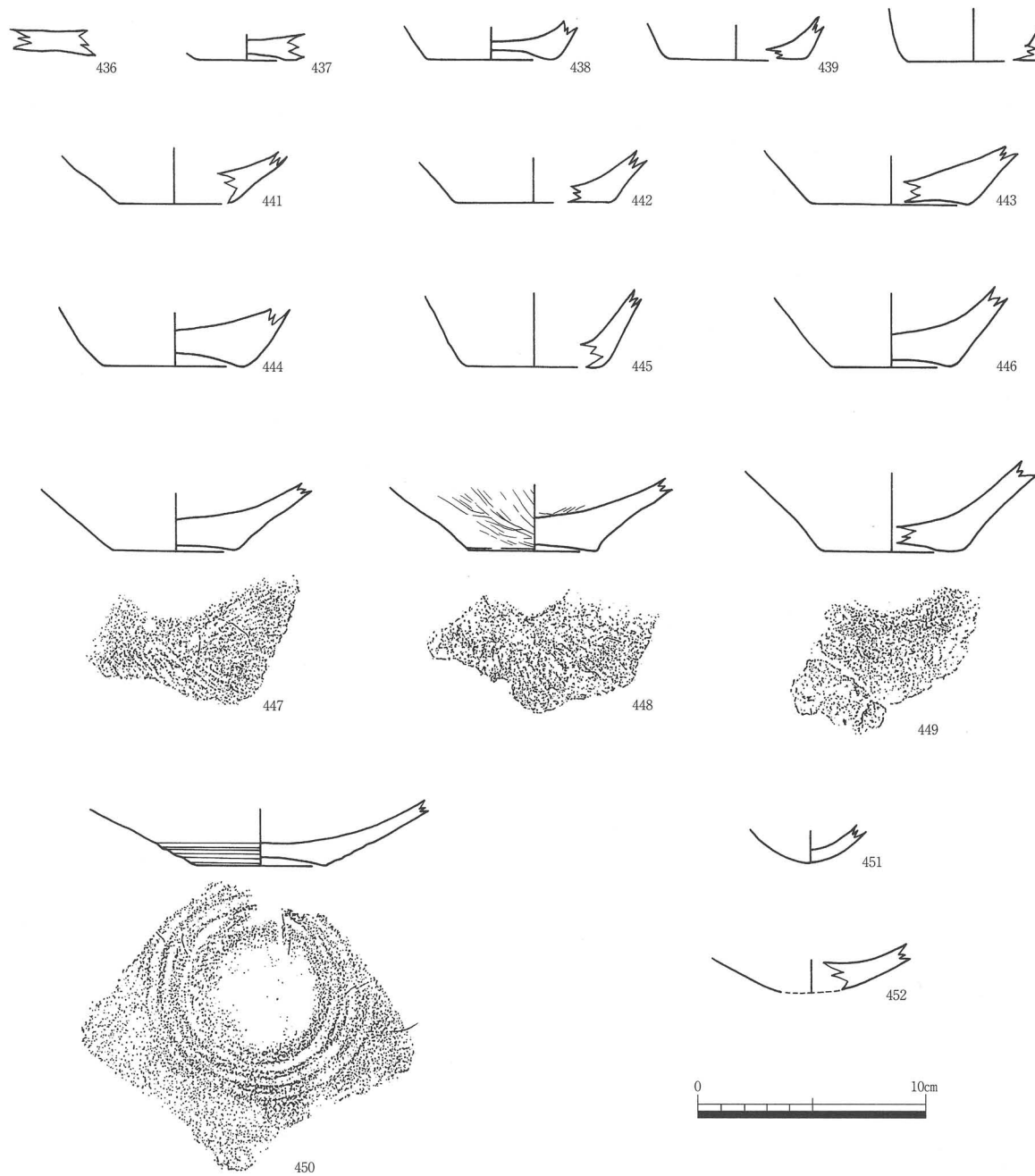
394～398は胴部にやや膨らみが見られる個体。394は胴部まで残る個体。口縁部は外に広がる。




第67図　縄文土器（13）

内外ともに水平の巻貝条痕が見られ、部分的に右下がりのところもある。395は口端を欠くが、口縁部から胴部まで残る。口縁部は外に広がり、内外とも水平に二枚貝条痕が見られる。胴部外面は右下がりの二枚貝条痕が見られ、胴部内面はナデ調整。396～398は胴部。396は外面、水平に巻貝条痕、内面を巻貝による調整後ナデているようだ。外面にスス付着。397は外面を巻貝による調整後にナデており、内面はナデ調整。398は外面には水平に何らかの条痕、内面はナデ調整。外面に炭化物付着。

399～404は口縁部が外に広がる個体。胴部に膨らみがあるかどうかは分からない。399は外面口端より約４㎝下までは、水平に巻貝条痕が見られるが、それより下は右下がりの巻貝条痕。内面は全体的にほぼ水平に巻貝条痕が見られる。胎土に角閃石を含む。外面に炭化物付着。400は




第68図　縄文土器（14）

内外ともほぼ水平に巻貝条痕が見られる。401は摩滅があるが、内外ともナデ調整しているようだ。402は外面口端の直下は水平に巻貝条痕、それより下は右下がりの巻貝条痕が見られる。内面はナデ調整。胎土に雲母が多量に確認され、明らかに他と異なる材料で作られている。外面に炭化物付着。403は内外とも部分的に右下がりの巻貝条痕が見られるが、全体的にはほぼ水平に巻貝条痕。404は外面上半は水平に何らかの条痕、下半は左下がりの何らかの条痕。内面はナデ。外面に炭化物付着。

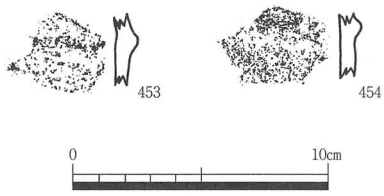
405～412は口縁部が垂直に近く立ちあがる個体。胴部に膨らみがないと考える。405は内外とも水平の巻貝条痕、口端を面取りしている。406は外面上半には水平に巻貝条痕、下半より右下がりに条痕。内面はナデ調整。胎土に角閃石を含む。外面に炭化物付着。407は外面に赤色顔料が塗布されていた個体。赤色顔料は右半部に部分的に残るのみである。外面口端近くは水平に巻貝条痕、その下からは左下がりの巻貝条痕が見られる。内面に水平に巻貝条痕が見られる。口端を面取りしている。408は摩滅のため外面の調整は不明。内面には水平に巻貝条痕が見られる。409は内面および外面上半は水平に巻貝条痕、外面下半から右下がりに巻貝条痕が見られる。胎土に角閃石を含む。外面に炭化物付着。410は内面および外面上半は水平に巻貝条痕、外面下半から右下がりに巻貝条痕が見られる。411は内面にはナデ、外面はほぼ全て水平に巻貝条痕、下部ではやや右下がりの巻貝条痕が見られる。412は摩滅のためよくわからないが、内外ナデ調整と思われる。

413～423は口縁部。小さい破片のため、判断が難しいものもあるが、412、413、417、420、421は口縁部が垂直に近く立ちあがる個体。それ以外は、口縁部が外反する個体であると考える。413は摩滅により調整不明。胎土にクサリ礫を含む。414は内外ともにナデ調整、口端を面取りしている。415は外面ナデ、内面は何らかの条痕後にナデているようだ。416は内外ともにナデ調整、胎土にクサリ礫を含む。417、418は内外ともにナデ調整。419は内面ナデ、外面には口端近くには条痕が見られないが、やや下から左下がりの巻貝条痕が見られる。胎土に角閃石を含む。外面に炭化物付着。420は内外ともに水平の巻貝条痕が見られる。421は内外ともにナデ調整、胎土に角閃石を含む。422は外面に左下がり、右下がり２方向の何らかの条痕が見られる。内面はナデ。423は内外ともにナデ調整、胎土に角閃石を含む。

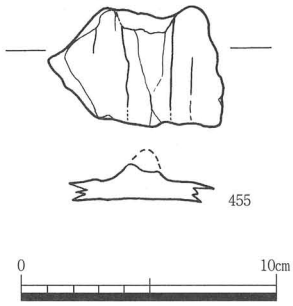
424～426は口縁部が内側に曲がる個体。424はその中でも曲りが鋭い。外面屈曲部より上はナデ、屈曲部より下には部分的に巻貝条痕が見られる。内面はナデ調整。425は外面ナデ、内面に巻貝条痕が見られる。426は摩滅のためわかりにくいが、外面は巻貝により器面調整していたようである。内面はナデ調整。

427～430はやや薄手の土器群。427は内外ともに調整不明。胎土に角閃石を含む。428は内外ともに調整不明。429は内外ともにナデ調整か。胎土に角閃石を含む。430は外面ナデ、内面の調整は不明。

431～435は無文浅鉢。431は内外ともに調整不明。口端外面側を欠くが、口端は面取りし




第69図　縄文土器（15）




第70図　土製品

ていたようである。432は内外ともに調整不明。胎土に角閃石を含む。433は小型。内外ともにナデ調整か。口端を面取りしている。434は外面に水平に巻貝条痕が見られ、内面上半はナデ、下半には巻貝条痕が見られる。外面にスス付着。435は外面に巻貝条痕が見られる、雑な調整のため器面には凹凸が残り平滑さを欠く。内面はナデ調整。内外ともに炭化物が付着している。

436～452は底部。判断が難しいものもあるが、深鉢には凹底、平底両方存在していたようだ。437、438、441、445、451は胎土に角閃石を含む。443は胎土にクサリ礫を含む。基本的にナデ調整しか見られないが、447、448には外面に巻貝条痕、449の外面に縄文（ＲＬか）の圧痕らしきものが見られる。450は底部に３条の凹線をめぐらす。胴部への広がりかたから見て、浅鉢の底部か。私見の及ぶ範囲では、他に類例を見ず、珍しい個体であると考える。451、452は丸底。

453、454は晩期末、凸帯文期の土器。摩滅を考慮に入れても、凸帯に厚みがあったとは考えられないことから、長原式のものと考えられる。ともに胎土に角閃石を含む。

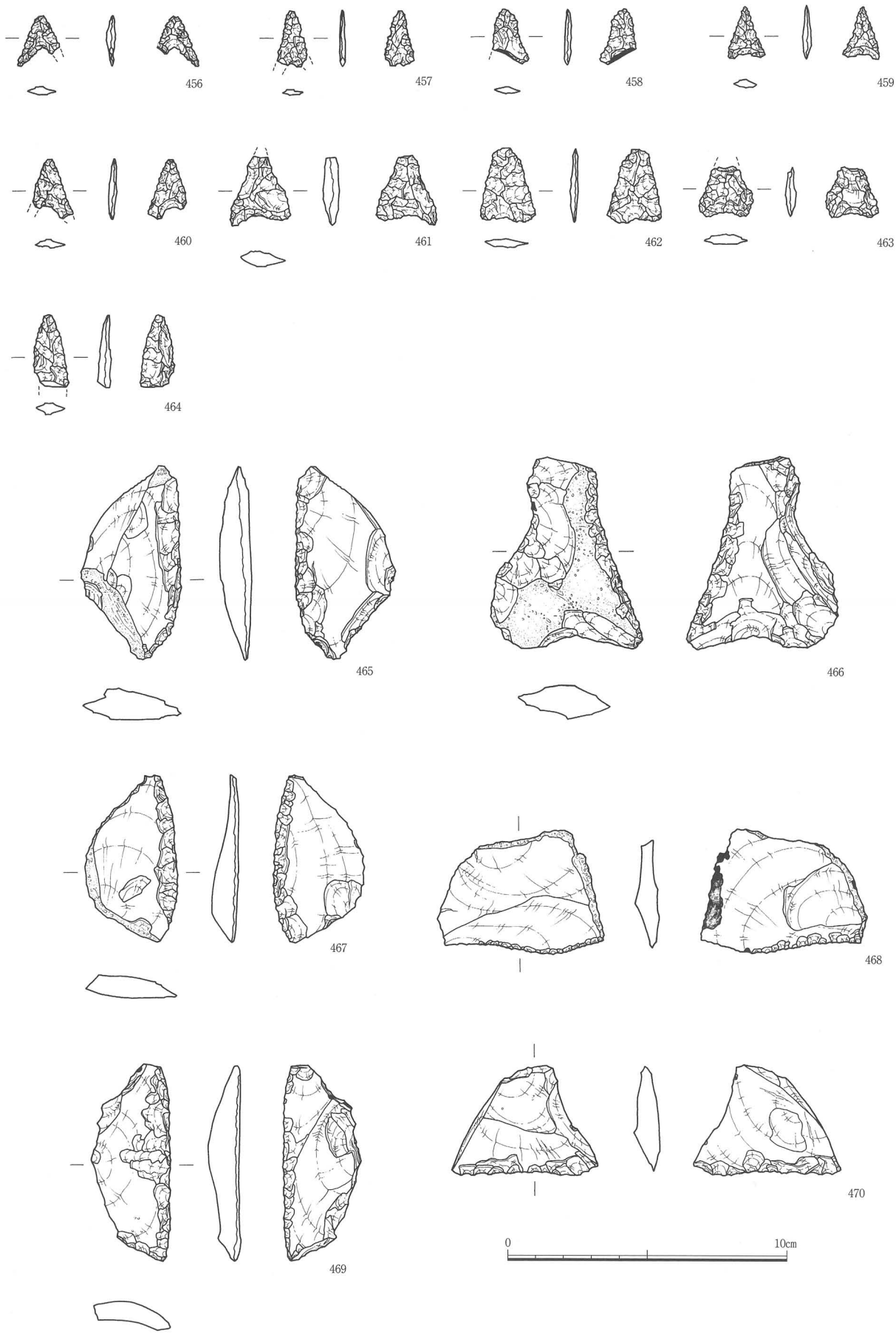
455は不明土製品、土面の鼻部か。同一個体と思われる小破片が１点存在するが、接合せず、全体の形状はわからない。土面であるならば、本遺跡の周辺では、仏並遺跡において中期末と考えられる土面が２点出土しており、仏並遺跡との関係性が考えられる。

（２）縄文石器

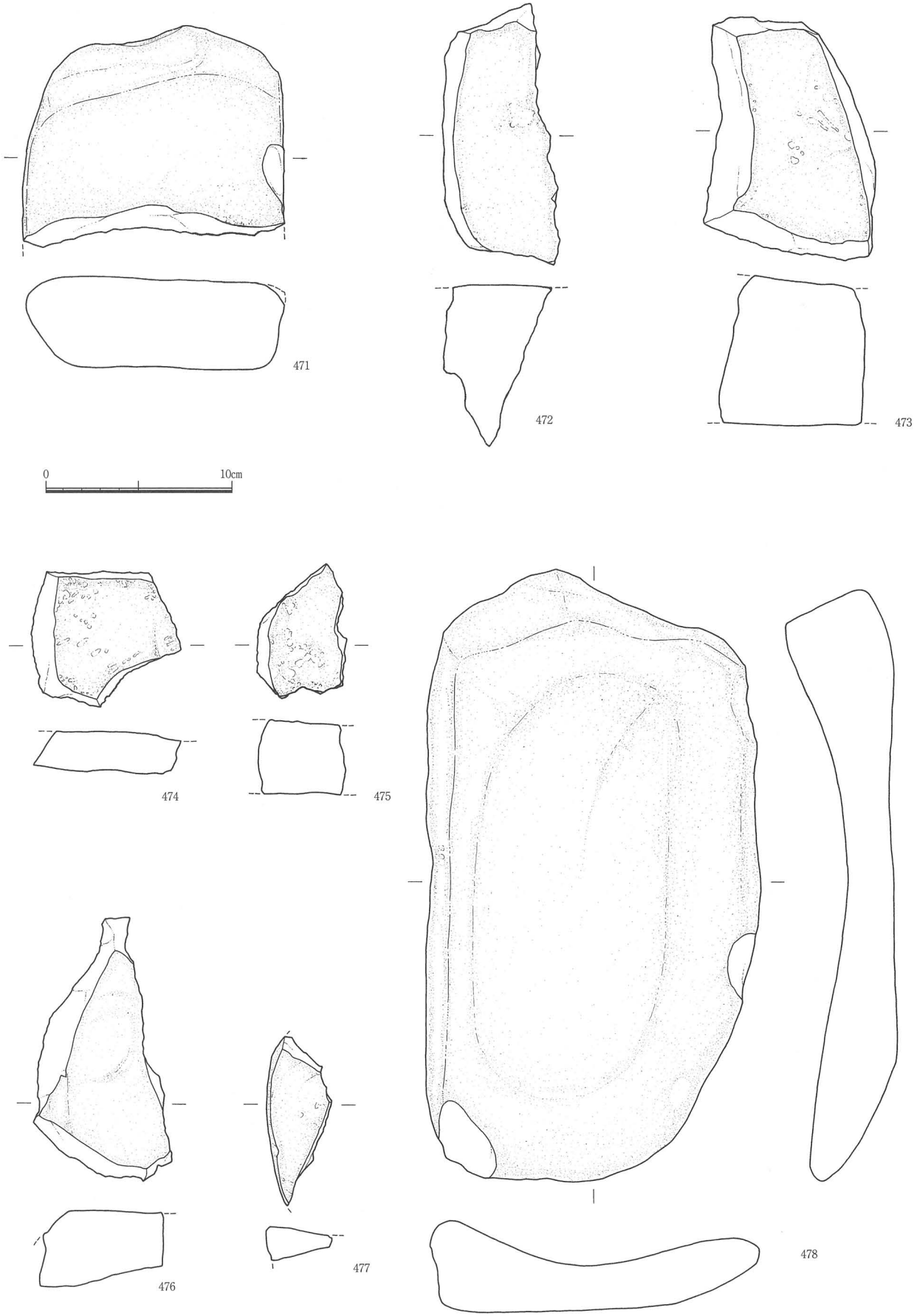
縄文時代の石器には石鏃、石刃、石皿、磨石、石棒および剥片がある。また剥片のうち675の１点は緑色結晶片岩である。これは中央トレンチ№３区の３段目より出土していることから、弥生時代のものではなく、縄文時代の剥片である。ここで掲示した220点の石器は全て縄文時代のものであり、出土土器との関係から後・晩期のものといえる。

456～464は石鏃である。458・464は茎部を欠いているため形態を捉えがたいが、その他は全て無茎式である。また456・460・461では明瞭に脚部を作り出している。457もまた本来は脚部を作っていたのであろう。464は側辺の細部調整が粗い。茎部欠損のため判然としないが、無茎長三角形を呈していたのではないかとみられる。

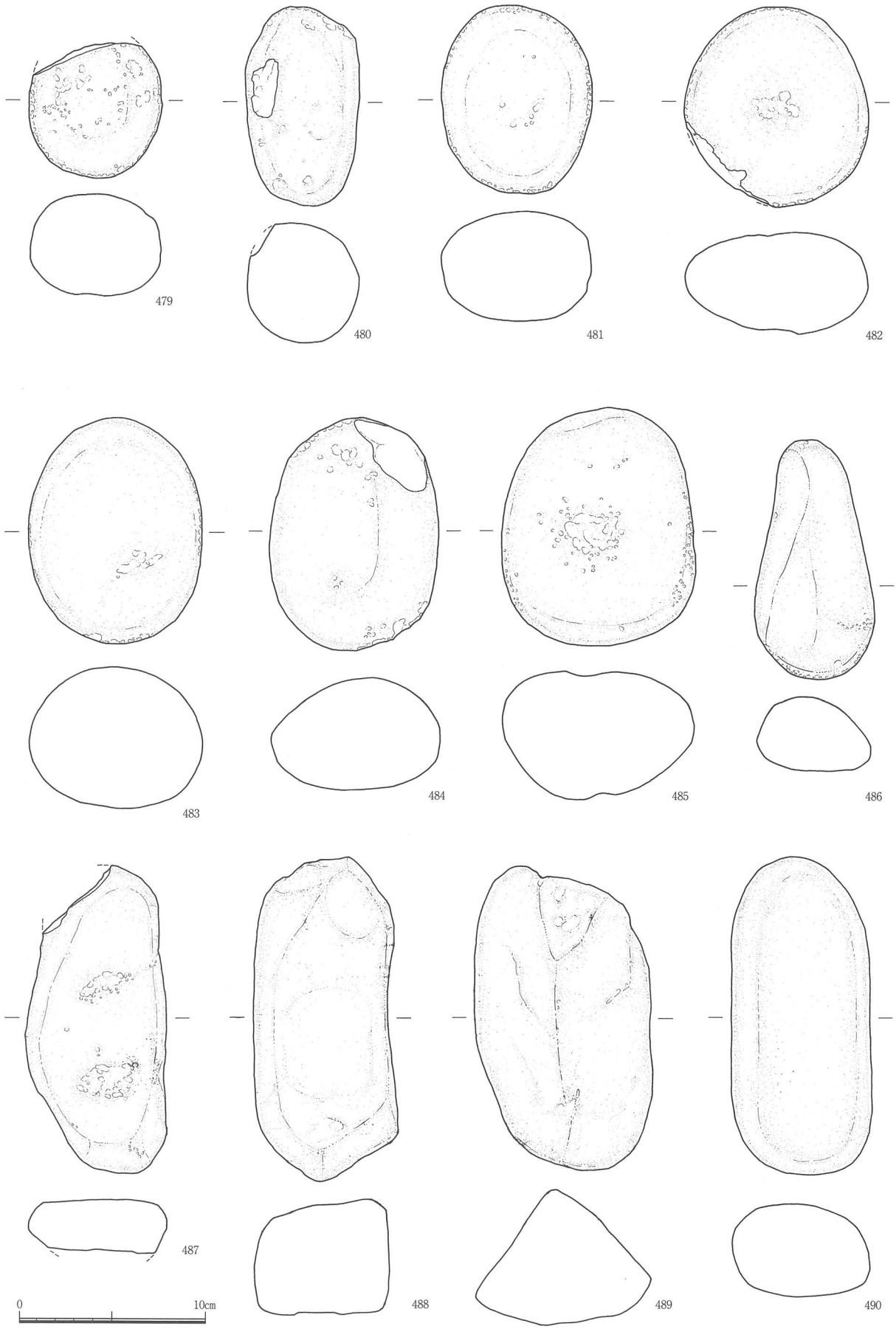
465～470は石刃である。１辺に両面から押圧剥離による細部調整を施し、刃部を作り出している。468・470はやや形状の整わない剥片を使用しているが、466を除いて二等辺三角形あるいは二等辺台形になるように形作られ、長辺を刃部としている。465～468では原石面が残っていることから、荒割りして得られた剥片をそのまま素材として使用していることがわかる。466では刃部以外にも細部調整が認められるので、形状を整えるための加工もなされたとみられるが、原石面に近い素材を用いたため、形状加工が必要になったのであろう。


456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
0
10cm

第71図　縄文石器（1）



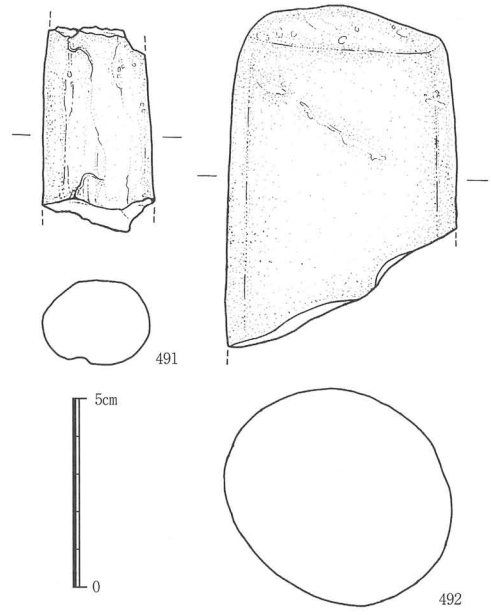

第72図　縄文石器（2）




第73図　縄文石器（3）

471～478は石皿である。大半のものが破損のため小破片となっているなかで、478はほぼ原形を保っている。長さ33.20cm、幅17.88cmを測る。最大厚は5.85cmであるが、中央部分は窪んでいるために薄く、2.4cm程である。底面はほぼ平坦であるが、四周が反り上がり、そのため中央部分が窪み、ボール状を呈している。表面中央はよく磨れている。この478に限らず、破片化したいずれの資料においても、その表面中央部分はよく磨れて窪んでいる。

479～490は磨石である。球形のものは側辺全体が、長球形のものは片側頂部が磨れるという傾向がみられる。これらは先の石皿と組合わさり、粉砕具として使用されたものであろう。なお482と485には、表裏面ともに径２cmほどの大きさの浅い窪みがみられる。これらは凹石としても使用された可能性が考えられる。



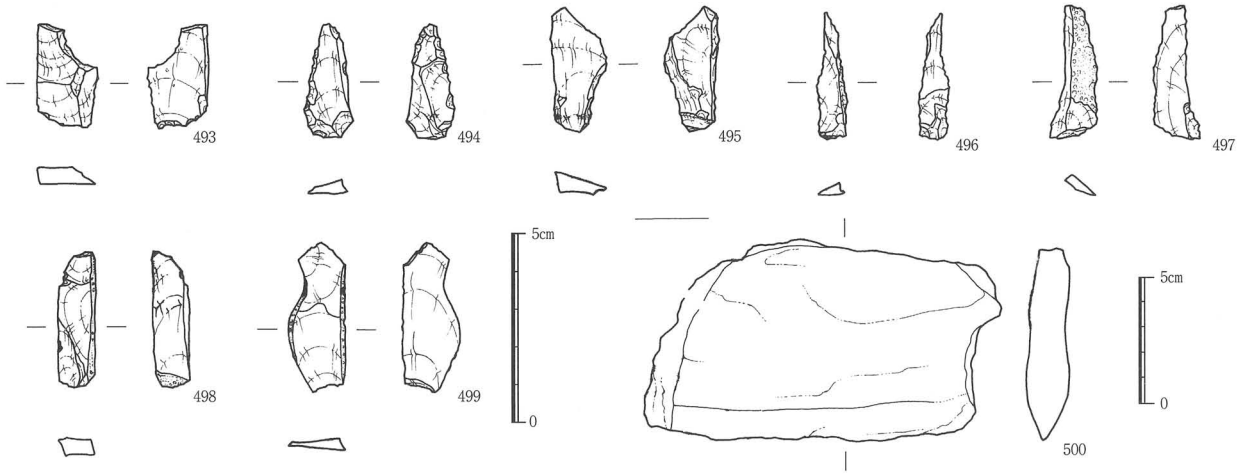
第74図　縄文石器（４）

491・492は石棒である。前者は断面径3.0×2.2cm、後者は断面径6.1×5.8cmを測る。ともに石材は緑色結晶片岩である。後者には基部が遺存している。

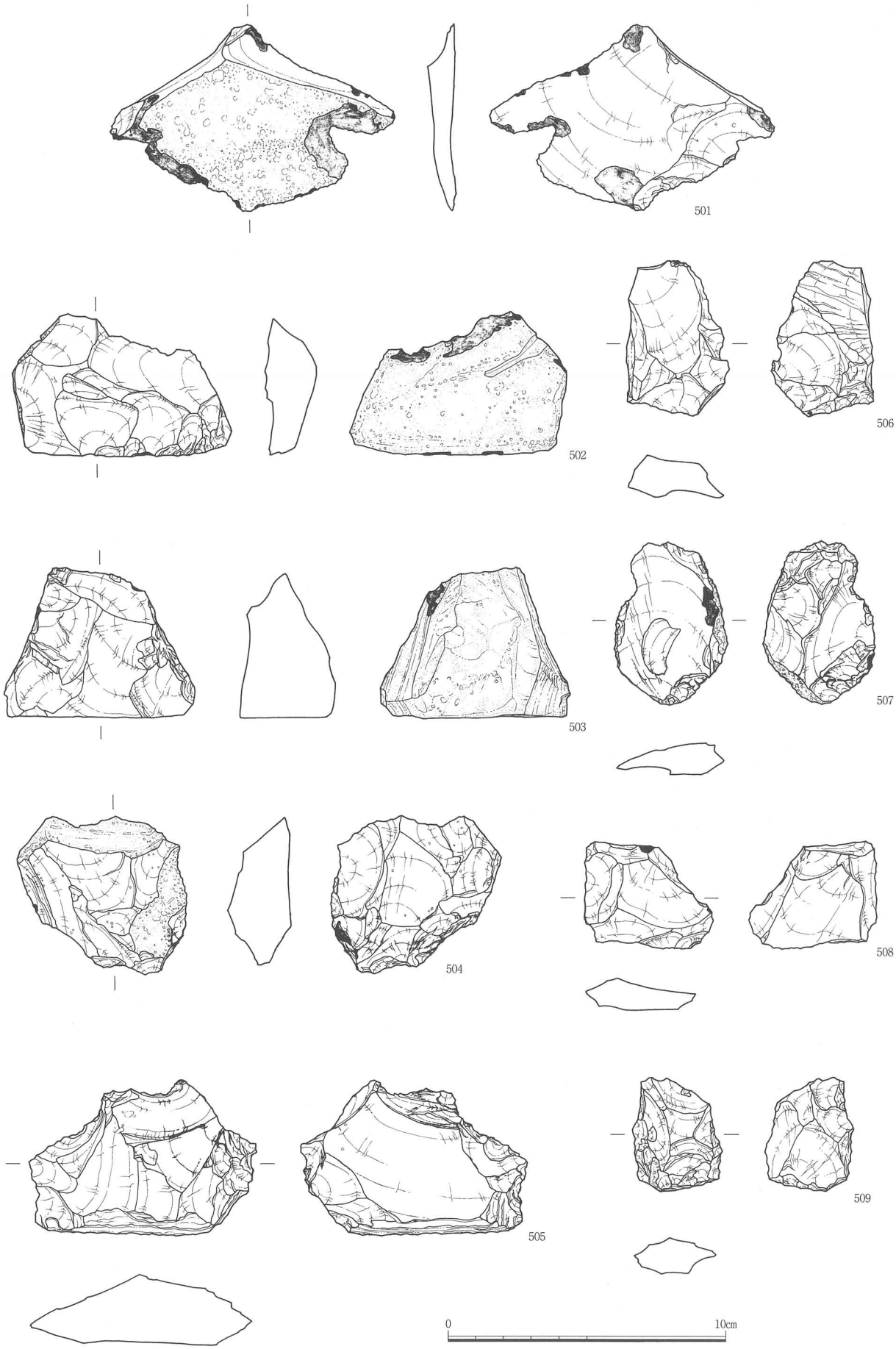
493～675は剥片である。片側に原石面を留めるものは501・502・503のように剥離後の２次加工が残るものと、672のように石核からの剥離面のみが認められるものとがある。この違いは、剥片の大きさと関係し、１辺４cm以上の剥片は、小形石器製作のための素材も含まれる可能性が高く、１辺２cm以下のものは石器製作の過程で出た剥片そのものと考えられる。504や505では、剥離時に生じた以外の調整面が表裏に認められることから、加工途中であったとみられる。

また607・608・628では、１側辺に細部調整が加えられていて、クサビ形石器である可能性もある。ただし、こうしたものは掲示した資料の中では数少ない。

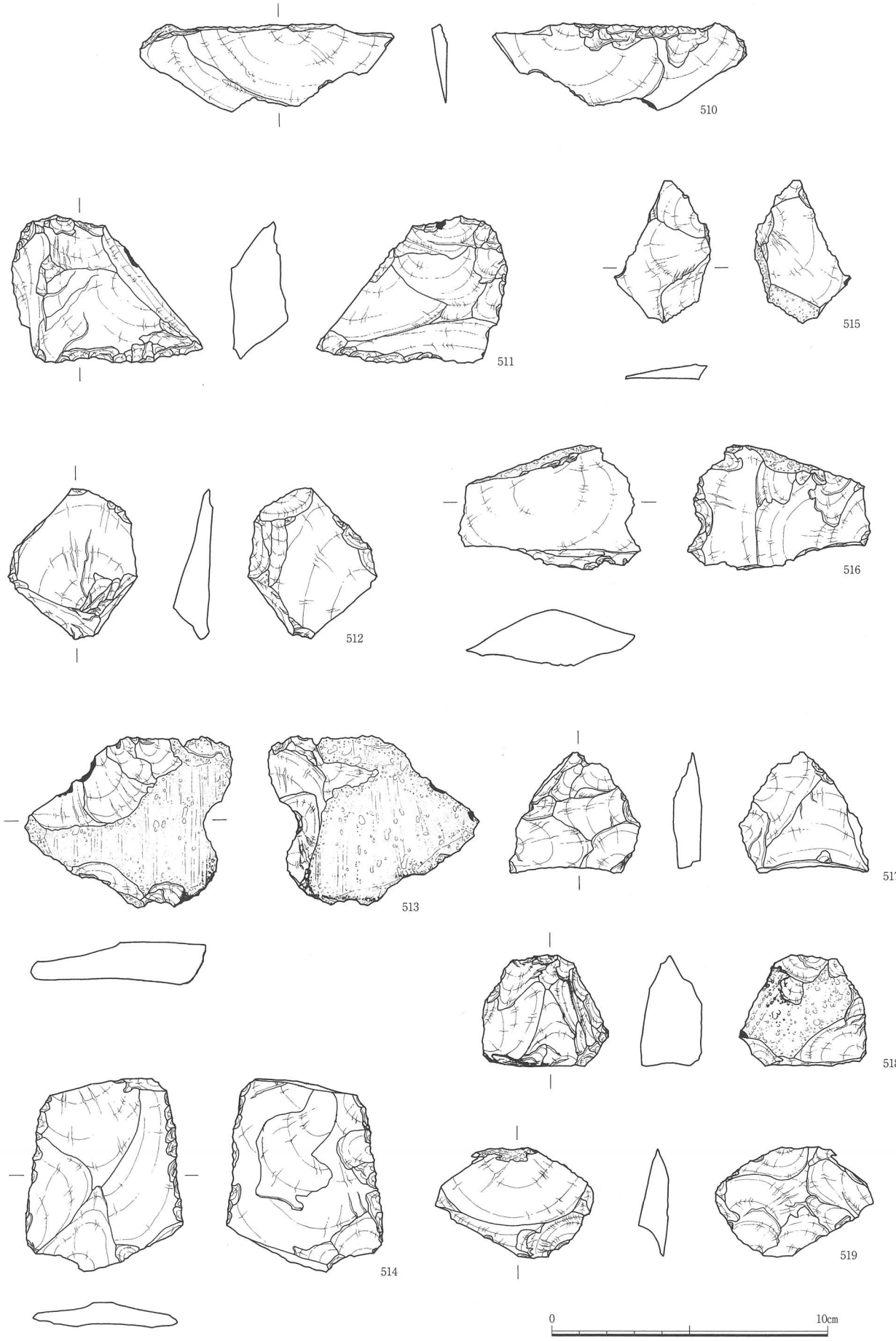
500は、剥片の中では唯一の緑色結晶片岩である。製品の特定はできない。



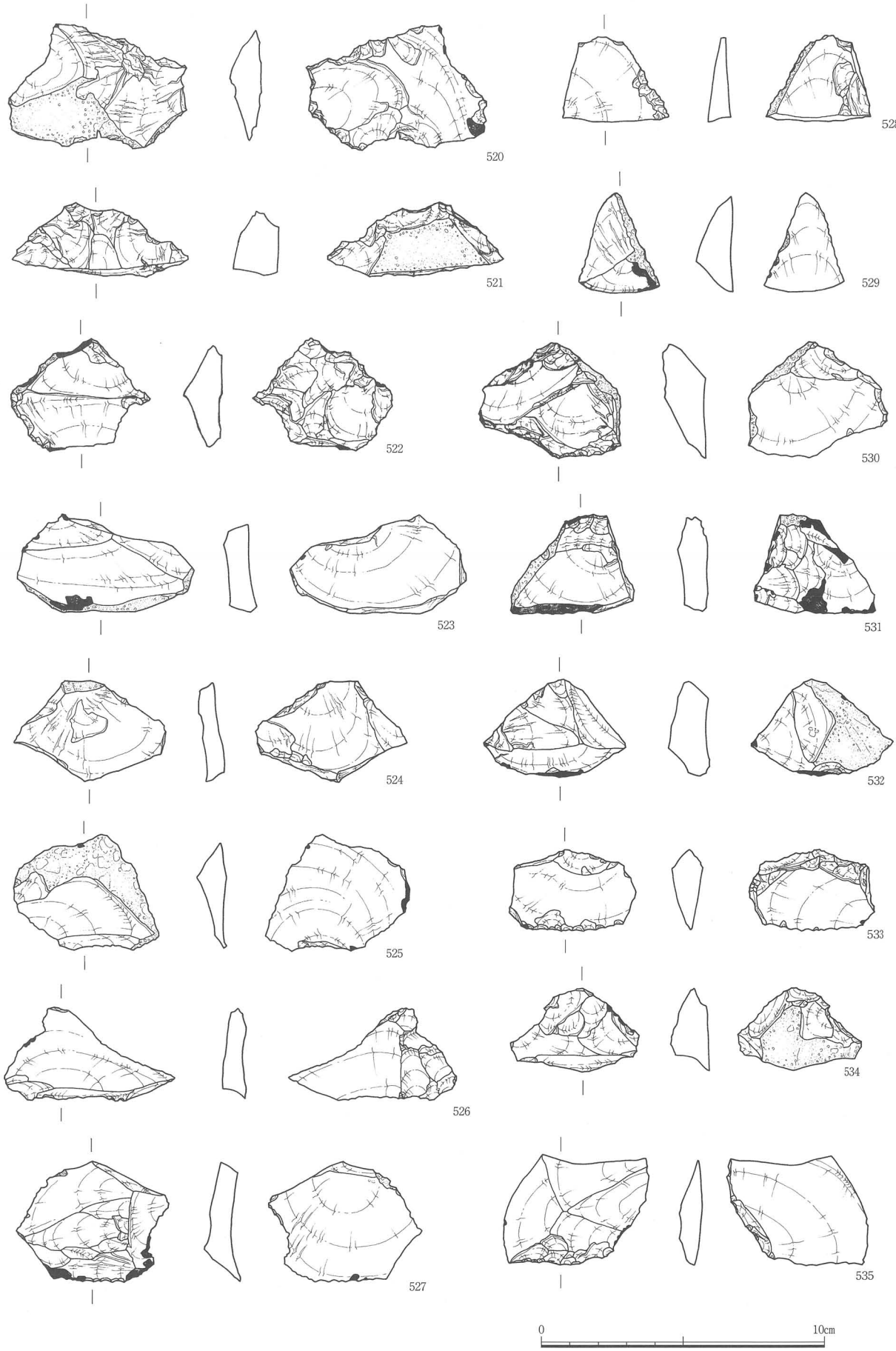
第75図　縄文石器（５）



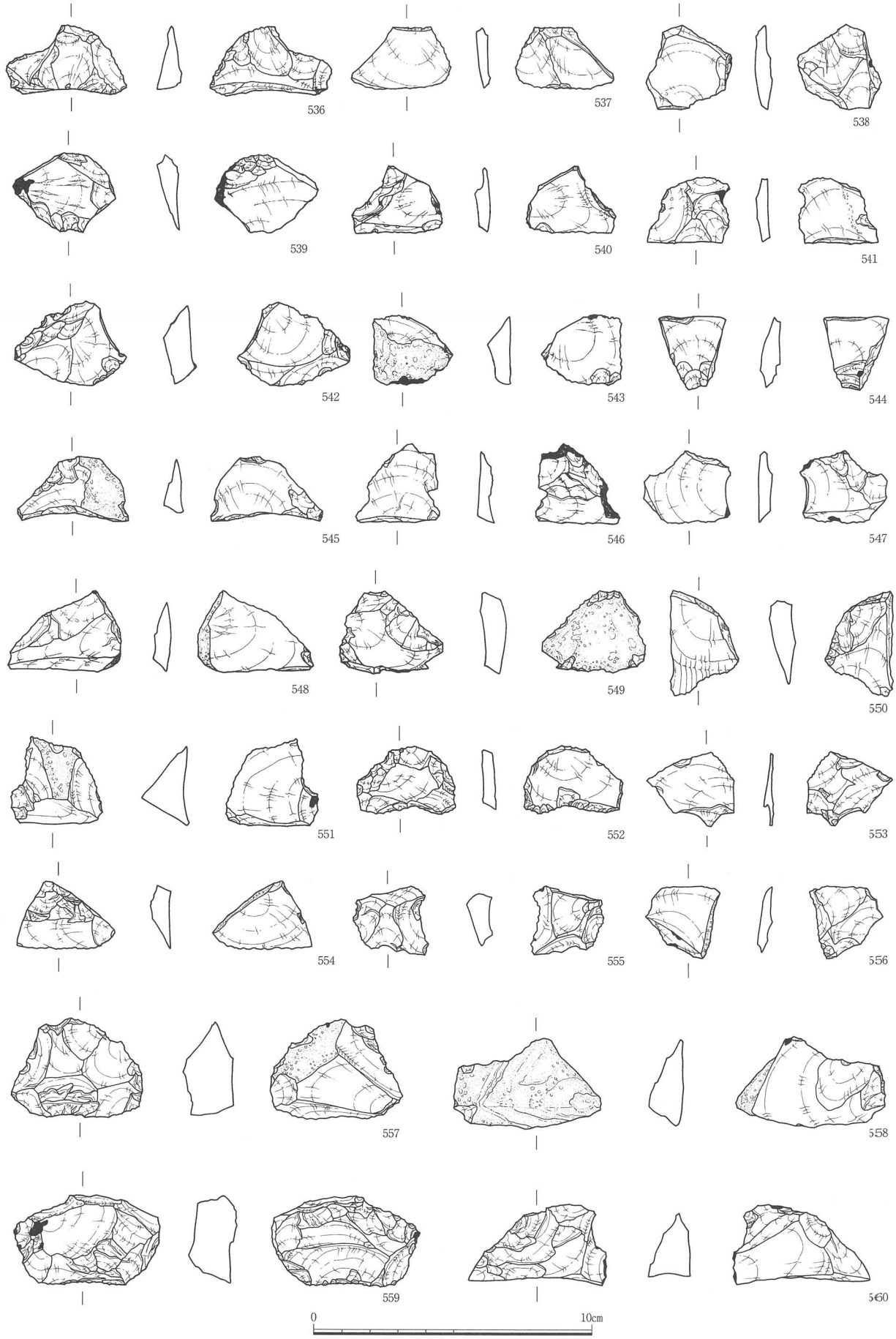

第76図　縄文石器（6）



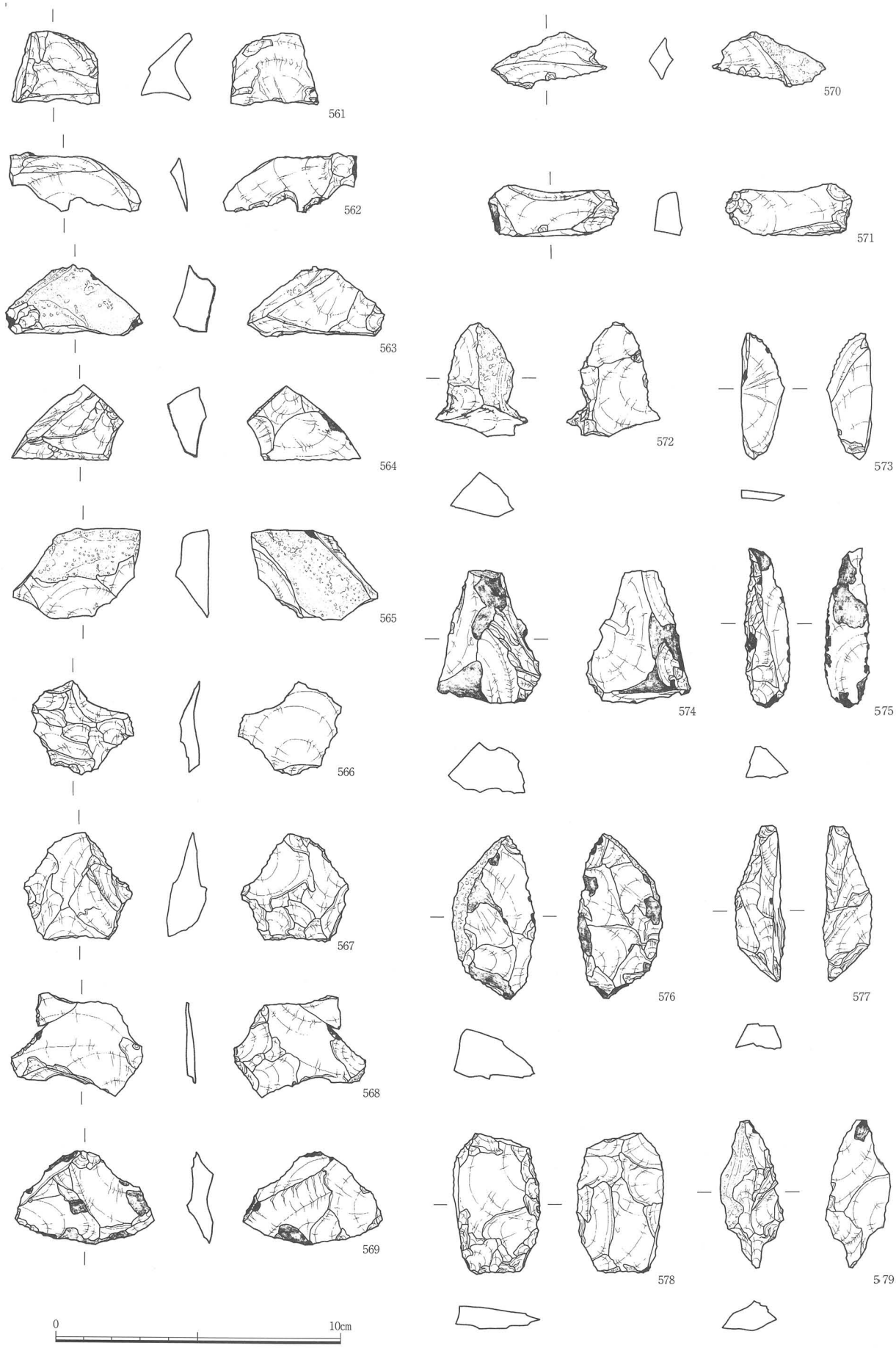

第77図　縄文石器（7）


520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
0
10cm

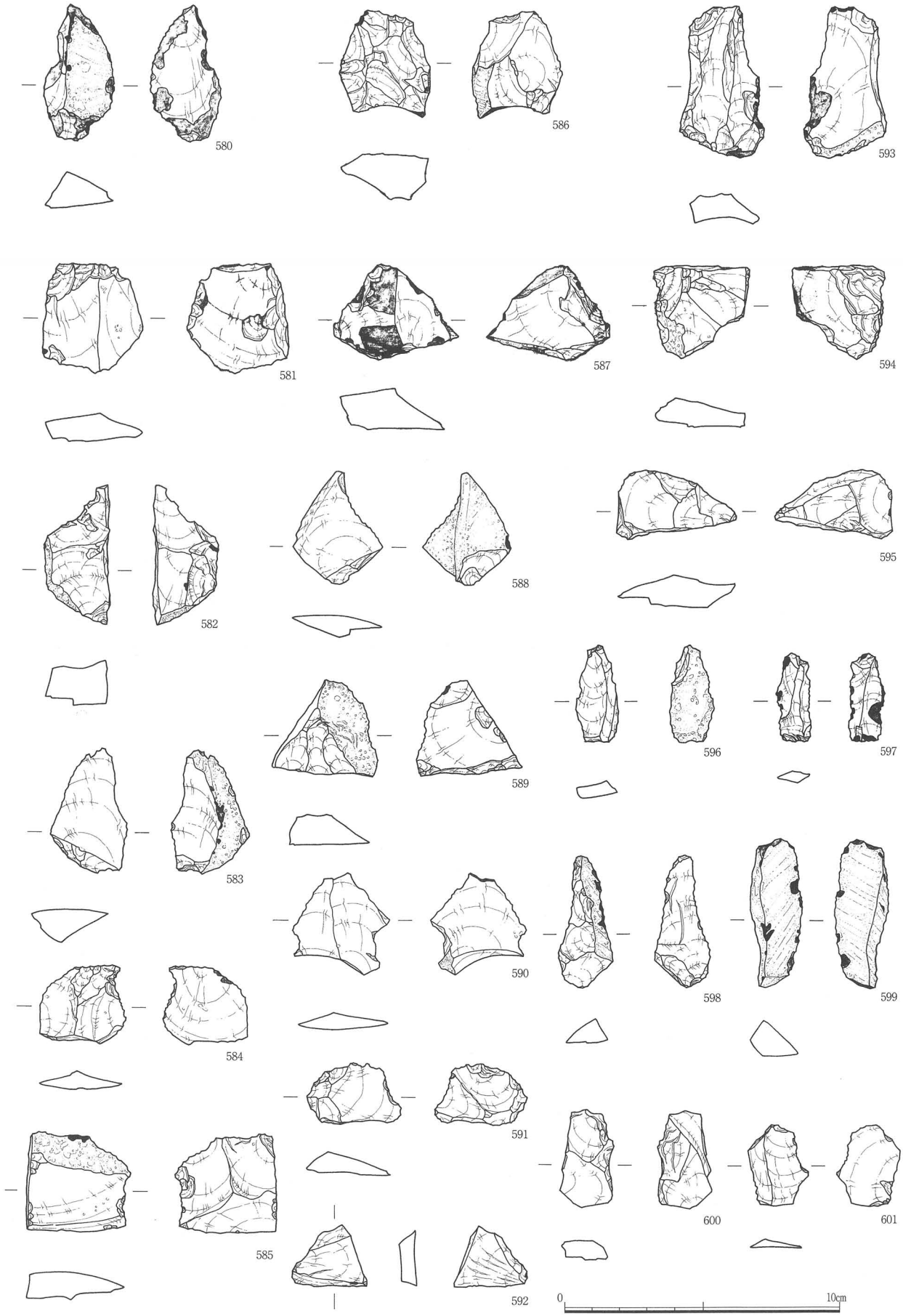
第78図　縄文石器（8）


536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
0
10cm

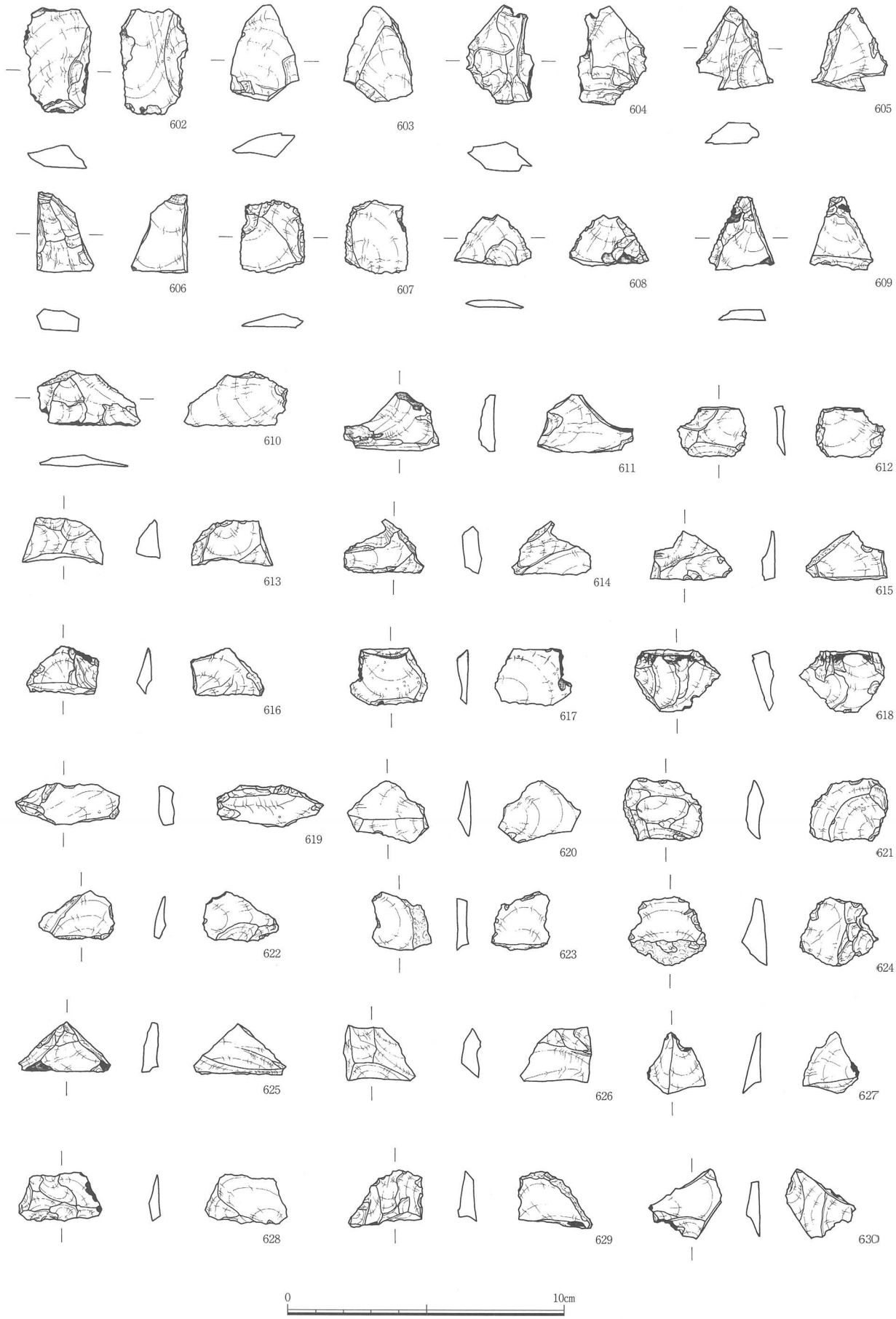
第79図　縄文石器（9）


561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
0
10cm

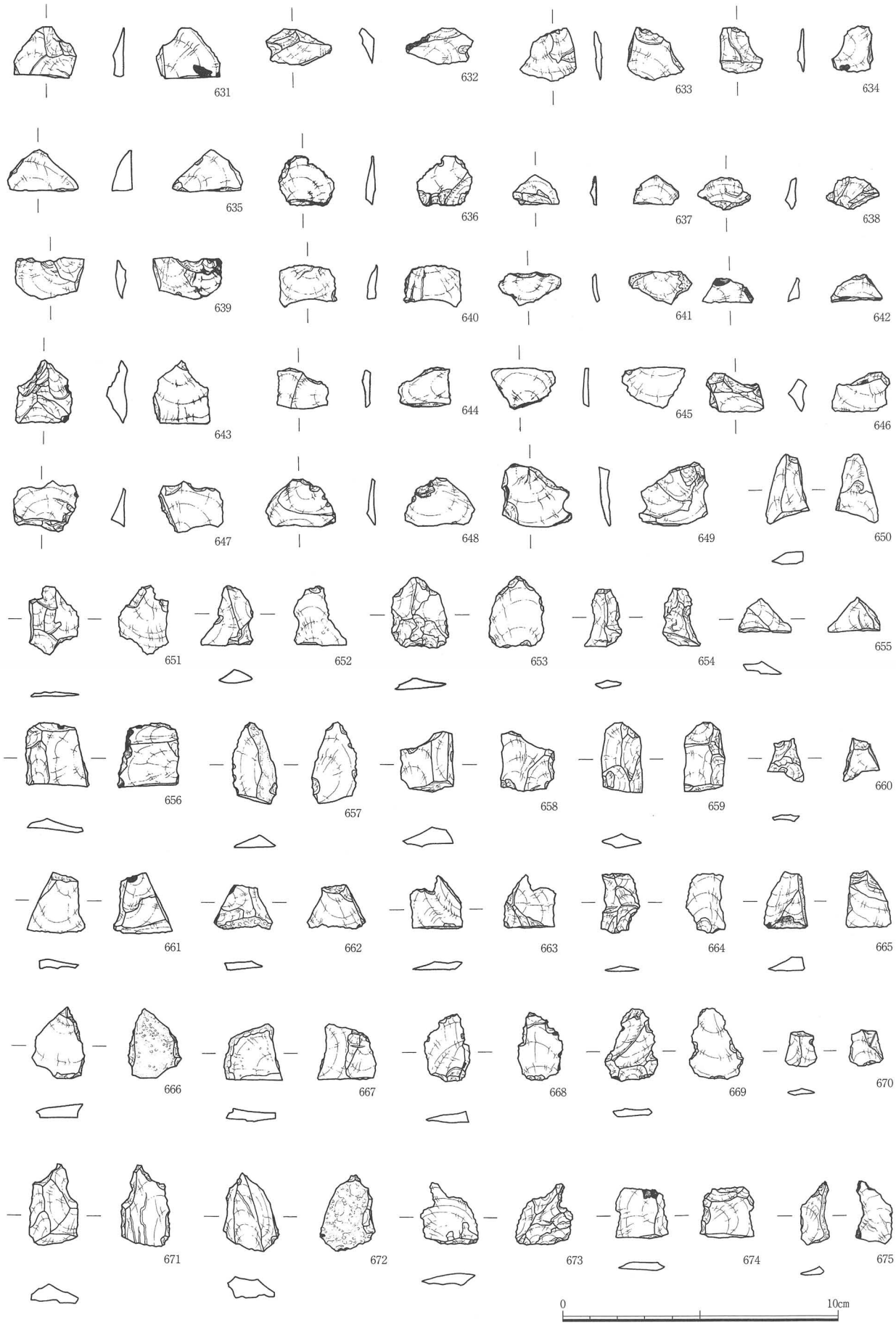
第80図　縄文石器（10）


580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
0
10cm

第81図　縄文石器（11）


602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
0
10cm

第82図　縄文石器（12）


631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
0
10cm

第83図　縄文石器（13）

# V　縄文土器の胎土分析の成果

## (1)　はじめに

土器の胎土分析は、一般的には製作地の推定を目的として行われる場合が多い。しかしながら、例えば胎土中に含まれる岩石片の特徴から、これら砂粒物の示す地域がいずれであるかを推定することは容易でない。土器胎土は、基本材料として粘土と砂粒などの混和材から構成されるが、粘土材料は比較的良質とも思える粘土層から採取されたことが、粘土採掘坑の調査から推察される（藤根・今村2001)。

一方、混和材としての砂粒物は、これら粘土採取の際に粘土層の上下層に分布する砂層などを採取したことが予想される。東海地域には、弥生時代後期の赤彩を施したパレススタイル土器が知られているが、これら３分の１程度の土器では、砂粒物として火山ガラスが多量に含まれるが(藤根1998)、これら火山ガラスは、粘土採取の際に上下層に分布したと思われるテフラ層と予想される。このように、胎土中の混和材は、砂層の特徴である可能性が高く、現河川砂とは大きく異なることから、現在の河川砂との比較では問題が大きい。こうしたことから、以前に堆積した段丘堆積物の砂層などとの比較検討が必要と思われる。

土器胎土については、第一に土器に使用した粘土や混和材がどのような特徴を持つかを十分理解することが重要であり、こうした特徴を持つと思われる粘土層や砂層などと比較検討すべきと考える。

鳳東町４丁遺跡は、堺市鳳東町地内に所在する遺跡であるが、調査では縄文時代後期の土器が出土している。ここでは、鳳東町４丁遺跡から出土した縄文時代の土器について、その胎土の材料を検討した。

| 分析No. | 取上No. | 種別 | 胎土材料の分類 |
|---|---|---|---|
| 1 | 277 | 縄文土器 | A類（断層ガウジ） |
| 2 | 658－1 | | A類（断層ガウジ） |
| 3 | 658－2 | | B類（水成粘土） |
| 4 | 502 | | A類（断層ガウジ） |
| 5 | 554 | | B類（水成粘土） |
| 6 | 536 | | A類（断層ガウジ） |
| 7 | 564 | | B類（水成粘土） |
| 8 | 545 | | B類（水成粘土） |
| 9 | 533 | | A類（断層ガウジ） |
| 10 | 633 | | B類（水成粘土） |

表１　分析資料一覧表および胎土分類（計数結果による）

## (2) 試料と方法

試料は、鳳東町４丁遺跡から出土した縄文時代の土器10試料である（表１)。

これら試料は次の手順に従って偏光顕微鏡観察用の薄片を作成し、偏光顕微鏡による粒子毎の岩石・鉱物組成を調べた。(1) 試料は、始めに岩石カッターなどで整形し、恒温乾燥機により

乾燥した。全体にエポキシ系樹脂を含浸させ固化処理を行った。これをスライドグラスに接着し平面を作成した後、同様にその平面の固化処理を行った。（2）さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作成した後スライドグラスに接着した。（3）その後、精密岩石薄片作製機を用いて切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ0.02㎜前後の薄片を作成した。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

土器胎土中の岩石・鉱物組成は、松田ほか（1999）による粒子ポイント法に従った。同定は、顕微鏡下300倍の倍率において行った。なお、試料は、薄片全面について微化石類（珪藻化石、骨針化石）や計数外の岩石片の特徴について観察・記載を行なった。なお、ここで採用した各分類群の記載とその特徴などは以下の通りである。

[珪藻化石]

珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、その大きさは10～数百μm程度である。珪藻は海水域から淡水域に広く分布し、個々の種類によって特定の生息環境をもつ。最近では、小杉（1988）や安藤（1990）によって環境指標種群が設定され、具体的な環境復原が行なわれている。ここでは、種あるいは属が同定できるものについて珪藻化石（淡水種）と分類し、同定できないものは珪藻化石（？）とした。なお、各胎土中の珪藻化石は、その詳細を記載した。

[骨針化石]

海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状などを呈する。海綿動物は、多くは海産であるが、淡水産としても日本において23種ほどが知られ、湖や池あるいは川の水底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。

[植物珪酸体]

植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、大きさは種類によっても異なり、主に約10～50μm前後である。一般的にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本、スゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在することが知られている。ファン型や亜鈴型あるいは棒状などがあるが、ここでは大型のファン型と棒状を対象とした。

[胞子化石]

胞子状粒子は、珪酸質と思われる直径10～30μm程度の小型無色透明の球状粒子である。これらは、水成堆積中で多く見られるが、土壌中にも含まれる。

[多結晶石英]

石英あるいは長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち後述する双晶などのように光学的に特徴をもたないものは石英と区別するのが困難である場合が多い。

[長石類]

長石は大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶（主として平行な縞）を示すものと累帯構造（同心円状の縞）を示すものに細分される（これらの縞は組成の違いを反映している）。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの（パーサイト構造）と格子状構造（微斜長石

構造）を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶（微文象構造という）である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶（斑晶）の斜長石にみられることが多い。パーサイト構造を示すカリ長石は花崗岩などの$SiO_2$%の多い深成岩や低温でできた泥質・砂質の変成岩などに産する。ミルメカイトあるいは文象岩は火成岩が固結する過程の晩期に生じると考えられている。これら以外の斜長石は、火成岩、堆積岩、変成岩に普通に産する。

[雲母類]

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開（規則正しい割れ目）にそって板状に剥がれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。花崗岩などの$SiO_2$%の多い火成岩に普遍的に産し、泥質、砂質の変成岩および堆積岩にも含まれる。なお、雲母類のみが複合した粒子を複合雲母類とした。

[輝石類]

主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石（主に紫蘇輝石）は、肉眼的にビール瓶のような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。$SiO_2$%が少ない深成岩、$SiO_2$%が中間あるいは少ない火山岩、ホルンフェルスなどのような高温で生じた変成岩に産する。単斜輝石（主に普通輝石）は、肉眼的に緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主として$SiO_2$%が中間から少ない火山岩によく見られ、$SiO_2$%の最も少ない火成岩や変成岩中にも含まれる。

[角閃石類]

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は細長く平たい長柱状である。閃緑岩のような$SiO_2$%が中間的な深成岩をはじめ火成岩や変成岩などに産する。

[火山ガラス]

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄くて湾曲したガラス（バブル・ウォール型）や小さな泡をたくさんもつガラス（軽石型）などがある。主に火山の噴火により噴出された噴出物と考えるが、凝灰岩中にも含まれる。

[安山岩類]

斑晶質は斑晶（鉱物の結晶）状の部分と石基状のガラス質の部分が明瞭に確認できるものである。ここでは、斑晶質の岩石を安山岩とした。

[凝灰岩類]

凝灰岩質は、ガラスや鉱物、火山岩片などの火山砕屑物などから構成され、非晶質でモザイックな文様構造を示す。起源となる火山により鉱物組成は変わる。

[多結晶石英]

複合石英類は石英の集合している粒子で、基質（マトリックス）の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は粗粒なものから細粒なものまで様々である。なお、片理構造を示す岩石は結晶片岩とした。

[砂岩および粘土岩]

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、それらの間に基質の部分をもつもので、含まれる粒子の大きさが約0.06㎜以上のものを砂岩質とし、約0.06㎜未満のものを泥岩質とする。なお、微細で結晶度の高い岩石はチャートとした。

（3）結果

以下に、土器胎土について計数結果（表２・３）および計数以外の特徴について述べる。

№１：粒度組成は、極細粒砂および粗粒シルトが多く、砂粒の占める割合は極めて高い。岩石・鉱物組成は、角閃石類が特徴的に多く、はんれい岩および花崗岩類からなる。イネ科植物の葉身に含まれる植物珪酸体が含まれていた。斜長石は粒子内断層やたわみなどの変形双晶からなり、尖った形状を示す鉱物が多い。

№２：粒度組成は、極細粒砂および粗粒シルトが多く、角閃石類が特徴的に多く、砂粒の占める割合は極めて高い。岩石・鉱物組成は、はんれい岩および花崗岩類からなる。イネ科植物の葉身に含まれる植物珪酸体が含まれていた。斜長石は粒子内断層やたわみなどの変形双晶からなり、尖った形状を示す鉱物が多い。

№３：粒度組成は、細粒シルトが多く、砂粒の占める割合は極めて低い。岩石・鉱物組成は、石英や長石のほか砂岩や花崗岩類からなる。また、片岩類を少量含む。微化石類は骨針化石や湖沼浮遊生指標種群Melosiragranulata、淡水種Pinnularia属、Cymbella属、Stephanodiscusastraeが含まれていた。なお、植物遺体やイネ科植物の葉身に含まれる植物珪酸体が含まれていた。

№４：粒度組成は、極細粒砂および粗粒シルトが多く、角閃石類が特徴的に多く、砂粒の占める割合は極めて高い。岩石・鉱物組成は、はんれい岩および花崗岩類からなる。イネ科植物の葉身に含まれる植物珪酸体が含まれていた。斜長石は粒子内断層やたわみなどの変形双晶からなり、尖った形状を示す鉱物が多い。なお、カタクラサイトも見られた。

№５：粒度組成は、細粒シルトが多く、砂粒の占める割合は比較的高い。岩石・鉱物組成は、石英や長石のほか砂岩や花崗岩類からなる。微化石類は、骨針化石や湖沼浮遊生指標種群Melosiragranulata、海水種Thalassiosira属／Coscinodiscus属、不明種が含まれていた。なお、イネ科植物の葉身に含まれる植物珪酸体が含まれていた。

№６：粒度組成は、極細粒砂および粗粒シルトが多く、角閃石類が特徴的に多く、砂粒の占める割合は極めて高い。岩石・鉱物組成は、はんれい岩および花崗岩類からなる。イネ科植物の葉身に含まれる植物珪酸体が含まれていた。斜長石は粒子内断層やたわみなどの変形双晶からなり、尖った形状を示す鉱物が多い。

№７：粒度組成は、細粒シルトが多く、砂粒の占める割合は極めて低い。岩石・鉱物組成は、石英や長石のほか砂岩や花崗岩類からなる。微化石類は、骨針化石や湖沼浮遊生指標種群Melosiragranulata、淡水種Pinnularia属、Cymbella属、Stephanodiscusastrae、内湾指標種群Cyclotellastyrolum、海水種Thalassiosira属／Coscinodiscus属が含まれていた。なお、植物遺体

やイネ科植物の葉身に含まれる植物珪酸体が含まれていた。

№8：粒度組成は、極細粒砂および細粒シルトが多く、砂粒の占める割合は比較的高い。岩石・鉱物組成は、石英や長石のほか砂岩からなる。また、花崗岩類も含まれていた。微化石類は、骨針化石や湖沼浮遊生指標種群Melosiragranulata、淡水種Melosiraambiguaが含まれていた。なお、イネ科植物の葉身に含まれる植物珪酸体が含まれていた。

№9：粒度組成は、極細粒砂～中粒シルトが多く、角閃石類が特徴的に多く、砂粒の占める割合は極めて高い。岩石・鉱物組成は、はんれい岩および花崗岩類からなる。イネ科植物の葉身に含まれる植物珪酸体が含まれていた。斜長石は粒子内断層やたわみなどの変形双晶からなり、尖った形状を示す鉱物が多い。

№10：粒度組成は、細粒シルトが多く、砂粒の占める割合は極めて低い。岩石・鉱物組成は、石英や長石のほか砂岩からなる。また、花崗岩類も含まれていた。微化石類は、骨針化石や湖沼浮遊生指標種群Melosiragranulata、淡水種Pinnularia属、海水種Thalassiosira属/Coscinodiscus属が含まれていた。なお、植物遺体やイネ科植物の葉身に含まれる植物珪酸体が含まれていた。

（4）考察

ⅰ）胎土材料の特徴

検討した縄文土器の胎土は、粘土および鉱物・岩石の特徴から、大きくA類、B類に分類される（表1）。

A類は、角閃石類およびはんれい岩を主体とした組成からなる5試料である。

A類は、これらの胎土は、角閃石やはんれい岩を含むほか、斜長石内の微小断層が見られるものが多く、その他の石英などの粒子も尖った形状を呈するなど断層岩特有の粒子が見られた。このことから、これらは生駒西麓産土器（河内の土器）と呼ばれる土器群の特徴と一致する（藤根・小坂1997）。藤根・小坂（前出）が検討した土器では、5μm未満の粒子の占める割合が37体積％と低く、断層内物質の特徴と共通することから、これら土器群が断層内物質をそのまま利用して作られた土器と考えられている。また、生駒山西麓には、生駒はんれい岩類が分布し、長さ21kmに及ぶ生駒断層が存在するが、かつてこの断層により生成した断層粘土（断層ガウジ）が採取でき、同質の土器ができたことから、この断層粘土が利用されたものと考えられている（藤根・小坂、前出）。

B類は堆積岩類を主体として花崗岩類を伴う組成で、淡水成粘土からなる5試料である。
これらの試料中には、淡水種珪藻化石のほか、骨針化石が含まれていることから、粘土材料は淡水成粘土を使用している。なお、分析№5、№7、№10では、海水種珪藻化石が含まれていた。

ⅱ）遺跡周辺の地質と胎土組成の比較

土器胎土の材料は、生駒西麓産土器のように本来砂粒物を含んだ粘土を使用した場合もあるが、一般的には粘土と砂粒などの混和材からなる人工物と理解される。このうち、粘土は、段丘堆積物としての粘土層のほか、山間部谷部において基盤岩石が風化して堆積した粘土堆積物も考えら

れる。混和材は、周辺岩石が主に河川により細粒化した段丘堆積物としての砂や火山灰など利用されたことが考えられる。

遺跡周辺には、大阪層群および段丘堆積物が広く分布し、海成粘土および段丘成粘土など良質の粘土が見られる。B群とした土器胎土中には、骨針化石や海水種珪藻化石などが含まれることから、在地材料である可能性が高い。

一方、A群の土器は、その特徴から角閃石はんれい岩なとが母材と推定される。前述したように、隣接地域では、生駒山西麓に分布することが知られる（藤根・小坂、前出）が、こうした特徴をもつ土器群は、同様の地質学的条件が他地域においても存在することから、今後十分な検討が必要である。

（5）おわりに

ここでは、鳳東町４丁遺跡から出土した縄文時代の土器について、その胎土の材料を検討した。その結果、大きくA類、B類に分類された。A類は、角閃石およびはんれい岩を主体とした組成であり、断層ガウジを利用している。また、B類は堆積岩類を主体として花崗岩類を伴う組成であり、水成粘土を利用している。

今後は、遺跡周辺において段丘堆積物などの材料に関する地質調査を行うことにより、より精緻な検討ができるものと考えている。

引用文献

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42,2,73-88.

藤根久・小坂和夫（1997）生駒西麓（東大阪市）産の縄文土器の胎土材料　ー断層内物質の可能性ー．第四紀研究，36：55-62.

藤根久（1998）東海地域（伊勢ー三河湾周辺）の弥生および古墳土器の材料．第６回東海考古学フォーラム岐阜大会、土器・墓が語る、108－117.

藤根　久・今村美智子（2001）第３節　土器の胎土材料と粘土採掘坑対象堆積物の特徴．「波志江中宿遺跡」、日本道路公団・伊勢崎市・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団、p.262-277.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用．第四紀研究，27,1-20.

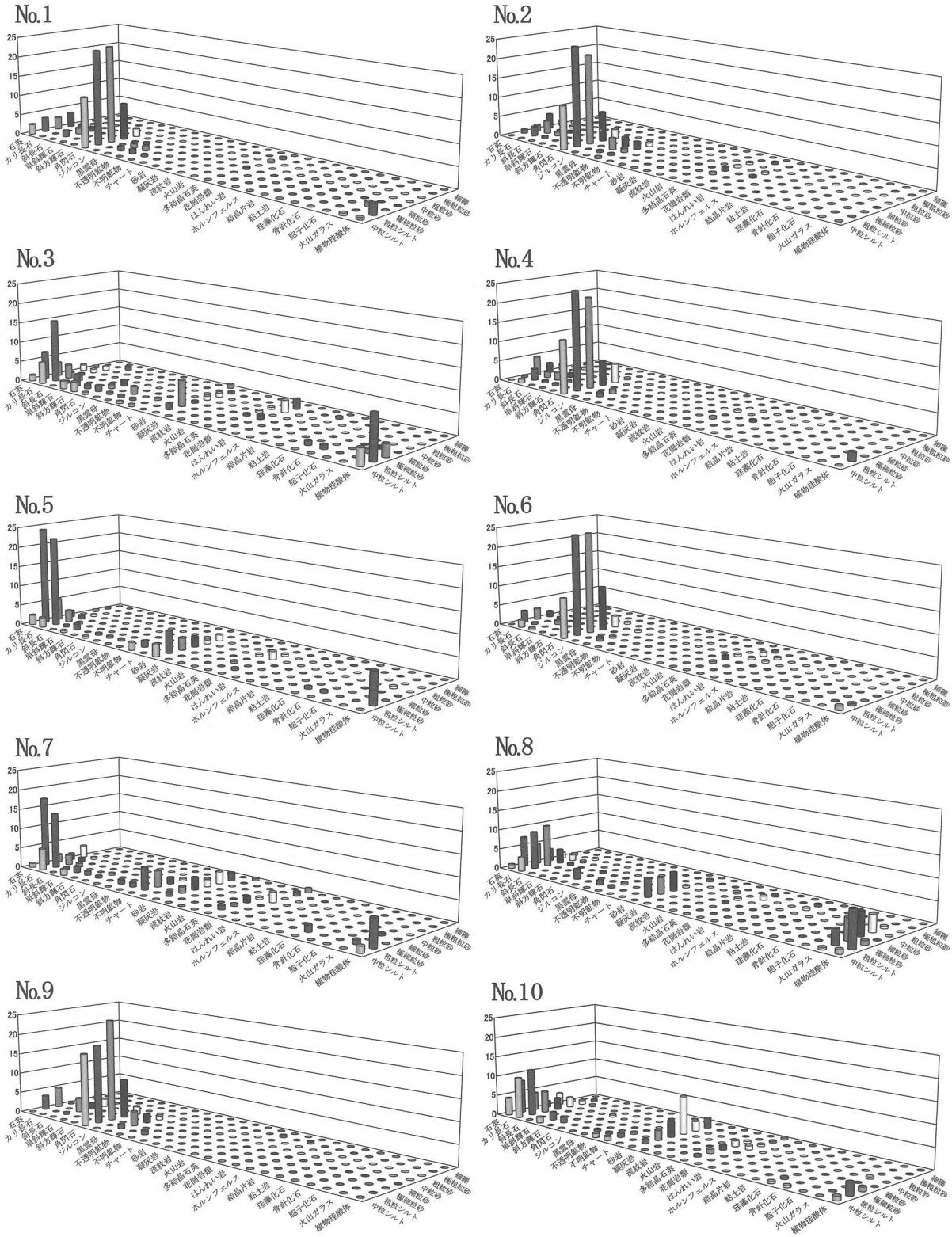
松田順一郎・三輪若菜・別所秀高（1999）瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察―岩石学的・堆積学的による―．日本文化財科学会第16回大会発表要旨集、120-121.

| 資料 | 砂粒区分 | | 砂粒の種類構成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 合計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 鉱物片 | | | | | | | | | | 岩石片 | | | | | | | | | | | その他 | | | | | | |
| | | | 石英 | カリ長石 | 斜長石 | 単斜輝石 | 斜方輝石 | 角閃石 | ジルコン | 黒雲母 | 不透明鉱物 | 不明鉱物 | チャート | 砂岩 | 凝灰岩 | 流紋岩 | 安山岩 | 多結晶石英 | 花崗岩類 | はんれい岩 | ホルンフェルス | 結晶片岩 | 粘土岩 | 珪藻化石 | 骨針化石 | 胞子化石 | 火山ガラス | 植物珪酸体 | | |
| 1 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | |
| | | 中粒砂 | | 1 | | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | |
| | | 細粒砂 | 7 | 2 | 2 | | | 18 | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 31 | 斜長石の変形双晶 |
| | | 極細粒砂 | 6 | | 3 | | | 48 | | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 63 | 尖った結晶含む |
| | | 粗粒シルト | 7 | | 3 | | | 47 | | 2 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | 67 | |
| | | 中粒シルト | 5 | | | | | 25 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 32 | |
| | 合計 | | 25 | 3 | 8 | | | 142 | | 5 | 4 | 1 | | | | | | 3 | | | | | | | | | 3 | 6 | 200 | |
| | 基質 | | 181 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 181 | |
| | 孔隙 | | 26 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 26 | |
| 2 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | |
| | | 粗粒砂 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 2 | |
| | | 中粒砂 | 3 | 1 | | | | 5 | | | 2 | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | 13 | |
| | | 細粒砂 | 8 | | 1 | | | 16 | | 5 | 4 | | | | | | | 2 | | 1 | | | | | | | | | 37 | |
| | | 極細粒砂 | 3 | 7 | 2 | | | 49 | | 6 | 2 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 70 | 斜長石の変形双晶 |
| | | 粗粒シルト | 2 | 5 | 1 | | | 61 | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 71 | 尖った結晶含む |
| | | 中粒シルト | | | | | | 24 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 25 | |
| | 合計 | | 17 | 13 | 4 | | | 155 | | 12 | 10 | | | | | | | 5 | 1 | 2 | | | | | | | | | 219 | |
| | 基質 | | 256 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 256 | |
| | 孔隙 | | 13 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 13 | |
| 3 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| | | 極粗粒砂 | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | | | | 5 | | | 1 | | | | | | | 9 | |
| | | 粗粒砂 | 1 | 2 | | | | | | | | | | 2 | | | | 1 | 6 | | | | | | | | | | 12 | |
| | | 中粒砂 | 3 | 2 | | | | | | | | | | 2 | | | | 1 | | | | | | | | | | | 8 | |
| | | 細粒砂 | | 1 | | | | 3 | | | | | | 1 | | | | 1 | 2 | | | | | | | | 1 | | 9 | |
| | | 極細粒砂 | 7 | 7 | 2 | | | 2 | | 4 | | 1 | | 13 | | | | | | | | | | | | | 2 | 6 | 44 | 骨針化石 |
| | | 粗粒シルト | 14 | 32 | 1 | 6 | 2 | 3 | 1 | 1 | 1 | | | 3 | | | | | | | | | | 2 | 2 | | | 21 | 89 | 淡水種珪藻化石 |
| | | 中粒シルト | 3 | 11 | | 4 | 5 | 1 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 8 | 34 | |
| | 合計 | | 28 | 55 | 5 | 10 | 7 | 9 | 1 | 5 | 2 | 2 | 2 | 22 | | | | 3 | 13 | | | 1 | | 2 | 2 | | 3 | 35 | 207 | |
| | 基質 | | 1636 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1636 | |
| | 孔隙 | | 186 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 186 | |
| 4 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 粗粒砂 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| | | 中粒砂 | 3 | 1 | | | | 10 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 15 | |
| | | 細粒砂 | 5 | | 2 | | | 13 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 21 | 斜長石の変形双晶 |
| | | 極細粒砂 | 10 | 3 | 4 | 1 | | 48 | | 2 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 69 | 尖った結晶含む |
| | | 粗粒シルト | 1 | 6 | 1 | 1 | | 58 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | 73 | |
| | | 中粒シルト | | 2 | | | | 28 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 30 | |
| | 合計 | | 19 | 13 | 7 | 2 | | 158 | | 4 | | | | | | | | 2 | | 1 | | | | | | | | 4 | 210 | |
| | 基質 | | 309 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 309 | |
| | 孔隙 | | 10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10 | |
| 5 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 極粗粒砂 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | | 粗粒砂 | 1 | | | | | | | | | | | 3 | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | 6 | |
| | | 中粒砂 | | 1 | | | | | | | | | | 2 | | | | 1 | 4 | | | | | | | | 1 | | 9 | |
| | | 細粒砂 | 3 | 2 | | | | | | | | | | 5 | | | | | | | | | | | | | | | 10 | 骨針化石 |
| | | 極細粒砂 | 11 | 6 | 1 | | | | | | | | | 6 | | | | 1 | | | | | | | | | | | 25 | 淡水種珪藻化石 |
| | | 粗粒シルト | 50 | 46 | 1 | 3 | | 1 | 1 | 1 | | 3 | | 11 | | | | | 1 | | | | | 1 | 1 | | | 15 | 135 | |
| | | 中粒シルト | 5 | 5 | | 1 | | 1 | | | | 4 | | 6 | | | | | | | | | | | | | | | 22 | |
| | 合計 | | 71 | 60 | 2 | 4 | | 2 | 1 | 1 | | 7 | | 33 | | | | 3 | 6 | | | | | 1 | 1 | | 1 | 15 | 208 | |
| | 基質 | | 405 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 405 | |
| | 孔隙 | | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 | |

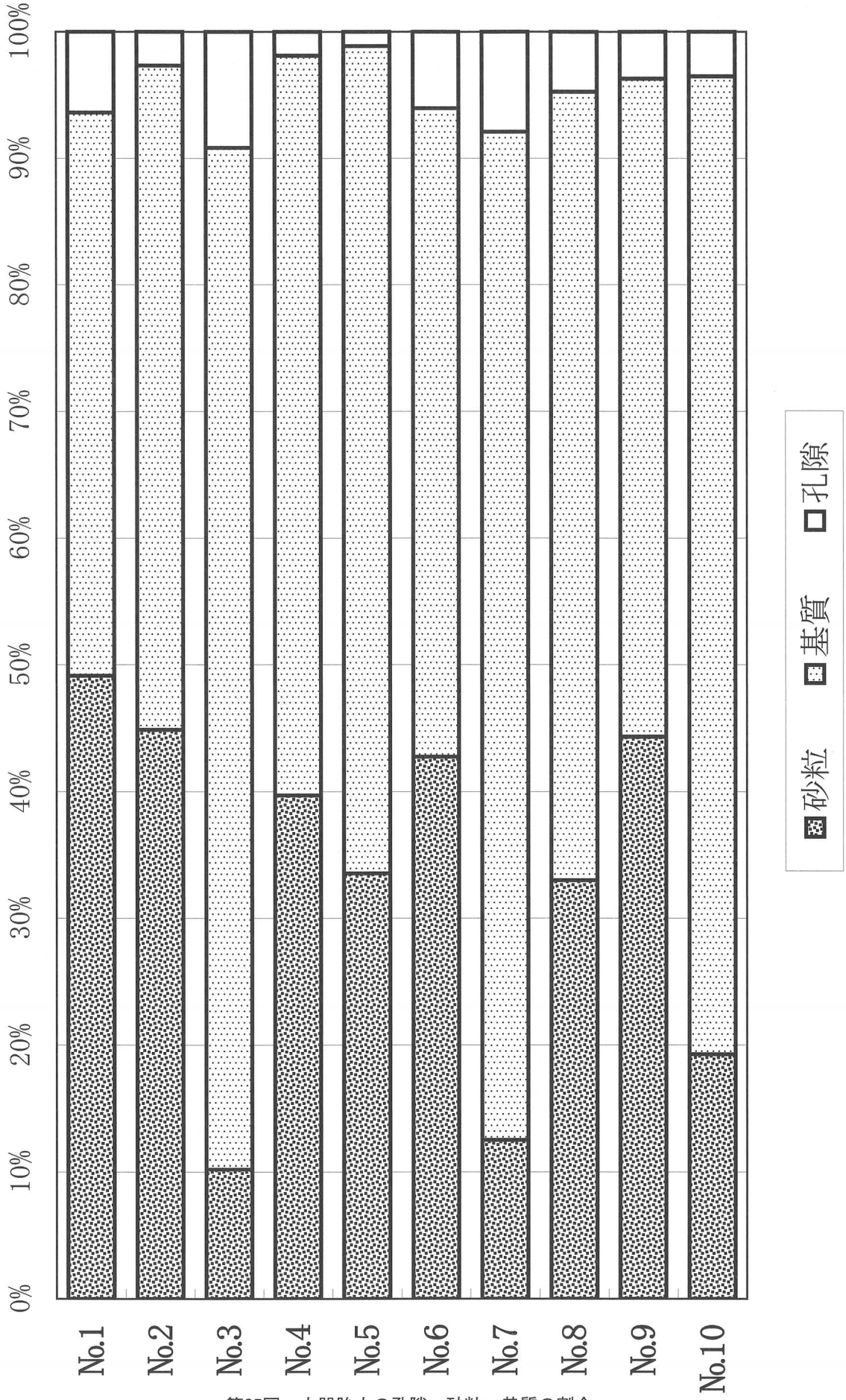
表２　薄片観察結果（１）

| 資料 | 砂粒区分 | | 砂粒の種類構成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 合計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 鉱物片 | | | | | | | | | | | 岩石片 | | | | | | | | | | その他 | | | | | |
| | | | 石英 | カリ長石 | 斜長石 | 単斜輝石 | 斜方輝石 | 角閃石 | ジルコン | 黒雲母 | 不透明鉱物 | 不明鉱物 | チャート | 砂岩 | 凝灰岩 | 流紋岩 | 安山岩 | 多結晶石英 | 花崗岩類 | はんれい岩 | ホルンフェルス | 結晶片岩 | 粘土岩 | 珪藻化石 | 骨針化石 | 胞子化石 | 火山ガラス | 植物珪酸体 | | |
| 6 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | |
| | | 粗粒砂 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 2 | 1 | | | | | | | | | 4 | |
| | | 中粒砂 | 1 | | | | | 6 | | 1 | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | 11 | |
| | | 細粒砂 | 3 | 1 | | | | 23 | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | 29 | |
| | | 極細粒砂 | 6 | | 2 | | | 63 | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 73 | 斜長石の変形双晶 |
| | | 粗粒シルト | 6 | 1 | | | | 56 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 66 | 尖った結晶含む |
| | | 中粒シルト | | 4 | 1 | | | 21 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 28 | |
| | 合計 | | 16 | 6 | 3 | | | 170 | | 4 | | | | | | | | 4 | 4 | 2 | | | | | | | | 3 | 212 | |
| | 基質 | | 254 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 254 | |
| | 孔隙 | | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 30 | |
| 7 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | 2 | | | | | | | | | | 4 | |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | 4 | | | | | 2 | | | | | | | | | | 6 | |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | 1 | 6 | | | | | | | | | | | | | | | 7 | |
| | | 中粒砂 | 6 | 1 | | | | | | | | 1 | | 3 | | | | 1 | 5 | | | | | | | | | | 17 | |
| | | 細粒砂 | 3 | 2 | | | | | | | | 3 | | 6 | | | | 3 | | | | | | | | | 1 | | 18 | 骨針化石多産 |
| | | 極細粒砂 | 4 | 5 | 2 | | | 1 | | | | 8 | | 3 | | | | 1 | | | | | | | | | | | 24 | 淡水種珪藻化石 |
| | | 粗粒シルト | 35 | 28 | 1 | 3 | 2 | 1 | | 2 | 2 | 11 | | 2 | | | | 2 | | | | | | 3 | | | 2 | 13 | 107 | 海水種珪藻化石 |
| | | 中粒シルト | 2 | 11 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 3 | 20 | |
| | 合計 | | 50 | 47 | 3 | 6 | 2 | 2 | | 2 | 2 | 23 | 2 | 24 | 1 | | | 7 | 9 | | | | | 3 | | 1 | 3 | 16 | 203 | |
| | 基質 | | 1289 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1289 | |
| | 孔隙 | | 128 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 128 | |
| 8 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | 3 | |
| | | 粗粒砂 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | 2 | | | 1 | | | | | 1 | | 7 | |
| | | 中粒砂 | 3 | 3 | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | 8 | | 17 | |
| | | 細粒砂 | 6 | 7 | 1 | | | 1 | | | | | | 9 | | | | 1 | | | | | | | | | 11 | | 36 | |
| | | 極細粒砂 | 10 | 21 | | | | | | | 1 | | | 8 | | | | | | | | | | | | | 10 | 2 | 52 | 骨針化石 |
| | | 粗粒シルト | 15 | 19 | | | | 5 | | 2 | 1 | | | 9 | | | | | | | | | | | | | 7 | 17 | 75 | 淡水種珪藻化石 |
| | | 中粒シルト | 2 | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 | 12 | |
| | 合計 | | 37 | 57 | 3 | 0 | 0 | 6 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 28 | 0 | 0 | 1 | 2 | 3 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 38 | 21 | 202 | |
| | 基質 | | 381 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 381 | |
| | 孔隙 | | 29 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 29 | |
| 9 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | 2 | |
| | | 粗粒砂 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | | 中粒砂 | | | 4 | | | 4 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10 | |
| | | 細粒砂 | 1 | 1 | 3 | | | 19 | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 28 | |
| | | 極細粒砂 | 10 | | 7 | | | 51 | | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 75 | 斜長石の変形双晶 |
| | | 粗粒シルト | 7 | | 1 | | | 39 | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | 51 | 尖った結晶含む |
| | | 中粒シルト | | | | | | 36 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 36 | |
| | 合計 | | 19 | 1 | 15 | | | 149 | | 15 | | 2 | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | 203 | |
| | 基質 | | 238 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 238 | |
| | 孔隙 | | 17 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 17 | |
| 10 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | |
| | | 極粗粒砂 | | 1 | | | | | | | | | | 5 | | | | | 1 | | | | | | | | | | 7 | |
| | | 粗粒砂 | 1 | 2 | 1 | | | | | | | | | 5 | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | 11 | |
| | | 中粒砂 | 6 | 5 | | | | 1 | | | | | | 19 | | | | 3 | 2 | | | | | | | | 1 | | 37 | |
| | | 細粒砂 | 3 | 6 | | | | | | | | | | 8 | | | | 2 | | | | | | | | | | | 19 | 淡水種珪藻化石 |
| | | 極細粒砂 | 9 | 11 | | | | | | | | 1 | | 5 | | | | 2 | | | | | | | | | | 2 | 30 | 海水種珪藻化石 |
| | | 粗粒シルト | 17 | 24 | | 4 | 3 | | | 1 | 1 | 2 | | 2 | | | | 1 | | | | | | 1 | | | | 6 | 62 | 骨針化石多産 |
| | | 中粒シルト | 9 | 21 | | 3 | | | | | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 | 41 | 胞子化石 |
| | 合計 | | 45 | 70 | 1 | 7 | | 1 | | 1 | 3 | 5 | | 44 | | | | 9 | 5 | | | | | 2 | 1 | | 1 | 10 | 208 | |
| | 基質 | | 833 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 833 | |
| | 孔隙 | | 38 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 38 | |

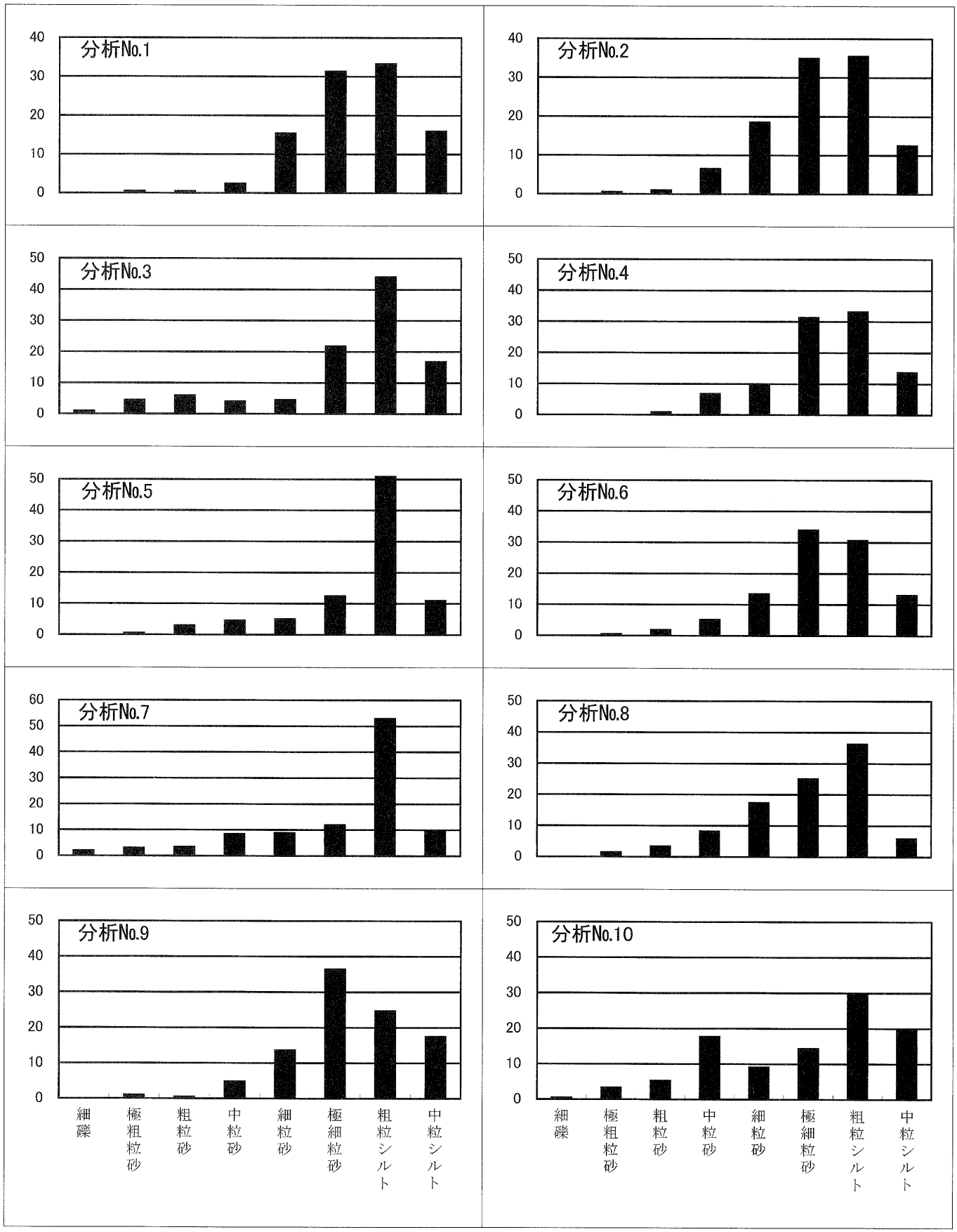
表３　薄片観察結果（２）




第84図　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度（縦軸：個数％）




第85図　土器胎土の孔隙・砂粒・基質の割合




第86図　土器胎土中の砂の粒径組成

# Ⅵ　総括

平成16年度に試掘調査を行ない、新規発見の遺跡として周知化した鳳東町４丁遺跡であるが、平成17年度に発掘調査を実施して明らかとなった遺跡の内容は、これまで述べてきた通りである。このことにより、本遺跡の性格付けが可能となったが、特に注目したい点は次の２つである。第１は古代の大溝の発見であり、第２は縄文時代の土器、石器の出土である。この総括では、そのうちの第１の点を取り上げ、検討を加えたい。

調査によって発見された溝は、規模や底の高さが異なる３条からなっている。推定される幅５ｍ、深さ1.5ｍの大型のＡ溝は、調査区西辺の段丘崖線際を走行している。このＡ溝こそが００１溝の中でも本流であり、南から北方面に導水する役割を担っていた。しかも、崖線際に位置することから、段丘上の雨水を集める機能も併せ持っていたであろう。

一方、東に位置するＣ溝は、３条の中でも最も規模が小さく、しかも底位置が低い。そしてこの溝と水田が直接つながっていたことが、調査によって判明している。つまりこのＣ溝は、水田へ供水する役割を担っていた。

そしてＡ溝とＣ溝の間に位置するＢ溝は、規模の上からも両者の中間にある。このＢ溝の性格を直接示す状況を調査から得ることはできなかったが、恐らくＡ溝の要所に設けられた堰により上昇した用水を、水田と直結したＣ溝に導くという水位調整の役割を果たしていたと考えられる。

このように、役割の異なる３条の溝が一体化して、ひとつの機能を果たしていたとみられる。つまり、００１溝は泉北丘陵から大鳥方面へ灌漑用水を導くための幹線水路であり、同時にその周辺に広がる水田に供水する用水路でもあったと考えられる。そしてその水源は、第Ⅰ章で述べたように、鶴田池だと考える。

この００１溝からは数多くの遺物が出土している。しかし、遺物には年代幅が認められ、弥生時代から13世紀代の瓦器まで存在する。したがって、周囲の土中に包含されていた遺物が溝の開削時に混入した可能性、あるいは溝の埋没土内に上層に含まれた遺物が混入した可能性など、幾つかの状況が考えられ、溝の掘削時期を断定することは難しい。ただ、８世紀代を境にしてそれ以降の遺物が急増していることから、ここに溝の掘削時期を求めることができるのではないかと考える。

一方、埋没時期に関しては、一定度時期のまとまりがみられる12世紀後半とすることができると考える。とすればこの溝は、奈良時代に構築され、そして平安時代末まで機能していたことになると考えられる。

ところで、当遺跡の周辺では奈良時代になり、集落形成が顕在化することを先に確認した。このことから、灌漑水路の設置と集落の拡大とが連動していたとみることができる。生産域の安定化と居住域の整備・拡充とが表裏の関係をなしていたといえるのである。このように、奈良時代

が調査地周辺の開発の重要な画期であったと考えられる。

この遺跡所在地は、古代においては大鳥郡大鳥郷にあたっている。大鳥郷は６邑からなり、そのうちの大鳥邑に該当していよう。

本遺跡が位置する石津川流域には、日下部首・日下部、大鳥連、蜂田連、和太連、石津連、蜂田薬師の各氏族が存在していたと新撰姓氏録に記されている。大鳥連は、「和泉国でも有力な地方豪族であったと推定される。しかし律令体制下の中央においては特に傑出した人物を排出しておらず、一族は専ら中下級官吏の任にあたっている」（(財) 大阪府文化財調査研究センター1996）という評価もある。とすれば、在地首長のもとで地域開発が順調に進められていなかった可能性を推測できる。

こうしたなかで、和泉地域における開発の立役者として名前を挙げることができる人物に行基がいる。本調査地の1.5km北東に位置する家原寺は、行基の生家を建て直した寺と伝えられ、大鳥郡を中心とした地域の開発に、早くから行基が関わったといわれている（大阪府立狭山池博物館2003)。

行基の業績については史実・伝承入り乱れているが、和泉国と行基との関わりを示す事項は幾つかある（表４)。このなかで、本遺跡との関係において注目されるのが、天平９（737）年の鶴田池院の起工である。院の設立は、近在する池（溜池）との関係からなされたものであることから、８世紀中葉に既に鶴田池が構築されていた可能性が極めて高い。そしてこの一連の事業に起因して、石津川流域における奈良時代の飛躍的な集落形成の状況が生まれたと捉えることができよう。

鶴田池と同じく、行基によって築かれたと伝えられる久米田池が平成19年に発掘調査された。築造当初の盛土が検出され、一種の敷葉工法が採用されていたことを確認することができた。

池の築造時期を直接示す具体的な証拠は見つからなかったようだが、「敷葉工法が特に７、８世紀頃に堤や道路築造工事で多く行われていたことから奈良時代の築造の可能性が指摘され」(岸和田市教育委員会2007) 得るという。行基年譜によると、久米田池脇の隆池院の建設が天平６(734)

| 年 | | 事　　項 |
|---|---|---|
| | 西暦 | |
| 天智七年 | 668 | 河内大鳥郡蜂田里に生まれる |
| 天武十一年 | 682 | 出家する |
| 慶雲元年 | 704 | 生家を改め家原寺となす |
| 慶雲三年 | 706 | 蜂田寺（和泉国和泉郡）建てる |
| 和銅元年 | 708 | 神鳳寺（和泉国大鳥郡）建てる |
| 神亀元年 | 724 | 清浄土院（高渚寺、大鳥郡）・同尼院（同郡）建てる |
| 神亀三年 | 726 | 檜尼池院（大鳥院）建てる．大野寺・同尼院（大鳥郡）起工 |
| 天平三年 | 731 | 狭山池院・同尼院（河内国丹比郡）起工．狭山池修造はこの頃 |
| 天平六年 | 734 | 隆池院（和泉国和泉郡）・深井尼院（同大鳥郡）建てる |
| 天平九年 | 737 | 鶴田池院（和泉国大鳥郡）起工 |
| 天平勝宝元年 | 749 | 菅原寺にて臨終 |

井上1959より作成

表４　行基関連記事

年なので、記事内容と発掘成果との間に矛盾はない。とすれば、鶴田池に関しても、池管理の役割も担った院の設立と大差ない頃に構築されたとみてもよさそうである。したがって、上述のように、遅くとも８世紀中葉頃には鶴田池は築造されていたのであろう。

ところで、現在の鶴田池から延びる水路をみると、２方向への灌漑がなされている。ひとつは、本遺跡も立地する石津川下流域の大鳥方面、いまひとつは西方の谷に沿った大園方面である。大園方面への水路は不規則な毛細血管状を呈している。これは大野池から延びる水路についても共通している。これに対して大鳥方面への水路は、石津川西岸の条里区画にほぼ沿った形状で設定され、北上しつつ東を流れる石津川に排水している。

この水路配置の違いは、地形の影響がまず考えられる。それとともに、水路設置の時期差を示しているかも知れないとの推測もできる。ただしその具体的な根拠はない。

「鶴田池は谷をせき止めた溜池であるが、その谷の下流ではなく、隣の石津川流域の微高地開発に利用され」（大阪府立狭山博物館2003）たとの指摘がある。これに従えば、大鳥方面の開発が大園方面の開発より遅れた２次的なもの、ではなかったといえる。つまり鶴田池の構築は、大鳥方面の開発を主目的にしたものであったと理解できる。

鶴田池の構築によって、周囲の土地開発が進み、行基の業績が史実かどうかは別にしても、それらが奈良時代のことであったと結論付けた。しかし、こうした水路の整備は、周辺地域の生産性の向上が中心目的ではなかった。そのこと以前に、和泉地域における古代の旱魃・飢饉の多さから窺えるように、生産基盤の安定化を図ることこそが溜池と灌漑水路の設定の第一目的ではな

| 年次 | | 記　　事 | 出　典 |
|---|---|---|---|
| | 西暦 | | |
| 慶雲三年 | 706 | 河内・摂津・出雲・安芸・紀伊・讃岐・伊予七国飢 | 続日本紀 |
| | | 河内・出雲・備前・安芸・淡路・讃岐・伊予等国飢疫 | 続日本紀 |
| 和銅二年 | 709 | 河内・摂津・山背・伊豆・甲斐五国連雨損苗 | 続日本紀 |
| 天平四年 | 732 | 賑給和泉監佰姓 | 続日本紀 |
| 天平五年 | 733 | 和泉監・紀伊・淡路・阿波等国遭旱殊甚 | 続日本紀 |
| 天平六年 | 734 | 天平四年亢旱以来、百姓貧乏 | 続日本紀 |
| 天平神護元年 | 765 | 和泉国飢、賑給之 | 続日本紀 |
| 天平神護二年 | 766 | 和泉国飢、賑給之 | 続日本紀 |
| 神護景雲元年 | 767 | 和泉国五穀不登 | 続日本紀 |
| 寶亀六年 | 775 | 和泉国飢、賑給之 | 続日本紀 |
| 延暦元年 | 782 | 和泉国飢、賑給之 | 続日本紀 |
| 延暦九年 | 790 | 和泉…等十四国飢、賑給之 | 続日本紀 |
| 寶亀九年 | 778 | 和泉云々等十四国飢賑給之 | 続日本紀 |
| 弘仁十四年 | 823 | 奉和泉国大鳥、積川両社幣以祈雨也 | 日本紀略 |
| 天長九年 | 832 | 賑給和泉国飢民 | 日本紀略 |
| 承和四年 | 837 | 和泉淡路両国飢、賑給之 | 続日本後記 |
| 貞観五年 | 863 | 大和和泉両国飢疫、賑給之 | 続日本後記 |
| 元慶元年 | 877 | 京師及畿内諸国飢饉、河内和泉為尤甚 | 続日本後記 |
| 元慶二年 | 878 | 班給百姓、以去旱飢世 | 続日本後記 |
| 元慶二年 | 878 | 京師及畿内諸国飢饉、河内和泉為尤甚 | 続日本後記 |
| 万寿二年 | 1025 | 諸国旱、和泉・淡路殊甚 | 小右記 |
| 承暦四年 | 1080 | 近日旱魃、任国民等不能耕作云々 | 水左記 |
| 寛治六年 | 1092 | 和泉・紀伊今年旱魃、大水破々 | 後二條師通記 |

表５　和泉国の飢饉史料

第87図　現況の水路

かったのだろうか。

史料にみる和泉国の飢饉関連記事を挙げる（表５）と、８世紀代12回、９世紀代７回、10世紀代３回を数える。

また、「山低く谷が浅く、すぐに海に臨む和泉地方では、洪水の恐れも多く、また治水工事は困難であった。それに加えて和泉国の和泉郡・大鳥郡の須恵器生産は燃料としての立木を次々と伐採して、天然の貯水条件を悪化し、洪水と旱魃を繰返させ、飢饉を慢性化する傾向を強めた」（和泉市史編纂委員会1965）といわれている。水利の悪さと、それに起因する凶作・飢饉が頻発していたことは明らかである。天長３（826）年、和泉国内に５つの池を築いたのも、その対策のひとつである。それは遡って、奈良時代前半期の行基の業績とされる各地の池溝開発にも当てはまるであろう。

ところで、００１溝を鶴田池から大鳥方面に灌漑用水を引くための幹線水路と位置付けたが、この溝は平安時代末にはほぼ埋没し、役割を終えている。その原因は不明であるが、ひとつの可能性として考えられるのが、溝の位置の問題である。

００１・Ａ溝で顕著に認められたように、００１溝は段丘崖線に沿った位置に築造されたために、本遺跡付近では段丘方向に入り込む地形に合わせて溝も西方に湾曲しつつ北流することになった。こうした状況下では、水流の圧力が溝壁面にかかり、その上部にあたる崖面も侵食されやすくなる。そのため、溝内への土砂の流入も著しかったことであろう。これに対して、溝内の通水を常に保つためには、頻繁な浚渫が必要となる。

こうした煩雑さを解消するために、平安時代末になって、溝を東方に移動させ、直線的な流れに改修したのではないかと推測する。ところが、移動した新たな溝の西側では、用水の確保ができなくなる。用水は常に東の石津川方向に排水されるためである。そこで調査地周辺では水田を捨てて畠地化されたのであろう。本調査地で認められたような中世耕作土は、まさにそうした状況を示している。そしてこの状況が、近世まで続いていたとみられる。

今回の発掘調査により、奈良時代における石津川西岸流域の開発状況の一端を垣間見ることができた。しかも、行基に関わる伝承の信憑性も増した。少なくとも、鶴田池の構築が行基の生きていた時代の出来事であったことだけは間違いないようである。

参考文献

【論文・著書】

和泉市史編纂委員会『和泉市史　第一巻』１９６５

井上　薫『行基』（吉川弘文館）１９５９

太田　亮『日本国誌資料叢書　和泉』１９２５

大阪府立狭山池博物館『行基の構築と救済』２００３

古代の土器研究会（編）『古代の土器１　都城の土器集成』１９９２

古代の土器研究会（編）『古代の土器４　煮炊具（近畿編）』１９９６

田辺昭三『須恵器大成』（角川書店）１９８１

中世土器研究会（編）『概説　中世の土器・陶磁器』（真陽社）１９９５

中村浩『和泉陶邑窯の研究』（柏書房）１９８１

中村浩『古墳時代須恵器の編年的研究』（柏書房）１９９３

福島雅蔵「溜池の水利慣行と管理」『日本古代文化の探求　池』１９７８

【報告書】

泉佐野市教育委員会『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要　平成13年度』２００２

大阪府教育委員会『西浦橋・鶴田池東遺跡発掘調査概要－堺市菱木所在－』１９８０

大阪府教育委員会『鶴田池東遺跡発掘調査概要・Ⅱ－堺市菱木所在－』１９８２

大阪府教育委員会『上遺跡発掘調査概要－堺市上・草部所在－』１９８５

大阪府立近つ飛鳥博物館『年代のものさし－陶邑の須恵器－』２００６

岸和田市教育委員会『大阪府指定史跡名勝　久米田池発掘調査現地説明会資料』２００７

堺市教育委員会「３．鳳東町遺跡発掘調査報告－堺市鳳東町７丁　ＯＨ４地点－」『堺市文化財調査報告』第42集　１９８３

堺市教育委員会「５．鶴田池東遺跡発掘調査報告－堺市菱木1040番地所在－」『堺市文化財調査報告』第42集　１９８３

堺市教育委員会『鈴の宮Ⅲ　－都市計画街路　南花田鳳西町線建設予定地内－』（堺市文化財調査報告第11集）１９８３

堺市教育委員会「４．鶴田池東遺跡発掘調査報告」『堺市文化財調査報告』第52集　１９９１

堺市教育委員会「３．鳳遺跡発掘調査概要報告」『堺市文化財調査概要報告』第19冊　１９９１

堺市教育委員会「４．鳳東町遺跡発掘調査概要報告」『堺市文化財調査概要報告』第19冊　１９９１

堺市教育委員会「１．鳳南町遺跡発掘調査概要報告－東急車輛製造株式会社大阪工場内－」『堺市文化財調査概要報告』第29冊　１９９２

堺市教育委員会「２．鶴田池東発掘調査概要報告－堺市菱木1034所在（ＹＰＥ－３）－」『堺市

文化財調査概要報告』第36冊　１９９３
堺市教育委員会「鳳東町遺跡発掘調査概要報告」『堺市文化財調査概要報告』第43冊　１９９４
堺市教育委員会「２．草部遺跡発掘調査報告－ＫＳＢ－２地点　草部341番地－」『堺市文化財調査報告』第69集　１９９８
(財) 大阪文化財センター『府道松原泉大津線関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ－西浦橋遺跡－』１９８４
(財) 大阪文化財センター『池島・福万寺遺跡発掘調査概要XIII　－92-１・２・３・４・５調査区の概要－』１９９３
(財) 大阪文化財センター『日置荘遺跡－近畿自動車道松原すさみ線および府道松原泉大津線建設に伴う発掘調査報告書－』１９９５
(財) 大阪府文化財調査研究センター『下田遺跡－都市計画道路常盤浜寺線建設に伴う発掘調査報告書－』((財) 大阪府文化財調査研究センター調査報告書　第18集) １９９６
(財) 大阪府文化財調査研究センター『向出遺跡　一般国道26号（第２阪和国道）の建設に伴う発掘調査報告書』((財) 大阪府文化財調査研究センター調査報告書　第55集) ２０００
(財) 大阪府文化財センター『2005年度　(財) 大阪府文化財センター・近つ飛鳥博物館共同研究発表会　須恵器生産の成立と展開』２００６
(財) 大阪府埋蔵文化財協会『主要地方道枚方・富田林・泉佐野線建設に伴う仏並遺跡発掘調査報告書』((財) 大阪府埋蔵文化財協会調査報告書　第５輯) １９８６
(財) 大阪府埋蔵文化財協会『主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線建設に伴う山ノ内遺跡Ｂ地区・山直北遺跡発掘調査報告書』((財) 大阪府埋蔵文化財協会調査報告書　第24輯) １９８８
滋賀県教育委員会文化部文化財保護課・滋賀県文化財保護協会『一般国道161号(西大津バイパス)建設に伴う　穴太遺跡発掘調査報告書２』１９９７
城陽市教育委員会「森山遺跡発掘調査概報」『城陽市埋蔵文化財調査報告書第６集』１９７７
城陽市教育委員会『城陽市埋蔵文化財調査報告書　森山遺跡発掘調査報告書』(城陽市埋蔵文化財調査報告書　第32集) １９９７
帝塚山大学考古学研究室『岸和田市春木八幡山遺跡の研究』(帝塚山大学考古学研究報告１) １９６５
難波宮址顕彰会『森の宮遺跡　第３・４次発掘調査報告書』１９７８
兵庫県教育委員会『佃遺跡　本州四国連絡道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告Ⅲ』(兵庫県文化財調査報告　第176冊) １９９８

# 実測遺物観察表

# 縄文土器観察表

# 縄文石器観察表

| No. | 図版No. | 実測番号 | 調査区 | グリッド | 遺構 | 層位・土層 | 種別 | 時期・系統 | 器種 | 法量（cm） | 器形の特徴 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 86 | 3区 | 63 | 001・A溝 | 第14図B15～19層 | 土器 | 弥生前～中期 | 蓋 | (頂部) 3.6<br>(高) 現3.6 | 頂部窪む |
| 2 | | 85 | 3区 | 63 | 001・A溝 | 第14図B15～19層 | 土器 | 弥生中期 | 甕 | (底) 6.0<br>(高) 現5.9 | 底部平坦 |
| 3 | | 180 | 3区 | 65 | 001・A溝 | 灰色砂 | 土器 | 弥生中期 | 壺 | (底) 5.4<br>(高) 現2.5 | 平底 |
| 4 | | 91 | 3区 | 63 | 001・A溝 | 黒灰色粘土 | 土器 | V様式系 | 甕 | (底) 4.0<br>(高) 現3.0 | 底部平坦 |
| 5 | | 2 | 3区 | 65 | 001・A溝 | 灰色粘土黒灰色粘土 | 須恵器 | — | 壺 | (高) 現18.0 | 尖底気味 |
| 6 | 24 | 243 | 3区 | 65 | 001・A溝 | 黒灰色粘土 | 土器 | 7世紀中葉 | 椀 | (口) 10.0<br>(高) 3.5 | 底部丸味あり |
| 7 | 24 | 212 | 2区 | 120 | 001・A溝 | 第14図H6層 | 土器 | 6世紀 | 杯 | (口) 11.8<br>(高) 現3.7 | 器壁薄い |
| 8 | 23 | 242 | 3区 | 65 | 001・A溝 | 黒灰色粘土 | 土器 | 7世紀中葉 | 甕 | (口) 17.0<br>(高) 現17.2 | 口縁部開き乏しい・端部直立 |
| 9 | 23 | 249 | 2区 | 96 | 001・A溝 | 最上層 | 土器 | 7世紀 | 甕 | (口) 23.5<br>(高) 現12.0 | 胴部球形 |
| 10 | 23 | 246 | 3区 | 65 | 001・A溝 | 黒灰色粘土 | 土器 | 7世紀 | 甕 | (口) 13.3<br>(高) 現7.3 | 口縁部開き乏しい |
| 11 | 23 | 244 | 2区 | 104 | 001・A溝 | 黒灰色粘土 | 土器 | 8世紀後半 | 甕 | (口) 26.8<br>(高) 現7.7 | 胴部張りなし |
| 12 | 23 | 248 | 2区 | 101 | 001・A溝 | 一括 | 土器 | 8世紀後半 | 甕 | (口) 14.6<br>(高) 現8.9 | 胴部張りなし |
| 13 | 24 | 78 | 3区 | 66 | 001・A溝 | 一括 | 土器 | 8世紀後葉 | 甕 | (口) 20.4<br>(高) 現4.4 | 口縁部端直立気味 |
| 14 | 23 | 194 | 2区 | 109 | 001・A溝 | 灰色砂シルト | 土器 | 9～10世紀 | 甕 | (口) 23.0<br>(高) 現6.3 | 頸部く字状に屈曲 |
| 15 | 17 | 208 | 3区 | 65 | 001・A溝 | 一括 | 須恵器 | TK23 | 杯身 | (口) 12.8<br>(高) 5.2 | 口縁部端内面削げる |
| 16 | 15 | 76 | 3区 | 65 | 001・A溝 | 黒灰色粘土 | 須恵器 | TK47 | 杯蓋 | (口) 14.0<br>(高) 4.8 | 器高ある |
| 17 | 15 | 179 | 3区 | 65 | 001・A溝 | 灰色砂 | 須恵器 | MT15 | 杯蓋 | (口) 12.2<br>(高) 4.8 | 口縁部直立 |
| 18 | 15 | 173 | 3区 | 65 | 001・A溝 | 一括 | 須恵器 | MT15 | 杯蓋 | (口) 15.2<br>(高) 現4.2 | 口縁部直立 |
| 19 | 15 | 169 | 3区 | 65 | 001・A溝 | 一括 | 須恵器 | MT15 | 杯蓋 | (口) 10.5<br>(高) 3.3 | 天井部いびつ |
| 20 | | 259 | 2区 | 107 | 001・A溝 | 褐灰色砂シルト | 須恵器 | TK10 | 杯蓋 | (口) 14.8<br>(高) 2.3 | 口縁部短く外反 |
| 21 | 16 | 77 | 3区 | 65 | 001・A溝 | 褐灰色粘土 | 須恵器 | TK10 | 蓋 | (口) 9.0<br>(高) 4.1 | 器高ある |
| 22 | 17 | 209 | 2区 | 109 | 001・A溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | MT85 | 杯身 | (口) 12.8<br>(高) 5.1 | 底部尖り気味，口縁部長さ留める |
| 23 | 17 | 92 | 3区 | 63 | 001・A溝 | 黒灰色粘土 | 須恵器 | TK10 | 杯身 | (受) 12.6<br>(高) 現3.7 | 受部短い |
| 24 | 16 | 168 | 3区 | 65 | 001・A溝 | 黒褐色粘土 | 須恵器 | TK217 | 蓋 | (口) 8.5<br>(高) 3.4 | 宝珠形つまみ |
| 25 | 16 | 82 | 3区 | | 001・A溝 | 第14図L4～6層 | 須恵器 | TK217 | 蓋 | (口) 8.2<br>(高) 2.9 | 宝珠形つまみ |
| 26 | 16 | 167 | 1区 | | 001・A溝 | 黒褐色粘土 | 須恵器 | TK217 | 蓋 | (口) 11.8<br>(高) 現3.6 | 口縁部返り大きい |
| 27 | | 58 | 2区 | 102 | 001・A溝 | 褐灰色砂シルト | 須恵器 | TK217 | 蓋 | (口) 15.4<br>(高) 現1.9 | 立上り低い |
| 28 | 21 | 186 | 3区 | 65 | 001・A溝 | 灰色粘シルト | 須恵器 | TK217 | 杯 | (高台) 8.5<br>(高) 現3.9 | 高台断面方形 |
| 29 | 16 | 84 | 3区 | | 001・A溝 | 第14図L4～6層 | 須恵器 | TK46 | 蓋 | (口) 7.6<br>(高) 2.9 | 宝珠形つまみ |
| 30 | 18 | 94 | 3区 | 60 | 001・A溝 | 灰色シルト | 須恵器 | 7世紀後半～8世紀前半 | 杯 | (高台) 8.0<br>(高) 現3.2 | 高台部断面長方形 |
| 31 | 21 | 223 | 2区 | 103 | 001・A溝 | 最上層 | 須恵器 | 7世紀後半～8世紀 | 瓶 | (高台) 8.1<br>(高) 現8.1 | 高台部張出し強い |
| 32 | | 83 | 3区 | | 001・A溝 | 第14図L4～6層 | 須恵器 | MT21 | 杯 | (口) 10.4<br>(高) 現2.6 | 口縁部内湾気味 |
| 33 | 18 | 93 | 3区 | 60 | 001・A溝 | 灰色シルト | 須恵器 | MT21 | 杯 | (口) 12.4<br>(高) 現3.3 | 口縁部外反 |
| 34 | | 211 | 2区 | 100 | 001・A溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | 8世紀 | 長頸瓶 | (高台) 6.0<br>(高) 現5.0 | 胴部下半丸味あり |

| 整・成形の特徴 | 文様の特徴 | 焼成 | 内 | 外 | 実測図No. | 残存率 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【頂部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ユビナデ (内) ヘラナデ | | やや不良 | 10YR6/2 | 10YR6/1 | 86 | B | |
| 【胴部】(外) ヘラナデ・ヘラケズリ (内) ユビナデ | | 良好 | 10YR7/3 | 10YR4/1 | 85 | B | |
| 【胴部】(外) ユビオサエ (内)— | | 良好 | 2.5Y7/2 | 2.5Y7/2 | 180 | A | |
| 【底部】(外) タタキ (内)— | | 良好 | 2.5Y4/1 | 10YR4/1 | 91 | A | |
| 【胴部】(外) 平行タタキ (内) ユビナデ・ユビオサエ | | 良好 | N5/0 | N4/0 | 2 | B | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ミガキ (内) ミガキ | | 良好 | 2.5Y7/2 | 2.5Y7/2 | 243 | C | |
| 【口縁部】(外)—(内)—<br>【胴部】(外)—(内)— | | やや不良 | 5YR6/6 | 5YR6/6 | 212 | B | |
| 【口縁部】(外) ヘラナデ (内) ハケ<br>【胴部】(外) ハケ (内) ユビオサエ・ヘラナデ | | 良好 | 2.5Y7/2 | 2.5Y7/2 | 242 | B | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ハケ (内) ヘラナデ | | 良好 | 2.5Y7/2 | 2.5Y7/2 | 249 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ハケ (内) ユビナデ | | 良好 | 2.5Y7/2 | 2.5Y7/2 | 246 | A | |
| 【口縁部】(外)—(内)—<br>【胴部】(外)—(内)— | | 良好 | 2.5Y7/3 | 10YR6/6 | 244 | B | |
| 【口縁部】(外) ハケ (内) ハケ<br>【胴部】(外) ハケ (内) ヘラケズリ・ユビナデ | | 良好 | 2.5Y4/2 | 7.5YR6/4 | 248 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外)—(内) ヘラナデ | | やや不良 | 5YR5/3 | 5YR5/2 | 78 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ハケ<br>【胴部】(外) ハケ (内) ユビナデ・ユビオサエ | | 良好 | 10YR5/2 | 10YR6/2 | 194 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N4/0 | N4/0 | 208 | D | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ・ユビナデ | | 良好 | N4/0 | N4/0 | 76 | B | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N4/0 | N5/0 | 179 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N4/0 | N5/0 | 173 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ・ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | 5PB5/1 | 5PB5/1 | 169 | D | ヘラ記号 |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | 5Y7/1 | 5Y8/1 | 259 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ・ユビナデ | | 良好 | N4/0 | N4/0 | 77 | D | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 209 | D | |
| 【胴部】(外) 回転ユビナデ・回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ・ユビナデ | | 良好 | N5/0 | N4/0 | 92 | B | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | 5PB7/1 | 5Y6/1 | 168 | D | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 82 | D | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | 5PB6/1 | N6/0 | 167 | C | ヘラ記号 |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 58 | A | |
| 【胴部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | 5Y6/1 | 186 | B | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 84 | D | |
| 【胴部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ・ユビナデ | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 94 | B | |
| 【胴部】(外) ヘラナデ (内) ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 223 | A | |
| 【口縁部】(外)—(内)—<br>【胴部】(外)—(内)— | | 良好 | 10YR7/2 | 2.5Y7/2 | 83 | B | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 93 | B | |
| 【胴部】(外) ユビナデ・ヘラケズリ (内) ユビナデ | | 良好 | 2.5Y7/2 | 2.5Y7/2 | 211 | B | |

| No. | 図版No. | 実測番号 | 調査区 | グリッド | 遺構 | 層位・土層 | 種別 | 時期・系統 | 器種 | 法量（cm） | 器形の特徴 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 35 | 16 | 107 | 3区 | 62 | 001・A溝 | 茶灰色砂シルト層 | 須恵器 | MT21 | 蓋 | (高) 現1.7 | 宝珠形つまみ |
| 36 | | 170 | 3区 | 65 | 001・A溝 | 一括 | 須恵器 | 8世紀前半 | 蓋 | (高) 現2.0 | 宝珠形つまみ |
| 37 | | 175 | 3区 | 66 | 001・A溝 | 灰色粘土 | 須恵器 | 8世紀 | 蓋 | (口) 14.6<br>(高) 現1.2 | 口縁部端直立 |
| 38 | | 59 | 2区 | 102 | 001・A溝 | 褐灰色砂シルト | 須恵器 | 8世紀後葉 | 蓋 | (口) 17.0<br>(高) 現1.8 | 立上り低い |
| 39 | 19 | 105 | 3区 | 62 | 001・A溝 | 茶灰色砂シルト | 須恵器 | 8世紀 | 鉢 | (口) 23.6<br>(高) 現6.9 | 口縁部直立 |
| 40 | | 264 | 2区 | 98 | 001・A溝 | 褐灰色砂シルト | 須恵器 | 8世紀中葉 | 鉢 | (口) 24.0<br>(高) 現6.4 | 口縁部直立・丸く肥厚 |
| 41 | 22 | 185 | 3区 | 65 | 001・A溝 | 灰色粘シルト | 須恵器 | 8世紀前半 | 甕 | (口) 26.0<br>(高) 現3.8 | 口縁部有段 |
| 42 | | 176 | 3区 | 66 | 001・A溝 | 灰色粘土 | 須恵器 | 8世紀後半 | 甕 | (口) 29.7<br>(高) 現5.0 | 口縁部端直立 |
| 43 | | 197 | 3区 | 60 | 001・A溝 | 茶灰色砂シルト | 須恵器 | 8世紀後半～9世紀前半 | 杯 | (高台) 11.0<br>(高) 現1.5 | 高台断面方形 |
| 44 | | 196 | 2区 | 109 | 001・A溝 | 褐灰色砂シルト | 須恵器 | 8世紀後半～9世紀前半 | 杯 | (高台) 8.4<br>(高) 現1.8 | 高台断面方形 |
| 45 | 18 | 102 | 3区 | 66 | 001・A溝 | 灰色粘土 | 須恵器 | 9世紀前半 | 杯 | (口) 12.4<br>(高) 現4.4 | 口縁部～胴部直線的 |
| 46 | 19 | 106 | 3区 | 62 | 001・A溝 | 茶灰色砂シルト | 須恵器 | 9世紀前半 | 杯 | (底) 10.0<br>(高) 現3.3 | 底部僅か上げ底 |
| 47 | | 104 | 3区 | 62 | 001・A溝 | 茶灰色砂シルト | 須恵器 | 12世紀 | 椀 | (口) 19.4<br>(高) 現4.2 | 口縁部外反 |
| 48 | 26 | 198 | 3区 | 60 | 001・A溝 | 茶灰色砂シルト | 黒色土器 | 10世紀 | 椀 | (口) 15.4<br>(高) 現4.6 | 口縁部端内面削げる |
| 49 | 26 | 199 | 3区 | 60 | 001・A溝 | 茶灰色砂シルト | 黒色土器 | 10世紀 | 椀 | (高台) 6.2<br>(高) 現1.2 | 高台部断面三角形 |
| 50 | 26 | 138 | 3区 | 63 | 001・A溝 | 黄灰色粘土 | 瓦器 | 12世紀 | 椀 | (口) 13.6<br>(高) 5.1 | 口縁部～胴部僅かに内湾 |
| 51 | 27 | 134 | 3区 | 63 | 001・A溝 | 黄灰色粘土 | 瓦器 | 12世紀 | 椀 | (口) 13.6<br>(高) 現2.8 | 口縁部～胴部直線的 |
| 52 | | 131 | 3区 | 66 | 001・A溝 | 第14図M1層 | 瓦器 | 13世紀 | 椀 | (口) 13.6<br>(高) 現1.9 | 口縁部僅かに外反 |
| 53 | 27 | 135 | 3区 | 63 | 001・A溝 | 黄灰色粘土 | 瓦器 | 12世紀 | 椀 | (高台) 6.2<br>(高) 現2.1 | 高台断面方形 |
| 54 | 26 | 132 | 3区 | 66 | 001・A溝 | 第14図M1層 | 瓦器 | 12世紀 | 椀 | (高台) 6.0<br>(高) 現1.7 | 高台断面長方形 |
| 55 | 27 | 101 | 3区 | 66 | 001・A溝 | 灰色粘土 | 瓦器 | 12世紀 | 椀 | (高台) 6.2<br>(高) 現1.4 | 高台部断面長方形 |
| 56 | 27 | 136 | 3区 | 63 | 001・A溝 | 黄灰色粘土 | 瓦器 | 12世紀 | 椀 | (高台) 5.0<br>(高) 現1.8 | 高台断面三角形 |
| 57 | 27 | 137 | 3区 | 63 | 001・A溝 | 黄灰色粘土 | 瓦器 | 12世紀 | 椀 | (高台) 5.2<br>(高) 現1.7 | 高台断面方形 |
| 58 | | 190 | 3区 | 60 | 001・A溝 | 黄灰色粘土 | 瓦器 | 13世紀 | 椀 | (高台) 3.8<br>(高) 現1.1 | 高台部断面三角形 |
| 59 | | 267 | 3区 | 65 | 001・A溝 | 黄灰色粘質土 | 瓦器 | 13世紀 | 椀 | (高台) 5.1<br>(高) 現1.2 | 口縁部断面三角形 |
| 60 | 27 | 103 | 3区 | 66 | 001・A溝 | 灰色粘土 | 瓦器 | 12世紀 | 椀 | (高台) 6.0<br>(高) 現2.2 | 高台部低い |
| 61 | | 189 | 3区 | 60 | 001・A溝 | 黄灰色粘土 | 白磁 | 14～15世紀 | 碗 | (高台) 6.4<br>(高) 現2.8 | 高台部方形・直立 |
| 62 | | 271 | 2区 | 108 | 001・A溝 | 褐灰色砂シルト | 土製品 | 奈良時代？ | 土馬 | (高) 現4.9 | |
| 63 | | 110 | 1区 | | 001・B溝 | 第14図B20層 | 土器 | 弥生中期 | 壺 | (底) 4.8<br>(高) 現3.2 | 上底 |
| 64 | 24 | 65 | 1区 | | 001・B溝 | 灰色砂 | 土器 | 5世紀中葉 | 甕 | (口) 17.0<br>(高) 現3.0 | 口縁部内湾気味 |
| 65 | 24 | 195 | 3区 | 60 | 001・B溝 | 第14図M10～15層 | 土器 | 7世紀後半 | 椀 | (口) 20.0<br>(高) 現4.0 | 口縁部～胴部直線的 |
| 66 | 24 | 64 | 1区 | | 001・B溝 | 灰色砂 | 土器 | 8世紀後葉 | 甕 | (口) 15.6<br>(高) 現4.9 | 口縁部端肥厚 |
| 67 | 27 | 201 | 3区 | 58 | 001・B溝 | 黄灰色粘土 | 土器 | 13世紀 | 椀 | (高台) 4.8<br>(高) 現2.3 | 口縁部断面三角形 |
| 68 | | 251 | 1区 | | 001・B溝 | 木樋下 | 土器 | 庄内 | 甕 | (高) 現13.3 | 球胴形 |

| 整・成形の特徴 | 文様の特徴 | 焼成 | 内 | 外 | 実測図No. | 残存率 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【頂部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 107 | A | |
| 【天井部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 170 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 175 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 59 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N6/0 | 105 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | 5Y8/1 | 5Y8/1 | 264 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) ヘラナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N5/0 | 185 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N6/0 | 176 | A | |
| 【胴部】(外) 回転ユビナデ (内) ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 197 | A | |
| 【胴部】(外) 回転ユビナデ (内) ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 196 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N5/0 | 102 | B | |
| 【胴部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【底部】(外) 回転糸切 (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N6/0 | 106 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N5/0 | 104 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ・ミガキ (内) ヨコナデ<br>【胴部】(外) ユビナデ・ミガキ (内) ユビナデ・ミガキ | | 良好 | N2/0 | N2/0 | 198 | A | B類 |
| 【胴部】(外)—(内) ミガキ？ | | 不良 | N8/0 | 10YR7/2 | 199 | A | A類 |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内)—<br>【胴部】(外) ユビオサエ・ユビナデ (内)— | | 良好 | N4/0 | N5/0 | 138 | B | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ミガキ<br>【胴部】(外) ユビオサエ・ユビナデ (内) ミガキ | | 良好 | N7/0 | N8/0 | 134 | B | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ | | 良好 | N8/0 | N5/0 | 131 | A | |
| 【胴部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ | | 良好 | N8/0 | N8/0 | 135 | A | |
| 【胴部】(外) ユビナデ (内)— | | 良好 | N7/0 | N5/0 | 132 | B | |
| 【胴部】(外) ユビナデ (内) ミガキ | | 良好 | N7/0 | N6/0 | 101 | A | |
| 【胴部】(外) ユビオサエ・ユビナデ (内) ミガキ | | 良好 | N4/0 | N4/0 | 136 | A | |
| 【胴部】(外) ユビオサエ・ユビナデ (内) ミガキ | | 良好 | N8/0 | N8/0 | 137 | A | |
| 【胴部】(外)—(内)— | | 良好 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 190 | A | |
| 【胴部】(外) ユビナデ (内)— | | 良好 | N8/0 | N5/0 | 267 | A | |
| 【胴部】(外) ユビオサエ (内) ミガキ | | 良好 | 2.5Y6/1 | 2.5Y8/1 | 103 | B | |
| 【胴部】(外) 施釉 (内) 施釉 | | 良好 | (胎)<br>5Y8/1 | | 189 | A | |
| 【器面】(表) ヘラケズリ | | 良好 | 2.5GY6/1 | | 271 | A | |
| 【胴部】(外)—(内)— | | 不良 | 10YR4/3 | 2.5YR4/4 | 110 | A | |
| 【口縁部】(外)—(内)— | | 良好 | 2.5Y7/1 | 10YR4/1 | 65 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外)—(内) ミガキ | | 良好 | 2.5Y8/2 | 10YR7/2 | 195 | A | |
| 【口縁部】(外)—(内)—<br>【胴部】(外) ハケ (内) ヘラケズリ | | やや不良 | 10YR7/3 | 5YR7/4 | 64 | A | |
| 【胴部】(外)—(内)— | | 不良 | 2.5Y8/1 | 2.5Y7/4 | 201 | A | |
| 【胴部】(外) タタキ・ハケ (内) ヘラケズリ | | 良好 | 2.5Y7/2 | 2.5Y7/2 | 251 | A | |

| No. | 図版No. | 実測番号 | 調査区 | グリッド | 遺構 | 層位・土層 | 種別 | 時期・系統 | 器種 | 法量（cm） | 器形の特徴 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 69 | 17 | 160 | 1区 | | 001・B溝 | 黒褐色粘土 | 須恵器 | TK73 | 杯身 | (口) 10.5<br>(高) 4.6 | 受部短い |
| 70 | 19 | 164 | 1区 | | 001・B溝 | 黒褐色粘土 | 須恵器 | TK23 | 壺 | (口) 15.6<br>(高) 現5.1 | 口縁部直線的 |
| 71 | 20 | 115 | 1区 | | 001・B溝 | 第14図B20層 | 須恵器 | 5世紀中葉 | 把手付鉢 | (底) 10.4<br>(高) 現6.6 | 口縁部～胴部直線的 |
| 72 | 22 | 165 | 1区 | | 001・B溝 | 黒褐色粘土 | 須恵器 | TK10 | 甕 | (口) 16.7<br>(高) 現5.1 | 口縁部端肥厚 |
| 73 | | 161 | 1区 | | 001・B溝 | 黒褐色粘土 | 須恵器 | MT85 | 杯蓋 | (口) 12.5<br>(高) 現3.7 | 口縁部外反 |
| 74 | 20 | 163 | 1区 | | 001・B溝 | 黒褐色粘土 | 須恵器 | MT85～TK209 | 高杯 | (高) 現7.5 | 杯部底平坦的 |
| 75 | | 162 | 1区 | | 001・B溝 | 黒褐色粘土 | 須恵器 | 6世紀後半 | 高杯 | (口) 14.0<br>(高) 現3.7 | 口縁部直立気味 |
| 76 | | 63 | 1区 | | 001・B溝 | 灰色砂 | 須恵器 | TK217 | 蓋 | (口) 7.2<br>(高) 現2.0 | 口縁部内面返り |
| 77 | 20 | 7 | 1区 | | 001・B溝 | 1層 | 須恵器 | 6世紀後半～7世紀後半 | 高杯 | (裾) 7.4<br>(高) 現4.3 | 脚部低め |
| 78 | 24 | 1 | 3区 | 58 | 001・B溝 | 第14図M1層 | 須恵器 | TK48 | 長頸壺 | (高) 現23.3 | 胴部扁平 |
| 79 | 22 | 3 | 1区 | | 001・B溝 | 黒褐色粘土 | 須恵器 | TK217 | 甕 | (口) 50.2<br>(高) 現22.8 | 大型品 |
| 80 | | 159 | 3区 | 60 | 001・B溝 | 第14図M2～6層 | 須恵器 | 7世紀後半～8世紀前半 | 甕 | (口) 35.6<br>(高) 現4.7 | 口縁部端平坦 |
| 81 | 22 | 166 | 1区 | | 001・B溝 | 黒褐色粘土 | 須恵器 | 8世紀前半 | 甕 | (口) 31.4<br>(高) 現13.0 | 口縁部外反 |
| 82 | 19 | 98 | 3区 | 62 | 001・B溝 | 灰色シルト | 須恵器 | 8世紀 | 鉢 | (口) 21.8<br>(高) 現3.9 | 口縁部肥厚 |
| 83 | | 60 | 1区 | | 001・B溝 | 茶褐色シルト | 須恵器 | 8世紀後半 | 杯 | (口) 13.7<br>(高) 現3.6 | 口縁部やや外反 |
| 84 | | 158 | 3区 | 60 | 001・B溝 | 第14図M2～6層 | 須恵器 | 8世紀後半 | 蓋 | (口) 20.6<br>(高) 現2.0 | 口縁部端直立 |
| 85 | 18 | 113 | 1区 | | 001・B溝 | 南ベルト・I層 | 須恵器 | 8世紀後半～9世紀前半 | 杯 | (口) 13.2<br>(高) 現3.2 | 口縁部～胴部直線 |
| 86 | 21 | 97 | 3区 | 62 | 001・B溝 | 灰色シルト | 須恵器 | 8世紀後半 | 盤 | (高台) 19.4<br>(高) 現2.6 | 高台断面方形 |
| 87 | 18 | 111 | 1区 | | 001・B溝 | 第14図B20層 | 須恵器 | 8世紀前半 | 杯 | (高台) 8.8<br>(高) 現3.0 | 高台断面方形 |
| 88 | 21 | 114 | 1区 | | 001・B溝 | 第14図B20層 | 須恵器 | 9世紀前半 | 杯 | (高台) 10.6<br>(高) 現2.3 | 高台断面長方形 |
| 89 | 26 | 112 | 1区 | | 001・B溝 | 第14図B20層 | 黒色土器 | 10世紀 | 椀 | (高台) 6.6<br>(高) 現1.2 | 高台部細長方形 |
| 90 | 27 | 200 | 3区 | 58 | 001・B溝 | 黄灰色粘土 | 瓦器 | 13世紀 | 椀 | (高台) 4.8<br>(高) 現1.5 | 口縁部断面三角形 |
| 91 | | 262 | 3区 | 58 | 001・B溝 | 黄灰色粘土 | 瓦器 | 12世紀 | 椀 | (口) 14.9<br>(高) 現3.4 | 口縁部～胴部直線的 |
| 92 | | 11 | 1区 | 24 | 001・C溝 | 灰色粘土 | 土器 | 7世紀後半 | 甕 | (口) 14.4<br>(高) 現3.7 | 口縁部短い |
| 93 | | 258 | 1区 | | 001・C溝 | 黄灰色粘土 | 須恵器 | 8世紀後半 | 杯 | (口) 14.0<br>(高) 3.0 | 口縁部～胴部上半直線的 |
| 94 | 26 | 12 | 1区 | 24 | 001・C溝 | 灰色粘土 | 黒色土器 | 10世紀後半～11世紀前半 | 椀 | (高台) 6.4<br>(高) 現1.4 | 高台部断面長方形 |
| 95 | | 213 | 2区 | 23 | 001溝 | 黒灰色粘土 | 土器 | 弥生 | 壺 | (底) 2.3<br>(高) 現5.7 | 平底 |
| 96 | 23 | 215 | 2区 | 23 | 001溝 | 黒灰色粘土 | 土器 | 布留式 | 甕 | (口) 24.4<br>(高) 現6.0 | 口縁部端肥厚僅か |
| 97 | | 96 | 1区 | 35 | 001溝 | 黒灰色粘土 | 土器 | 古墳後期 | 高杯 | (裾) 11.0<br>(高) 現9.6 | 脚部柱状 |
| 98 | | 245 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂質土 | 土器 | 8世紀前半 | 椀 | (口) 14.1<br>(高) 7.7 | 丸底，器壁薄い |
| 99 | 24 | 50 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色シルト | 土器 | 8世紀後葉 | 甕 | (口) 14.7<br>(高) 現7.3 | 口縁部端直立 |
| 100 | | 214 | 2区 | 23 | 001溝 | 黒灰色粘土 | 土器 | 古墳後期 | 高杯 | (脚) 11.2<br>(高) 現7.3 | 脚端部開く |
| 101 | 24 | 130 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 土器 | 8世紀後半 | 甕 | (口) 31.0<br>(高) 現3.4 | 口縁部端直立 |
| 102 | 23 | 51 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色シルト | 土器 | 8世紀後葉 | 甕 | (口) 25.1<br>(高) 現6.8 | 口縁部端直立 |

| 整・成形の特徴 | 文様の特徴 | 焼成 | 内 | 外 | 実測図No. | 残存率 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ<br>【胴部】（外）ヘラケズリ（内）回転ユビナデ・ユビオサエ | | 良好 | N6/0 | N5/0 | 160 | B | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | 波状文 | 良好 | N5/0 | N5/0 | 164 | A | ヘラ記号 |
| 【胴部】（外）ヘラケズリ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 115 | B | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ<br>【胴部】（外）平行タタキ・ヘラナデ（内）当具痕（同心円文） | | 良好 | 5Y5/1 | 5Y6/1 | 165 | A | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ<br>【天井部】（外）回転ヘラケズリ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 161 | B | ヘラ記号 |
| 【脚部】（外）回転ユビナデ（内）ユビナデ | ３方透孔 | 良好 | N6/0 | N5/0 | 163 | A | |
| 【杯部】（外）回転ヘラケズリ（内）回転ユビナデ | | 良好 | 2.5Y5/2 | 5Y5/1 | 162 | A | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ<br>【天井部】（外）回転ヘラケズリ（内）回転ユビナデ | | 良好 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 63 | B | |
| 【脚部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N5/0 | N6/0 | 7 | B | |
| 【頸部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ<br>【胴部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | 頸部２沈線 | 良好 | N6/0 | N6/0 | 1 | C | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）イタナデ<br>【胴部】（外）格子タタキ（内）当具痕（同心円文） | 口縁部６条沈線 | 良好 | N6/0 | N4/0 | 3 | A | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N8/0 | N8/0 | 159 | A | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ・ヘラナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | 5PB6/1 | 5PB6/1 | 166 | A | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ<br>【胴部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 98 | A | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ<br>【胴部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 60 | A | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N4/0 | N4/0 | 158 | A | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ<br>【胴部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 113 | A | |
| 【胴部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 97 | A | |
| 【胴部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 111 | A | |
| 【胴部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N5/0 | 114 | A | |
| 【胴部】（外）ユビナデ（内）ミガキ | | 良好 | 10YR3/1 | 10YR7/2 | 112 | A | A類 |
| 【胴部】（外）—（内）— | | 不良 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/2 | 200 | A | |
| 【口縁部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ<br>【胴部】（外）ユビオサエ（内）ミガキ | | 良好 | N6/0 | N8/0 | 262 | A | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ<br>【胴部】（外）—（内）回転ユビナデ | | 良好 | 10YR6/2 | 5YR6/4 | 11 | A | |
| 【口縁部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ<br>【胴部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 258 | A | |
| 【胴部】（外）—（内）—<br>【高台部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ | | 良好 | 2.5Y7/2 | N5/0 | 12 | B | B類 |
| 【胴部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ | | 良好 | 2.5Y7/3 | 2.5Y7/3 | 213 | A | |
| 【口縁部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ<br>【胴部】（外）ハケ（内）ユビナデ・ユビオサエ | | 良好 | 2.5Y7/3 | 2.5Y7/3 | 215 | A | |
| 【脚部】（外）ヘラケズリ（内）ユビナデ<br>【裾部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ | | 良好 | 2.5Y7/2 | 10YR6/1 | 96 | B | |
| 【口縁部】（外）ユビナデ（内）—<br>【胴部】（外）ハケ（内）— | | 良好 | 7.5YR7/4 | 7.5YR7/4 | 245 | B | |
| 【口縁部】（外）ユビナデ（内）ハケメ<br>【胴部】（外）ハケ（内）ヘラケズリ | | やや不良 | 10YR5/2 | 10YR5/2 | 50 | B | |
| 【脚部】（外）ヘラケズリ・ユビナデ（内）ユビナデ・ヘラナデ | | 良好 | 7.5YR8/2 | 7.5YR8/2 | 214 | A | |
| 【口縁部】（外）ユビナデ（内）— | | 良好 | 7.5YR6/2 | 5YR4/3 | 130 | A | |
| 【口縁部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ<br>【胴部】（外）ハケメ（内）ハケメ・ヘラケズリ | | やや不良 | 7.5Y5/4 | 10YR7/3 | 51 | A | |

| No. | 図版No. | 実測番号 | 調査区 | グリッド | 遺構 | 層位・土層 | 種別 | 時期・系統 | 器種 | 法量（cm） | 器形の特徴 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 103 | | 62 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色シルト | 土器 | 8世紀後半 | 椀 | (口) 18.3<br>(高) 現3.6 | 口縁部内面窪む |
| 104 | | 232 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂質土 | 土器 | 9世紀前半 | 皿 | (口) 14.9<br>(高) 現2.0 | 立上り短い |
| 105 | 19 | 220 | 2区 | 23 | 001溝 | 黒灰色粘土 | 須恵器 | 6世紀 | 器台 | (口) 34.0<br>(高) 現11.0 | 口縁部端僅かに外反 |
| 106 | 16 | 5 | 1区 | | 001溝 | 黒灰色粘土 | 須恵器 | 6世紀 | 蓋 | (口) 9.0<br>(高) 現3.4 | 小型品 |
| 107 | 15 | 27 | 1区 | | 001溝 | 第14図A11～19層 | 須恵器 | MT85 | 杯蓋 | (口) 12.6<br>(高) 現2.9 | 口縁部直立 |
| 108 | | 218 | 2区 | 23 | 001溝 | 黒灰色粘土 | 須恵器 | TK209 | 杯身 | (口) 10.4<br>(高) 現2.1 | 口縁部立上がり低い |
| 109 | 17 | 217 | 2区 | 23 | 001溝 | 黒灰色粘土 | 須恵器 | TK209 | 杯身 | (口) 9.4<br>(高) 3.0 | 口縁部立上がり低い |
| 110 | 20 | 6 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 6世紀後半～7世紀後半 | 高杯？ | (裾) 7.4<br>(高) 現4.0 | 脚部低い |
| 111 | 20 | 240 | 1区 | 34 | 001溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | 6世紀 | 器台？ | (脚) 17.1<br>(高) 現8.8 | 直線的に立上がる |
| 112 | 15 | 26 | 1区 | | 001溝 | 第14図A11～19層 | 須恵器 | TK209 | 杯蓋 | (口) 13.2<br>(高) 現2.6 | 口縁部外反気味 |
| 113 | 15 | 25 | 1区 | | 001溝 | 第14図A11～19層 | 須恵器 | TK217 | 杯蓋 | (口) 13.5<br>(高) 4.0 | 口縁部直立 |
| 114 | 15 | 35 | 1区 | 31 | 001溝 | 黒灰色粘土 | 須恵器 | TK217 | 杯蓋 | (口) 13.4<br>(高) 2.8 | 扁平 |
| 115 | 16 | 238 | 1区 | 34 | 001溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | TK217 | 蓋 | (口) 9.4<br>(高) 2.4 | 宝珠形つまみ |
| 116 | | 145 | 1区 | 35 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | TK46 | 蓋 | (高) 現1.8 | 宝珠形つまみ |
| 117 | 16 | 89 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | TK46 | 蓋 | (口) 7.7<br>(高) 現1.5 | 器高低め |
| 118 | | 127 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | TK217～TK46 | 蓋 | (口) 8.6<br>(高) 現1.3 | 口縁部返り大きい |
| 119 | 16 | 144 | 1区 | 35 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | TK46～TK48 | 蓋 | (口) 9.6<br>(高) 現1.8 | 口縁部返り大きい |
| 120 | 16 | 141 | 1区 | 34 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | MT21 | 蓋 | (高) 現2.5 | 宝珠形つまみ |
| 121 | 17 | 239 | 1区 | 34 | 001溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | TK217 | 杯身 | (口) 8.7<br>(高) 3.2 | 底部尖り気味 |
| 122 | | 268 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | 7世紀前半 | 椀 | (口) 12.0<br>(高) 現2.6 | 口縁部直立気味 |
| 123 | 17 | 87 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | TK48 | 杯 | (口) 11.0<br>(高) 3.9 | 口縁部～胴部直線的，高台部長方形 |
| 124 | 21 | 236 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | 7世紀後半～8世紀 | 瓶 | (高台) 8.0<br>(高) 現3.3 | 高台部断面方形 |
| 125 | 20 | 79 | 1区 | | 001溝 | 黒灰色粘土 | 須恵器 | TK217 | 高杯 | (裾) 10.2<br>(高) 現4.9 | 脚部低い |
| 126 | 22 | 146 | 1区 | 35 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | TK217 | 甕 | (口) 25.0<br>(高) 現7.0 | 口縁部端平坦 |
| 127 | | 219 | 2区 | 23 | 001溝 | 黒灰色粘土 | 須恵器 | 7世紀後半～8世紀 | 壺 | (口) 16.2<br>(高) 現2.3 | 口縁部端丸く肥厚 |
| 128 | 16 | 139 | 1区 | 34 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 8世紀中葉 | 蓋 | (口) 12.2<br>(高) 現1.7 | 器壁厚い |
| 129 | | 142 | 1区 | 35 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 8世紀後半 | 蓋 | (口) 12.0<br>(高) 現1.6 | 口縁部端内傾 |
| 130 | | 187 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | 8世紀～9世紀前半 | 蓋 | (口) 14.5<br>(高) 現1.1 | 口縁部端直立 |
| 131 | | 172 | 2区 | 97 | 001溝 | オリーブ色シルト | 須恵器 | 8世紀後半 | 蓋 | (口) 18.8<br>(高) 現1.7 | 器高低め |
| 132 | 20 | 231 | 2区 | 94 | 001溝 | 黒色シルト | 須恵器 | 7世紀後半～8世紀 | 硯 | (上辺) 19.8<br>(高) 現6.2 | 脚部端内湾気味 |
| 133 | 19 | 216 | 2区 | 23 | 001溝 | 黒灰色粘土 | 須恵器 | 6世紀後半 | 平瓶 | (高) 現7.9 | 胴部やや高め |
| 134 | | 10 | 1区 | 32 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 8世紀中葉 | 杯 | (口) 15.0<br>(高) 現2.5 | 口縁部内湾気味 |
| 135 | 18 | 61 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色シルト | 須恵器 | 8世紀中葉 | 杯身 | (口) 10.2<br>(高) 7.0 | 口縁部外反 |
| 136 | 18 | 149 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 8世紀後半 | 杯 | (口) 15.6<br>(高) 現3.2 | 口縁部～胴部上半直線的 |

| 整・成形の特徴 | 文様の特徴 | 焼成 | 内 | 外 | 実測図No. | 残存率 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ | | やや不良 | 7.5YR7/4 | 7.5YR7/4 | 62 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ | | やや不良 | 2.5Y5/1 | 2.5Y5/1 | 232 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ・平行タタキ (内) 当具痕 (同心円文) | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 220 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 5 | D | 天井部にヘラ記号 |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | 5PB6/1 | 5PB5/1 | 27 | B | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 218 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 217 | D | |
| 【脚部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 6 | B | |
| 【脚部】(外) タタキ・ユビナデ (内) ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 240 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外)—(内)— | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 26 | B | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | 5Y7/1 | N7/0 | 25 | C | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 35 | B | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N5/0 | N6/0 | 238 | D | |
| 【胴部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N4/0 | N4/0 | 145 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ・ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 89 | B | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | 7.5YR6/4 | 7.5YR7/4 | 127 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N5/0 | N6/0 | 144 | B | |
| 【胴部】(外) 回転ヘラケズリ・回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 141 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N8/0 | N7/0 | 239 | C | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N8/0 | N7/0 | 268 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ・ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N5/0 | 87 | C | |
| 【胴部】(外) ヘラケズリ？(内) ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N6/0 | 236 | A | |
| 【杯部】(外) 回転ユビナデ・ヘラナデ (内) 回転ユビナデ<br>【脚部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 79 | B | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) 格子タタキ (内) ユビナデ | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 146 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 219 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 139 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) 回転ヘラケズリ・ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 142 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N6/0 | 187 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ユビナデ (内) ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 172 | A | |
| 【脚部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | 長方形透孔 | 良好 | N6/0 | N5/0 | 231 | A | |
| 【胴部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ・ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 216 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 10 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 61 | C | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) 回転ユビナデ・ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 149 | B | |

| No. | 図版No. | 実測番号 | 調査区 | グリッド | 遺構 | 層位・土層 | 種別 | 時期・系統 | 器種 | 法量（cm） | 器形の特徴 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 137 | | 171 | 2区 | 97 | 001溝 | オリーブ色シルト | 須恵器 | 8世紀後半 | 杯 | (口) 9.0<br>(高) 現2.4 | 口縁部外反 |
| 138 | | 269 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | 8世紀後半 | 杯 | (高) 現2.7 | 口縁部外反 |
| 139 | | 90 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 8世紀中葉 | 杯 | (口) 10.6<br>(高) 現2.0 | 口縁部～胴部内湾 |
| 140 | 18 | 122 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 8世紀後半 | 杯 | (口) 12.4<br>(高) 4.1 | 口縁部～胴部外反 |
| 141 | 18 | 143 | 1区 | 35 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 8世紀後半 | 杯 | (口) 20.0<br>(高) 現4.0 | 口縁部端外反 |
| 142 | | 128 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 8世紀後半 | 杯 | (底) 10.6<br>(高) 現5.0 | 平底 |
| 143 | 20 | 174 | 1区 | | 001溝 | 第14図B5・6層 | 須恵器 | 8世紀～9世紀前半 | 瓶 | (底) 11.0<br>(高) 現7.5 | 底部やや丸味あり |
| 144 | | 8 | 1区 | 32 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 8世紀中葉 | 杯 | (高台) 7.0<br>(高) 現1.9 | 高台部低い |
| 145 | | 266 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | 8世紀前葉 | 杯 | (高台) 7.0<br>(高) 現2.7 | 高台部断面方形 |
| 146 | | 235 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | 8世紀 | 杯 | (高台) 9.8<br>(高) 現1.6 | 高台部端丸味あり |
| 147 | 21 | 140 | 1区 | 34 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 8世紀後半～9世紀前半 | 杯 | (高台) 7.2<br>(高) 現1.8 | 高台断面方形 |
| 148 | 18 | 125 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 8世紀後半～9世紀前半 | 杯 | (高台) 8.0<br>(高) 現2.3 | 高台断面方形 |
| 149 | 21 | 182 | 1区 | 37 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 8世紀後半～9世紀前半 | 杯 | (高台) 9.4<br>(高) 現2.3 | 高台断面方形 |
| 150 | 21 | 124 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 8世紀後半～9世紀前半 | 杯 | (高台) 12.4<br>(高) 現3.0 | 高台断面長方形 |
| 151 | | 188 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | 8世紀後半～9世紀前半 | 杯 | (高台) 14.0<br>(高) 現2.7 | 底部広い |
| 152 | 21 | 109 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 8世紀～9世紀前半 | 杯 | (高台) 9.4<br>(高) 現3.0 | 高台部断面方形 |
| 153 | 21 | 148 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 8世紀後半～9世紀前半 | 杯 | (高台) 9.2<br>(高) 現3.3 | 高台断面方形 |
| 154 | 21 | 108 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 8世紀 | 杯 | (高台) 9.0<br>(高) 現3.6 | 高台部断面方形 |
| 155 | 22 | 88 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 8世紀 | 甕 | (口) 28.6<br>(高) 現6.2 | 口縁部端平坦 |
| 156 | 22 | 129 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 8世紀 | 甕 | (口) 26.2<br>(高) 現6.7 | 口縁部端平坦 |
| 157 | 22 | 34 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 8世紀後半 | 甕 | (口) 33.0<br>(高) 現5.0 | 口縁部大きく外反 |
| 158 | 18 | 123 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 9世紀前半 | 杯 | (口) 12.4<br>(高) 現3.0 | 口縁部～胴部直線的 |
| 159 | 21 | 126 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 9世紀前半 | 杯 | (高台) 11.2<br>(高) 現1.8 | 高台断面方形 |
| 160 | | 9 | 1区 | 32 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 9世紀 | 鉢 | (高台) 13.0<br>(高) 現3.4 | 高台部高い |
| 161 | | 4 | 1区 | 37 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 9世紀 | 鉢 | (口) 18.2<br>(高) 現9.2 | 口縁部内湾気味 |
| 162 | 22 | 181 | 1区 | 37 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | 9世紀前半 | 甕 | (口) 38.4<br>(高) 現1.9 | 折返し口縁部 |
| 163 | 20 | 147 | 1区 | 35 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | — | 甑 | (口) 34.0<br>(高) 現8.5 | 口縁部端平坦 |
| 164 | | 49 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色シルト | 須恵器 | — | 蓋 | (口) 25.5<br>(高) 6.6 | 頂部穿孔 |
| 165 | | 55 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | — | 飯蛸壺 | (高) 現6.6 | 鈕部方形 |
| 166 | 28 | 237 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | — | 飯蛸壺 | (高) 現7.0 | 釣鐘形 |
| 167 | 27 | 154 | 3区 | 58 | 001溝 | 黄灰色粘土 | 瓦器 | 12世紀 | 皿 | (口) 8.4<br>(高) 現2.0 | 口縁部外反 |
| 168 | | 155 | 3区 | 62 | 001溝 | 黄灰色粘土 | 瓦器 | 12世紀 | 皿 | (口) 7.8<br>(高) 現2.1 | 口縁部～胴部僅かに内湾 |
| 169 | 27 | 116 | 3区 | 65 | 001溝 | 黄灰色粘土 | 瓦器 | 12世紀 | 椀 | (高台) 5.2<br>(高) 現1.4 | 高台断面長方形 |
| 170 | 27 | 233 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂質土 | 瓦器 | 13世紀前半 | 椀 | (口) 12.8<br>(高) 現2.5 | 口縁部内湾気味 |

| 整・成形の特徴 | 文様の特徴 | 焼成 | 内 | 外 | 実測図No. | 残存率 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ<br>【胴部】（外）ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 171 | B | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 269 | A | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ<br>【胴部】（外）回転ユビナデ（内）— | | 良好 | N7/0 | N6/0 | 90 | A | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ<br>【胴部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 122 | B | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ<br>【胴部】（外）回転ヘラケズリ・ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N5/0 | N6/0 | 143 | A | |
| 【胴部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 128 | B | |
| 【胴部】（外）ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 174 | A | |
| 【高台部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 8 | B | |
| 【胴部】（外）ユビナデ・ヘラナデ（内）ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N6/0 | 266 | A | |
| 【胴部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 235 | A | |
| 【胴部】（外）ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 140 | A | |
| 【胴部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 125 | A | |
| 【胴部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 182 | B | |
| 【胴部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N7/0 | 124 | A | |
| 【胴部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 188 | A | |
| 【胴部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 109 | A | |
| 【胴部】（外）ヘラナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N5/0 | 148 | A | |
| 【胴部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 108 | A | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 88 | A | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 129 | A | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 34 | A | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ<br>【胴部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N5/0 | 123 | B | |
| 【胴部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 126 | A | |
| 【高台部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | 5PB6/1 | 5PB6/1 | 9 | A | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ<br>【胴部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ | | 良好 | N7/0 | 7.5Y7/1 | 4 | A | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | 5PB5/1 | 5PB5/1 | 181 | A | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ<br>【胴部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N7/0 | 147 | B | |
| 【口縁部】（外）回転ユビナデ（内）回転ユビナデ<br>【天井部】（外）回転ヘラケズリ（内）回転ヘラケズリ | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 49 | B | |
| 【鈕部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ<br>【胴部】（外）ヘラナデ（内）ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 55 | B | |
| 【胴部】（外）タタキ・ヘラナデ（内）ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 237 | B | |
| 【口縁部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ<br>【胴部】（外）ユビナデ（内）ミガキ | | 良好 | N4/0 | N6/0 | 154 | B | |
| 【口縁部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ<br>【胴部】（外）ユビオサエ・ユビナデ（内）ミガキ | | 良好 | N3/0 | N4/0 | 155 | B | |
| 【胴部】（外）ユビナデ（内）ミガキ | | 良好 | N3/0 | N3/0 | 116 | A | |
| 【口縁部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ<br>【胴部】（外）ユビオサエ・ユビナデ（内）ミガキ | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 233 | A | |

| No. | 図版No. | 実測番号 | 調査区 | グリッド | 遺構 | 層位・土層 | 種別 | 時期・系統 | 器種 | 法量（cm） | 器形の特徴 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 171 | | 68 | 1区 | 22 | ００１溝 | 緑灰色粘土 | 瓦質土器 | 15世紀 | 羽釜 | (口) 25.0<br>(高) 現6.1 | 口縁部直線的内傾 |
| 172 | | 69 | 1区 | 22 | ００１溝 | 緑灰色粘土 | 瓦質土器 | 15世紀 | 火舎 | (口) 35.0<br>(高) 現3.1 | 口縁部内傾 |
| 173 | | 227 | 2区 | 94 | 平安整地土 | 灰色シルト | 土器 | 8世紀後半 | 皿 | (口) 9.0<br>(高) 現1.7 | 胴部内湾 |
| 174 | 25 | 95 | 2区 | 108 | 平安整地土 | 灰色シルト | 土器 | 平安？ | 椀 | (高台) 5.2<br>(高) 現1.4 | 高台部断面三角形 |
| 175 | | 157 | 2区 | 96 | 平安整地土 | 灰色シルト | 須恵器 | 8世紀 | 杯 | (口) 14.8<br>(高) 現3.3 | 口縁部～胴部僅かに内湾 |
| 176 | | 226 | 2区 | 95 | 平安整地土 | 灰色シルト | 須恵器 | ＴＫ48 | 杯 | (口) 12.5<br>(高) 現3.9 | 口縁部～胴部直線的 |
| 177 | 25 | 210 | 2区 | 72 | 平安整地土 | にぶい黄褐色粘土 | 須恵器 | 8世紀 | 瓶 | (底) 7.2<br>(高) 現4.5 | 高台退化気味 |
| 178 | 26 | 234 | 1区 | | 平安整地土 | 灰色シルト | 黒色土器 | 10世紀 | 椀 | (高台) 6.2<br>(高) 現1.2 | 高台部断面三角形 |
| 179 | 26 | 202 | 2区 | 73 | 平安整地土 | にぶい黄褐色粘シルト | 黒色土器 | 11世紀 | 椀 | (高台) 7.5<br>(高) 現0.9 | 口縁部断面三角形 |
| 180 | | 183 | 2区 | 106 | 平安整地土 | 灰色シルト | 瓦器 | 12世紀 | 皿 | (口) 9.0<br>(高) 現2.0 | 口縁部やや外反 |
| 181 | | 263 | 2区 | | 平安整地土 | 灰色シルト | 瓦器 | 12世紀 | 椀 | (口) 14.0<br>(高) 現2.7 | 口縁部外反気味 |
| 182 | 28 | 229 | 2区 | 107 | 平安整地土 | 灰色シルト | 土器 | — | 飯蛸壺 | (高) 現4.4 | 釣鐘形 |
| 183 | 28 | 203 | 2区 | 73 | 平安整地土 | にぶい黄褐色粘シルト | 須恵器 | — | 飯蛸壺 | (高) 現4.9 | 釣鐘形 |
| 184 | 27 | 23 | 1区 | 24 | 平安耕作土 | 灰色粘シルト | 瓦器 | 13世紀 | 皿 | (口) 9.8<br>(高) 現1.7 | 口縁部内湾気味 |
| 185 | 27 | 22 | 1区 | 24 | 平安耕作土 | 灰色粘シルト | 瓦器 | 13世紀 | 皿 | (口) 9.8<br>(高) 現1.9 | 口縁部直線的 |
| 186 | | 118 | 1区 | 1 | 畦 | | 瓦器 | 12世紀 | 椀 | (高台) 4.8<br>(高) 現1.1 | 高台断面方形 |
| 187 | | 21 | 1区 | 24 | 平安耕作土 | 灰色粘シルト | 土器 | 8世紀後葉 | 甕 | (口) 21.0<br>(高) 現4.4 | 口縁部端直立・端部平坦 |
| 188 | | 71 | 1区 | 1 | 平安耕作土 | 灰色砂シルト | 須恵質土器 | 13世紀 | 片口擂鉢 | (口) 26.2<br>(高) 現8.8 | 口縁部肥厚 |
| 189 | | 52 | 1区 | 22 | 平安耕作土 | 灰色砂シルト | 瓦質土器 | 15世紀 | 擂鉢 | (口) 28.0<br>(高) 現4.8 | 口縁部端直立 |
| 190 | | 228 | 2区 | 86 | 中世整地土 | 緑灰色粘土 | 土器 | 8世紀後半 | 皿 | (口) 9.6<br>(高) 現2.0 | 胴部内湾 |
| 191 | 27 | 24 | 1区 | 4 | 中世整地層 | 緑灰色粘土 | 瓦器 | 13世紀 | 椀 | (口) 13.4<br>(高) 現2.2 | 口縁部直線的 |
| 192 | 25 | 247 | 3区 | 59 | 中世耕作土 | 黄褐色粘土 | 土器 | 6世紀 | 甕 | (口) 19.5<br>(高) 現15.5 | 胴部球形 |
| 193 | | 177 | 2区 | | 中世耕作土 | 黄褐色粘土 | 須恵器 | ＴＫ10 | 小壺 | (口) 5.0<br>(高) 現4.0 | 胴部算盤玉形 |
| 194 | 26 | 117 | 3区 | 59 | 中世耕作土 | 黄褐色粘土 | 黒色土器 | 11世紀 | 椀 | (高台) 5.6<br>(高) 現0.9 | 高台断面三角形 |
| 195 | 27 | 119 | 2区 | 95 | 中世耕作土 | 黄褐色粘土 | 瓦器 | 13世紀 | 椀 | (口) 13.0<br>(高) 現3.1 | 口縁部～胴部僅かに内湾 |
| 196 | 27 | 133 | 2区 | 93 | 中世耕作土 | 黄褐色粘土 | 瓦器 | 12世紀 | 椀 | (高台) 5.2<br>(高) 現1.5 | 高台断面方形 |
| 197 | | 156 | 2区 | 85 | 中世耕作土 | 黄褐色粘土 | 瓦質土器 | 15世紀 | 甕 | (口) 20.0<br>(高) 現3.9 | 口縁部玉縁状 |
| 198 | | 99 | 2区 | 86 | 中世耕作土 | 黄褐色粘土 | 陶器 | 中世 | 碗 | (高台) 2.9<br>(高) 現1.3 | 高台部断面方形 |
| 199 | | 47 | 1区 | 37 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 土器 | 8世紀後葉 | 皿 | (口) 7.7<br>(高) 現1.3 | 立上り短い |
| 200 | | 72 | 1区 | 36 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 土器 | 8世紀後半 | 皿 | (口) 9.4<br>(高) 現1.4 | 口縁部～胴部直線的 |
| 201 | | 224 | 2区 | 73 | 包含層 | 黄褐色粘土 | 土器 | 8世紀後半 | 甕 | (口) 15.4<br>(高) 現3.3 | 口縁部立ち気味 |
| 202 | | 257 | 1区 | 22 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 土器 | 13世紀 | 皿 | (口) 8.4<br>(高) 1.5 | 口縁部短く外反 |
| 203 | | 225 | 2区 | 73 | 包含層 | 黄褐色粘土 | 土器 | 8世紀後半 | 甕 | (口) 24.8<br>(高) 現5.9 | 口縁部立ち気味 |
| 204 | 25 | 221 | 2区 | 96 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 土器 | 8世紀中葉 | 盤 | (口) 37.8<br>(高) 3.3 | 口縁部外反・端部肥厚，高台低い |

| 整・成形の特徴 | 文様の特徴 | 焼成 | 内 | 外 | 実測図No. | 残存率 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内)―<br>【胴部】(外) ヘラケズリ (内)― | | やや不良 | 5Y5/1 | 5Y5/1 | 68 | A | |
| 【口縁部】(外)―(内)― | | 良好 | 5Y5/1 | 5Y5/1 | 69 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ユビナデ・ヘラナデ (内) ユビナデ | | 良好 | 10YR6/4 | 10YR6/4 | 227 | A | |
| 【胴部】(外)―(内)―【高台部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ | | 良好 | 10YR6/4 | 7.5YR7/2 | 95 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 157 | B | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 226 | A | |
| 【胴部】(外) ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | 5Y8/1 | 5Y8/1 | 210 | A | |
| 【胴部】(外)―(内)― | | 良好 | 2.5Y2/1 | 10YR8/2 | 234 | A | A類 |
| 【胴部】(外)―(内) ミガキ？ | | やや不良 | N3/0 | 2.5Y8/2 | 202 | A | B類 |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ユビナデ (内) ミガキ | | 良好 | N5/0 | 5Y7/1 | 183 | B | |
| 【口縁部】(外)―(内)―<br>【胴部】(外)―(内)― | | 良好 | 5Y8/1 | 5Y8/1 | 263 | A | |
| 【胴部】(外) ヘラナデ？(内) ユビナデ | | 良好 | 2.5Y8/1 | 2.5Y8/1 | 229 | A | |
| 【胴部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ | | やや不良 | 5Y8/1 | N8/0 | 203 | B | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ユビオサエ・ナデ (内) ユビナデ | | 良好 | N4/0 | N4/0 | 23 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ユビオサエ・ナデ (内) ユビナデ | | 良好 | N4/0 | N4/0 | 22 | A | |
| 【胴部】(外) ユビナデ (内) ミガキ | | 良好 | N4/0 | N4/0 | 118 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ | | 良好 | 10YR7/2 | 10YR5/2 | 21 | A | 外面煤付着 |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ヘラケズリ (内)― | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 71 | A | 東播系 |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ヘラケズリ (内)― | | やや不良 | N5/0 | N5/0 | 52 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ユビナデ・ヘラナデ (内) ユビナデ | | 良好 | 5YR7/4 | 10YR7/1 | 228 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ヘラミガキ<br>【胴部】(外) ユビオサエ・ナデ (内) ヘラミガキ | | 良好 | 5Y8/1 | 5Y8/1 | 24 | B | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ミガキ (内) ユビオサエ・ユビナデ | | 良好 | 2.5Y8/2 | 2.5Y8/2 | 247 | B | 外面煤付着 |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | 5PB7/1 | 5PB6/1 | 177 | B | |
| 【胴部】(外) ユビナデ (内)― | | 良好 | N4/0 | N3/0 | 117 | A | B類 |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ユビオサエ・ユビナデ (内)― | | 良好 | 2.5Y7/3 | 5Y4/1 | 119 | A | |
| 【胴部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ | | 良好 | N3/0 | N4/0 | 133 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) 平行タタキ (内) ユビナデ | | 良好 | 2.5Y7/1 | N4/0 | 156 | A | |
| 【胴部】(外) 施釉 (内) 施釉 | | 良好 | (胎)<br>2.5Y8/1 | | 99 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外)―(内)― | | やや不良 | 10YR5/4 | 2.5Y7/2 | 47 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ユビオサエ (内) ユビナデ | | やや不良 | 10YR7/4 | 7.5YR8/3 | 72 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ヘラケズリ？(内) ヘラナデ | | 良好 | N4/0 | 10YR8/3 | 224 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ | | 良好 | 7.5YR7/6 | 7.5YR7/4 | 257 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ヘラナデ<br>【胴部】(外) ヘラナデ (内) ユビナデ | | 良好 | 10YR8/3 | 10YR8/3 | 225 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ・ミガキ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ | | 良好 | 10YR5/2 | 10YR4/2 | 221 | A | |

| No. | 図版No. | 実測番号 | 調査区 | グリッド | 遺構 | 層位・土層 | 種別 | 時期・系統 | 器種 | 法量（cm） | 器形の特徴 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 205 | | 74 | 1区 | 36 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 土師質土器 | 16世紀 | 甕 | (口) 31.0<br>(高) 現5.2 | 口縁部肥厚 |
| 206 | | 73 | 1区 | 26 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 土師質土器 | 16世紀 | 甕 | (高) 現4.4 | 口縁部肥厚 |
| 207 | | 191 | 1区 | 24 | 包含層 | 灰色粘土 | 土師質土器 | 16世紀 | 羽釜 | (口) 24.0<br>(高) 現5.3 | 口縁部やや外反 |
| 208 | | 255 | 1区 | 35 | 包含層 | 黒灰色粘土 | 須恵器 | ＴＫ216 | 杯蓋 | (口) 13.5<br>(高) 現3.5 | 口縁部外反気味 |
| 209 | | 70 | 1区 | 35 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 須恵器 | ６世紀 | 鉢 | (口) 24.3<br>(高) 現3.1 | 口縁部端直立 |
| 210 | 25 | 222 | 2区 | 96 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 須恵器 | ６世紀後葉 | 甕 | (口) 34.0<br>(高) 現10.4 | 口縁部端断面方形 |
| 211 | | 66 | 1区 | 24 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 須恵器 | ８世紀 | 甕 | (口) 25.5<br>(高) 現3.1 | 口縁部外反 |
| 212 | | 270 | 1区 | | 包含層 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | ８世紀後半 | 杯 | (口) 18.2<br>(高) 現3.2 | 口縁部外反 |
| 213 | 25 | 46 | 1区 | 37 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 須恵器 | ８世紀 | 瓶 | (底) 16.8<br>(高) 現5.9 | 底部丸味あり |
| 214 | | 193 | 1区 | 24 | 包含層 | 灰色粘土 | 須恵器 | ８世紀後半～９世紀前半 | 杯 | (高台) 9.5<br>(高) 現1.4 | 高台部断面方形 |
| 215 | | 54 | 1区 | 4 | 包含層 | 灰色粘土 | 須恵質土器 | 11（～12）世紀 | 捏鉢 | (口) 26.0<br>(高) 現3.1 | 口縁部外面直立 |
| 216 | 26 | 184 | 1区 | 36 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 瓦器 | 12世紀 | 椀 | (口) 15.0<br>(高) 5.0 | 高台部断面三角形 |
| 217 | | 256 | 1区 | 37 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 瓦器 | 12世紀 | 椀 | (口) 16.3<br>(高) 現3.6 | 口縁部やや外反 |
| 218 | | 254 | 1区 | 11 | 包含層 | 灰白色粘シルト | 瓦器 | 13世紀 | 椀 | (口) 12.0<br>(高) 現2.8 | 口縁部やや内湾 |
| 219 | 27 | 67 | 1区 | 24 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 瓦器 | 13世紀 | 椀 | (高台) 5.0<br>(高) 現1.0 | 高台部断面三角形 |
| 220 | 26 | 19 | 1区 | 37 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 瓦器 | 12世紀 | 椀 | (高台) 6.1<br>(高) 現1.4 | 高台部断面長方形・端部外反気味 |
| 221 | 26 | 20 | 1区 | 37 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 瓦器 | 12世紀 | 椀 | (高台) 6.3<br>(高) 現2.3 | 高台部断面長方形 |
| 222 | 27 | 18 | 1区 | 37 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 瓦器 | 12世紀 | 皿 | (口) 9.6<br>(高) 1.8 | 口縁部直線的 |
| 223 | | 261 | 1区 | 26 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 瓦器 | 12世紀 | 皿 | (口) 10.0<br>(高) 現1.3 | 立上り短い |
| 224 | | 48 | 1区 | 37 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 瓦器 | 13世紀 | 皿 | (口) 9.1<br>(高) 1.0 | 立上り短い |
| 225 | | 192 | 1区 | 24 | 包含層 | 灰色粘土 | 瓦質土器 | 15世紀 | 擂鉢 | (口) 26.0<br>(高) 現5.1 | 口縁部～胴部直線的 |
| 226 | | 260 | 1区 | 24 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 瓦質土器 | 15世紀 | 擂鉢 | (口) 30.0<br>(高) 5.2 | 口縁部外面直立 |
| 227 | | 39 | 1区 | 1 | 包含層 | 黒褐色粘土 | 陶器 | 近世 | 碗 | (高台) 4.4<br>(高) 現1.8 | 高台低い |
| 228 | | 57 | 3区 | 33 | 包含層 | 黒褐色粘土 | 磁器 | 近世 | 碗 | (高台) 3.9<br>(高) 現2.2 | 高台高い |
| 229 | | 40 | 1区 | 1 | 包含層 | 黒褐色粘土 | 陶器 | 近世 | 土瓶 | (底) 6.6<br>(高) 現1.5 | 上底 |
| 230 | | 56 | 3区 | 33 | 包含層 | 黒褐色粘土 | 磁器 | 近世 | 碗 | (口) 14.0<br>(高) 現3.4 | 大碗，丸腰形 |
| 231 | | 75 | 1区 | 35 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 土製品 | 近世 | 芥子面 | (縦) 1.6<br>(厚) 0.4 | 裏面平坦 |
| 232 | | 205 | 1区 | 11 | 包含層 | 黒褐色粘土 | 土製品 | 近世 | 泥面子 | (径) 3.4 | 裏面窪む |
| 233 | | 206 | 1区 | 11 | 包含層 | 黒褐色粘土 | 土製品 | 近世 | 泥面子 | (径) 3.0 | 裏面窪む |
| 234 | | 204 | 2区 | 73 | 包含層 | 灰色粘土 | 土製品 | 近世 | 燭台 | (高) 5.4 | 上部花弁状 |
| 235 | | 45 | 1区 | 26 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 石製品 | | | (長) 現13.8<br>(厚) 2.1 | 扁平 |
| 236 | | 38 | 1区 | | 攪乱土 | | 土器 | ８世紀後葉 | 皿 | (口) 8.3<br>(高) 現19 | 胴部丸味あり |
| 237 | | 44 | 1区 | | 攪乱土 | | 土器 | ８世紀後半 | 皿 | (高台) 14.4<br>(高) 現1.6 | 高台部断面方形 |
| 238 | | 43 | 1区 | | 攪乱土 | | 土器 | ８世紀後葉 | 甕 | (口) 21.0<br>(高) 4.7 | 胴部の張り弱い |

| 整・成形の特徴 | 文様の特徴 | 焼成 | 内 | 外 | 実測図No. | 残存率 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) 平行タタキ (内)— | | 良好 | 2.5Y7/2 | 2.5Y7/2 | 74 | A | 湊焼 |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ユビナデ・イタナデ (内) ユビナデ | | 良好 | 10YR7/3 | 10YR7/3 | 73 | A | 湊焼 |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ヘラケズリ (内)— | | 良好 | 2.5Y7/3 | 2.5Y6/2 | 191 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 255 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | 5PB7/1 | 5PB7/1 | 70 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | 波状文３段・沈線１条 | 良好 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 222 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | 5PB6/1 | N4/0 | 66 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 270 | A | |
| 【胴部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 46 | B | |
| 【胴部】(外) 回転ユビナデ (内) ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N7/0 | 193 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 54 | A | |
| 【口縁部】(外)—(内)—<br>【胴部】(外)—(内) ミガキ | | 良好 | N4/0 | N4/0 | 184 | B | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ユビオサエ (内) ミガキ | | 良好 | N4/0 | N4/0 | 256 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ユビオサエ (内)— | | 良好 | N4/0 | N4/0 | 254 | A | |
| 【高台部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | やや不良 | 2.5Y6/4 | 5Y5/1 | 67 | A | |
| 【高台部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ | | 良好 | N4/0 | N4/0 | 19 | B | |
| 【胴部】(外)ユビオサエ・ナデ(内)—【高台部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ | | 良好 | N8/0 | N5/0 | 20 | B | |
| 【口縁部】(外) ヘラミガキ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ヘラミガキ (内) ヘラミガキ | | 良好 | N5/0 | N6/0 | 18 | B | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ | | 良好 | 2.5Y8/3 | 2.5Y7/6 | 261 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ | | やや不良 | N4/0 | N4/0 | 48 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ヘラケズリ (内) スリ目 | | やや不良 | N5/0 | N4/0 | 192 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 260 | A | |
| 【胴部】(外) 灰釉 (内) 灰釉 | | 良好 | (胎)<br>2.5Y6/1 | | 39 | B | 内面砂目 |
| 【底部】(外) 施釉 (内) 施釉【高台部】(外) 染付・施釉 (内) 施釉 | | 良好 | (胎)<br>N8/0 | | 57 | A | |
| 【胴部】(外)—(内) 施釉 | | 良好 | (胎)<br>2.5Y7/2 | | 40 | A | |
| 【口縁部】(外) 染付・施釉 (内) 施釉<br>【胴部】(外) 染付・施釉 (内) 施釉 | | 良好 | (胎)<br>5Y7/1 | | 56 | A | |
| 【器面】(表) ユビナデ (裏) ユビオサエ | | 良好 | 5YR6/6 | 5YR6/6 | 75 | D | |
| 【器面】(表) ユビナデ (裏) ユビナデ | 金太郎 | 良好 | 5YR6/4 | 5YR6/4 | 205 | B | |
| 【器面】(表) ユビナデ (裏) ユビナデ | — | 良好 | 5YR6/3 | 7.5YR5/2 | 206 | B | |
| 【器面】(表) ユビナデ | | 良好 | 10YR8/3 | 7.5YR7/3 | 204 | D | |
| 【表】研磨【裏】研磨【側】研磨 | | | | | 45 | | 砂岩 |
| 【口縁部】(外) ヘラナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ヘラナデ (内) ユビナデ | | やや不良 | 7.5YR7/3 | 10YR7/3 | 38 | B | |
| 【高台部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N5/0 | 44 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外)—(内)— | | やや不良 | 5Y6/1 | 5Y5/1 | 43 | A | |

| No. | 図版No. | 実測番号 | 調査区 | グリッド | 遺構 | 層位・土層 | 種別 | 時期・系統 | 器種 | 法量（cm） | 器形の特徴 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 239 | | 81 | 2区 | | 攪乱土 | | 須恵器 | ＴＫ10 | 蓋 | (口) 8.8<br>(高) 4.0 | 全体に丸味あり |
| 240 | 25 | 80 | 2区 | | 攪乱土 | | 須恵器 | ＴＫ217 | 蓋 | (口) 7.8<br>(高) 2.6 | 宝珠形つまみ |
| 241 | | 121 | 3区 | | 攪乱土 | | 須恵器 | 9世紀前半 | 杯 | (口) 11.2<br>(高) 1.7 | 器高低め |
| 242 | | 30 | 1区 | | 攪乱土 | | 須恵器 | 8世紀後半 | 杯 | (高台) 8.1<br>(高) 現1.4 | 高台部断面方形 |
| 243 | | 29 | 1区 | | 攪乱土 | | 須恵器 | 8世紀 | 蓋 | (口) 16.8<br>(高) 現1.3 | 扁平 |
| 244 | | 37 | 1区 | | 攪乱土 | | 須恵器 | 8世紀 | 瓶 | (底) 9.3<br>(高) 現4.0 | 底部丸味あり |
| 245 | 28 | 230 | 2区 | | 攪乱土 | | 須恵器 | | 飯蛸壺 | (高) 現5.4 | 釣鐘形 |
| 246 | | 28 | 1区 | | 攪乱土 | | 須恵器 | 8世紀中葉 | 鉢 | (口) 34.0<br>(高) 現5.2 | 口縁部端肥厚 |
| 247 | | 153 | 1区 | | 攪乱土 | | 須恵器 | | 把手 | (高) 現10.2 | 断面方形 |
| 248 | 26 | 151 | 1区 | | 攪乱土 | | 黒色土器 | 10世紀 | 椀 | (高台) 7.0<br>(高) 現1.5 | 高台断面長方形 |
| 249 | 27 | 120 | 3区 | | 攪乱土 | | 瓦器 | 12世紀 | 皿 | (口) 9.6<br>(高) 2.3 | 口縁部～胴部内湾 |
| 250 | 27 | 152 | 1区 | | 攪乱土 | | 瓦器 | 12世紀 | 椀 | (口) 15.0<br>(高) 現4.2 | 口縁部～胴部僅かに内湾 |
| 251 | 27 | 150 | 1区 | | 攪乱土 | | 瓦器 | 13世紀 | 椀 | (高台) 5.0<br>(高) 現1.5 | 高台断面三角形 |
| 252 | | 16 | 1区 | | 攪乱土 | | 瓦質土器 | 15世紀 | 甕 | (高) 現5.0 | 口縁部丸く収まる |
| 253 | | 15 | 1区 | | 攪乱土 | | 陶器 | 18世紀 | 擂鉢 | (口) 29.1<br>(高) 現4.7 | 口縁部 |
| 254 | | 36 | 1区 | | 攪乱土 | | 磁器 | 近世 | 皿 | (高台) 7.2<br>(高) 現1.2 | 高台部断面方形 |
| 255 | | 41 | 1区 | 2 | 攪乱土 | | 磁器 | 近世 | 碗 | (高台) 4.1<br>(高) 現2.5 | 丸腰形 |
| 256 | | 31 | 1区 | | 攪乱土 | | 磁器 | 近世 | 碗 | (口) 7.1<br>(高) 現3.8 | 丸腰形 |
| 257 | | 13 | 1区 | 14 | 攪乱土 | | 磁器 | 近世 | 碗 | (口) 6.6<br>(高) 現4.3 | 筒形 |
| 258 | | 100 | 3区 | | 攪乱土 | | 磁器 | 近世 | 碗 | (口) 9.2<br>(高) 5.2 | 丸腰形 |
| 259 | | 14 | 1区 | | 攪乱土 | | 磁器 | 近代 | 碗 | (高台) 3.1<br>(高) 現3.0 | 丸形 |
| 260 | | 253 | 3区 | | 攪乱土 | | 土製品 | 近世 | 泥面子 | (径) 3.3<br>(厚) 0.5 | 裏面窪む |
| 261 | | 252 | 3区 | | 攪乱土 | | 土製品 | 近世 | 泥面子 | (径) 3.3<br>(厚) 0.7 | 裏面窪む |
| 262 | | 32 | 1区 | | 攪乱土 | | 土製品 | 近世 | 玩具 | (長) 4.7<br>(幅) 3.8 | 俵 |
| 263 | | 33 | 1区 | | 攪乱土 | | 石製品 | | | (長) 現11.4<br>(厚) 2.4 | 板状 |
| 264 | | 207 | 2区 | 72 | 攪乱土 | | 鉄製品 | 近世？ | 釘 | (長) 6.9<br>(幅) 0.7 | |
| 265 | | 53 | 1区 | 28 | ０２３井戸 | 灰色粘土 | 陶器 | 16世紀 | 擂鉢 | (口) 26.0<br>(高) 現3.6 | 口縁部肥厚 |
| 266 | 24 | 250 | 2区 | 96 | １１９土坑 | 黒褐色粘シルト | 須恵器 | ＴＫ７ | 杯 | (高台) 15.7<br>(高) 現5.4 | 口縁部外反気味，高台端丸味あり |
| 267 | 28 | 241 | 2区 | 88 | ０６８土坑 | 緑灰色粘土 | 土製品 | | 土錘 | (長) 5.3<br>(径) 2.9 | 大型品 |
| 268 | 28 | 275 | 2区 | 96 | ００１溝 | オリーブ黒色シルト | 土製品 | | 羽口 | (厚) 2.1 | 内径大きめか？ |
| 269 | 28 | 273 | 1区 | 24 | 包含層 | 灰色粘シルト | 土製品 | | 羽口 | (厚) 1.5 | 内径1.5cmほど |
| 270 | 28 | 274 | 1区 | 24 | 包含層 | 灰色粘シルト | 土器 | | 坩堝 | (厚) 2.0 | 浅い碗状 |
| 271 | 28 | 272 | 1区 | | ００１溝 | 茶褐色砂シルト | 鉄製品 | | 鉄滓 | (長) 5.9<br>(幅) 4.9 | |
| 272 | 28 | 523 | 2区 | 108 | 平安整地土 | 灰色シルト | 鉄製品 | | 鉄滓 | (長) 3.7 (幅) 3.0 | |

| 整・成形の特徴 | 文様の特徴 | 焼成 | 内 | 外 | 実測図No. | 残存率 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ・ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 81 | B | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ・ユビナデ | | 良好 | N5/0 | N6/0 | 80 | D | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N4/0 | N5/0 | 121 | B | |
| 【高台部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 30 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【天井部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | 5PB6/1 | 5PB6/1 | 29 | A | |
| 【胴部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【底部】(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 37 | B | |
| 【胴部】(外) ヘラナデ (内) ユビナデ | | 良好 | N4/0 | N4/0 | 230 | A | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ<br>【胴部】(外)—(内)— | | 良好 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 28 | B | |
| 【把部】(外) ヘラケズリ | | 良好 | N5/0 | | 153 | A | |
| 【胴部】(外) ユビナデ (内)— | | 良好 | N3/0 | N3/0 | 151 | A | A類 |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ユビオサエ・ユビナデ (内) ユビナデ | | 良好 | N5/0 | N4/0 | 120 | B | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) ヘラナデ (内) ミガキ | | 良好 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 152 | A | 平瓶？ |
| 【胴部】(外) ユビナデ (内) ミガキ | | 良好 | N6/0 | N5/0 | 150 | A | |
| 【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ<br>【胴部】(外) 平行タタキ (内) ハケメ | | やや不良 | N8/0 | N6/0 | 16 | A | |
| 【口縁部】(外) ヘラナデ (内) ヘラナデ<br>【胴部】(外) 平行タタキ (内) ハケ | | 良好 | N5YR5/3 | 7.5YR5/1 | 15 | A | 堺焼 |
| 【胴部】(外)—(内) 染付 | | 良好 | (胎)<br>5Y8/1 | | 36 | A | 砂目高・漳州窯系 |
| 【胴部】(外) 施釉 (内) 施釉 | | 良好 | (胎)<br>N8/0 | | 41 | B | 底部内面輪禿 |
| 【口縁部】(外) 染付・施釉 (内) 施釉<br>【胴部】(外) 染付・施釉 (内) 施釉 | | 良好 | (胎)<br>7.5Y8/1 | | 31 | A | |
| 【口縁部】(外) 染付・施釉 (内) 染付・施釉<br>【胴部】(外) 染付・施釉 (内) 染付・施釉 | 外面草文、内面四方襷文 | 良好 | (胎)<br>N8/0 | | 13 | A | |
| 【口縁部】(外) 染付・施釉 (内) 施釉<br>【胴部】(外) 染付・施釉 (内) 施釉 | | 良好 | (胎)<br>N8/0 | | 100 | D | |
| 【胴部】(外) 染付・施釉 (内) 施釉 | 外面梅木 | 良好 | (胎)<br>N8/0 | | 14 | B | 銅版転写 |
| 【器面】(表) ユビナデ (裏) ユビオサエ | 葉文？ | 良好 | 7.5YR5/4 | 7.5YR5/4 | 253 | D | |
| 【器面】(表) ユビナデ (裏) ユビオサエ | 葉文？ | 良好 | 5YR6/6 | 5YR6/6 | 252 | D | |
| (外) ユビナデ | | 良好 | 10YR7/2 | | 32 | A | |
| 【表】研磨【裏】敲打・研磨【側】研磨 | | | | | 33 | | 砂岩 |
| | | | | | 207 | D | |
| 【口縁部】(外) 回転ユビナデ (内) 回転ユビナデ | | 良好 | 10YR4/1 | 10YR4/1 | 53 | A | |
| 【胴部】(外)—(内)— | | 良好 | 7.5YR6/6 | 7.5YR6/6 | 250 | A | |
| 【体部】(外) ヘラナデ | | 良好 | 2.5Y8/2 | 2.5Y8/2 | 241 | D | |
| 【器面】(表) ヘラケズリ | | 良好 | 10YR8/2 | N5/0 | 275 | A | |
| 【器面】(表) ヘラケズリ | | 良好 | 5YR8/3 | 5YR8/3 | 273 | A | |
| 【胴部】(外)—(内)— | | 良好 | 10YR6/6 | 10YR8/4 | 274 | A | |
| | | | 7.5YR6/6 | | 272 | D | 炭付着 |
| | | | 10YR5/1 | | 523 | D | |

| No. | 図版No. | 実測番号 | 調査区 | グリッド | 遺構 | 層位・土層 | 種別 | 時期・系統 | 器種 | 法量（cm） | 器形の特徴 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 273 | 28 | 522 | ２区 | 95 | 平安整地土 | 灰色シルト | 鉄製品 | | 鉄滓 | （長）3.9（幅）3.1 | |
| 274 | | 350 | １区 | 37 | ００１・A溝 | 茶褐色砂シルト | 土器 | 布留 | 甕 | （厚）0.5 | |
| 275 | | 314 | １区 | | ００１・A溝 | 黒褐色粘土 | 土器 | 庄内？ | 甕 | （厚）0.5 | 口縁部端肥厚 |
| 276 | | 315 | １区 | | ００１・A溝 | 黒褐色粘土 | 須恵器 | | 杯蓋 | （厚）0.5 | |
| 277 | | 308 | ２区 | | ００１・A溝 | 暗オリーブ粘シルト | 須恵器 | | 甕 | （厚）1.0 | |
| 278 | | 296 | ３区 | 60 | ００１・A溝 | 灰色粘土 | 須恵器 | | 甕 | （厚）1.0 | |
| 279 | | 305 | ３区 | 63 | ００１・A溝 | 暗褐色砂質土 | 土器 | 庄内 | 壺 | （厚）0.6 | |
| 280 | | 297 | ３区 | 60 | ００１・A溝 | 灰色粘土 | 須恵器 | | 甕 | （厚）1.1 | |
| 281 | | 313 | １区 | | ００１・A溝 | 黒褐色粘土 | 須恵器 | | 甕 | （厚）1.2 | |
| 282 | | 318 | １区 | | ００１・A溝 | 黒褐色粘土 | 須恵器 | | 甕 | （厚）0.6 | |
| 283 | | 316 | １区 | | ００１・A溝 | 黒褐色粘土 | 須恵器 | | 甕 | （厚）1.1 | |
| 284 | | 276 | ３区 | 66 | ００１・A溝 | 灰色粘土 | 瓦 | | 平瓦 | （厚）1.3 | |
| 285 | | 294 | ３区 | 60 | ００１・A溝 | 灰色粘土 | 瓦 | | 平瓦 | （厚）1.5 | |
| 286 | | 307 | １区 | | ００１・世紀溝 | 一括 | 須恵器 | | 甕 | （厚）1.0 | |
| 287 | | 277 | ３区 | 60 | ００１・B溝 | 第14図Ｊ１層 | 瓦 | | 平瓦 | （厚）1.4 | |
| 288 | | 332 | １区 | | ００１・B溝 | 灰色砂 | 須恵器 | | 甕 | （厚）1.1 | |
| 289 | | 345 | １区 | | ００１・B溝 | 灰色シルト | 須恵器 | | 甕 | （厚）0.8 | |
| 290 | | 306 | １区 | | ００１・B溝 | 第14図Ｂ２層 | 須恵器 | | 壺 | （厚）0.9 | |
| 291 | | 339 | １区 | | ００２溝 | 一括 | 須恵器 | | 甕 | （厚）0.9 | |
| 292 | | 338 | １区 | | ００２溝 | 一括 | 須恵器 | | 甕 | （厚）0.6 | |
| 293 | | 357 | １区 | | ００１溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | ５世紀後半 | 甕 | （厚）0.4 | 口縁部屈曲 |
| 294 | | 344 | １区 | | ００１溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | ５世紀後半 | 甕 | （厚）0.8 | 沈線・櫛歯刺突文 |
| 295 | | 358 | １区 | 45 | ００１溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | | 壺？ | （厚）1.0 | |
| 296 | | 336 | １区 | 37 | ００１溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | | 壺？ | （厚）0.7 | |
| 297 | | 311 | １区 | 28 | ００１溝 | 灰色砂シルト | 須恵器 | | 甕 | （厚）1.2 | |
| 298 | | 348 | １区 | 35 | ００１溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | | 甕 | （厚）1.5 | |
| 299 | | 355 | １区 | 45 | ００１溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | | 甕 | （厚）0.9 | |
| 300 | | 327 | １区 | | ００１溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | | 甕 | （厚）0.9 | |
| 301 | | 359 | １区 | 45 | ００１溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | | 甕 | （厚）0.7 | |
| 302 | | 325 | １区 | | ００１溝 | 黒灰色粘土 | 須恵器 | | 甕 | （厚）0.7 | |
| 303 | | 354 | １区 | 45 | ００１溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | | 甕 | （厚）0.9 | |
| 304 | | 360 | １区 | 45 | ００１溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | | 甕 | （厚）0.7 | |
| 305 | | 353 | １区 | 35 | ００１溝 | 黒灰色粘土 | 須恵器 | | 甕 | （厚）0.7 | |
| 306 | | 329 | １区 | | ００１溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | | 甕 | （厚）0.7 | |

| 整・成形の特徴 | 文様の特徴 | 焼成 | 内 | 外 | 実測図No. | 残存率 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 5Y7/1 | | 522 | D | |
| 【胴部】（外）ハケメ（内）ハケメ・ヘラナデ | | 良好 | 10YR8/3 | 10YR5/4 | 350 | A | |
| 【口縁部】（外）ミガキ（内）ユビナデ | | 良好 | 7.5YR8/4 | 7.5YR8/4 | 314 | A | |
| 【天井部】（外）回転ヘラケズリ（内）回転ユビナデ | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 315 | A | |
| 【口縁部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ | 波状文 | 良好 | N7/0 | 5Y6/2 | 308 | A | |
| 【胴部】（凹）縄簾文（凸）同心円文（当具痕） | | 良好 | N6/0 | N5/0 | 296 | A | |
| 【胴部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ | 波状文・櫛描直線文 | 良好 | 2.5Y7/2 | 7.5Y8/3 | 305 | A | |
| 【胴部】（外）格子タタキ・カキメ？（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N6/0 | N5/0 | 297 | A | |
| 【胴部】（外）格子タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | 2.5GY5/1 | 2.5GY5/1 | 313 | A | |
| 【胴部】（外）格子タタキ・カキメ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | 5Y8/1 | 2.5Y6/1 | 318 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 316 | A | |
| 【平部】（凹）布目（凸）ユビナデ？ | | 良好 | 2.5Y2/1 | N6/0 | 276 | A | |
| 【平部】（凹）布目（凸）ヘラケズリ | | 良好 | 5Y4/1 | 5Y4/1 | 294 | B | |
| 【胴部】（外）格子タタキ（内）同心円文（当具痕）・ユビナデ | | 良好 | N8/0 | 5Y5/1 | 307 | A | |
| 【平部】（凹）ヘラケズリ・布目（凸）ヘラケズリ | | 良好 | 10YR5/3 | 10YR8/2 | 277 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 332 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 345 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ・カキメ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 306 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 339 | A | |
| 【胴部】（外）格子タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N5/0 | N8/0 | 338 | A | |
| 【口縁部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 357 | A | |
| 【頚部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ | | 良好 | N6/0 | N5/0 | 344 | A | |
| 【胴部】（外）（タタキ）カキメ（内）同心円文（当具痕）・磨消 | 沈線 | 良好 | N5/0 | N5/0 | 358 | A | |
| 【胴部】（外）カキメ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N7/0 | N6/0 | 336 | A | |
| 【頚部】（外）ヘラナデ（内）ヘラナデ | | 良好 | N6/0 | N5/0 | 311 | A | |
| 【口縁部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ<br>【胴部】（外）格子タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N6/0 | N7/0 | 348 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 355 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ・磨消（内）同心円文（当具痕）・磨消 | | 良好 | N6/0 | N5/0 | 327 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ・カキメ（内）同心円文（当具痕・青海波状） | | 良好 | N6/0 | N5/0 | 359 | A | |
| 【胴部】（外）格子タタキ（内）同心円文（当具痕）・ユビナデ | | 良好 | N4/0 | N4/0 | 325 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）同心円文（当具痕）・磨消 | | 良好 | 5PB5/1 | N5/0 | 354 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ・カキメ（内）同心円文（当具痕）・磨消 | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 360 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N4/0 | N4/0 | 353 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ・カキメ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N6/0 | N5/0 | 329 | A | |

| No. | 図版No. | 実測番号 | 調査区 | グリッド | 遺構 | 層位・土層 | 種別 | 時期・系統 | 器種 | 法量（cm） | 器形の特徴 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 307 | | 347 | 1区 | 34 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | | 甕 | (厚) 0.8 | |
| 308 | | 319 | 1区 | 29 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | | 甕 | (厚) 0.7 | |
| 309 | | 335 | 1区 | 37 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | | 甕 | (厚) 1.0 | |
| 310 | | 340 | 1区 | | 001溝 | 第14図B5・6層 | 須恵器 | | 甕 | (厚) 0.7 | |
| 311 | | 330 | 1区 | | 001溝 | 黒灰色粘土 | 須恵器 | | 甕 | (厚) 0.6 | |
| 312 | | 356 | 1区 | 45 | 001溝 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | | 甕 | (厚) 1.0 | |
| 313 | | 341 | 1区 | | 001溝 | 南ベルト・Ⅱ層 | 須恵器 | | 甕 | (厚) 0.9 | |
| 314 | | 300 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | | 甕 | (厚) 1.0 | |
| 315 | | 324 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | | 甕 | (厚) 0.8 | |
| 316 | | 323 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | | 甕 | (厚) 0.7 | |
| 317 | | 317 | 1区 | 29 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | | 甕 | (厚) 1.2 | |
| 318 | | 331 | 1区 | | 001溝 | 黒灰色粘土 | 須恵器 | | 甕 | (厚) 1.3 | |
| 319 | | 337 | 1区 | 37 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | | 甕 | (厚) 1.0 | |
| 320 | | 342 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | | 甕 | (厚) 0.9 | |
| 321 | | 310 | 1区 | | 001溝 | 黒灰色粘土 | 須恵器 | | 甕 | (厚) 1.0 | |
| 322 | | 326 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | | 甕 | (厚) 0.9 | |
| 323 | | 352 | 1区 | 35 | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | | 甕 | (厚) 1.0 | |
| 324 | | 334 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | | 甕 | (厚) 1.0 | |
| 325 | | 346 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | | 甕 | (厚) 1.1 | |
| 326 | | 333 | 1区 | | 001溝 | 茶褐色砂シルト | 須恵器 | | 甕 | (厚) 0.8 | |
| 327 | | 349 | 1区 | 35 | 001溝 | 黒灰色粘土 | 須恵器 | | 甕 | (厚) 0.7 | |
| 328 | | 320 | 2区 | 97 | 平安整地土 | 灰色シルト | 土器 | 布留 | 甕 | (厚) 0.4 | |
| 329 | | 322 | 2区 | 97 | 平安整地土 | 灰色シルト | 土器 | 布留 | 甕 | (厚) 0.4 | |
| 330 | | 321 | 2区 | 97 | 平安整地土 | 灰色シルト | 土器 | 布留 | 甕 | (厚) 0.4 | |
| 331 | | 304 | 2区 | 97 | 平安整地土 | 灰色シルト | 須恵器 | | 甕 | (厚) 0.8 | |
| 332 | | 289 | 2区 | 96 | 平安整地土 | 灰色シルト | 瓦 | | 平瓦 | (厚) 2.3 | |
| 333 | | 286 | 2区 | 110 | 平安整地土 | 灰色シルト | 瓦 | | 平瓦 | (厚) 2.1 | |
| 334 | | 282 | 2区 | 73 | 平安整地土 | にぶい黄色粘土 | 瓦 | | 平瓦 | (厚) 1.9 | |
| 335 | | 281 | 2区 | 73 | 平安整地土 | にぶい黄色粘土 | 瓦 | | 平瓦 | (厚) 1.9 | |
| 336 | | 283 | 2区 | 95 | 平安整地土 | 灰色シルト | 瓦 | | 平瓦 | (厚) 2.0 | |
| 337 | | 287 | 2区 | | 平安整地土 | 灰色シルト | 瓦 | | 丸瓦 | (厚) 2.1 | |
| 338 | | 279 | 3区 | 59 | 平安整地土 | 黒灰色粘土 | 瓦 | | 平瓦 | (厚) 2.1 | |
| 339 | | 278 | 1区 | 17 | 平安耕作土 | 黒灰色粘土 | 瓦 | | 平瓦 | (厚) 2.2 | |
| 340 | | 280 | 1区 | | 平安耕作土 | 黄褐色粘土 | 瓦 | | 平瓦 | (厚) 1.7 | |

| 整・成形の特徴 | 文様の特徴 | 焼成 | 内 | 外 | 実測図No. | 残存率 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N7/0 | N6/0 | 347 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 319 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N7/0 | N6/0 | 335 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ・カキメ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 340 | A | |
| 【胴部】（外）格子タタキ（内）同心円文（当具痕・青海波状） | | 良好 | N4/0 | 5Y6/1 | 330 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ・カキメ（内）同心円文（当具痕）・磨消 | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 356 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 341 | A | |
| 【胴部】（外）格子タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N7/0 | 5Y7/1 | 300 | A | |
| 【胴部】（外）格子タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N6/0 | N7/0 | 324 | A | |
| 【胴部】（外）格子タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N5/0 | N6/0 | 323 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N6/0 | N4/0 | 317 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | 7.5Y6/1 | N4/0 | 331 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N6/0 | 5Y6/1 | 337 | A | |
| 【胴部】（外）格子タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 不良 | 2.5Y8/1 | 2.5Y8/1 | 342 | A | 生焼け |
| 【胴部】（外）平行タタキ・カキメ（内）同心円文（当具痕） | | 不良 | 10YR8/2 | 10YR8/2 | 310 | A | 生焼け |
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N7/0 | 2.5Y6/1 | 326 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | 5Y8/1 | 5Y8/1 | 352 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ・カキメ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | 5PB6/1 | 5PB6/1 | 334 | A | |
| 【胴部】（外）格子タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N5/0 | N6/0 | 346 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ・カキメ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 333 | A | |
| 【胴部】（外）格子タタキ・カキメ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N4/0 | N4/0 | 349 | A | |
| 【胴部】（外）ハケメ（内）ヘラケズリ | | 良好 | 10YR7/2 | 10YR7/2 | 320 | A | |
| 【胴部】（外）ハケメ（内）ヘラケズリ | | 良好 | 10YR7/2 | 10YR7/2 | 322 | A | |
| 【胴部】（外）ハケメ（内）ヘラケズリ | | 良好 | 10YR7/2 | 10YR7/2 | 321 | A | |
| 【口縁部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ | 波状文 | 良好 | 2.5Y7/2 | N7/0 | 304 | A | |
| 【平部】（凹）布目（凸）縄目タタキ | | 良好 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 289 | B | |
| 【平部】（凹）布目（凸）縄目タタキ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 286 | A | |
| 【平部】（凹）布目（凸）ヘラケズリ | | 良好 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 282 | A | |
| 【平部】（凹）布目（凸）ヘラケズリ | | 良好 | 5Y7/1 | 5Y6/1 | 281 | A | |
| 【平部】（凹）布目（凸）ヘラケズリ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 283 | C | |
| 【筒部】（凹）布目・ヘラケズリ（凸）ヘラケズリ | | 良好 | 2.5Y8/2 | 2.5Y8/2 | 287 | B | |
| 【平部】（凹）ヘラケズリ・布目（凸）縄目タタキ | | 良好 | 2.5Y8/2 | 2.5Y8/2 | 279 | B | |
| 【平部】（凹）ヘラケズリ・布目（凸）ユビナデ？ | | 良好 | 2.5Y6/1 | 2.5Y6/1 | 278 | A | |
| 【平部】（凹）ヘラケズリ・布目（凸）ヘラケズリ | | 良好 | N2/0 | N4/0 | 280 | B | |

| No. | 図版No. | 実測番号 | 調査区 | グリッド | 遺構 | 層位・土層 | 種別 | 時期・系統 | 器種 | 法量（cm） | 器形の特徴 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 341 | | 301 | 1区 | 1 | 中世耕作土 | 黄褐色粘土 | 瓦質土器 | | 甕 | （厚）0.6 | |
| 342 | | 312 | 2区 | 89 | 中世耕作土 | 黄褐色粘土 | 瓦質土器 | - | 甕 | （厚）0.8 | |
| 343 | | 265 | 1区 | 35 | 包含層 | 茶褐色砂シルト | 土器 | 布留式 | 甕 | （高）現3.1 | 口縁部端丸く肥厚 |
| 344 | | 17 | 1区 | 37 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 須恵器 | ＴＫ208 | 椀 | （高）現2.6 | 口縁部端平坦 |
| 345 | | 299 | 3区 | 66 | ００１・Ａ溝 | 灰色粘土 | 須恵器 | ５世紀後半 | 瓶 | （厚）0.5 | 口縁部やや開く |
| 346 | | 303 | 1区 | 25 | 包含層 | 褐灰色粘土 | 須恵器 | | 甕 | （厚）0.8 | |
| 347 | | 295 | 1区 | 24 | 包含層 | 灰色粘土 | 須恵器 | | 甕 | （厚）0.9 | |
| 348 | | 328 | 1区 | 35 | 包含層 | 茶褐色砂質土 | 須恵器 | | 甕 | （厚）0.9 | |
| 349 | | 309 | 2区 | 96 | 包含層 | | 須恵器 | | 甕 | （厚）0.8 | |
| 350 | | 302 | 1区 | 27 | 包含層 | 灰色粘シルト | 瓦質土器 | | 甕 | （厚）0.9 | |
| 351 | | 293 | 1区 | 24 | 包含層 | 灰色粘土 | 瓦質土器 | | 火舎 | （長）現3.5<br>（幅）現2.9 | |
| 352 | | 290 | 1区 | 3 | 包含層 | 黒褐色粘土 | 瓦 | | 丸瓦 | （径）14.2 | |
| 353 | | 292 | 1区 | 24 | 包含層 | 灰色粘土 | 瓦 | | 平瓦 | （厚）1.9 | |
| 354 | | 291 | 1区 | 24 | 包含層 | 灰色粘土 | 瓦 | | 平瓦 | （厚）1.9 | |
| 355 | | 288 | 1区 | 24 | 包含層 | 灰褐色粘土 | 瓦 | | 平瓦 | （厚）1.6 | |
| 356 | | 351 | 1区 | | 攪乱土 | | 土器 | 弥生Ｖ様式（系） | 甕 | （厚）0.8 | |
| 357 | | 284 | 1区 | | 攪乱土 | | 瓦 | | 平瓦 | （厚）2.1 | |
| 358 | | 42 | 1区 | 2 | 攪乱土 | | 瓦 | 古代 | 平瓦 | （厚）2.4 | |
| 359 | | 285 | 1区 | | 攪乱土 | | 瓦 | | 平瓦 | （厚）1.9 | |

| 整・成形の特徴 | 文様の特徴 | 焼成 | 内 | 外 | 実測図No. | 残存率 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）ユビナデ | | 良好 | N4/0 | N4/0 | 301 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）ユビナデ？ | | 良好 | N4/0 | N4/0 | 312 | A | |
| 【口縁部】（外）ユビナデ（内）— | | 不良 | 10YR8/1 | 10YR4/2 | 265 | A | |
| 【口縁部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ | 波状文、沈線２条 | 良好 | 2.5Y7/2 | N6/0 | 17 | A | |
| 【口縁部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ？ | 波状文 | 良好 | N6/0 | N6/0 | 299 | A | |
| 【口縁部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ | 波状文 | 良好 | 5Y6/1 | N6/0 | 303 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | 2.5Y8/2 | 2.5Y8/2 | 295 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）同心円文（当具痕）・磨消 | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 328 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ・カキメ（内）同心円文（当具痕） | | 良好 | N7/0 | 5Y8/1 | 309 | A | |
| 【胴部】（外）平行タタキ（内）ユビナデ | | 良好 | 5Y8/1 | 5Y8/1 | 302 | A | |
| 【口縁部】（外）ユビナデ（内）ユビナデ？ | 菱形繋文 | 良好 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/2 | 293 | A | |
| 【瓦当】（外）ユビナデ（内）ユビナデ<br>【丸部】（外）ヘラナデ（内）ヘラケズリ | 珠文 | 良好 | N5/0 | N5/0 | 290 | A | |
| 【平部】（凹）布目（凸）ヘラケズリ？ | | 良好 | 5Y5/1 | 5Y6/1 | 292 | A | |
| 【平部】（凹）布目（凸）ヘラケズリ？ | | 良好 | 2.5Y6/1 | 2.5Y6/1 | 291 | A | |
| 【平部】（凹）布目・ヘラケズリ（凸）ヘラケズリ？ | | 良好 | N5/0 | N5/0 | 288 | A | |
| 【胴部】（外）タタキメ（内）ハケメ | | 良好 | 2.5Y5/2 | 2.5Y5/1 | 351 | A | |
| 【平部】（凹）布目（凸）ヘラケズリ | | 良好 | N6/0 | N6/0 | 284 | A | |
| 【外面】布目、ユビオサエ<br>【内面】縄目タタキ | | 良好 | N7/0 | N7/0 | 42 | A | |
| 【平部】（凹）布目・ヘラケズリ（凸）ヘラケズリ | | 良好 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 285 | A | |

残存率　A：～10%、B：10～50%、C：50～90%、D：90%～

| No. | 図版No. | 出土地点 | 有文／無文 | 器種 | 部位 | 口径/底径(cm) | 残存高(cm) | 器厚(cm) | 混入鉱物 | 色調 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 外面 | 内面 | 断面 |
| 360 | 29 | 3区トレンチ3-1　3段 | 有文 | 深鉢 | 口縁部～頸部 | — | 5.0 | 0.6 | 角閃石？ | 10YR5/2 | 10YR3/2 | 10YR4/2 |
| 361 | 29 | 中央トレンチNo.18 3層 | 有文 | 深鉢 | 口縁部 | — | 4.2 | 0.6 | 角閃石 | 10YR4/4 | 10YR6/3 | 10YR4/4 |
| 362 | 29 | 中央トレンチNo.17 4段 | 有文 | 深鉢 | 口縁部 | — | 4.2 | 0.7 | 角閃石 | 10YR4/3 | 10YR4/2 | 10YR5/1 |
| 363 | 29 | 中央トレンチNo.38 5段 | 有文 | 深鉢 | 口縁部 | — | 3.3 | 0.7 | | N2/0 | N2/0 | N7/0 |
| 364 | | 中央トレンチNo.34 3段 | 有文 | 深鉢 | 口縁部 | — | 0.9 | 0.7 | | 10YR4/1 | 7.5YR3/1 | 7.5YR5/1 |
| 365 | 29 | 中央トレンチNo.34 3段 | 有文 | 深鉢 | 頸部 | — | 4.3 | 0.7 | | 10YR6/1 | 10YR5/1 | 2.5Y6/2 |
| 366 | 29 | 中央トレンチNo.37 6段 | 有文 | 深鉢 | 頸部 | — | 3.3 | 0.6 | | 10YR5/1 | 2.5Y6/1 | 2.5Y6/1 |
| 367 | 29 | 中央トレンチNo.10 5段 | 有文 | 深鉢 | 口縁部 | — | 1.7 | 0.7 | | 2.5Y6/1 | 2.5Y3/1 | 2.5Y6/1 |
| 368 | 29 | 中央トレンチNo.14 5段 | 有文 | 深鉢 | 口縁部 | — | 4.0 | 0.7 | | 10YR5/2 | 2.5Y7/2 | 2.5Y7/1 |
| 369 | 30 | 中央トレンチNo.08 5段 | 有文 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 18.8 | 10.9 | 0.7 | | 2.5Y7/2 | 2.5Y3/1 | 10YR6/2 |
| 370 | 30 | 中央トレンチNo.05 5段 | 有文 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 18.4 | 8.5 | 0.7 | | 10YR5/3 | 10YR5/1 | 10YR6/2 |
| 371 | 32 | 中央トレンチNo.34 4段 | 有文 | 深鉢 | 口縁部～頸部 | 29.2 | 5.5 | 0.7 | | 10YR8/3 | 10YR2/1 | 10YR6/3 |
| 372 | 31 | 中央トレンチNo.01 6段 | 有文 | 深鉢 | 口縁部（波状）～頸部 | 35.2 | 16.3 | 0.9 | 角閃石？ | 7.5YR3/1 | 10YR3/1 | 7.5YR3/1 |
| 373 | 31 | 黄褐色粘土 | 有文 | 深鉢 | 胴部 | — | 6.4 | 0.6 | | 2.5Y7/2 | 2.5Y5/1 | 2.5Y6/1 |
| 374 | 29 | 3区トレンチ3-1　3層 | 有文 | 深鉢 | 胴部 | — | 5.5 | 0.5 | 角閃石？ | 10YR5/2 | 10YR3/2 | 10YR4/2 |
| 375 | 32 | 中央トレンチNo.34 4段 | 有文 | 深鉢 | 頸部～胴部 | 29.2 | 11.3 | 0.6 | | 10YR8/4 | 10YR2/1 | 10YR5/2 |
| 376 | | 中央トレンチ　4段一括 | 有文 | 深鉢 | 口縁部？ | — | 4.3 | 0.5 | 角閃石 | 10YR3/1 | 10YR3/2 | 10YR2/1 |
| 377 | | 中央トレンチNo.34 5段 | 有文 | 不明 | 不明 | — | 3.9 | 0.6 | 角閃石 | 10YR3/3 | 10YR5/3 | 10YR3/1 |
| 378 | | 中央トレンチNo.24 4段 | 有文 | 不明 | 不明 | — | 2.6 | 0.6 | | 2.5Y6/2 | 2.5Y6/1 | 2.5Y6/1 |
| 379 | 30 | 中央トレンチNo.08 6段 | 有文 | 深鉢 | 頸部～胴部 | — | 8.4 | 0.7 | | 10YR3/1 | 7.5YR4/2 | 10YR4/1 |
| 380 | 31 | 中央トレンチNo.05 4段 | 有文 | 深鉢 | 頸部～胴部 | — | 6.2 | 0.7 | | 10YR3/1 | 2.5Y6/2 | 2.5Y5/2 |
| 381 | 30 | 中央トレンチNo.04 6段 | 有文 | 深鉢 | 胴部 | — | 12.0 | 0.7 | 角閃石 | 10YR3/1 | 10YR3/1 | 10YR3/1 |
| 382 | 34 | 中央トレンチNo.10 5段 | 有文 | 浅鉢 | 口縁部 | 26.2 | 5.7 | 0.6 | | 10YR7/2 | 10YR4/1 | 10YR5/1 |
| 383 | 33 | 中央トレンチNo.04 6段 | 有文 | 浅鉢 | 口縁部～胴部 | 27.6 | 7.2 | 0.5 | | 2.5Y8/1 | 2.5Y8/1 | 2.5Y5/1 |
| 384 | 34 | 中央トレンチNo.04 5段 | 有文 | 浅鉢 | 口縁部～胴部 | 27.0 | 7.1 | 0.6 | クサリ礫 | 10YR7/2 | 10YR5/2 | 10YR5/2 |
| 385 | 33 | 中央トレンチNo.16 5段 | 有文 | 浅鉢 | 口縁部～頸部 | 33.2 | 7.8 | 0.8 | | 10YR5/2 | 10YR6/2 | 10YR5/2 |
| 386 | 33 | 中央トレンチNo.16 5段 | 有文 | 浅鉢 | 口縁部 | 37.0 | 4.8 | 0.7 | | 10YR7/2 | 2.5Y7/1 | 10YR4/1 |
| 387 | 38 | 中央トレンチNo.01 5段 | 不明 | 注口土器 | 口縁部 | — | 0.4 | 1.0 | | 2.5Y5/3 | 10YR3/1 | 10YR4/1 |
| 388 | 38 | 中央トレンチNo.17 5段 | 不明 | 注口土器 | 口縁部？ | — | 1.5 | 0.8 | | 10YR7/3 | 2.5Y7/2 | 10YR4/1 |
| 389 | 38 | 中央トレンチNo.34 4段 | 有文 | 注口土器？ | 口縁部 | — | 1.7 | 0.7 | | 10YR7/2 | 10YR6/3 | 10YR5/1 |
| 391 | 37 | 中央トレンチNo.15 3段 | 有文？ | 注口土器 | 注口部 | — | 7.3 | 0.6 | 角閃石 | 10YR5/2 | 10YR5/2 | 10YR3/1 |
| 392 | 35 | 中央トレンチNo.07 5段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 21.0 | 10.7 | 0.5 | 角閃石 | 10YR3/1 | 10YR2/1 | 10YR3/1 |

| 器面調整 | | 文様の特徴 | 備考 | 類例 | 取上No. |
|---|---|---|---|---|---|
| 外面 | 内面 | | | | |
| 不明 | 不明 | 沈線 | 374と同一個体<br>分析No.1 | 『向出遺跡』第18図37など | 277-1 |
| 不明 | 不明 | 沈線、巻貝擬縄文 | 分析No.4 | | 502-1 |
| 不明 | 不明 | 沈線（連弧文） | | | 551 |
| ナデ | ナデ | 沈線（連弧文）、磨消縄文（RL） | | 『向出遺跡』第19図54など | 629 |
| ナデ | ナデ | 口縁部外面刻み | 365と同一個体 | | 519-1 |
| ナデ | ナデ | 沈線 | 364と同一個体 | | 519-2 |
| ナデ | 巻貝条痕 | 沈線、刻み | | | 655 |
| ナデ | ナデ | 口縁部内面直下刻み、沈線 | | | 609-2 |
| ナデ | ナデ | 口縁部内面直下刻み、沈線 | | 『向出遺跡』第19図74 | 603 |
| ナデ | ケズリ、ナデ | 【口縁部】内面直下刻み、沈線<br>【胴部】沈線、巻貝擬縄文 | | 『向出遺跡』第20図75 | 595-1 |
| ナデ | ケズリ、ナデ | 【口縁部】内面直下刻み、沈線<br>【胴部】沈線、巻貝擬縄文 | | 『向出遺跡』第20図75 | 594 |
| 巻貝条痕後、ナデ | 巻貝条痕後、ナデ | 口縁部内面刻み | 375と同一個体 | | 572-1 |
| 巻貝条痕？後ナデ | 巻貝条痕？後ナデ | 【口縁部】波頂部内面刺突、内面直下刻み、沈線<br>【胴部】沈線？ | | 『穴太遺跡発掘調査報告書Ⅱ』図113-496 | 659-1 |
| ナデ | ナデ | 沈線、磨消縄文（RL?） | | 『向出遺跡』第19図48など | 451-1 |
| 不明 | 不明 | 沈線 | 360と同一個体<br>分析No.1 | 『向出遺跡』第19図48など | 277-2 |
| ナデ | ナデ | 沈線、磨消縄文（LR） | 371と同一個体 | | 572-4 |
| 不明 | 不明 | 縄文（RL？） | | | 547 |
| 不明 | 不明 | 縄文（RL） | | | 620 |
| ナデ | ナデ | 縄文（RL） | | | 563 |
| ナデ | ナデ | 胴部沈線、巻貝擬縄文 | 炭化物付着 | | 667 |
| ナデ | ケズリ後ナデ | 沈線、刺突？、沈線刻み | 炭化物付着 | | 539 |
| ナデ | ナデ | 沈線、刻み | 炭化物付着 | | 658-4 |
| ナデ | ナデ | 口縁部内面直下刻み、沈線 | | | 610 |
| ナデ | ナデ | 口縁部内面直下刻み、沈線 | 分析No.3 | 『向出遺跡』第235図685など | 658-1 |
| ナデ？ | 不明 | 口縁部内面直下沈線 | | | 586 |
| ナデ | ナデ | 口縁部内面直下刻み、沈線 | 炭化物付着 | 『向出遺跡』第19図74など | 632 |
| ナデ | ナデ | 口縁部内面直下刻み、沈線 | | 『向出遺跡』第19図74 | 598 |
| 不明 | ナデ | | | | 583 |
| 不明 | 不明 | | | 『向出遺跡』第19図60 | 602 |
| 条痕後、ナデ | ナデ | 粘土貼り付け | | | 573 |
| ナデ？ | ナデ？ | 沈線？ | | | 500 |
| ナデ | ナデ | | | | 592 |

| No. | 図版No. | 出土地点 | 有文／無文 | 器種 | 部位 | 口径/底径(cm) | 残存高(cm) | 器厚(cm) | 混入鉱物 | 色調 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 外面 | 内面 | 断面 |
| 393 | | 中央トレンチNo.22 6段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部～頸部 | — | 5.1 | 0.6 | 角閃石 | 7.5YR3/1 | 7.5YR4/2 | 7.5YR3/1 |
| 394 | 36 | 中央トレンチNo.16 4段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 26.2 | 15.5 | 0.7 | | 10YR3/1 | 10YR3/1 | 10YR3/1 |
| 395 | | 中央トレンチNo.13 4段 | 無文 | 深鉢 | 口頸部～胴部 | — | 12.8 | 0.7 | | 10YR7/2 | 10YR5/2 | 10YR6/2 |
| 396 | 36 | 中央トレンチNo.34 5段 | 無文 | 深鉢 | 胴部 | — | 12.1 | 0.8 | | 10YR6/2 | 2.5Y7/2 | 2.5Y5/2 |
| 397 | 36 | 中央トレンチNo.29 3段 | 無文 | 深鉢 | 胴部 | — | 11.3 | 0.5 | | 10YR7/3 | 10YR3/1 | 10YR6/3 |
| 398 | | 中央トレンチNo.33 5段 | 無文 | 深鉢 | 胴部 | — | 9.6 | 0.6 | | 10YR6/2 | 2.5Y8/2 | 2.5Y8/2 |
| 399 | 35 | 中央トレンチNo.02 7段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部～頸部 | 29.2 | 10.5 | 0.7 | 角閃石 | 7.5YR2/1 | 7.5YR2/1 | 10YR3/1 |
| 400 | 35 | 中央トレンチNo.05 4段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部 | 30.0 | 8.8 | 0.8 | | 10YR4/1 | 10YR4/1 | 10YR5/1 |
| 401 | 36 | 中央トレンチNo.10 6段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部～頸部 | 33.4 | 9.3 | 0.6 | | 10YR5/1 | 5Y8/1 | 5Y8/1 |
| 402 | 35 | 中央トレンチNo.01 5段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部～頸部 | 34.2 | 14.1 | 0.8 | 雲母 | 10YR4/2 | 10YR5/3 | 10YR5/2 |
| 403 | | 中央トレンチNo.05 4段 | 無文 | 深鉢 | 口頸部～胴部 | — | 7.7 | 0.7 | | 10YR3/1 | 10YR5/1 | 10YR4/1 |
| 404 | 36 | 中央トレンチNo.05 5段 | 無文 | 深鉢 | 口頸部～胴部 | — | 11.0 | 0.6 | | 10YR6/3 | 2.5Y6/1 | 2.5Y7/2 |
| 405 | 36 | 中央トレンチNo.07 4段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部 | 26.0 | 7.2 | 0.7 | | 10YR5/1 | 10YR6/2 | 10YR4/1 |
| 406 | 35 | 中央トレンチNo.04 5段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 25.2 | 13.2 | 0.6 | 角閃石 | 10YR3/1 | 10YR5/2 | 10YR3/1 |
| 407 | 36 | 中央トレンチNo.04 5段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部 | 31.8 | 9.5 | 0.7 | | 10YR6/2 | 10YR6/2 | 10YR6/2 |
| 408 | | 黄褐色粘土 | 無文 | 深鉢 | 口縁部？ | 35.4 | 4.8 | 0.6 | | 10YR3/1 | 10YR3/1 | 10YR2/1 |
| 409 | 35 | 中央トレンチNo.07 4段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部 | 37.4 | 9.0 | 0.7 | 角閃石 | 7.5YR2/1 | 7.5YR3/1 | 7.5YR4/3 |
| 410 | | 中央トレンチNo.29 4段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 39.0 | 12.6 | 1.0 | | 10YR7/3 | 5Y8/1 | 2.5YR5/1 |
| 411 | 34 | 中央トレンチNo.11 5段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 39.0 | 25.8 | 0.8 | | 10YR4/2 | 2.5Y5/2 | 2.5Y4/1 |
| 412 | | 中央トレンチNo.29 4段 | 無文 | 深鉢 | 胴部 | 32.0 | 22.2 | 0.7 | | 10YR4/2 | 10YR4/1 | 10YR5/1 |
| 413 | | 中央トレンチNo.11 6段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部 | — | 2.9 | 0.7 | クサリ礫 | 5Y7/2 | N8/0 | 5Y8/1 |
| 414 | | 中央トレンチNo.14 4段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部 | — | 3.0 | 0.7 | | 2.5Y5/1 | 2.5Y7/1 | 2.5Y6/1 |
| 415 | | 中央トレンチNo.43 4段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部 | — | 4.8 | 0.6 | | 2.5Y7/2 | 10YR7/2 | 2.5Y6/1 |
| 416 | | 中央トレンチNo.01 4段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部 | — | 5.4 | 0.8 | クサリ礫 | 10YR7/2 | 2.5Y8/2 | 2.5Y8/2 |
| 417 | | 撹乱一括 | 無文 | 深鉢 | 口縁部 | — | 5.6 | 0.6 | | 10YR4/1 | 10YR3/1 | 10YR4/3 |
| 418 | | 中央トレンチNo.16 4段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部 | — | 5.5 | 0.8 | | 10YR3/1 | 10YR4/1 | 2.5Y4/1 |
| 419 | | 中央トレンチNo.04 5段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部？ | — | 7.0 | 0.5 | 角閃石 | 10YR3/2 | 2.5Y3/1 | 2.5Y3/1 |
| 420 | | 中央トレンチNo.05 4段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部 | — | 7.3 | 0.7 | | 7.5YR3/1 | 7.5YR3/1 | 7.5YR2/1 |
| 422 | | 023 | 無文 | 深鉢 | 口縁部 | — | 7.5 | 0.8 | | 2.5Y6/2 | 2.5Y7/2 | 2.5Y8/2 |
| 423 | | 中央トレンチNo.11 5段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | — | 9.8 | 0.5 | 角閃石 | 7.5YR2/1 | 7.5YR4/2 | 7.5YR2/1 |
| 424 | 36 | 中央トレンチNo.14 4段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部 | — | 6.6 | 0.6 | | 2.5Y8/2 | N4/0 | 2.5Y7/2 |
| 425 | | 中央トレンチNo.13 5段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部 | — | 6.9 | 0.6 | | 7.5YR4/2 | 7.5YR2/1 | 7.5YR2/1 |

| 器面調整 | | 文様の特徴 | 備考 | 類例 | 取上No. |
|---|---|---|---|---|---|
| 外面 | 内面 | | | | |
| ナデ | ナデ | | | | 662 |
| 巻貝条痕？ | 巻貝条痕？ | | | | 566 |
| 二枚貝条痕？ | 二枚貝条痕？ | | 分析No.9 | | 533 |
| 巻貝条痕 | 巻貝条痕後、ナデ | | スス付着<br>分析No.10 | | 633 |
| 巻貝条痕後、ナデ | ナデ | | | | 515-1 |
| 巻貝条痕 | ナデ | | 有機物付着 | | 618 |
| 巻貝条痕 | 巻貝条痕 | | 炭化物付着 | | 669-1 |
| 巻貝条痕 | 巻貝条痕 | | | | 542 |
| ナデ？ | ナデ？ | | | | 663 |
| 巻貝条痕？ | ナデ | | 炭化物付着 | | 584 |
| 巻貝条痕後、ナデ | 巻貝条痕後、ナデ | | | | 537 |
| 条痕 | ナデ？ | | 炭化物付着 | | 593 |
| 巻貝条痕 | 巻貝条痕 | | | | 536-2 |
| 巻貝条痕 | ナデ | | 炭化物付着 | | 596 |
| 巻貝条痕 | 巻貝条痕 | 赤色顔料塗布 | | | 581 |
| 不明 | 巻貝条痕 | | | | 451-4 |
| 巻貝条痕 | 巻貝条痕 | | 炭化物付着 | | 536-1 |
| 巻貝条痕 | 巻貝条痕 | | 分析No.8 | | 545 |
| 巻貝条痕？ | ナデ | | | 『向出遺跡』第72図301 | 588-1 |
| ナデ | ナデ | | | 『向出遺跡』第72図301 | 562 |
| 不明 | 不明 | | | | 664 |
| ナデ | ナデ | | | | 554-2 |
| ナデ | 条痕 | | | | 565 |
| ナデ | ナデ | | | | 540 |
| ナデ？ | ナデ？ | | | | 184 |
| ナデ | ナデ | | | | 570 |
| 巻貝条痕 | ナデ | | 炭化物付着 | | 582 |
| 巻貝条痕後、ナデ | 巻貝条痕後、ナデ | | | | 541 |
| 条痕 | ナデ | | | | 117 |
| ナデ | ナデ | | | | 589 |
| 巻貝条痕後、ナデ | ナデ | | | | 554-1 |
| 巻貝条痕後、ナデ | 巻貝条痕 | | | | 648 |

| No. | 図版No. | 出土地点 | 有文／無文 | 器種 | 部位 | 口径/底径(cm) | 残存高(cm) | 器厚(cm) | 混入鉱物 | 色調 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 外面 | 内面 | 断面 |
| 426 | 37 | 中央トレンチNo.29 3段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部 | 26.2 | 8.4 | 0.7 | | 10YR4/1 | 10YR4/1 | 10YR3/1 |
| 427 | | 黄褐色粘土 | 無文 | 深鉢 | 口縁部？ | — | 3.0 | 0.4 | 角閃石 | 10YR3/2 | 10YR3/2 | 10YR2/2 |
| 428 | | 中央トレンチNo.29 5段 | 無文 | 深鉢 | 口縁部？ | — | 3.6 | 0.4 | | N6/0 | N7/0 | N4/0 |
| 429 | | 黄褐色粘土 | 無文 | 深鉢 | 胴部 | — | 6.3 | 0.5 | 角閃石 | 10YR3/1 | 10YR3/2 | 10YR3/2 |
| 430 | | 黄褐色粘土 | 無文 | 深鉢 | 口縁部？ | 33.6 | 5.5 | 0.4 | | 2.5Y5/1 | 10YR5/1 | 10YR4/1 |
| 431 | | 中央トレンチNo.07 5段 | 無文 | 浅鉢 | 口縁部 | — | 2.8 | 0.7 | | 7.5YR7/4 | 7.5YR7/4 | 10YR6/2 |
| 432 | | 中央トレンチNo.15 2段 | 無文 | 浅鉢 | 口縁部？ | — | 4.3 | 0.8 | 角閃石 | 7.5YR4/3 | 10YR5/2 | 10YR3/3 |
| 433 | | 中央トレンチNo.24 3段 | 無文 | 浅鉢 | 口縁部 | 13.0 | 2.6 | 0.4 | | 10YR6/2 | 10YR7/2 | 10YR4/1 |
| 434 | 37 | 023 | 無文 | 浅鉢 | 口縁部 | 18.6 | 5.3 | 0.6 | | 10YR5/1 | 10YR5/2 | 10YR5/1 |
| 435 | 37 | 中央トレンチNo.02 7段 | 無文 | 浅鉢 | 口縁部 | 25.0 | 5.8 | 0.6 | | 2.5Y7/3 | 2.5Y4/2 | 2.5Y5/1 |
| 436 | | 1区　オリーブ灰色砂シルト | 不明 | 不明 | 底部 | 3.2 | 1.0 | 0.9 | | 7.5YR6/4 | 10YR5/1 | 10YR5/1 |
| 437 | | 中央トレンチNo.16 5段 | 不明 | 不明 | 底部（凹底） | 4.2 | 1.3 | 1.0 | 角閃石 | 10YR5/2 | 10YR4/2 | 10YR5/2 |
| 438 | 39 | 中央トレンチNo.11 5段 | 不明 | 不明 | 底部（凹底） | 5.6 | 1.5 | 0.7 | 角閃石 | 10YR5/3 | 10YR3/1 | 10YR3/1 |
| 439 | 39 | 中央トレンチNo.03 3段 | 不明 | 不明 | 底部（平底） | 6.0 | 1.6 | 0.5 | | 5YR6/6 | 10YR2/1 | 10YR4/1 |
| 440 | | 中央トレンチNo.35 3段 | 不明 | 深鉢？ | 底部（平底？） | 6.0 | 2.4 | 0.5 | | 2.5YR5/6 | 7.5YR5/4 | 7.5YR6/3 |
| 441 | | 中央トレンチNo.08 5段 | 不明 | 不明 | 底部 | 5.0 | 2.2 | 0.5 | 角閃石 | 10YR3/3 | 10YR2/1 | 10YR2/1 |
| 442 | | 中央トレンチNo.01 6段 | 不明 | 深鉢？ | 底部（平底） | 6.8 | 1.9 | 0.7 | | 10YR6/2 | 10YR7/2 | 10YR6/2 |
| 443 | | 中央トレンチNo.03 3段 | 不明 | 深鉢？ | 底部（凹底？） | 7.0 | 2.3 | 0.7 | クサリ礫 | 2.5YR5/6 | 10YR7/2 | 10YR5/2 |
| 444 | 39 | 中央トレンチNo.44 2段 | 不明 | 深鉢 | 底部（凹底） | 6.2 | 2.6 | 0.7 | | 7.5YR6/4 | 10YR7/3 | 10YR5/1 |
| 445 | | 中央トレンチNo.11 5段 | 不明 | 深鉢？ | 底部（平底） | 5.8 | 3.2 | 0.6 | 角閃石 | 10YR7/2 | 10YR3/1 | 10YR3/1 |
| 446 | 39 | 中央トレンチNo.10 4段 | 不明 | 深鉢 | 底部（凹底？） | 5.3 | 3.1 | 0.8 | | 5YR6/6 | 2.5Y7/2 | 10YR3/1 |
| 447 | 39 | 中央トレンチNo.05 5段 | 不明 | 深鉢？ | 底部（平底） | 5.4 | 2.6 | 0.6 | | 2.5Y7/2 | 2.5Y8/2 | 2.5Y7/2 |
| 448 | 39 | 中央トレンチNo.29 4段 | 不明 | 深鉢？ | 底部（凹底） | 5.7 | 2.9 | 0.7 | | 10YR6/2 | 10YR2/1 | 10YR7/4 |
| 449 | 39 | 中央トレンチNo.39 4段 | 不明 | 深鉢？ | 底部（凹底） | 6.0 | 3.5 | 0.8 | | 2.5Y7/3 | 2.5Y7/3 | 10YR5/3 |
| 450 | 37 | 中央トレンチNo.08 5段 | 有文 | 浅鉢 | 底部（凹底） | 5.7 | 2.5 | 0.5 | | 2.5Y5/3 | 2.5Y5/3 | 2.5Y5/3 |
| 451 | 39 | 中央トレンチNo.38 3段 | 不明 | 浅鉢 | 底部（丸底） | — | 1.5 | 0.6 | 角閃石 | 10YR5/3 | 10YR3/2 | 10YR3/1 |
| 453 | | 001・A溝 | 凸帯文 | 深鉢 | 胴部 | 不明 | 2.9 | 0.5 | 角閃石 | 10YR5/3 | 10YR4/2 | 10YR4/2 |
| 454 | | 001・A溝 | 凸帯文 | 深鉢 | 胴部 | 不明 | 2.7 | 0.5 | 角閃石 | 10YR5/2 | 10YR4/2 | 10YR4/2 |
| 455 | 38 | 灰色粘土 | | 土製品 | 鼻部？ | — | 4.4 | 0.8 | | 7.5YR5/4 | 2.5Y3/1 | 7.5YR5/2 |

| 器面調整 | | 文様の特徴 | 備考 | 類例 | 取上No. |
|---|---|---|---|---|---|
| 外面 | 内面 | | | | |
| 巻貝条痕 | ナデ | | | | 527-6 |
| 不明 | 不明 | | | | 451-5 |
| 不明 | 不明 | | | | 619 |
| ナデ？ | ナデ？ | | | | 451-2 |
| ナデ | 不明 | | | | 451-3 |
| 不明 | 不明 | | | | 569 |
| 不明 | 不明 | | | | 488 |
| ナデ？ | ナデ？ | | | | 505 |
| ナデ | ナデ | | スス付着 | | 114 |
| 巻貝条痕 | ナデ | | 炭化物付着 | | 669-2 |
| 不明 | ナデ？ | | | | 163 |
| 不明 | ナデ | | | | 628 |
| ナデ | ナデ | | | | 590 |
| 不明 | 不明 | | | | 493-2 |
| 不明 | 不明 | | | | 526 |
| ナデ | ナデ | | | | 595-2 |
| 不明 | 不明 | | | | 659-3 |
| 不明 | 不明 | | | | 493-1 |
| 不明 | ナデ？ | | | | 477 |
| ナデ | ナデ | | | | 588-2 |
| ナデ | ナデ | | | | 530 |
| 巻貝条痕 | ナデ | | | | 591 |
| 巻貝条痕 | ナデ | | 分析No.7 | | 564 |
| ナデ　縄文（RL） | ナデ | | | | 567 |
| ナデ | ナデ | ３条の凹線で同心円を描く | | | 577 |
| ナデ | ナデ | | | | 518 |
| 不明 | 不明 | | | | 403-1 |
| 不明 | 不明 | | | | 403-2 |
| ナデ | ナデ | | 土面か？ | | 119 |

| No. | 図版No. | 実測No. | 種類 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 出土遺構・層 | 石材 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 456 | 40 | 362 | 石鏃 | 1.80 | 1.50 | 0.30 | 中央トレンチNo.28・３段 | サヌカイト |
| 457 | 40 | 379 | 石鏃 | 2.00 | 1.05 | 0.20 | 2－108区平安整地土・灰色シルト | サヌカイト |
| 458 | 40 | 551 | 石鏃 | 2.00 | 1.30 | 0.22 | １区001・Ｃ溝 | サヌカイト |
| 459 | 40 | 361 | 石鏃 | 1.85 | 1.35 | 0.30 | 中央トレンチNo.30・３段 | サヌカイト |
| 460 | 40 | 507 | 石鏃 | 2.15 | 1.40 | 0.30 | ２区一括 | サヌカイト |
| 461 | 40 | 505 | 石鏃 | 2.42 | 2.20 | 0.55 | ２区一括 | サヌカイト |
| 462 | 40 | 369 | 石鏃 | 2.60 | 1.98 | 0.30 | 3－38区北辺トレンチ延長部 | サヌカイト |
| 463 | 40 | 371 | 石鏃 | 1.80 | 1.92 | 0.40 | 中央トレンチNo.５・４段 | サヌカイト |
| 464 | 40 | 506 | 石鏃 | 2.55 | 1.30 | 0.40 | ２区一括 | サヌカイト |
| 465 | 40 | 374 | 石刃 | 6.85 | 3.60 | 1.10 | 中央トレンチNo.４・２段 | サヌカイト |
| 466 | 40 | 564 | 石刃 | 6.90 | 5.45 | 1.20 | 1－14区灰色粘土 | サヌカイト |
| 467 | 40 | 527 | 石刃 | 6.00 | 3.30 | 0.80 | １区トレンチ３・黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 468 | | 570 | 石刃 | 4.50 | 6.00 | 0.85 | 1－28区001溝（灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 469 | 40 | 386 | 石刃 | 6.92 | 2.85 | 1.05 | 2－102区001・Ａ溝（灰色砂） | サヌカイト |
| 470 | 40 | 569 | 石刃 | 3.95 | 5.25 | 0.90 | 1－3区オリーブ灰色砂シルト | サヌカイト |
| 471 | 41 | 521 | 石皿 | 11.80 | 14.10 | 5.00 | 中央トレンチNo.34・４段 | 砂岩 |
| 472 | | 581 | 石皿 | 14.00 | 6.40 | 8.70 | 中央トレンチNo.22・２段 | 砂岩 |
| 473 | | 519 | 石皿 | 12.95 | 9.30 | 8.05 | 中央トレンチNo.13・３段 | 砂岩 |
| 474 | | 394 | 石皿 | 8.00 | 7.40 | 2.35 | 中央トレンチNo.25・２段 | 砂岩 |
| 475 | | 391 | 石皿 | 7.32 | 4.85 | 3.95 | 中央トレンチNo.34・３段 | 砂岩 |
| 476 | 41 | 577 | 石皿 | 14.10 | 7.50 | 4.18 | 2－108区001・Ａ溝（暗灰色粘土） | 砂岩 |
| 477 | | 567 | 石皿 | 8.92 | 3.52 | 1.85 | 3－58区001・Ｂ溝 | 砂岩 |
| 478 | 41 | 582 | 石皿 | 33.20 | 17.88 | 5.85 | 中央トレンチNo.20・２段 | 砂岩 |
| 479 | | 571 | 磨石 | 7.20 | 7.20 | 5.50 | １区001・Ｃ溝 | 砂岩 |
| 480 | | 572 | 磨石 | 10.60 | 6.20 | 6.50 | １－25区 | 砂岩 |
| 481 | | 520 | 磨石 | 10.00 | 8.10 | 5.98 | 中央トレンチNo.45・42層 | 砂岩 |
| 482 | | 578 | 磨石 | 10.65 | 10.00 | 5.50 | 中央トレンチNo.19・２段 | 砂岩 |
| 483 | | 573 | 磨石 | 12.05 | 9.38 | 7.65 | 中央トレンチNo.19・３段 | 砂岩 |
| 484 | | 579 | 磨石 | 12.48 | 9.25 | 6.10 | 中央トレンチNo.７・３段 | 砂岩 |
| 485 | | 517 | 磨石 | 12.72 | 10.50 | 6.95 | 中央トレンチNo.35・３段 | 砂岩 |
| 486 | | 393 | 磨石 | 12.62 | 6.50 | 4.05 | 3－65区001・Ａ溝（褐灰色粘土） | 砂岩 |
| 487 | | 518 | 磨石 | 16.42 | 7.68 | 2.90 | 中央トレンチNo.13・３段 | 砂岩 |
| 488 | | 575 | 磨石 | 17.35 | 7.80 | 6.20 | 2－83区106小穴 | 砂岩 |
| 489 | | 580 | 磨石 | 16.25 | 9.70 | 7.25 | 中央トレンチNo.20・２段 | 砂岩 |
| 490 | | 574 | 磨石 | 17.00 | 7.60 | 4.95 | 2－85区102小穴 | 砂岩 |
| 491 | | 390 | 石棒 | 5.40 | 3.00 | 2.20 | 中央トレンチNo.３・２段 | 結晶片岩 |
| 492 | | 576 | 石棒 | 9.05 | 6.10 | 5.80 | 2－104区001・Ａ溝（灰色砂シルト） | 結晶片岩 |
| 493 | | 431 | 剥片 | 2.75 | 1.60 | 0.48 | 2－94区中世耕作土・黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 494 | | 549 | 剥片 | 3.05 | 1.30 | 0.40 | ３区攪乱一括 | サヌカイト |
| 495 | | 407 | 剥片 | 3.30 | 1.50 | 0.60 | 3－54区耕作土下層 | サヌカイト |
| 496 | | 441 | 剥片 | 3.35 | 0.80 | 0.32 | ３区北辺トレンチ一括 | サヌカイト |
| 497 | | 500 | 剥片 | 3.50 | 1.25 | 0.55 | ２区一括 | サヌカイト |
| 498 | | 408 | 剥片 | 3.65 | 1.00 | 0.50 | ２区攪乱一括 | サヌカイト |
| 499 | | 414 | 剥片 | 4.00 | 1.52 | 0.30 | 中央トレンチNo.４・５段 | サヌカイト |
| 500 | | 392 | 剥片 | 7.90 | 14.25 | 1.80 | 中央トレンチNo.３・３段 | 結晶片岩 |
| 501 | | 387 | 剥片 | 6.70 | 10.30 | 1.00 | 2－102区001・Ａ溝（灰色砂） | サヌカイト |
| 502 | 41 | 510 | 剥片 | 5.10 | 7.85 | 1.90 | ２区一括 | サヌカイト |

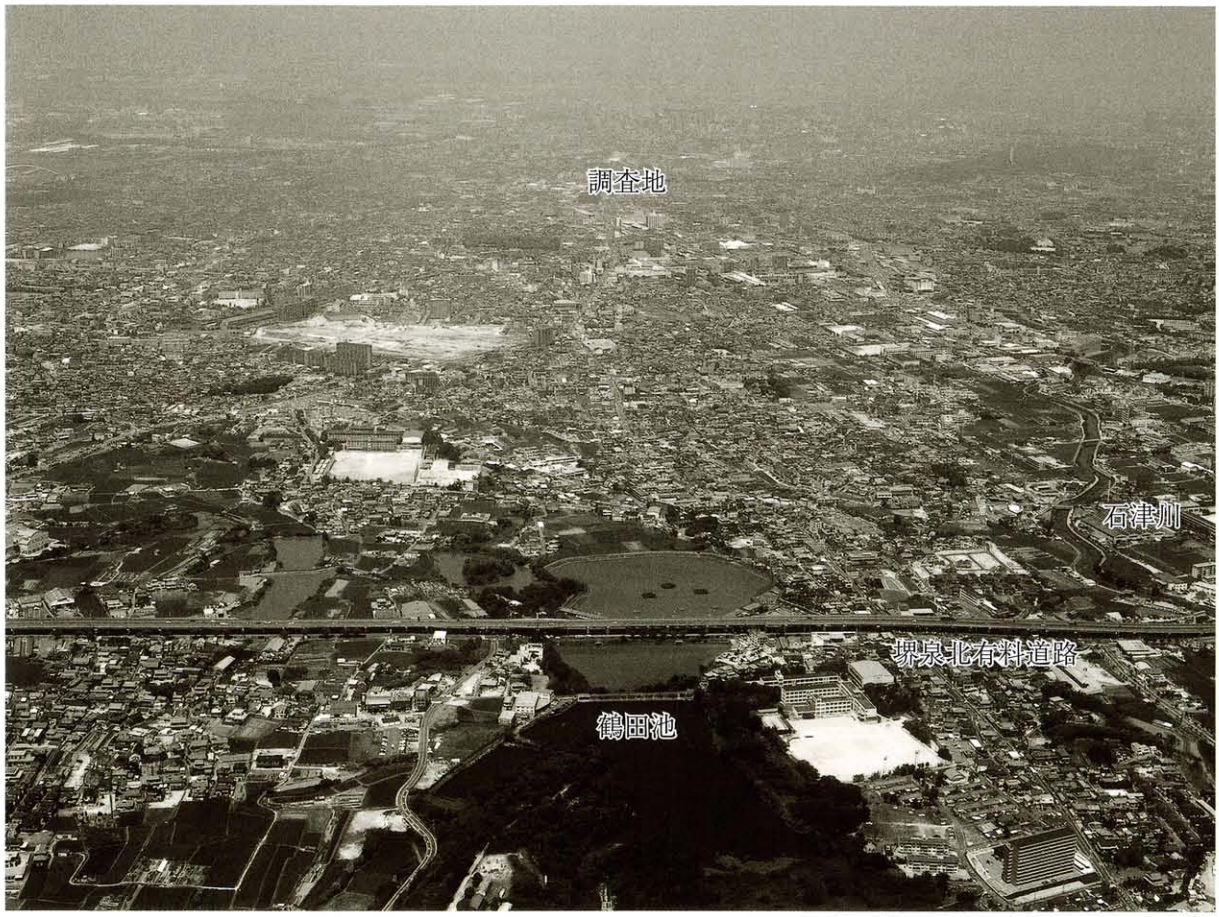
| No. | 図版No. | 実測No. | 種類 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 出土遺構・層 | 石材 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 503 | | 566 | 剥片 | 5.45 | 6.90 | 3.50 | 1－1区オリーブ灰色砂シルト | サヌカイト |
| 504 | | 568 | 剥片 | 5.65 | 6.15 | 2.30 | 1－4区オリーブ灰色砂シルト | サヌカイト |
| 505 | | 480 | 剥片 | 5.60 | 8.20 | 2.48 | 2－72区黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 506 | | 464 | 剥片 | 5.60 | 3.75 | 1.50 | 3－53区北辺トレンチ | サヌカイト |
| 507 | | 377 | 剥片 | 5.80 | 4.10 | 1.15 | 2－108区001・Ａ溝（暗灰色粘土） | サヌカイト |
| 508 | | 475 | 剥片 | 3.80 | 4.60 | 1.15 | 2－72区黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 509 | | 563 | 剥片 | 4.05 | 3.25 | 1.30 | 1－14区灰色粘土 | サヌカイト |
| 510 | | 483 | 剥片 | 3.20 | 9.20 | 0.52 | 2－74区黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 511 | | 486 | 剥片 | 5.30 | 6.92 | 2.08 | 2－74区黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 512 | | 457 | 剥片 | 5.42 | 4.72 | 1.50 | 3－53区北辺トレンチ | サヌカイト |
| 513 | | 462 | 剥片 | 6.10 | 7.60 | 1.60 | 3－53区北辺トレンチ | サヌカイト |
| 514 | | 455 | 剥片 | 7.00 | 5.70 | 0.90 | 3－53区北辺トレンチ | サヌカイト |
| 515 | | 368 | 剥片 | 5.20 | 3.45 | 0.50 | 中央トレンチ№38・３段 | サヌカイト |
| 516 | | 479 | 剥片 | 4.45 | 6.65 | 2.00 | 2－72区黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 517 | | 375 | 剥片 | 4.40 | 4.70 | 1.10 | 中央トレンチ№13・６段 | サヌカイト |
| 518 | | 453 | 剥片 | 4.00 | 4.62 | 2.22 | 中央トレンチ№15・３段 | サヌカイト |
| 519 | 41 | 550 | 剥片 | 3.95 | 5.80 | 1.10 | 1－4区オリーブ灰色砂シルト | サヌカイト |
| 520 | | 554 | 剥片 | 4.40 | 6.40 | 1.10 | １区001溝（茶褐色砂シルト） | サヌカイト |
| 521 | | 556 | 剥片 | 2.65 | 6.30 | 1.65 | ３区一括 | サヌカイト |
| 522 | | 555 | 剥片 | 4.00 | 4.95 | 1.35 | １区001溝（茶褐色砂シルト） | サヌカイト |
| 523 | | 474 | 剥片 | 3.45 | 6.30 | 1.10 | 2－72区黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 524 | | 560 | 剥片 | 3.60 | 5.40 | 0.90 | 1－4区オリーブ灰色砂シルト | サヌカイト |
| 525 | 41 | 524 | 剥片 | 4.10 | 5.15 | 1.00 | １区一括 | サヌカイト |
| 526 | | 366 | 剥片 | 3.30 | 6.00 | 0.80 | 中央トレンチ一括 | サヌカイト |
| 527 | 41 | 553 | 剥片 | 4.35 | 5.40 | 1.25 | 1－22区一括 | サヌカイト |
| 528 | | 498 | 剥片 | 3.05 | 3.75 | 0.85 | ２区一括 | サヌカイト |
| 529 | | 514 | 剥片 | 3.50 | 2.90 | 1.30 | 2－106区001・Ａ溝・褐灰色砂シルト | サヌカイト |
| 530 | 41 | 552 | 剥片 | 4.15 | 5.00 | 1.50 | １区攪乱土内 | サヌカイト |
| 531 | | 565 | 剥片 | 3.55 | 4.38 | 1.05 | 3－58区001・Ｂ溝 | サヌカイト |
| 532 | | 562 | 剥片 | 3.40 | 5.00 | 1.45 | 1－14区灰色粘土 | サヌカイト |
| 533 | 41 | 533 | 剥片 | 2.95 | 4.50 | 1.10 | 1－17区オリーブ灰色砂シルト | サヌカイト |
| 534 | 41 | 543 | 剥片 | 3.00 | 4.55 | 1.35 | １区001溝（茶褐色砂シルト） | サヌカイト |
| 535 | 41 | 525 | 剥片 | 3.85 | 5.10 | 0.80 | 1－4区オリーブ灰色砂シルト | サヌカイト |
| 536 | 41 | 536 | 剥片 | 2.45 | 4.38 | 0.90 | １区001溝（茶褐色砂質土） | サヌカイト |
| 537 | | 395 | 剥片 | 2.20 | 3.60 | 0.50 | 中央トレンチ№25・２段 | サヌカイト |
| 538 | | 437 | 剥片 | 3.10 | 3.08 | 0.60 | 2－109区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 539 | | 382 | 剥片 | 2.80 | 3.70 | 0.80 | 中央トレンチ№20・２段 | サヌカイト |
| 540 | 41 | 542 | 剥片 | 2.45 | 3.25 | 0.55 | １区001溝（茶褐色砂シルト） | サヌカイト |
| 541 | | 535 | 剥片 | 2.35 | 2.90 | 0.50 | １区001溝（茶褐色砂質土） | サヌカイト |
| 542 | | 541 | 剥片 | 3.00 | 4.00 | 1.15 | １区001溝（茶褐色砂シルト） | サヌカイト |
| 543 | 41 | 537 | 剥片 | 2.55 | 2.90 | 0.85 | 3－65区001・Ａ溝（黒褐色粘土） | サヌカイト |
| 544 | | 546 | 剥片 | 2.60 | 2.40 | 0.75 | １区001溝（茶褐色砂質土） | サヌカイト |
| 545 | | 548 | 剥片 | 2.35 | 4.00 | 0.70 | １区001溝（茶褐色砂質土） | サヌカイト |
| 546 | | 487 | 剥片 | 2.90 | 3.00 | 0.60 | 2－102区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 547 | 41 | 402 | 剥片 | 2.60 | 3.10 | 0.50 | ２区一括 | サヌカイト |
| 548 | | 481 | 剥片 | 2.90 | 4.10 | 0.60 | 2－97区001溝（オリーブ黒色シルト） | サヌカイト |
| 549 | | 482 | 剥片 | 2.90 | 3.70 | 0.95 | 2－97区001溝（オリーブ黒色シルト） | サヌカイト |

| No. | 図版No. | 実測No. | 種類 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 出土遺構・層 | 石材 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 550 | | 397 | 剥片 | 3.75 | 2.45 | 0.90 | 3－65区001・Ａ溝（灰色粘土） | サヌカイト |
| 551 | | 473 | 剥片 | 3.15 | 3.30 | 1.70 | 2－72区黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 552 | | 515 | 剥片 | 2.40 | 3.52 | 0.50 | 2－86区中世耕作土・黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 553 | | 372 | 剥片 | 2.70 | 3.10 | 0.35 | 中央トレンチ№28・１段 | サヌカイト |
| 554 | | 421 | 剥片 | 2.45 | 3.50 | 0.70 | 中央トレンチ№32・４段 | サヌカイト |
| 555 | | 471 | 剥片 | 2.42 | 2.65 | 0.95 | 2－72区黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 556 | | 465 | 剥片 | 2.55 | 2.62 | 0.50 | 2－72区黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 557 | | 443 | 剥片 | 3.55 | 4.70 | 1.80 | 2－102区001・Ａ溝（灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 558 | | 472 | 剥片 | 3.30 | 5.35 | 1.22 | 2－72区黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 559 | | 442 | 剥片 | 3.30 | 5.28 | 1.70 | ３区北辺トレンチ一括 | サヌカイト |
| 560 | | 454 | 剥片 | 2.85 | 5.00 | 1.50 | 3－58区黄オリーブ粘土（Ｄ層） | サヌカイト |
| 561 | | 496 | 剥片 | 2.60 | 3.15 | 1.85 | 2－102区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 562 | | 477 | 剥片 | 2.15 | 4.80 | 0.60 | 2－72区黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 563 | | 492 | 剥片 | 2.55 | 4.90 | 1.50 | 2－102区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 564 | | 432 | 剥片 | 2.75 | 4.05 | 1.30 | 2－94区中世耕作土・黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 565 | | 373 | 剥片 | 3.22 | 4.55 | 1.20 | 中央トレンチ№５・５段 | サヌカイト |
| 566 | | 459 | 剥片 | 3.40 | 3.65 | 0.70 | 3－53区北辺トレンチ | サヌカイト |
| 567 | | 445 | 剥片 | 3.90 | 3.85 | 1.40 | 2－102区001・Ａ溝（灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 568 | | 370 | 剥片 | 3.68 | 4.65 | 0.30 | 3－38区北辺トレンチ延長部 | サヌカイト |
| 569 | | 401 | 剥片 | 3.30 | 4.98 | 0.90 | ２区一括 | サヌカイト |
| 570 | | 470 | 剥片 | 2.00 | 4.10 | 0.85 | 2－72区黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 571 | | 516 | 剥片 | 1.90 | 4.55 | 1.00 | 3－63区001・Ａ溝（黒灰色粘土） | サヌカイト |
| 572 | | 463 | 剥片 | 4.12 | 3.30 | 1.58 | 3－53区北辺トレンチ | サヌカイト |
| 573 | | 538 | 剥片 | 4.62 | 1.60 | 0.40 | 3－65区001・Ａ溝（黒褐色粘土） | サヌカイト |
| 574 | | 512 | 剥片 | 4.80 | 3.70 | 1.80 | ２区一括 | サヌカイト |
| 575 | | 380 | 剥片 | 5.75 | 1.60 | 1.10 | 2－108区平安整地土・灰色シルト | サヌカイト |
| 576 | | 388 | 剥片 | 5.85 | 3.00 | 1.85 | 2－93区中世耕作土・黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 577 | | 400 | 剥片 | 5.58 | 1.80 | 0.90 | 中央トレンチ№７・６段 | サヌカイト |
| 578 | | 385 | 剥片 | 5.00 | 3.10 | 0.85 | 3－66区001・Ａ溝（暗灰色粘土） | サヌカイト |
| 579 | | 458 | 剥片 | 5.25 | 2.25 | 1.08 | 3－53区北辺トレンチ | サヌカイト |
| 580 | | 513 | 剥片 | 5.02 | 2.60 | 1.35 | 2－94区中世耕作土・灰色シルト | サヌカイト |
| 581 | | 422 | 剥片 | 4.00 | 3.70 | 1.05 | 2－97区001・Ａ溝 | サヌカイト |
| 582 | | 561 | 剥片 | 5.15 | 2.40 | 1.68 | 3－54区Ｃ層下部 | サヌカイト |
| 583 | | 378 | 剥片 | 4.50 | 2.80 | 1.20 | 3－56区北辺トレンチ | サヌカイト |
| 584 | 41 | 528 | 剥片 | 2.81 | 3.10 | 0.68 | １区001溝（茶褐色砂シルト） | サヌカイト |
| 585 | | 381 | 剥片 | 3.60 | 3.70 | 1.05 | 2－108区平安整地土・灰色シルト | サヌカイト |
| 586 | | 509 | 剥片 | 3.95 | 3.30 | 1.70 | ２区一括 | サヌカイト |
| 587 | | 406 | 剥片 | 3.42 | 4.50 | 1.55 | 2－102区平安整地土・灰色シルト | サヌカイト |
| 588 | | 416 | 剥片 | 4.08 | 3.25 | 0.80 | 中央トレンチ№39・３段 | サヌカイト |
| 589 | | 384 | 剥片 | 3.52 | 3.80 | 1.10 | 中央トレンチ№35・２段 | サヌカイト |
| 590 | | 367 | 剥片 | 3.70 | 3.45 | 0.60 | 中央トレンチ№25・１段 | サヌカイト |
| 591 | | 478 | 剥片 | 2.20 | 3.40 | 0.80 | 2－72区黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 592 | | 418 | 剥片 | 2.20 | 2.70 | 0.65 | 中央トレンチ一括 | サヌカイト |
| 593 | | 399 | 剥片 | 5.58 | 3.02 | 1.10 | 2－93区平安整地土・灰色シルト | サヌカイト |
| 594 | | 497 | 剥片 | 3.45 | 3.42 | 1.05 | 2－102区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 595 | | 494 | 剥片 | 2.51 | 4.30 | 1.20 | 2－102区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 596 | | 449 | 剥片 | 3.50 | 1.58 | 0.60 | 2－120区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |

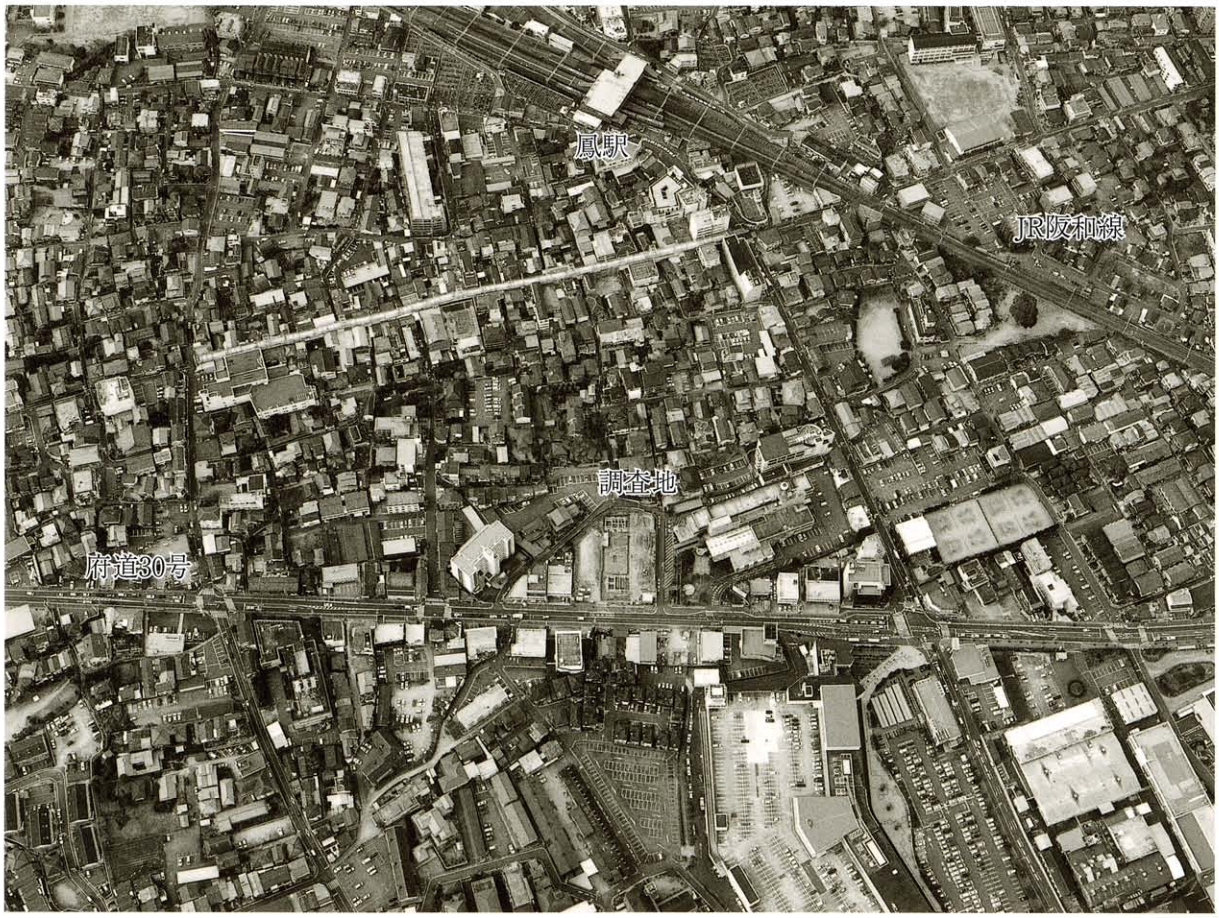
| No. | 図版No. | 実測No. | 種類 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 出土遺構・層 | 石材 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 597 | | 376 | 剥片 | 3.22 | 1.30 | 0.45 | 2－120区001・Ａ溝一括 | サヌカイト |
| 598 | | 532 | 剥片 | 4.90 | 2.00 | 0.89 | ２区Ｉ層中 | サヌカイト |
| 599 | | 398 | 剥片 | 5.50 | 1.90 | 1.28 | 2－89区中世耕作土・黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 600 | | 460 | 剥片 | 3.60 | 1.95 | 0.70 | 3－53区北辺トレンチ | サヌカイト |
| 601 | | 415 | 剥片 | 3.00 | 2.20 | 0.30 | 中央トレンチNo.34・５段 | サヌカイト |
| 602 | | 389 | 剥片 | 3.80 | 2.50 | 0.80 | 2－102区中世耕作土・灰褐色粘土 | サヌカイト |
| 603 | | 440 | 剥片 | 3.42 | 2.45 | 0.88 | ３区北辺トレンチ一括 | サヌカイト |
| 604 | | 461 | 剥片 | 3.55 | 2.45 | 1.10 | 3－53区北辺トレンチ | サヌカイト |
| 605 | | 558 | 剥片 | 3.00 | 2.80 | 0.80 | １区001・Ｃ溝 | サヌカイト |
| 606 | | 424 | 剥片 | 2.85 | 2.05 | 0.80 | 中央トレンチNo.32・５段 | サヌカイト |
| 607 | | 364 | 剥片 | 2.70 | 2.30 | 0.50 | 中央トレンチNo.18・３段 | サヌカイト |
| 608 | | 363 | 剥片 | 1.85 | 2.80 | 0.30 | 中央トレンチNo.31・２段 | サヌカイト |
| 609 | | 476 | 剥片 | 2.68 | 2.35 | 0.40 | 2－72区黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 610 | | 365 | 剥片 | 3.70 | 2.00 | 0.45 | 中央トレンチNo.６・２段 | サヌカイト |
| 611 | | 485 | 剥片 | 2.08 | 3.45 | 0.60 | 2－109区001・Ａ溝（茶褐色砂質土） | サヌカイト |
| 612 | | 526 | 剥片 | 1.85 | 2.50 | 0.40 | １区攪乱土内 | サヌカイト |
| 613 | 41 | 531 | 剥片 | 1.65 | 2.90 | 0.90 | １区024（青灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 614 | | 540 | 剥片 | 1.90 | 2.90 | 0.72 | １区001溝（茶褐色砂シルト） | サヌカイト |
| 615 | | 539 | 剥片 | 1.80 | 2.90 | 0.50 | １区001溝（茶褐色砂シルト） | サヌカイト |
| 616 | | 545 | 剥片 | 1.70 | 2.58 | 0.55 | １区001溝（茶褐色砂シルト） | サヌカイト |
| 617 | | 559 | 剥片 | 2.05 | 2.80 | 0.40 | １区001・Ｃ溝 | サヌカイト |
| 618 | | 403 | 剥片 | 2.28 | 3.10 | 0.80 | 2－98区001・Ａ溝（暗オリーブ粘シルト） | サヌカイト |
| 619 | | 495 | 剥片 | 1.50 | 3.75 | 0.60 | 2－102区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 620 | | 488 | 剥片 | 2.25 | 3.00 | 0.45 | 2－102区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 621 | | 450 | 剥片 | 2.30 | 2.80 | 0.60 | 2－102区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 622 | | 447 | 剥片 | 1.75 | 2.65 | 0.40 | 2－102区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 623 | | 499 | 剥片 | 2.10 | 2.15 | 0.45 | ２区一括 | サヌカイト |
| 624 | | 493 | 剥片 | 2.50 | 2.80 | 0.90 | 2－102区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 625 | | 433 | 剥片 | 1.80 | 3.22 | 0.60 | 中央トレンチNo.２・３段 | サヌカイト |
| 626 | | 469 | 剥片 | 2.01 | 2.58 | 0.75 | 2－72区黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 627 | | 466 | 剥片 | 2.18 | 2.10 | 0.70 | 2－72区黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 628 | | 468 | 剥片 | 1.80 | 2.90 | 0.40 | 2－72区黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 629 | | 490 | 剥片 | 2.02 | 2.70 | 0.70 | 2－102区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 630 | | 491 | 剥片 | 2.45 | 2.60 | 0.50 | 2－102区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 631 | | 467 | 剥片 | 1.82 | 2.30 | 0.40 | 2－72区黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 632 | | 489 | 剥片 | 1.30 | 2.40 | 0.50 | 2－102区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 633 | | 412 | 剥片 | 1.90 | 2.05 | 0.30 | 中央トレンチNo.６・１段 | サヌカイト |
| 634 | | 530 | 剥片 | 1.65 | 1.50 | 0.25 | １区001・東溝 | サヌカイト |
| 635 | | 435 | 剥片 | 1.50 | 2.55 | 0.75 | 2－109区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 636 | | 434 | 剥片 | 1.80 | 2.00 | 0.30 | 2－109区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 637 | | 451 | 剥片 | 1.08 | 1.65 | 0.20 | 2－98区平安整地土・灰色シルト | サヌカイト |
| 638 | | 446 | 剥片 | 1.20 | 1.90 | 0.40 | 2－120区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 639 | | 557 | 剥片 | 1.55 | 2.45 | 0.38 | １区001・Ｃ溝 | サヌカイト |
| 640 | | 504 | 剥片 | 1.50 | 2.05 | 0.35 | ２区一括 | サヌカイト |
| 641 | | 411 | 剥片 | 1.20 | 2.28 | 0.20 | 中央トレンチNo.34・５段 | サヌカイト |
| 642 | | 511 | 剥片 | 0.90 | 1.85 | 0.40 | ２区一括 | サヌカイト |
| 643 | 41 | 404 | 剥片 | 2.25 | 2.02 | 0.70 | 2－98区001・Ａ溝（暗オリーブ粘シルト） | サヌカイト |

| No. | 図版No. | 実測No. | 種類 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 出土遺構・層 | 石材 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 644 | | 503 | 剥片 | 1.45 | 1.90 | 0.30 | ２区一括 | サヌカイト |
| 645 | | 502 | 剥片 | 1.50 | 2.30 | 0.22 | ２区一括 | サヌカイト |
| 646 | | 430 | 剥片 | 1.40 | 2.05 | 0.60 | ２区調査区東壁７層 | サヌカイト |
| 647 | | 452 | 剥片 | 1.88 | 2.32 | 0.50 | 2－98区平安整地土・灰色シルト | サヌカイト |
| 648 | | 534 | 剥片 | 1.70 | 2.50 | 0.30 | １区001溝一括 | サヌカイト |
| 649 | | 410 | 剥片 | 2.25 | 2.50 | 0.40 | ３区廃土一括 | サヌカイト |
| 650 | | 409 | 剥片 | 2.55 | 1.50 | 0.45 | ３区廃土一括 | サヌカイト |
| 651 | | 423 | 剥片 | 2.50 | 1.80 | 0.20 | 中央トレンチNo.30・３段 | サヌカイト |
| 652 | | 529 | 剥片 | 2.15 | 1.89 | 0.50 | 1－25区褐灰色粘土 | サヌカイト |
| 653 | | 383 | 剥片 | 2.60 | 2.00 | 0.40 | 2－108区平安整地土・灰色シルト | サヌカイト |
| 654 | | 420 | 剥片 | 2.12 | 1.38 | 0.30 | 中央トレンチNo.16・５段 | サヌカイト |
| 655 | | 484 | 剥片 | 1.28 | 1.80 | 0.45 | 2－109区001・Ａ溝（茶褐色砂質土） | サヌカイト |
| 656 | | 425 | 剥片 | 2.35 | 2.25 | 0.50 | 2－89区一括 | サヌカイト |
| 657 | | 544 | 剥片 | 2.90 | 1.60 | 0.45 | １区001溝（茶褐色砂シルト） | サヌカイト |
| 658 | | 547 | 剥片 | 2.20 | 1.90 | 0.70 | １区001溝（茶褐色砂質土） | サヌカイト |
| 659 | | 448 | 剥片 | 2.50 | 1.50 | 0.50 | 2－120区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 660 | | 419 | 剥片 | 1.55 | 1.25 | 0.25 | ２区中世耕作土一括・黄褐色粘土 | サヌカイト |
| 661 | | 417 | 剥片 | 2.18 | 2.10 | 0.38 | 2－101区001溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 662 | | 413 | 剥片 | 1.60 | 2.12 | 0.30 | 3－55区トレンチ3－1 | サヌカイト |
| 663 | | 439 | 剥片 | 1.90 | 1.90 | 0.30 | ３区北辺トレンチ一括 | サヌカイト |
| 664 | | 438 | 剥片 | 2.12 | 1.40 | 0.20 | ３区北辺トレンチ一括 | サヌカイト |
| 665 | | 429 | 剥片 | 2.05 | 1.52 | 0.48 | ２区調査区東壁７層 | サヌカイト |
| 666 | | 508 | 剥片 | 2.60 | 1.90 | 0.55 | ２区一括 | サヌカイト |
| 667 | | 456 | 剥片 | 2.05 | 2.10 | 0.45 | 3－53区北辺トレンチ | サヌカイト |
| 668 | | 436 | 剥片 | 2.45 | 1.60 | 0.40 | 2－109区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 669 | | 396 | 剥片 | 2.55 | 1.90 | 0.30 | 2－98区001・Ａ溝（褐灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 670 | | 427 | 剥片 | 1.30 | 1.10 | 0.20 | 2－102区001・Ａ溝（灰色砂） | サヌカイト |
| 671 | | 444 | 剥片 | 2.90 | 1.72 | 0.70 | 2－102区001・Ａ溝（灰色砂シルト） | サヌカイト |
| 672 | | 501 | 剥片 | 2.80 | 2.00 | 0.80 | ２区一括 | サヌカイト |
| 673 | | 426 | 剥片 | 2.22 | 2.05 | 0.45 | 2－102区001・Ａ溝（灰色砂） | サヌカイト |
| 674 | | 428 | 剥片 | 1.82 | 1.92 | 0.30 | ２区調査区東壁７層 | サヌカイト |
| 675 | | 405 | 剥片 | 2.25 | 1.15 | 0.25 | 2－98区001・Ａ溝（暗オリーブ粘シルト） | サヌカイト |

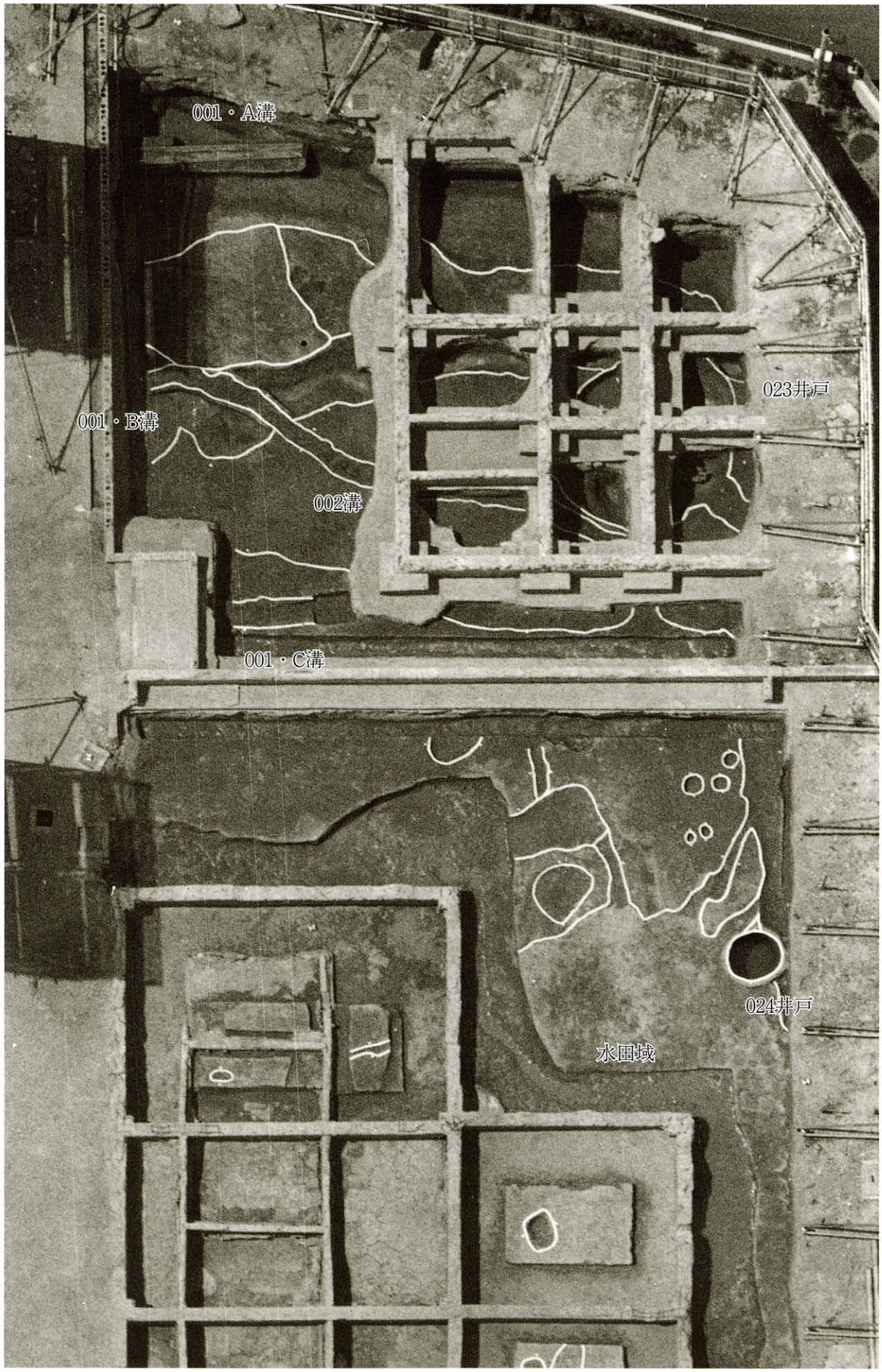
# 図　　版



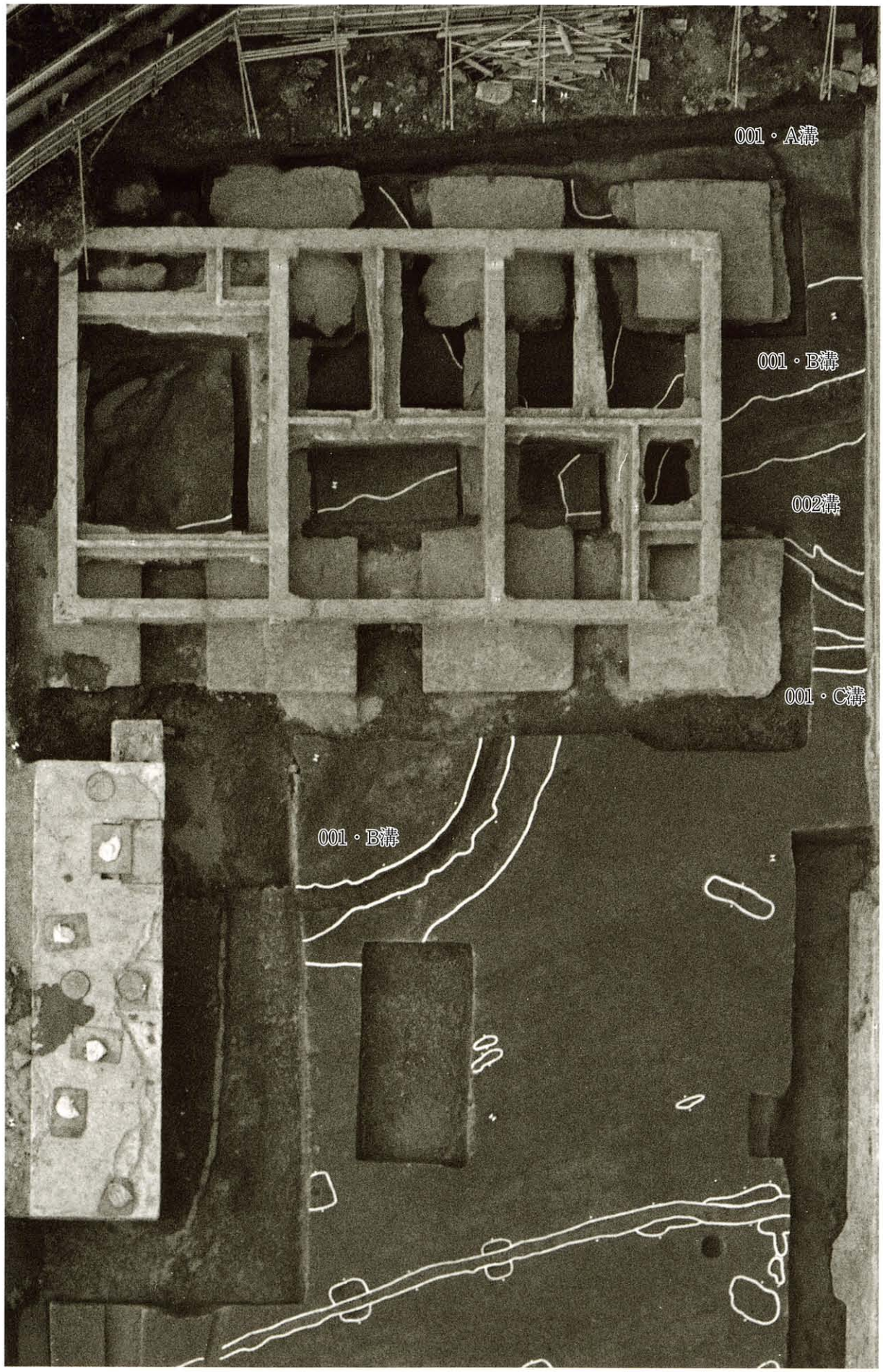

鳳東町４丁遺跡遠景（南から）



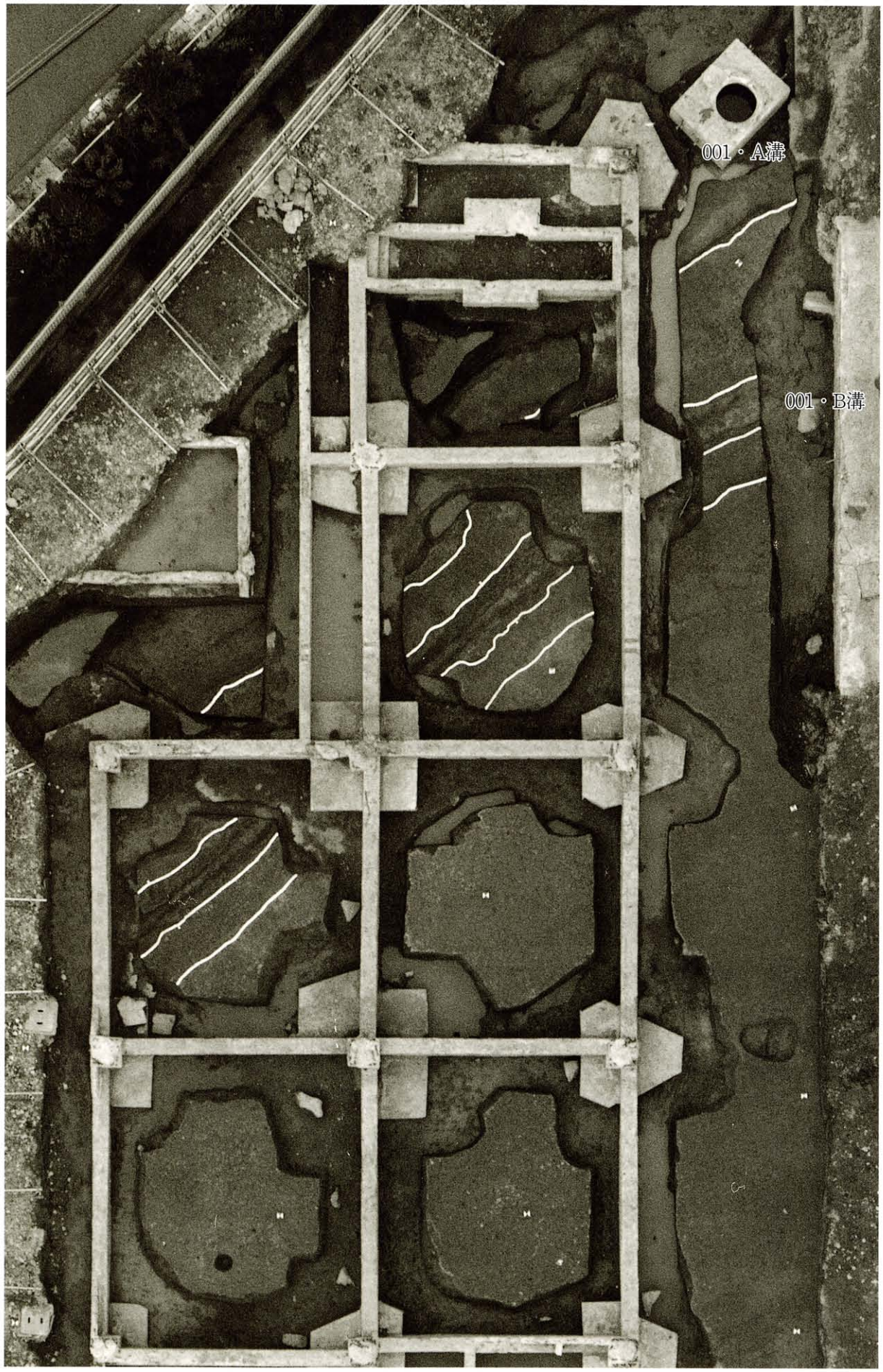

鳳東町４丁遺跡遠景（垂直）




1区　001溝・002溝・023井戸・024井戸・水田域

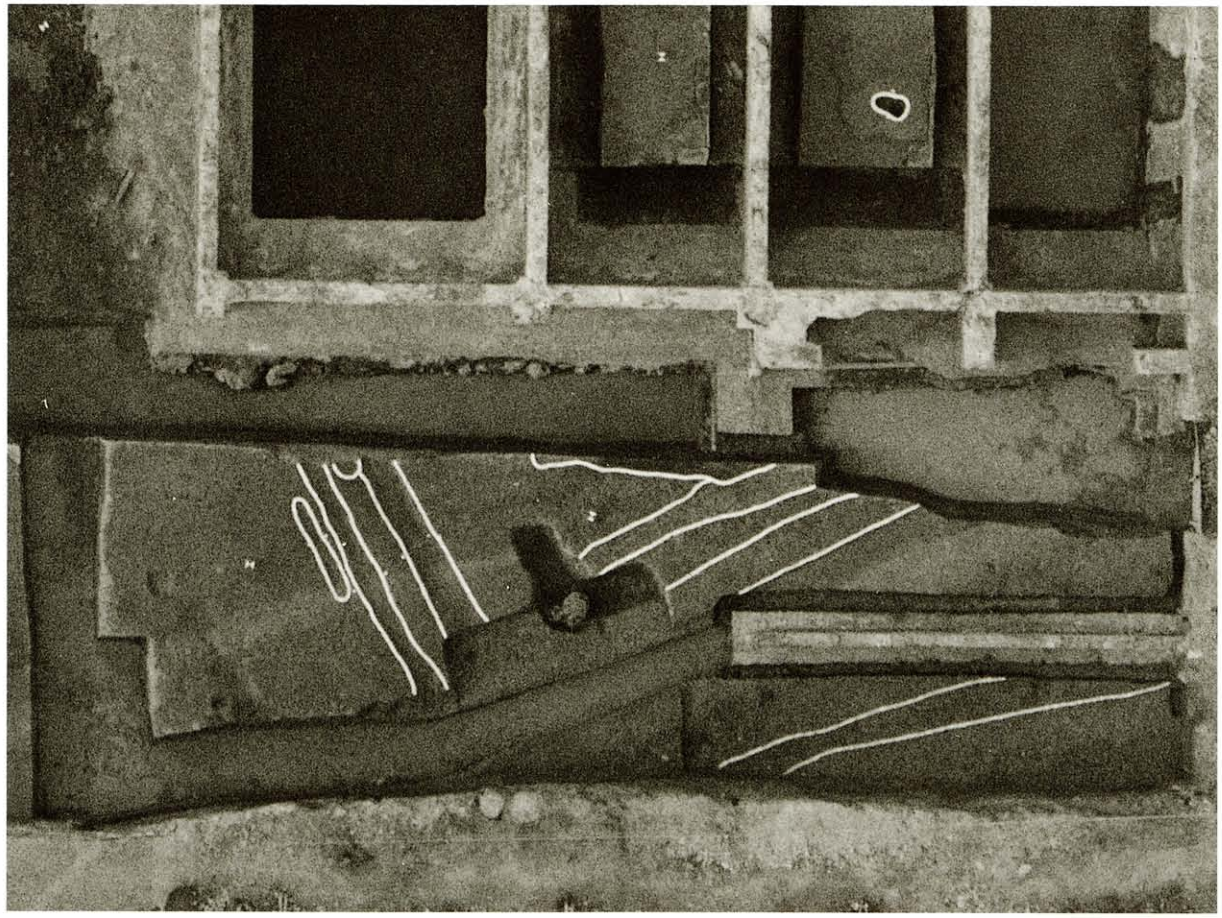



2区　001溝・002溝

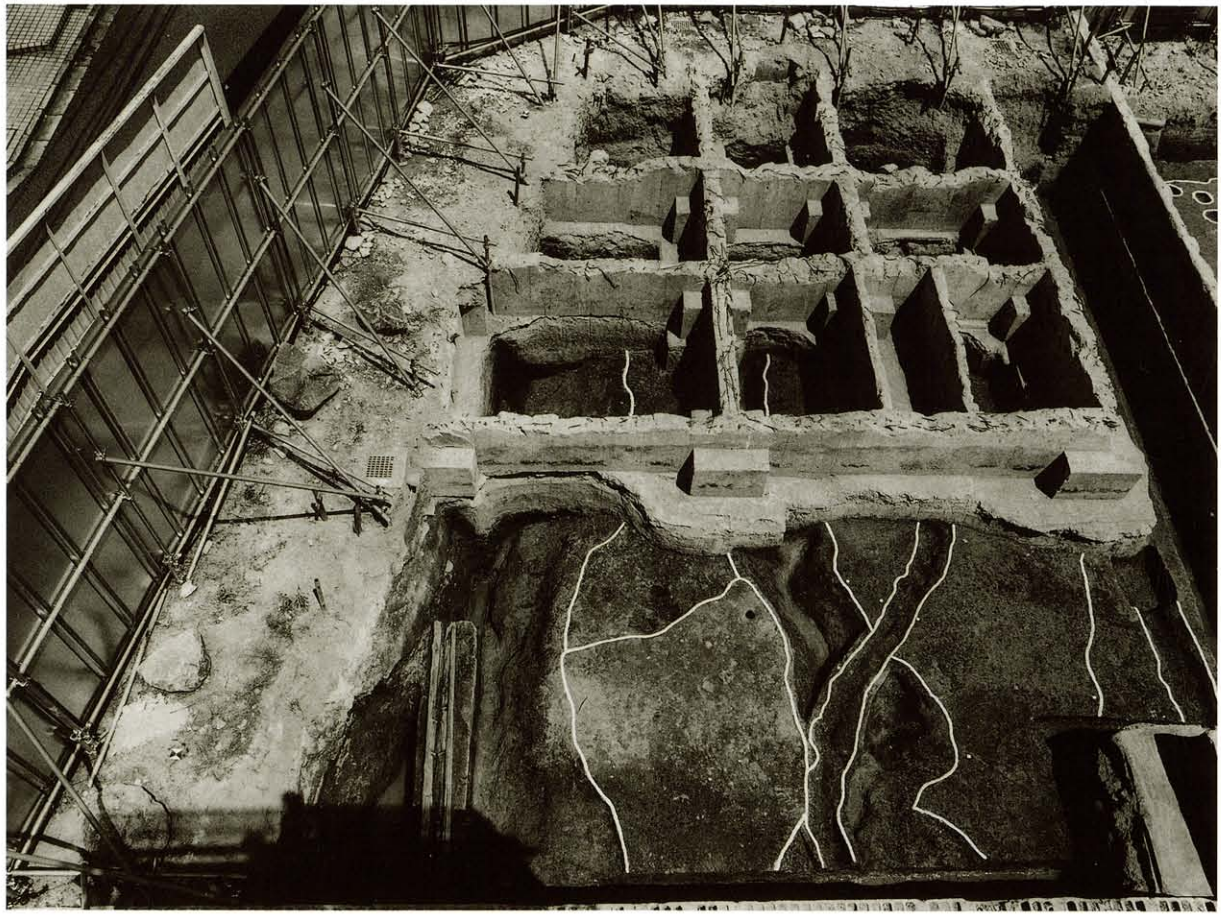



3区　001溝

1区　水田域

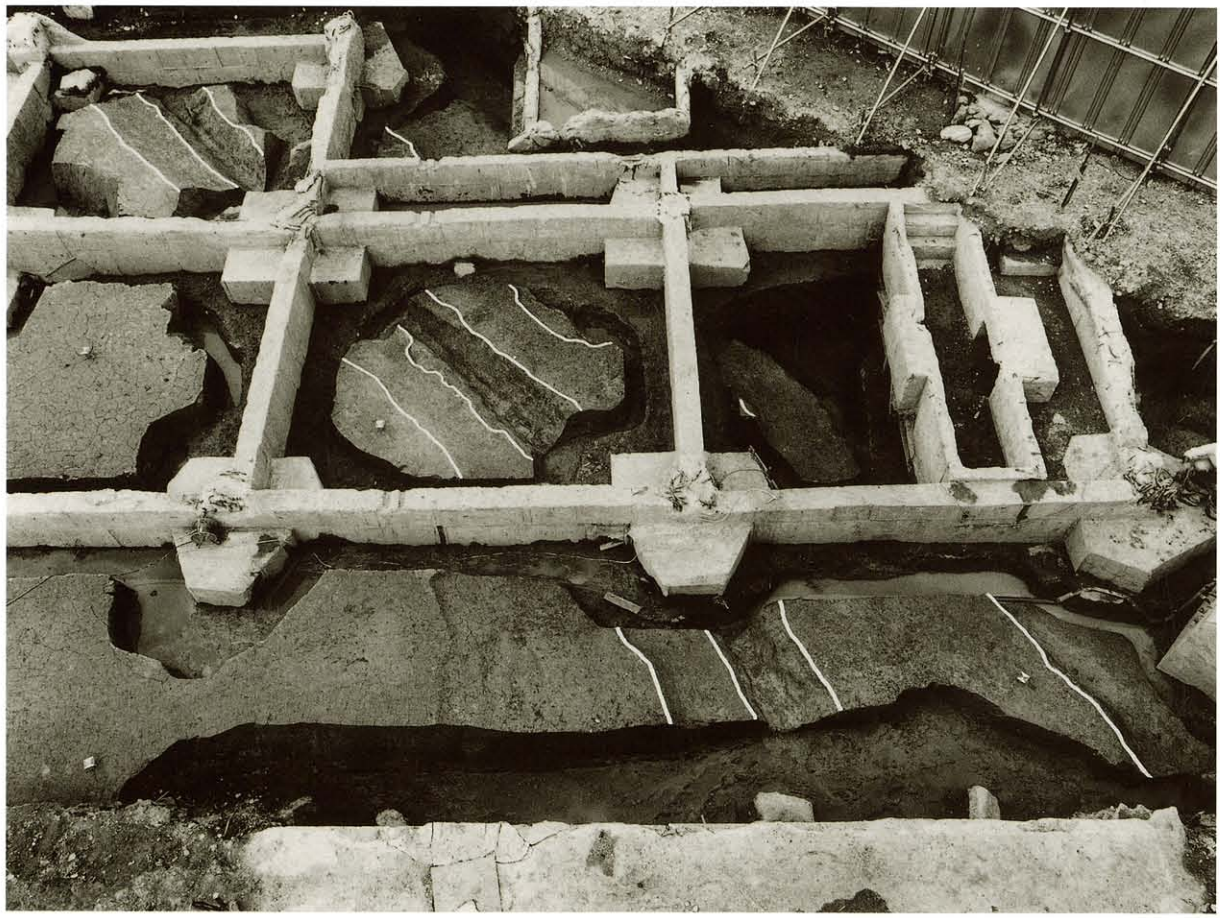


2区　水田域・畦

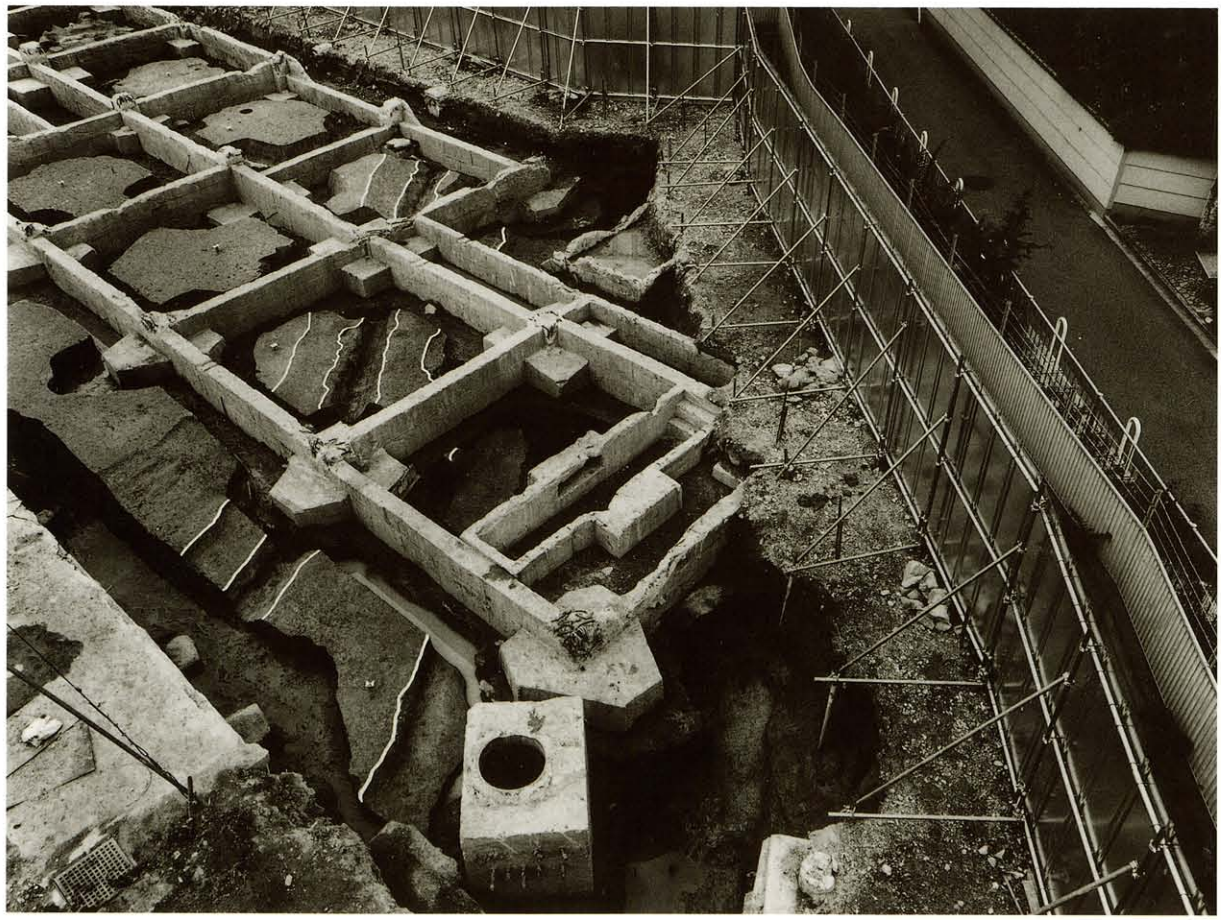


1区　001溝全景（南から）

1区　001溝全景（南東から）

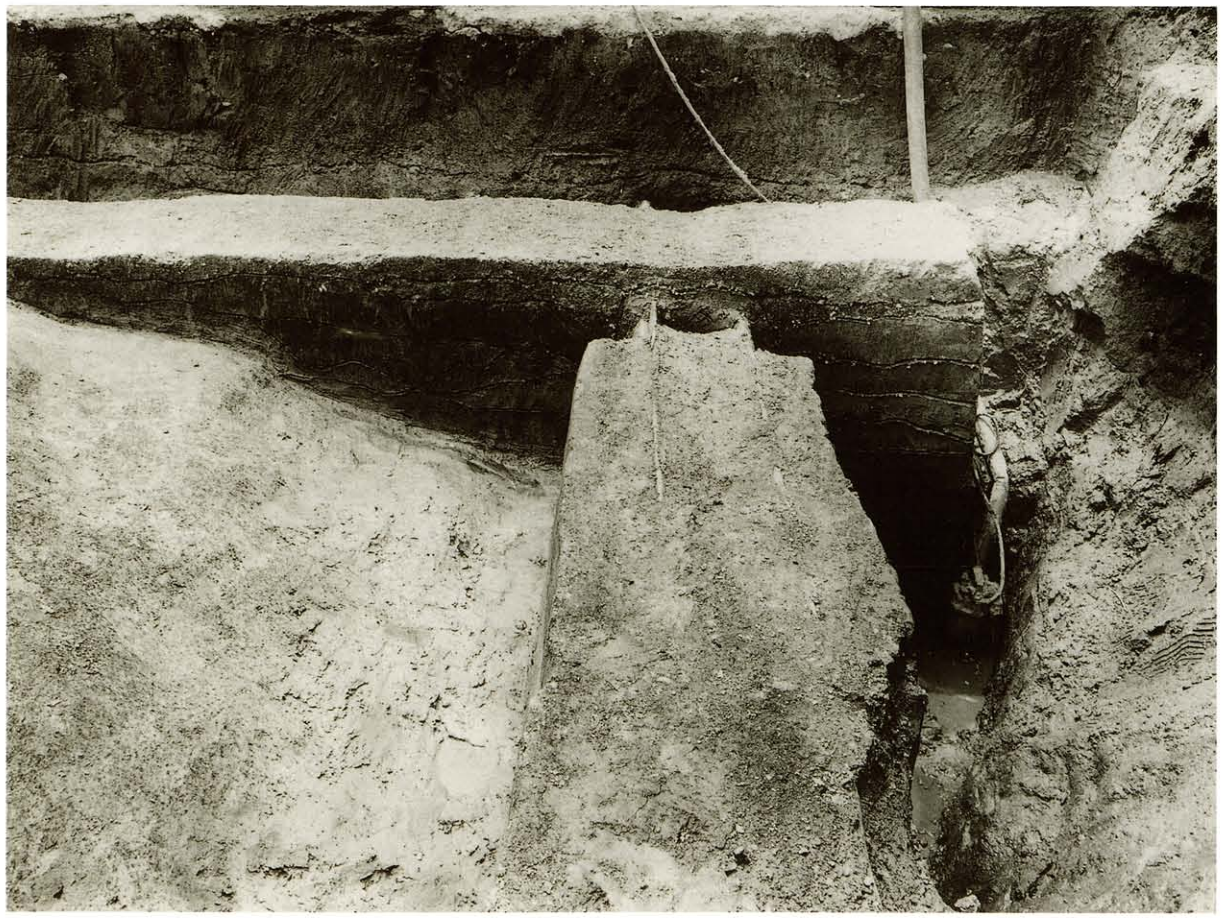


3区　001溝全景（北から）

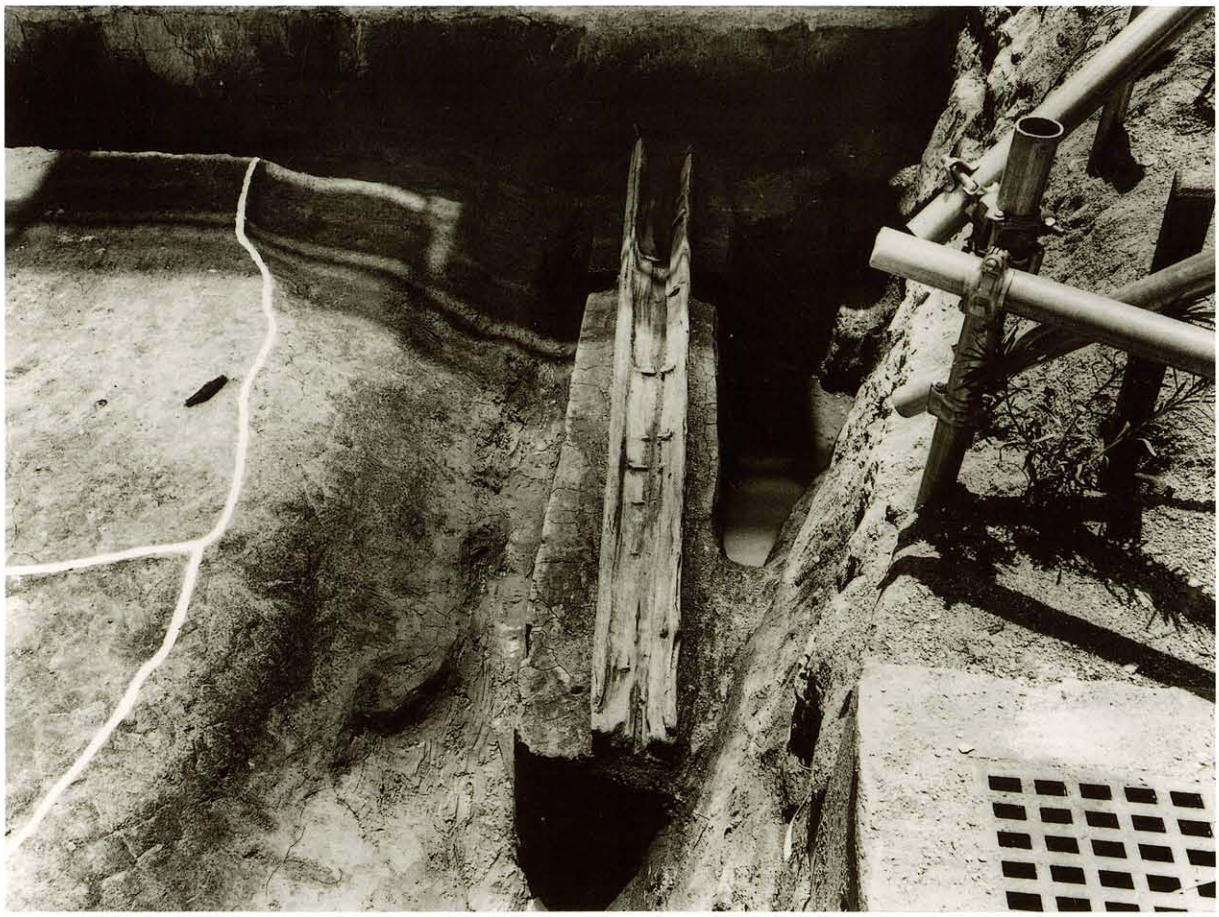


3区　001溝全景（北西から）

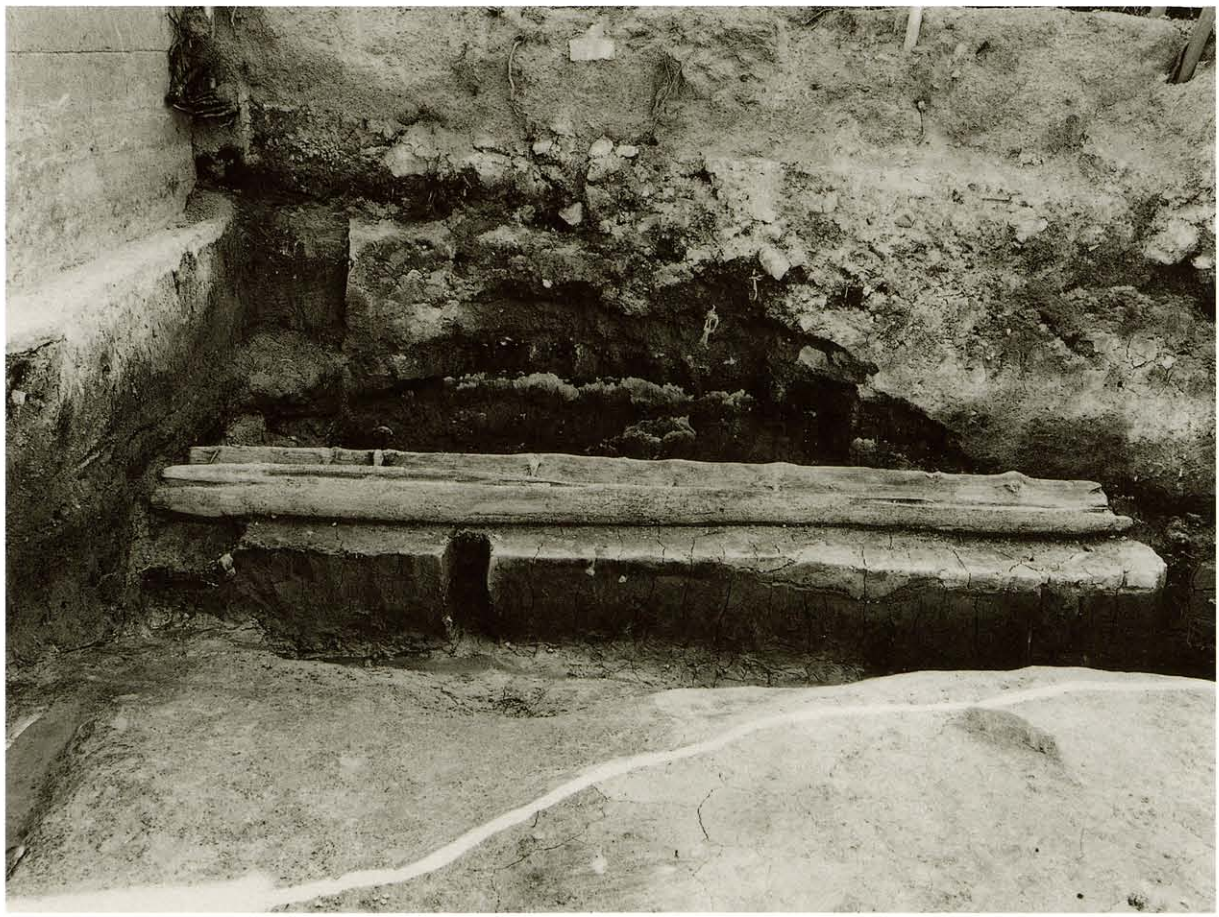
1区　木製樋管検出状況（北から）



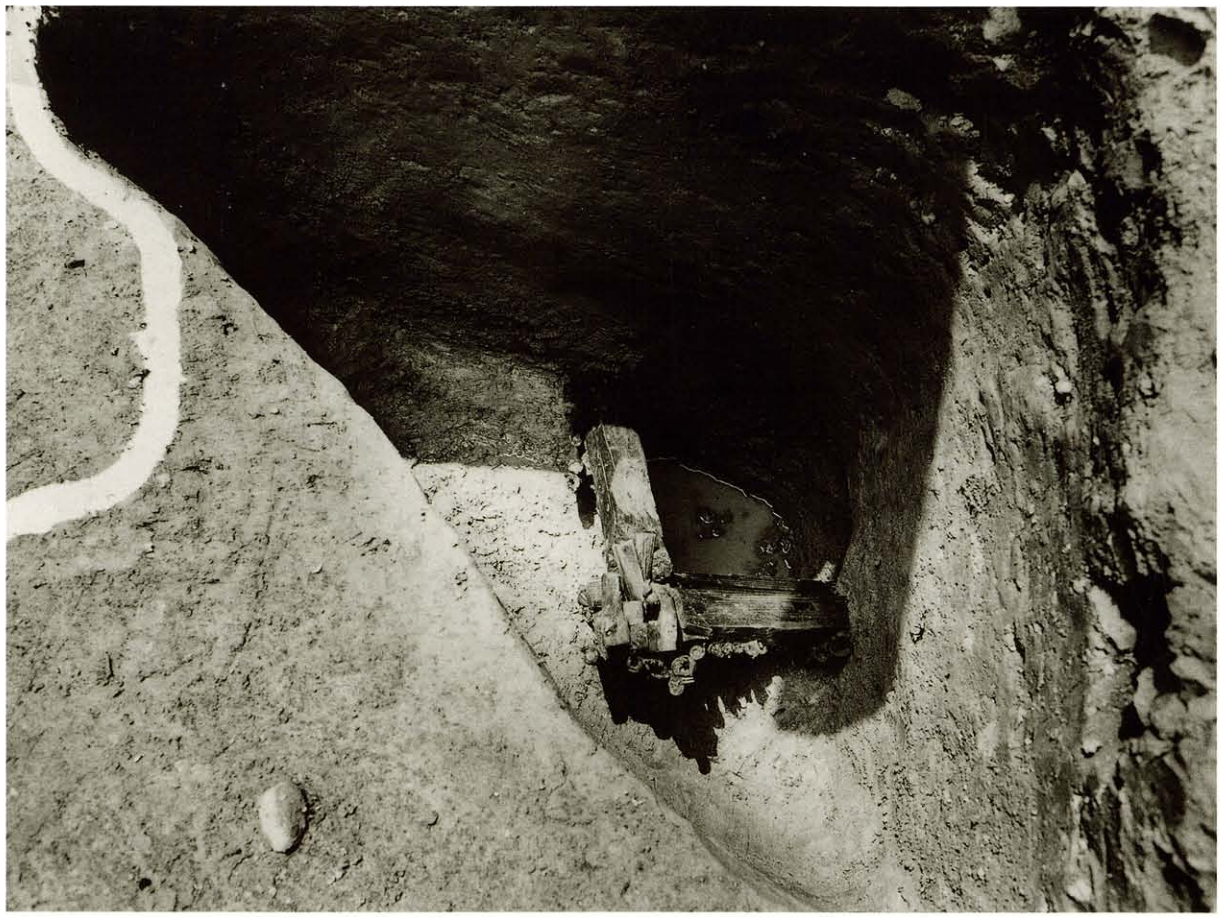
1区　001・A溝土層断面（北から）



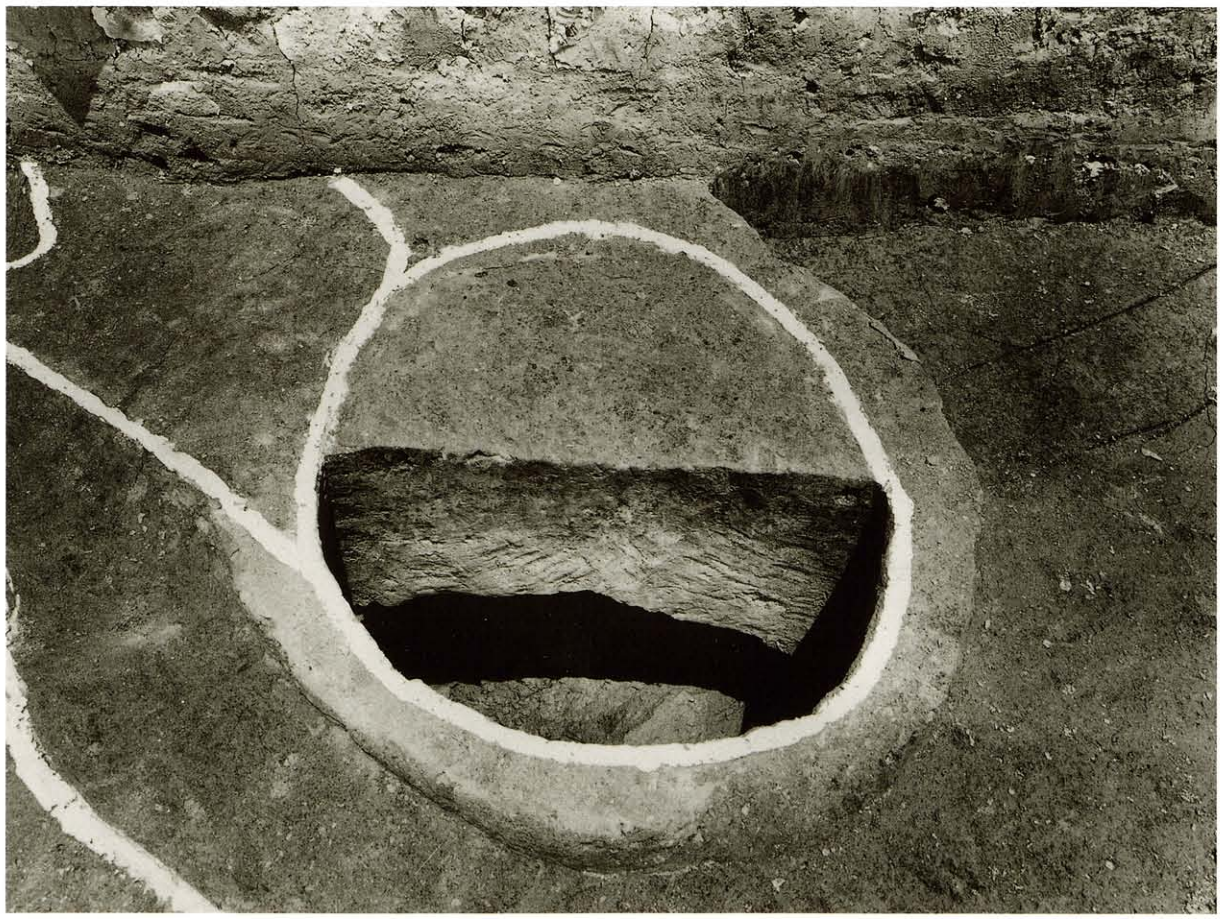
1区　001溝　木製樋管検出状況（北から）



1区　001溝　木製樋管検出状況（東から）

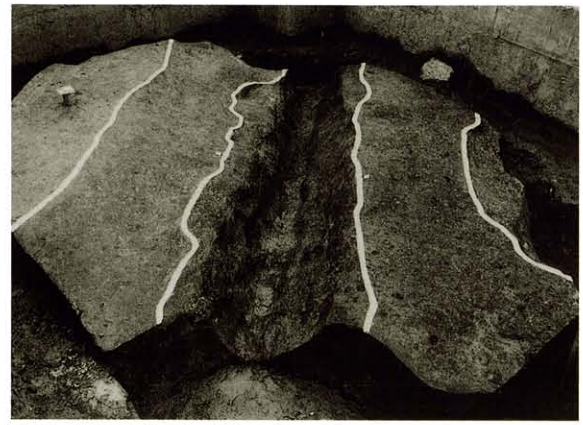


1区　023井戸　木枠検出状況（東から）



1区　024井戸　半裁状況（南から）

3－58区　001・B溝（北から）



3－60区　001・B溝（北から）

3区　001・B溝Kベルト断面（南から）

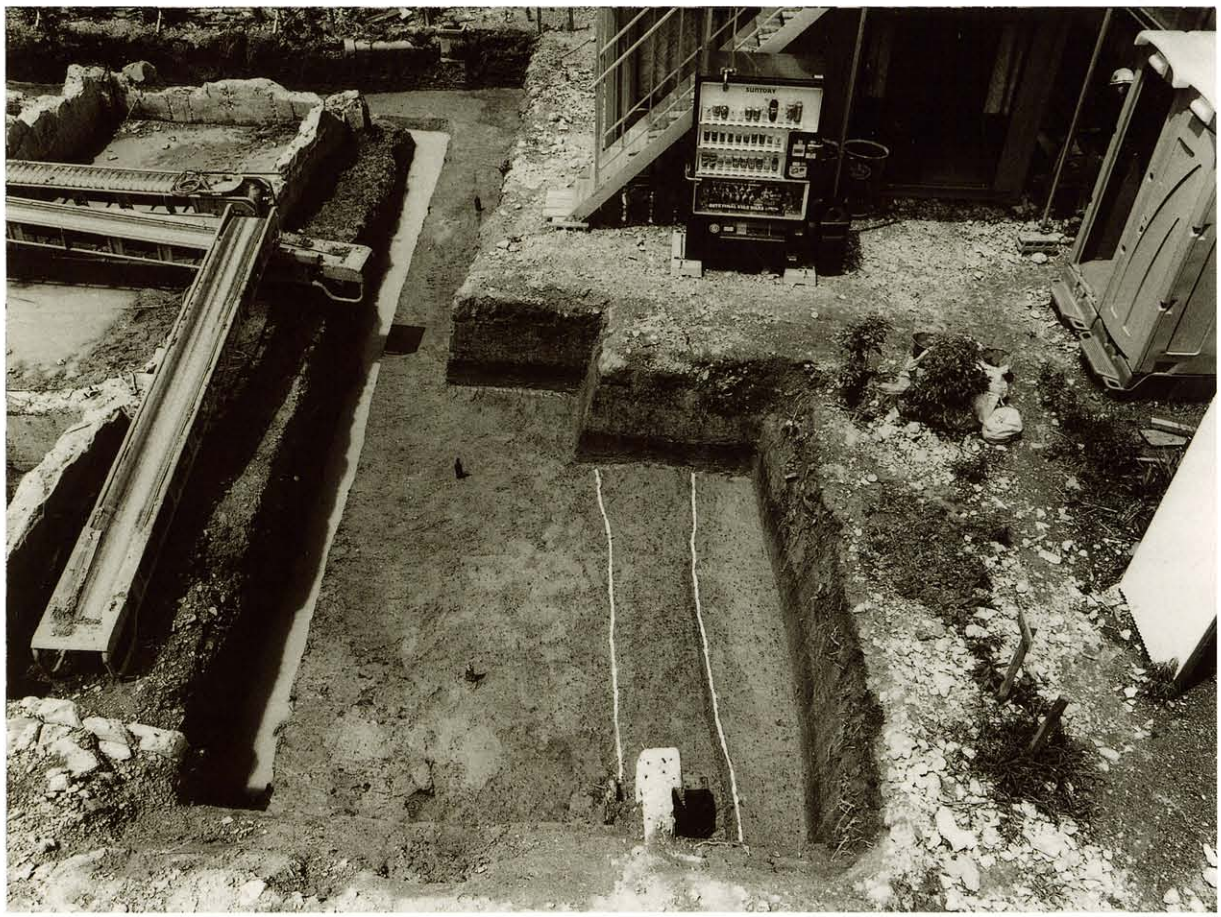
3区　001・B溝Jベルト断面（北から）

3区　001・A溝Lベルト断面（北から）

3区　001・A溝Mベルト断面（南から）

1区　001・B溝Aベルト断面（南から）

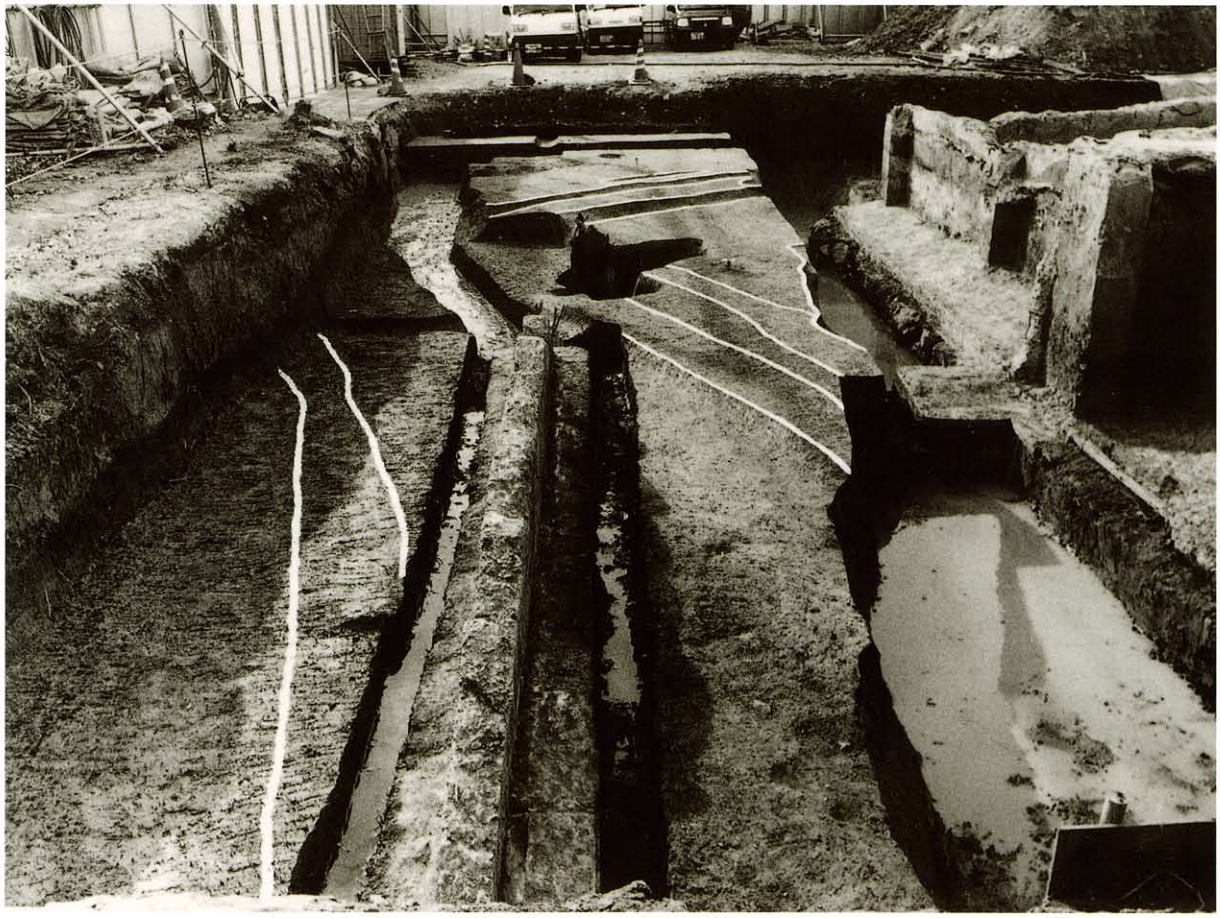
2区　001・B溝Fベルト断面（南から）




1区　水田域・畦（南から）

1区　畦土層断面（南から）

1区　水田域全景（南から）



2区　水田域全景（北から）

中央トレンチ　南壁西半（北東から）

中央トレンチ　北壁（南西から）

16

17

18

113

19

73

114

107

112

001溝出土遺物　須恵器

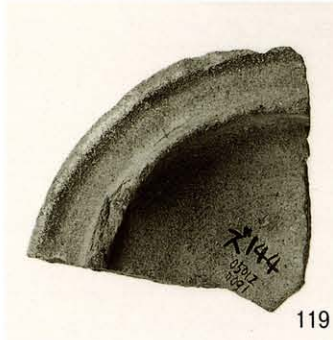
26

115

24

25

29



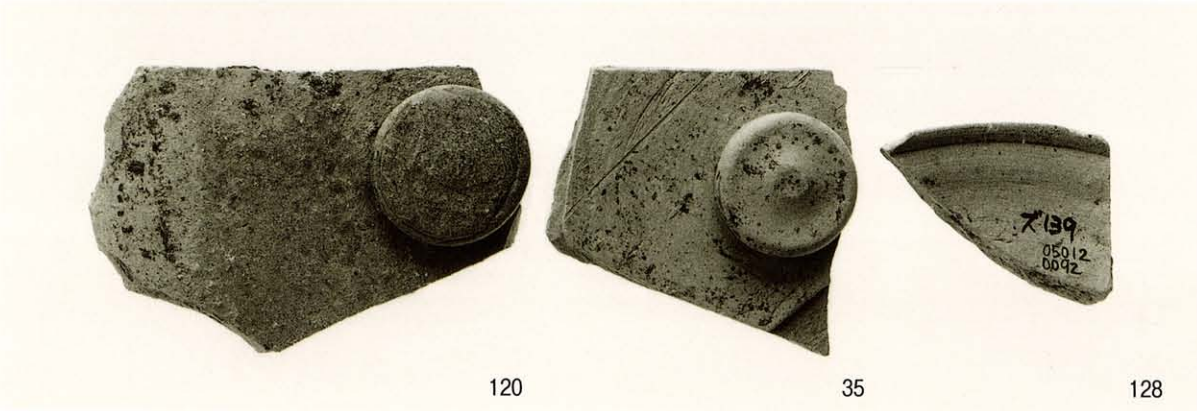
119

117

001溝出土遺物　須恵器

21

106



120　35　128

001溝出土遺物　須恵器

69

15

22

001溝出土遺物　須恵器

121

109

23

123

001溝出土遺物　須恵器

45

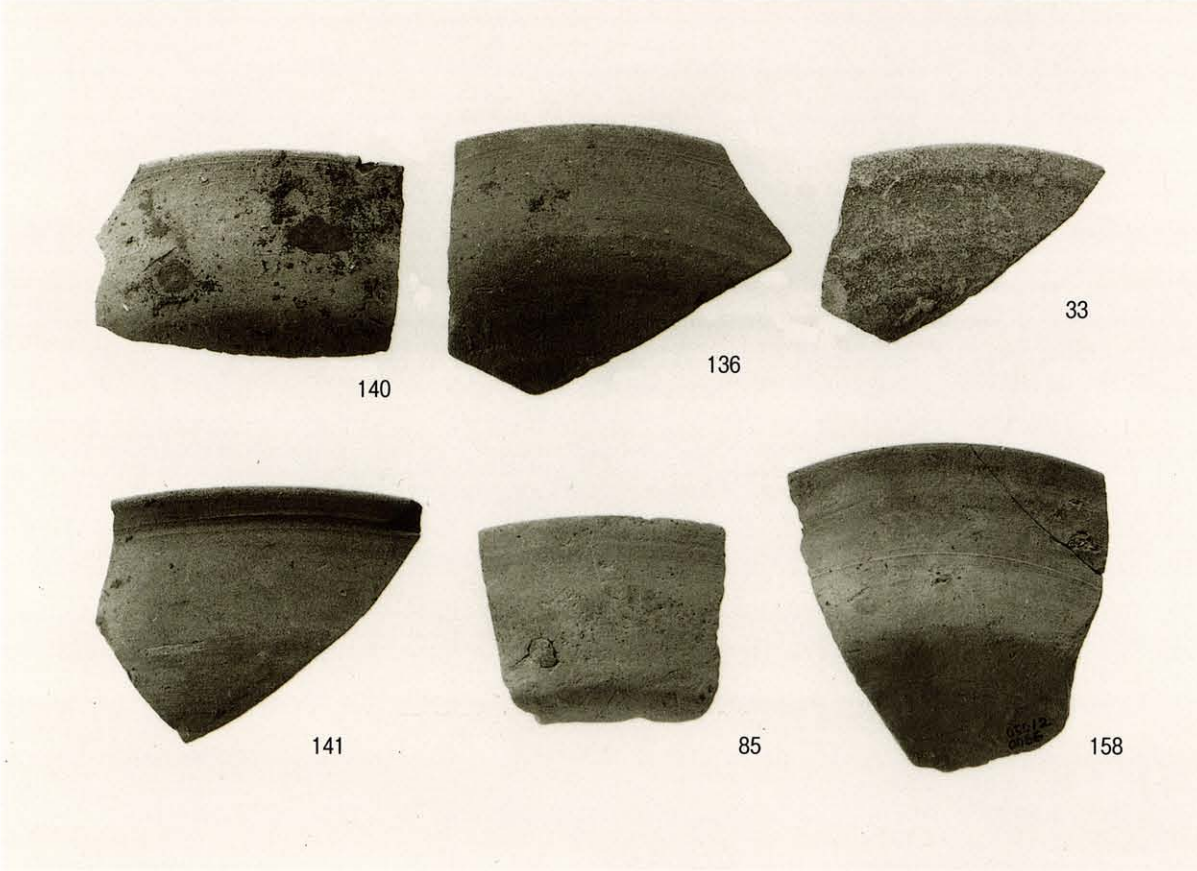
30

87

135

148

001溝出土遺物　須恵器


140
136
33
141
85
158

001溝出土遺物　須恵器

105

46

39

82

133

78

70

001溝出土遺物　須恵器

71

163

143

132

110

74

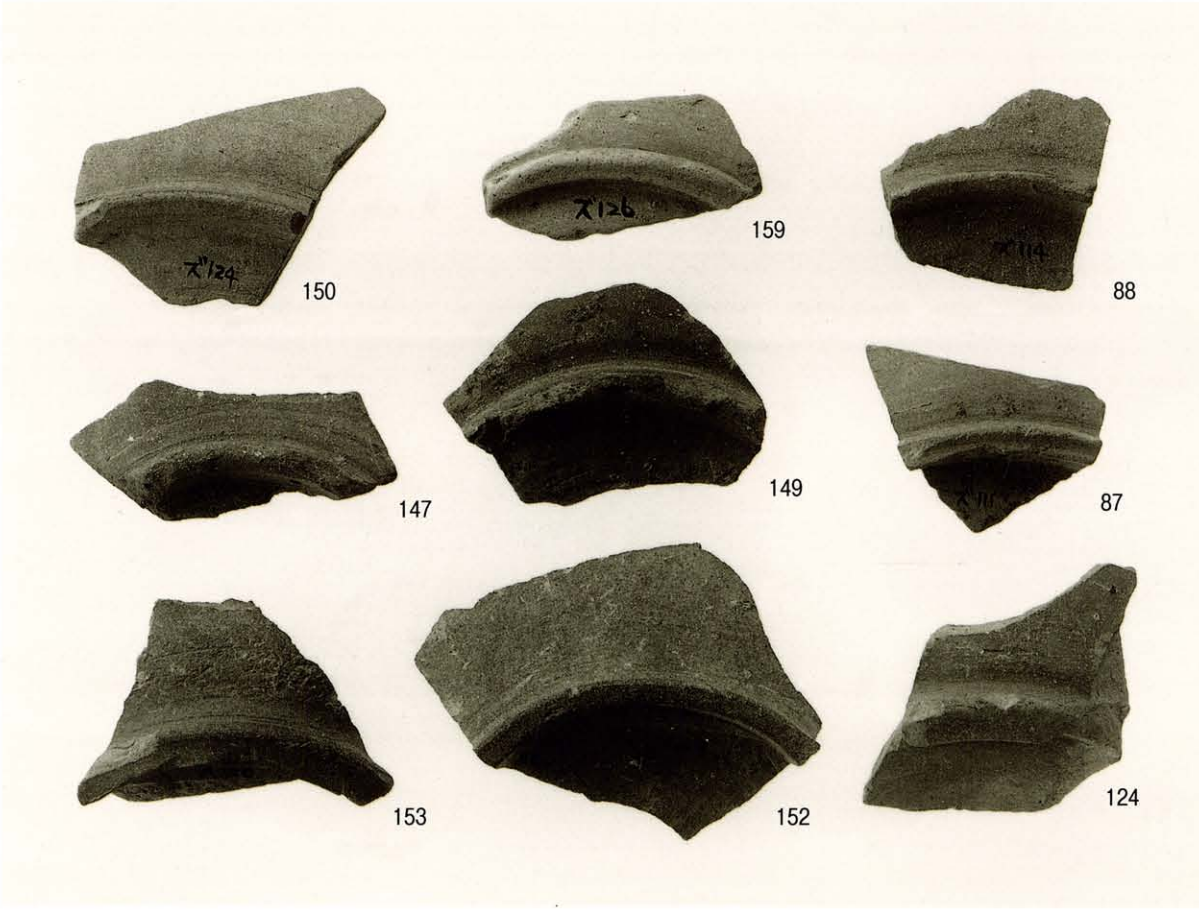
77

125

111

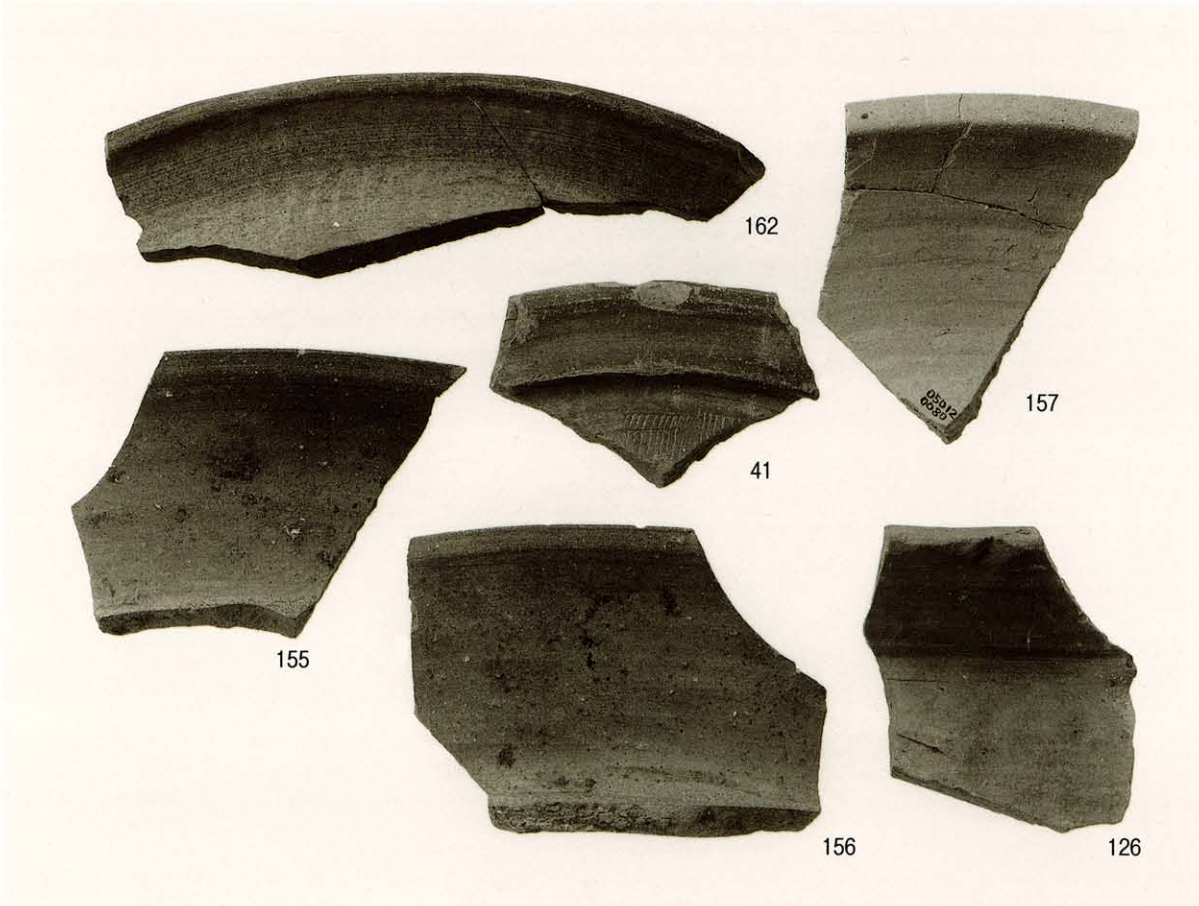
001溝出土遺物　須恵器

001溝出土遺物　須恵器




001溝出土遺物　須恵器

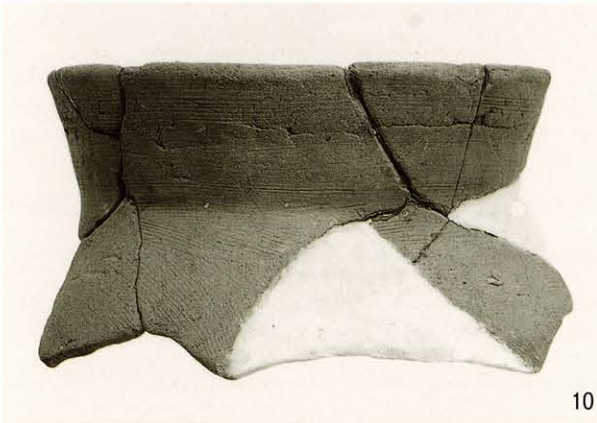
001溝出土遺物　須恵器

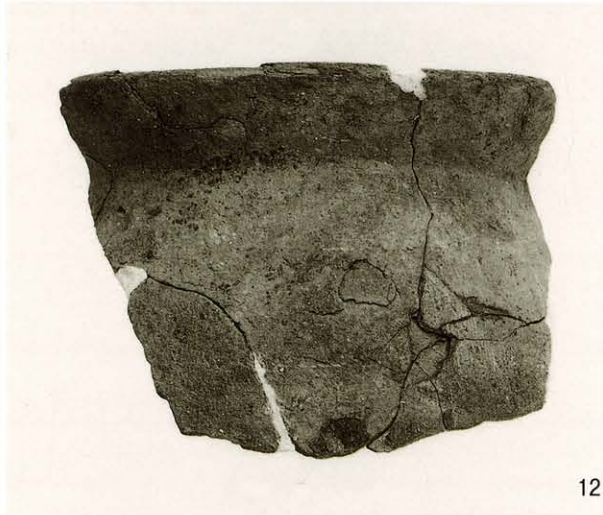


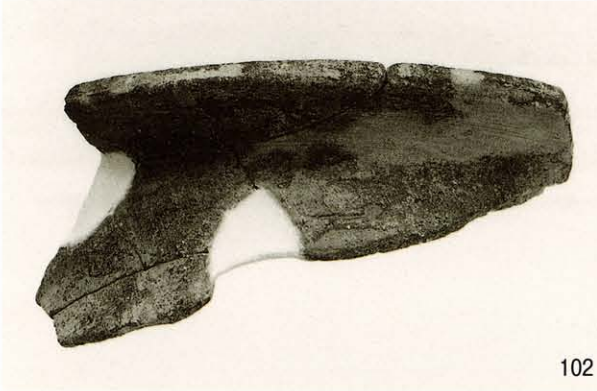

001溝出土遺物　須恵器

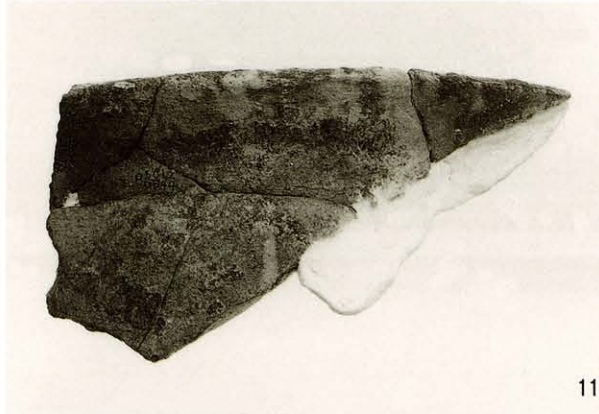
8

9


10


12


102


11

14

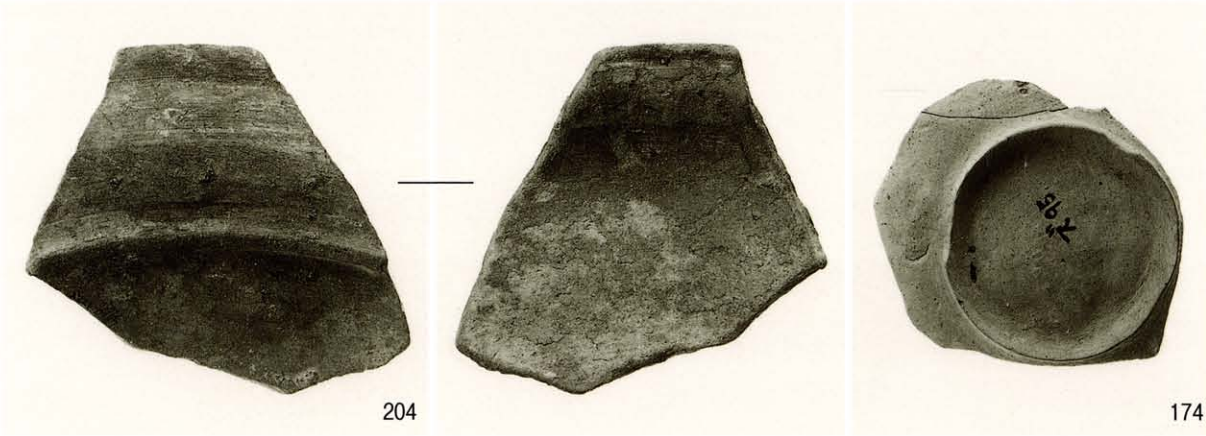
96

001溝出土遺物　土器

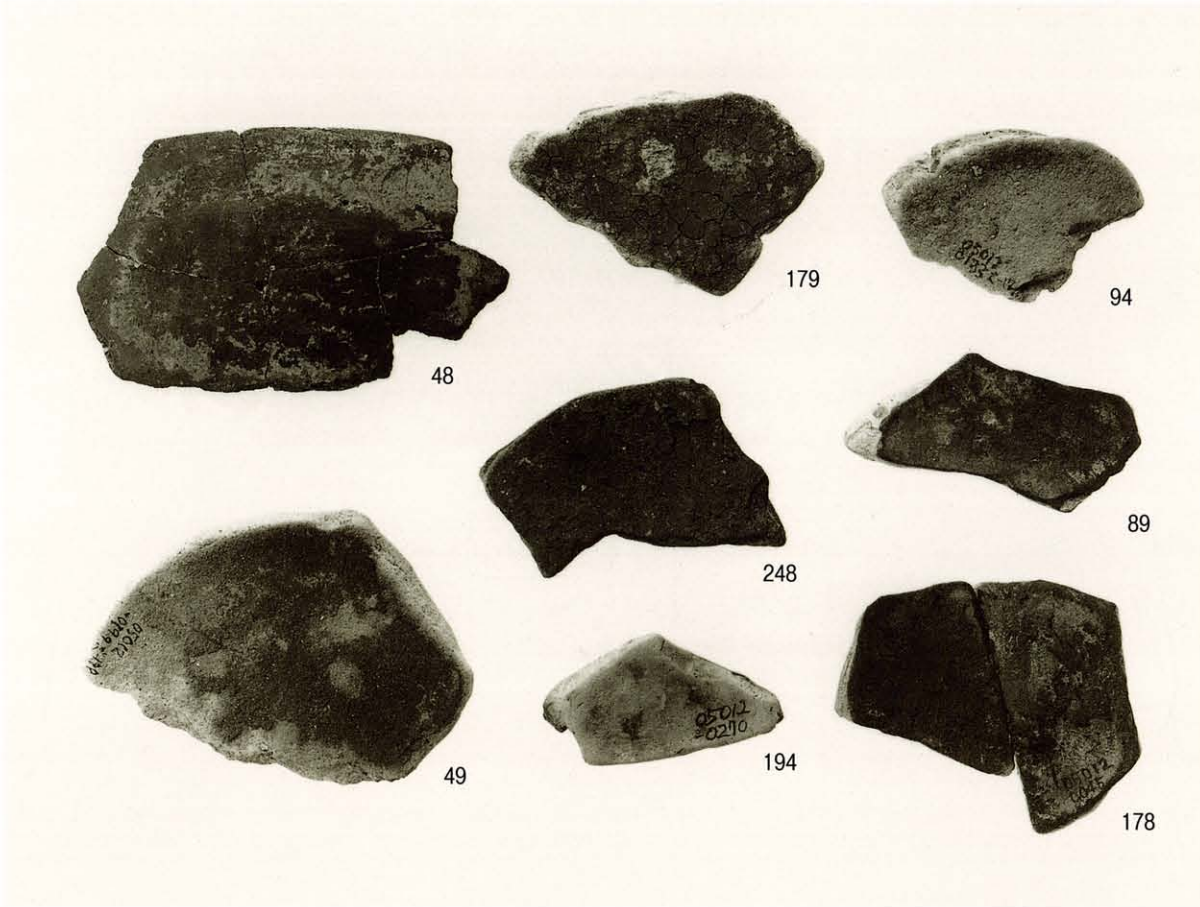
001溝出土遺物　土器

001溝出土遺物　土器

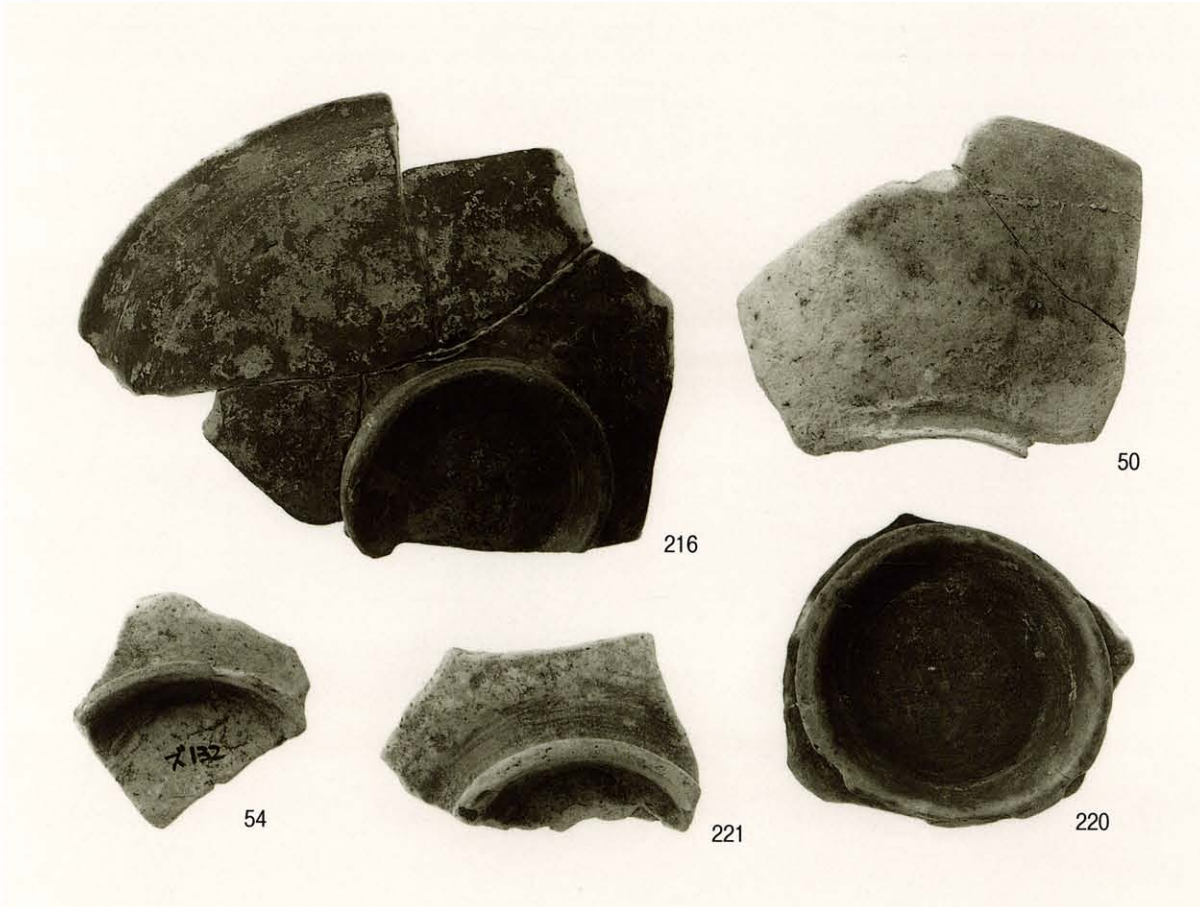
出土遺物　須恵器



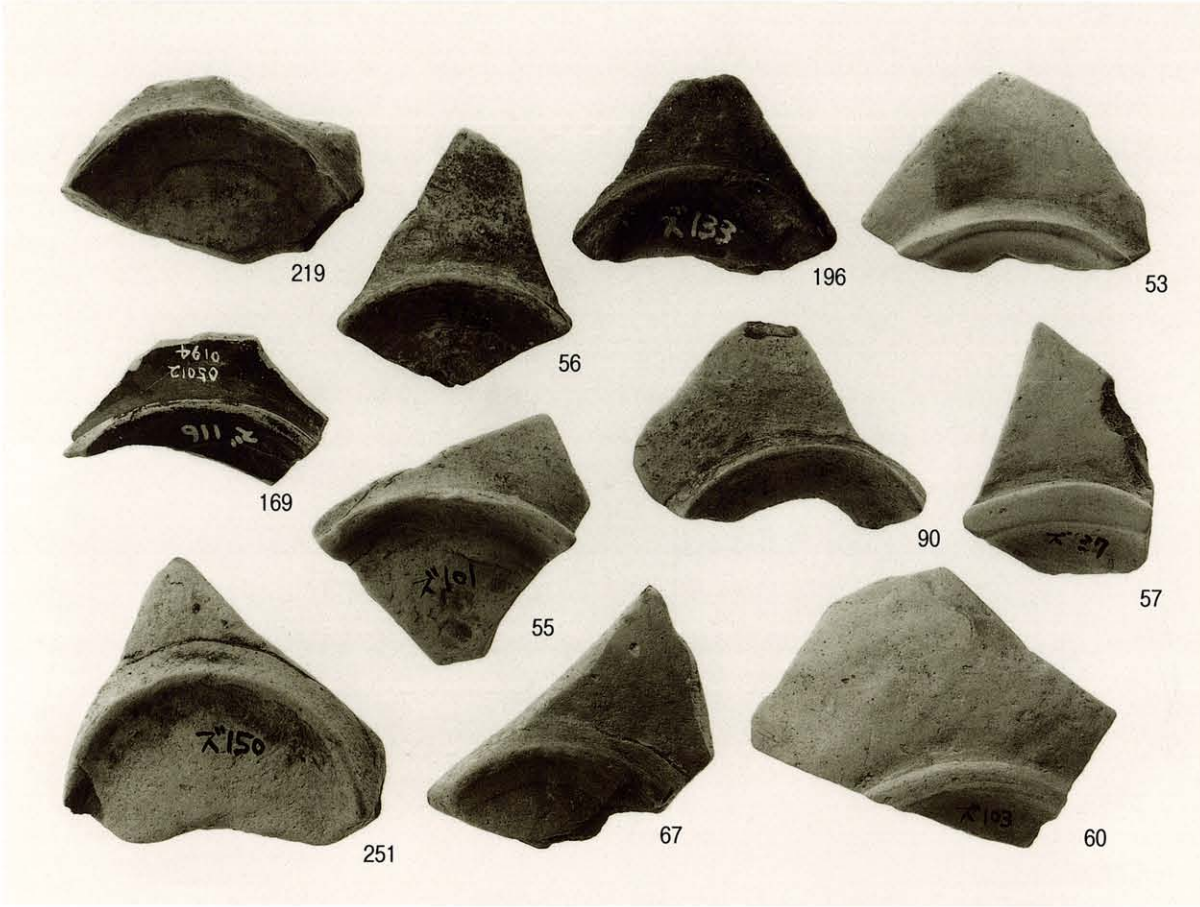

出土遺物　土器



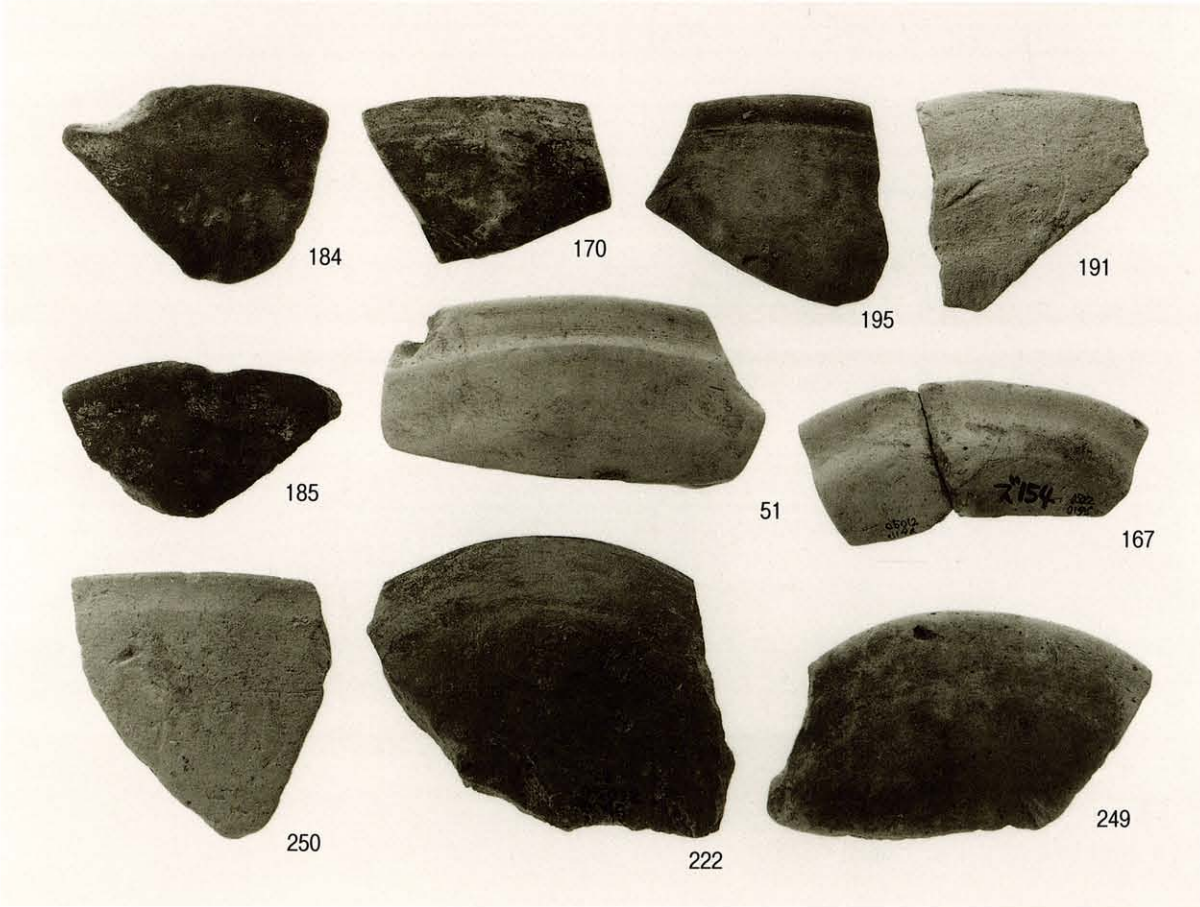

出土遺物　黒色土器



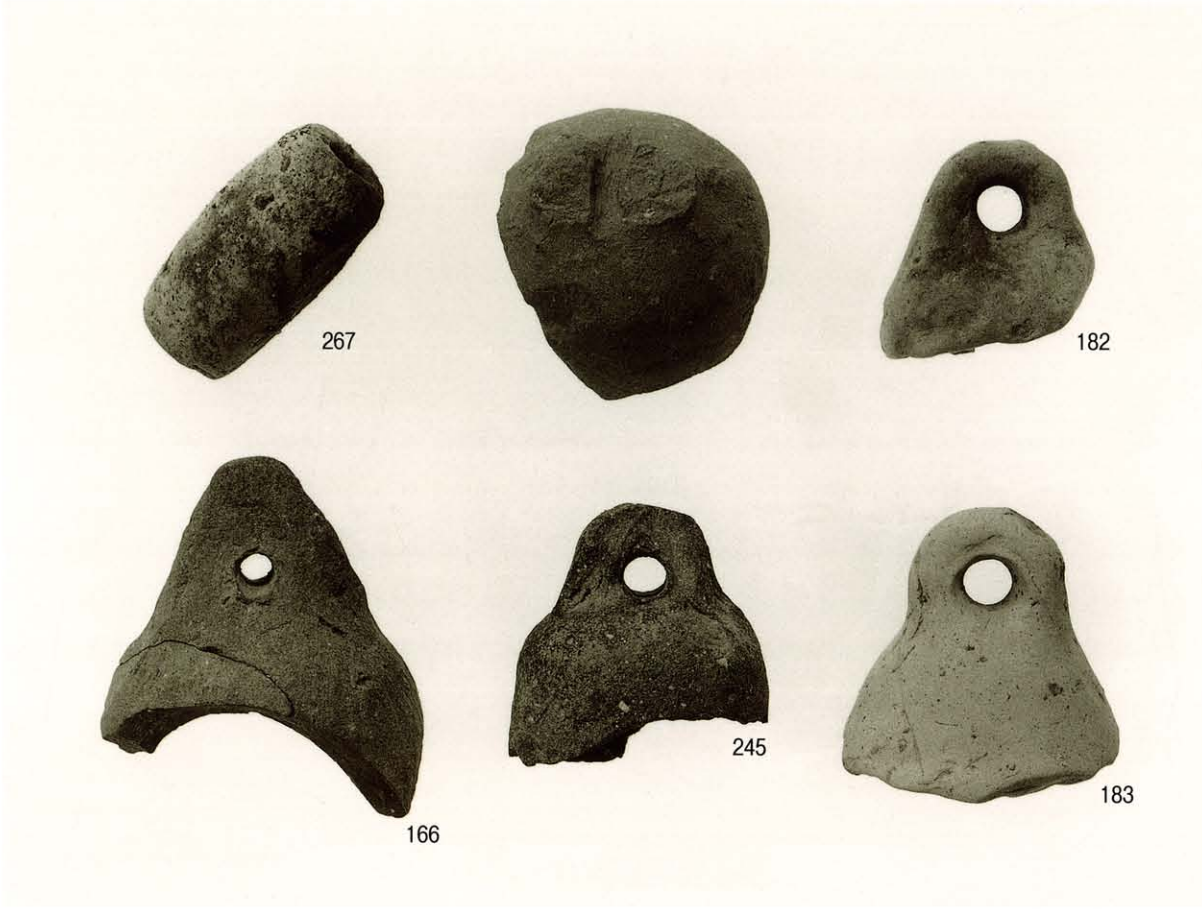

出土遺物　瓦器



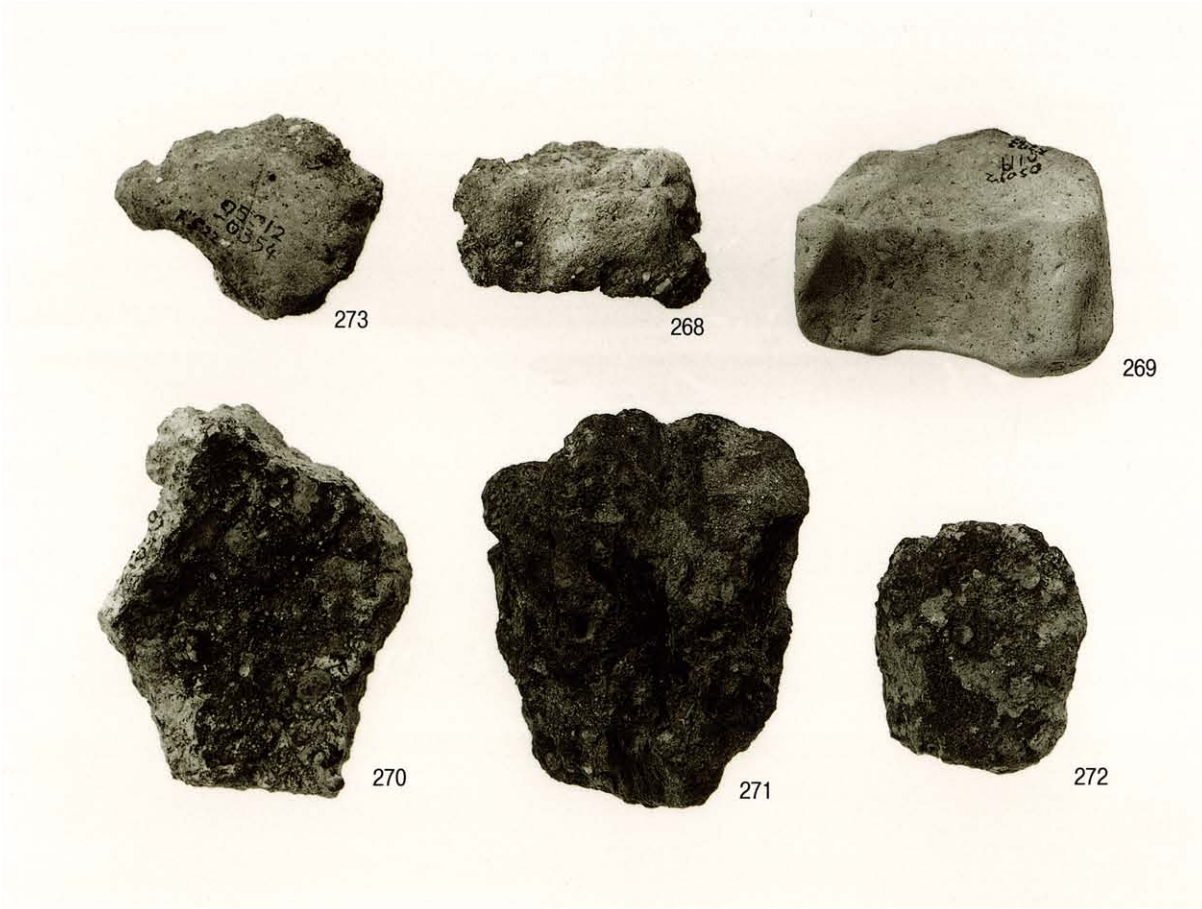

出土遺物　瓦器



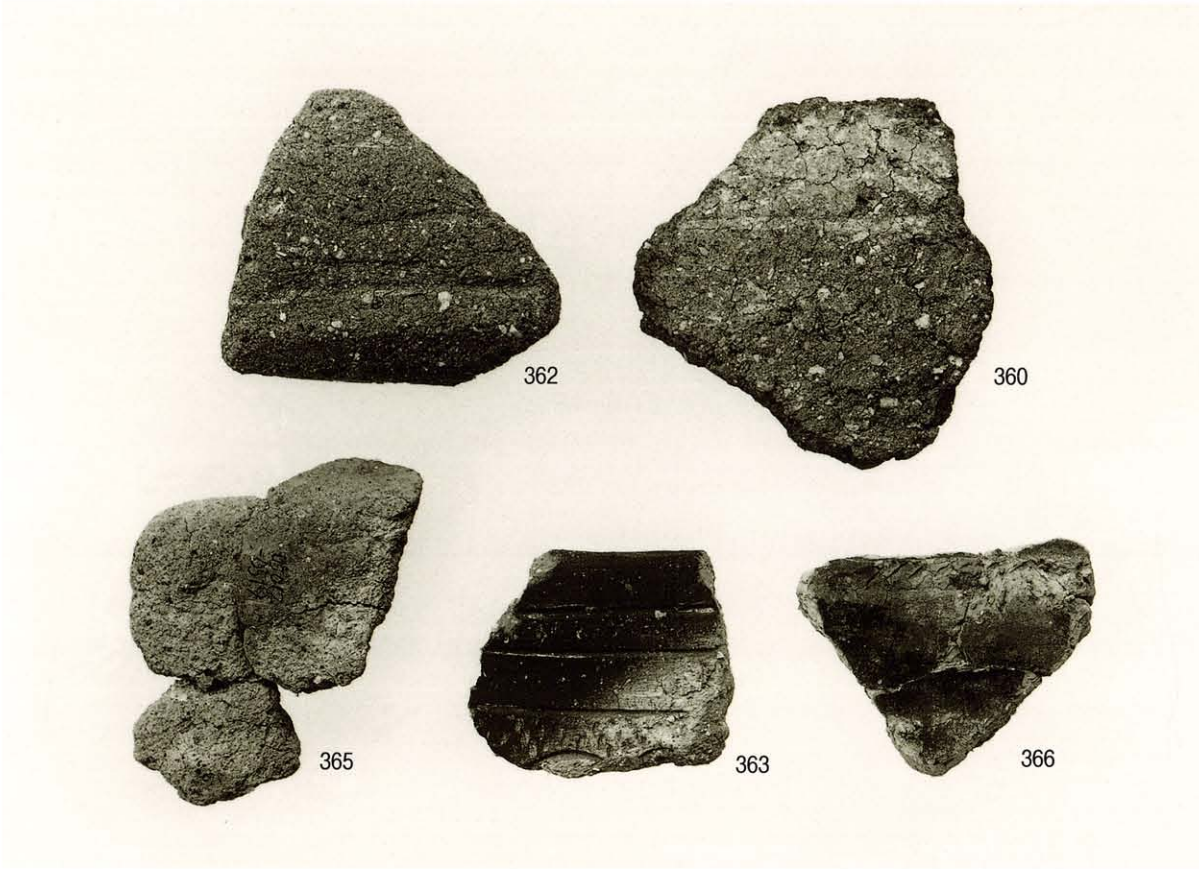

出土遺物　瓦器



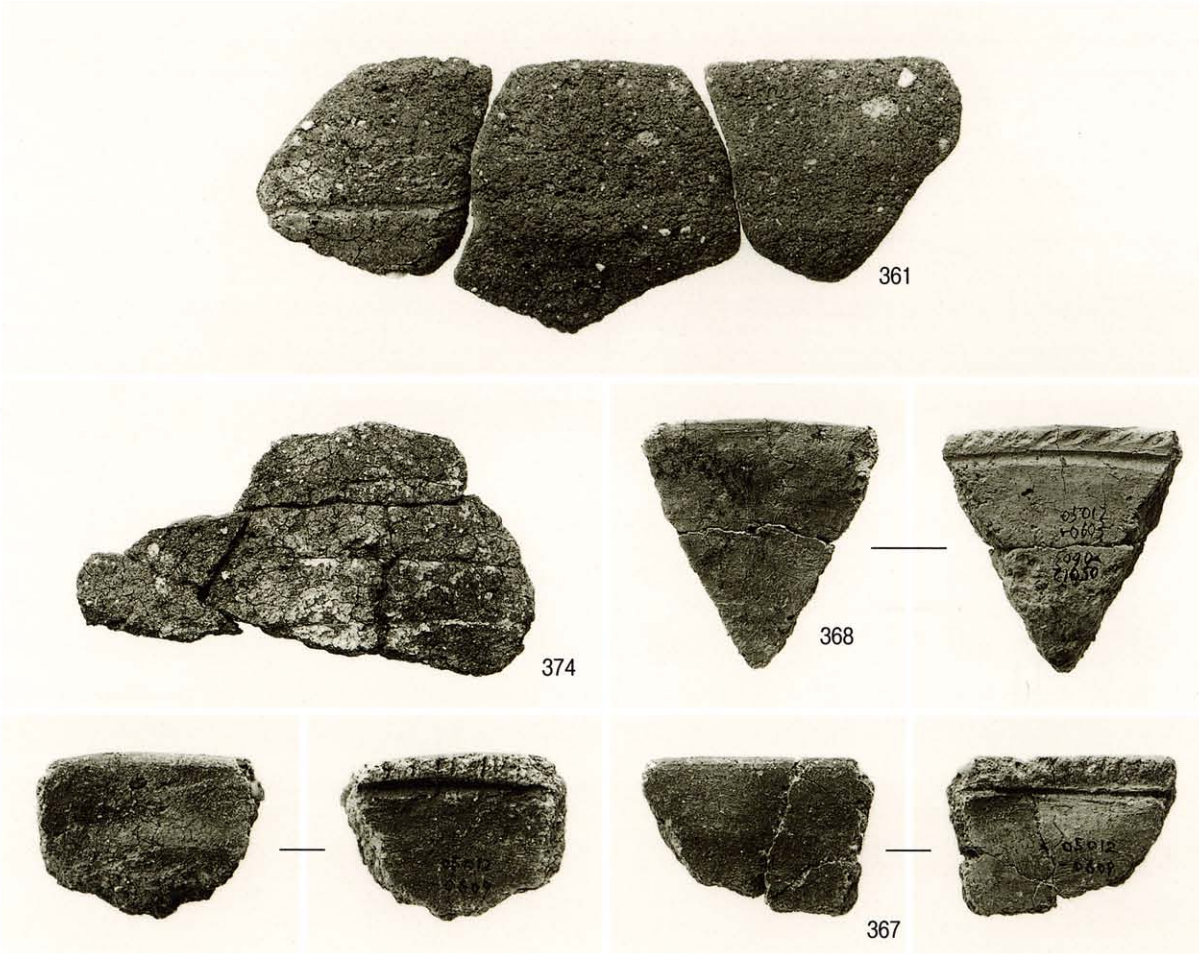

出土遺物　蛸壺・土錘




出土遺物　羽口・坩堝・鉄滓




縄文土器　有文深鉢




縄文土器　有文深鉢

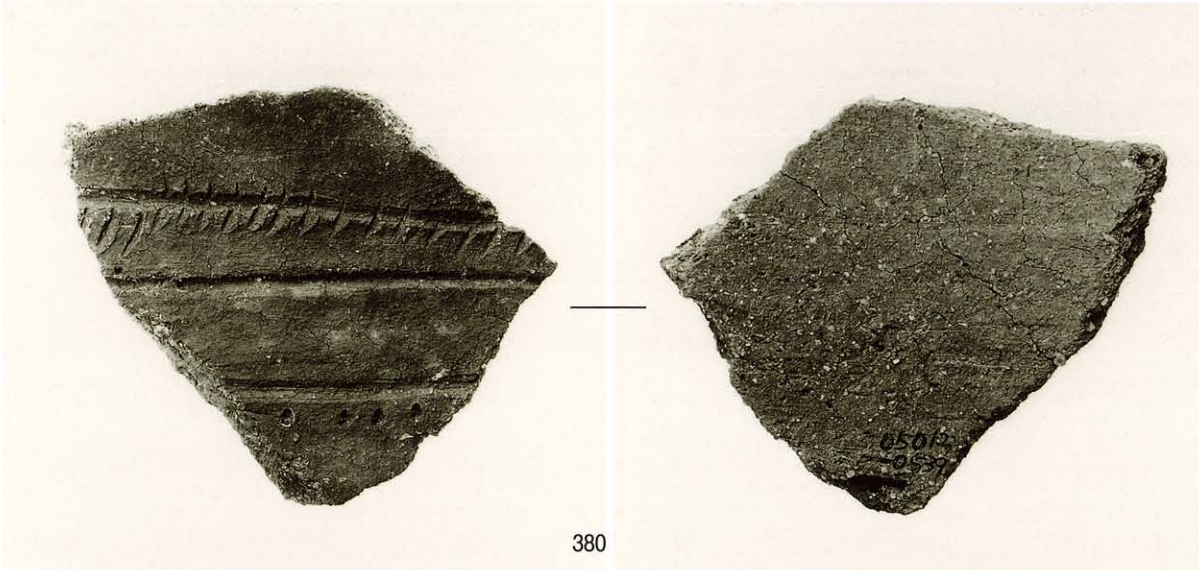
370

369

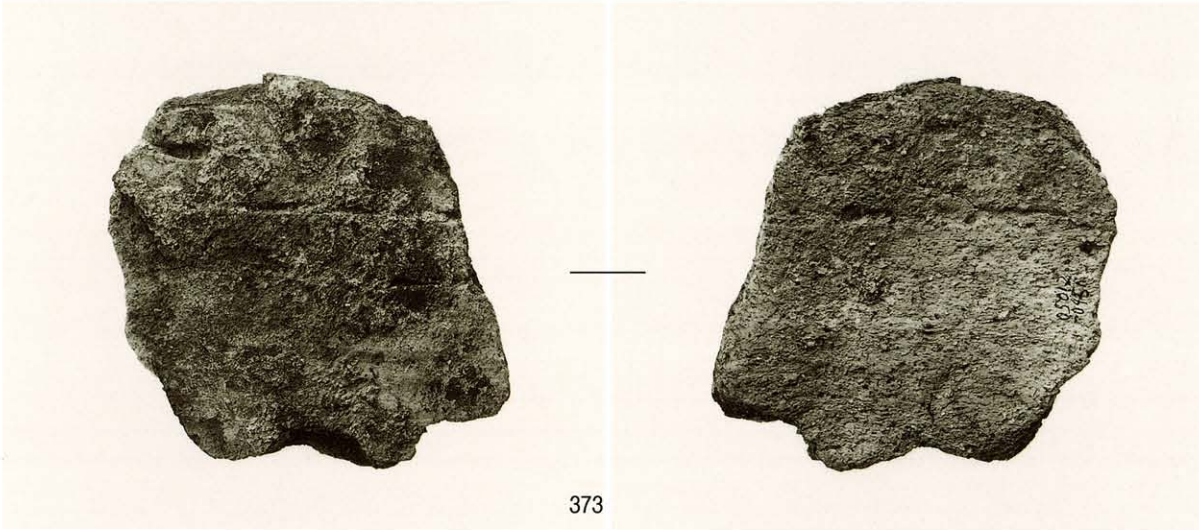
381

379

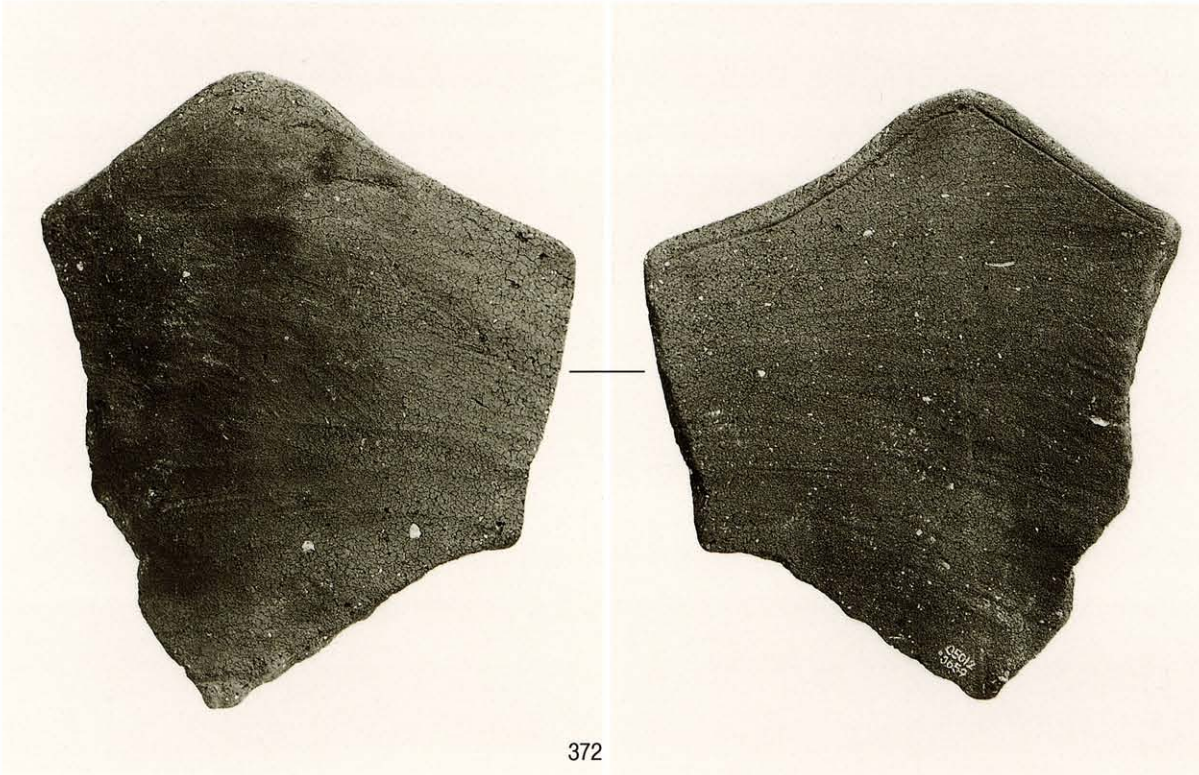
縄文土器　有文深鉢



380

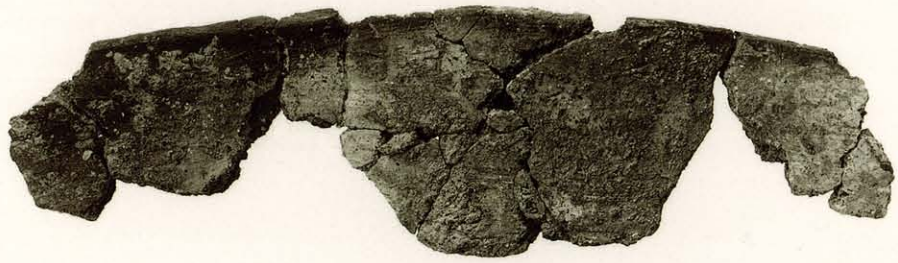


373



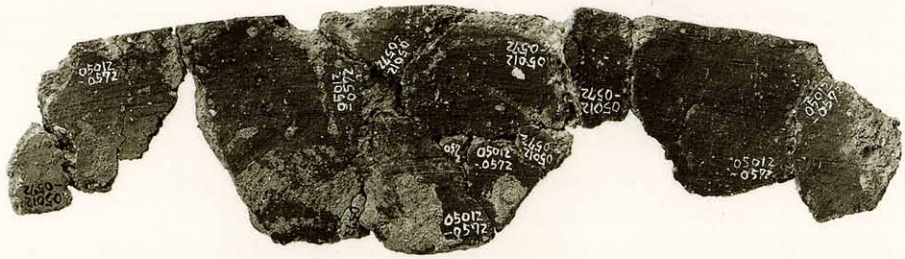
372

縄文土器　有文深鉢



371

375

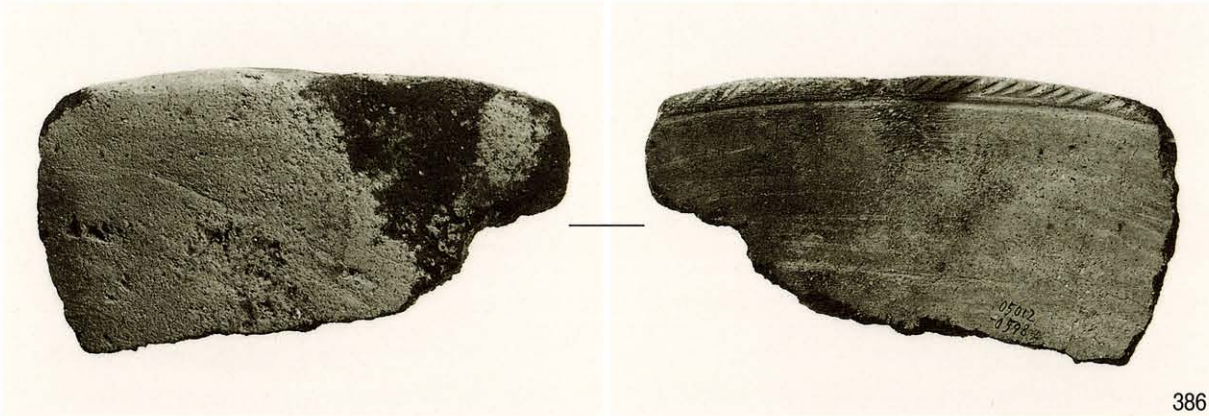


371

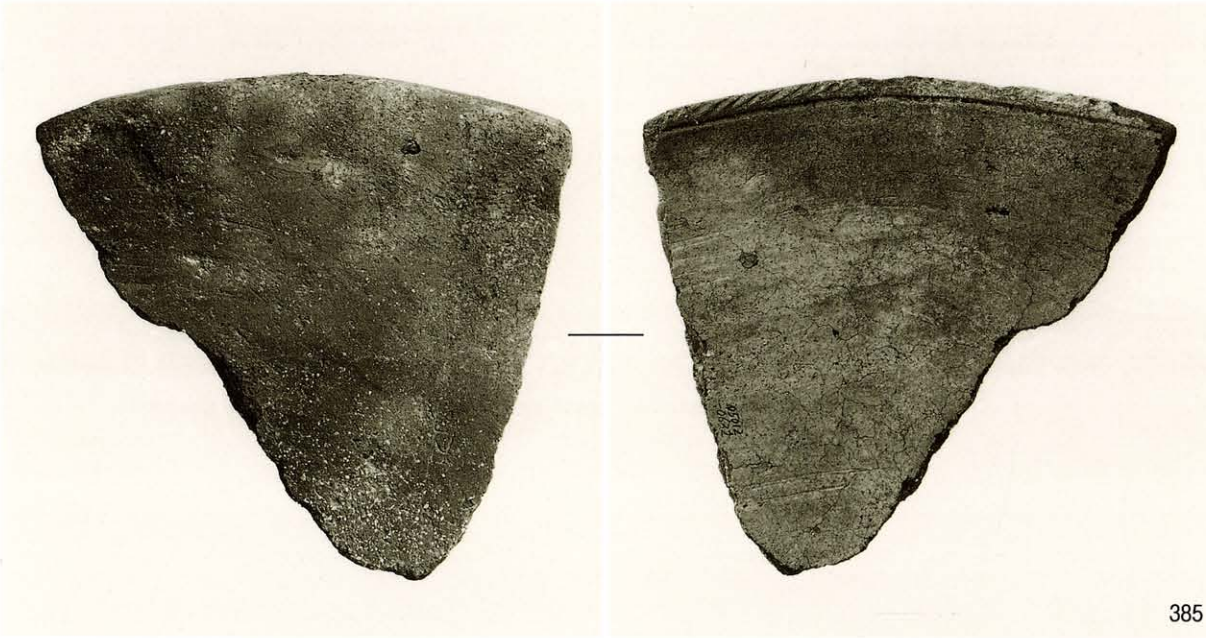
375

縄文土器　有文深鉢

383

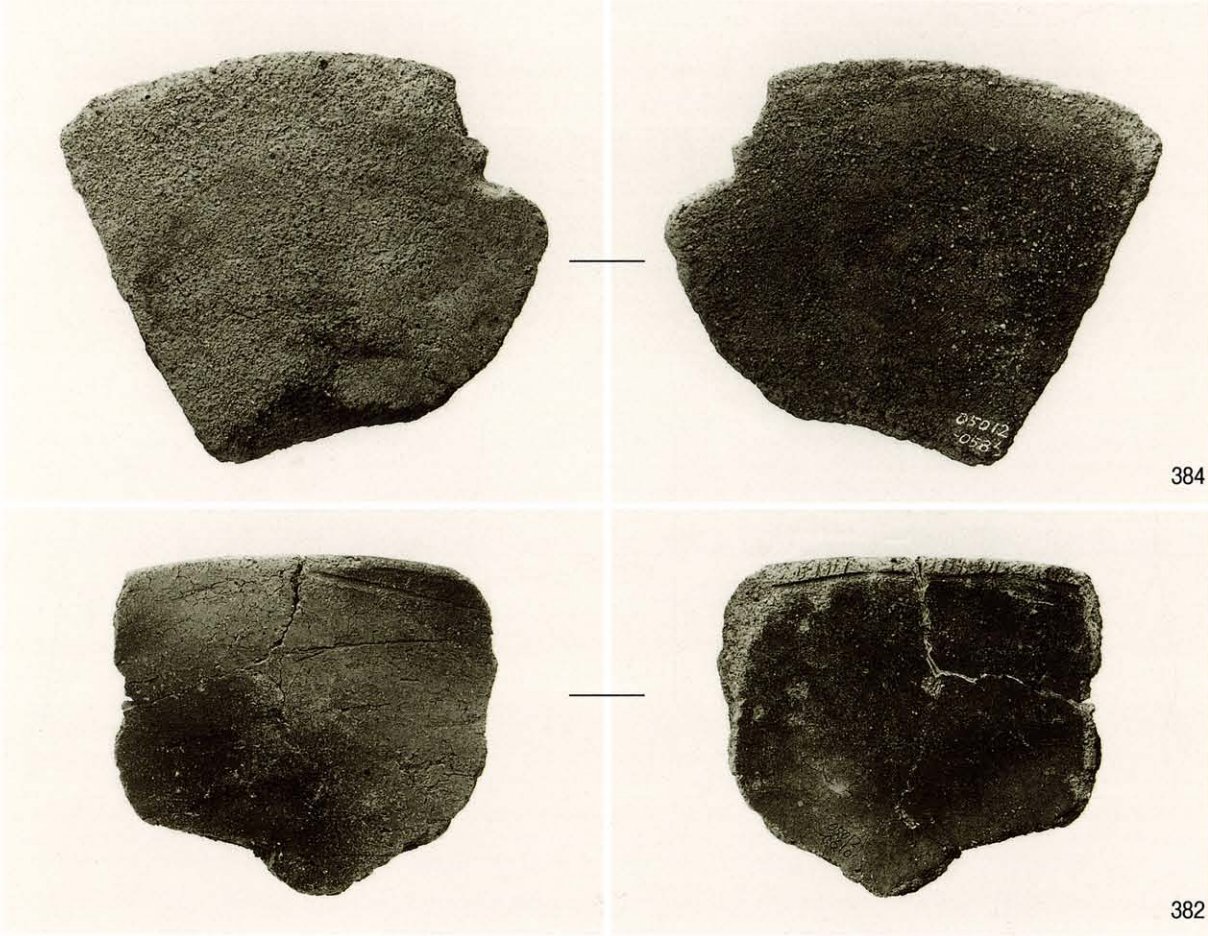


386



385

縄文土器　有文浅鉢




縄文土器　有文浅鉢

縄文土器　無文深鉢

402

400

392

399

406

409

縄文土器　無文深鉢

407

394

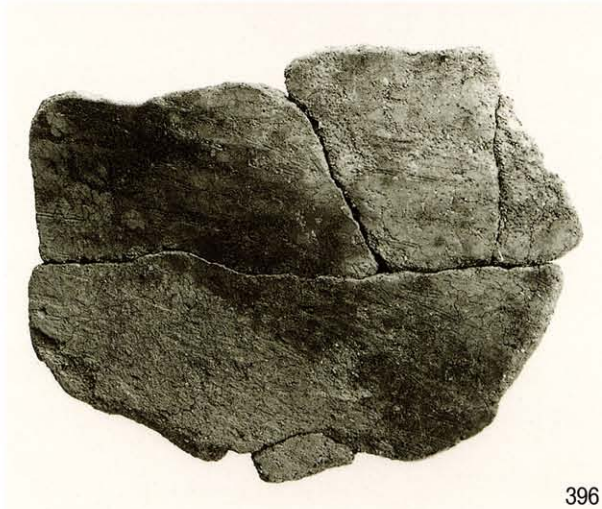
405

424

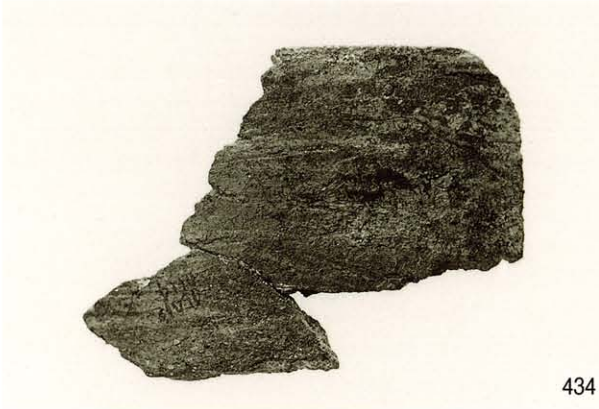
401

397

404


396

縄文土器　無文深鉢

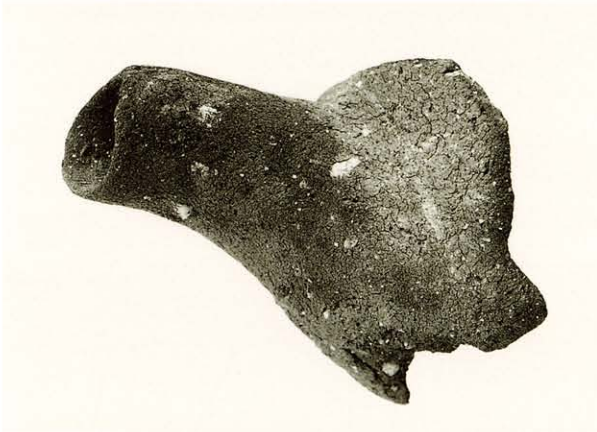

434

435

426

450

縄文土器　無文浅鉢



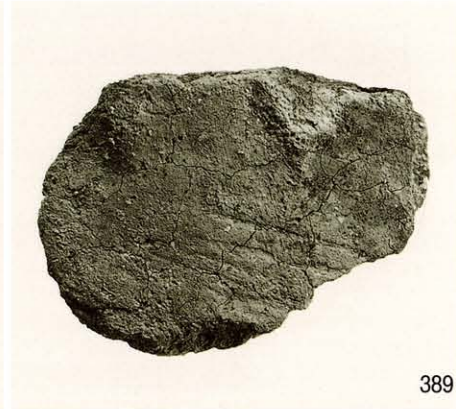
391

縄文土器　注口土器

390

387

388

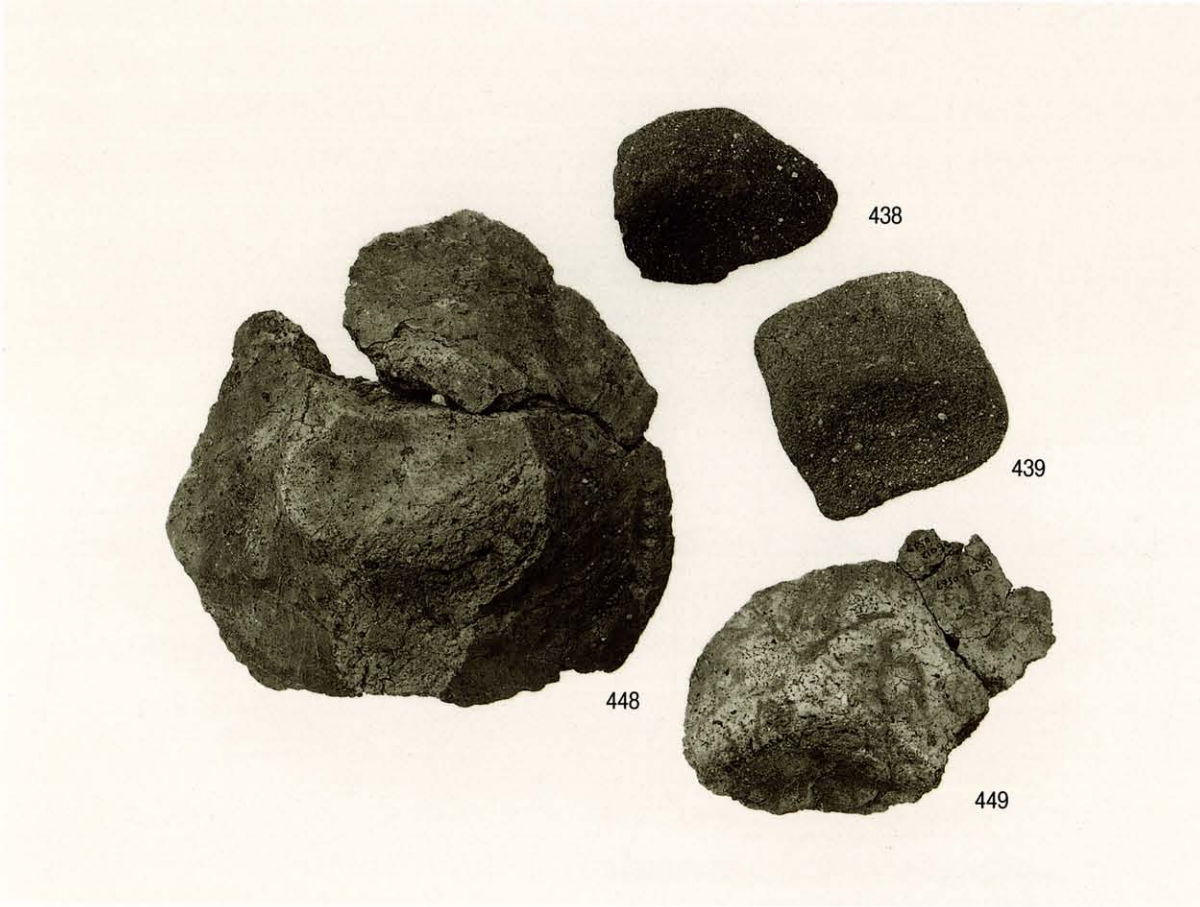


389

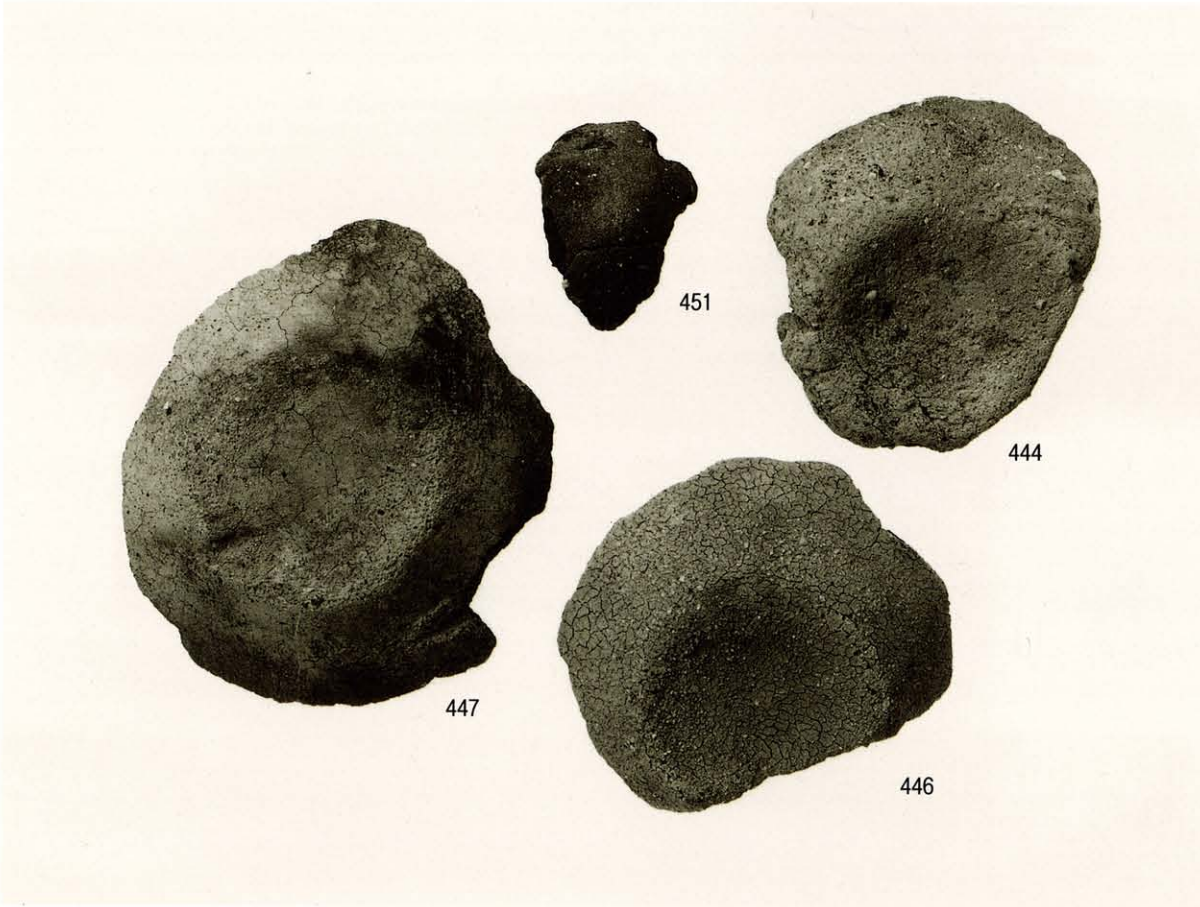
縄文土器　注口土器

455

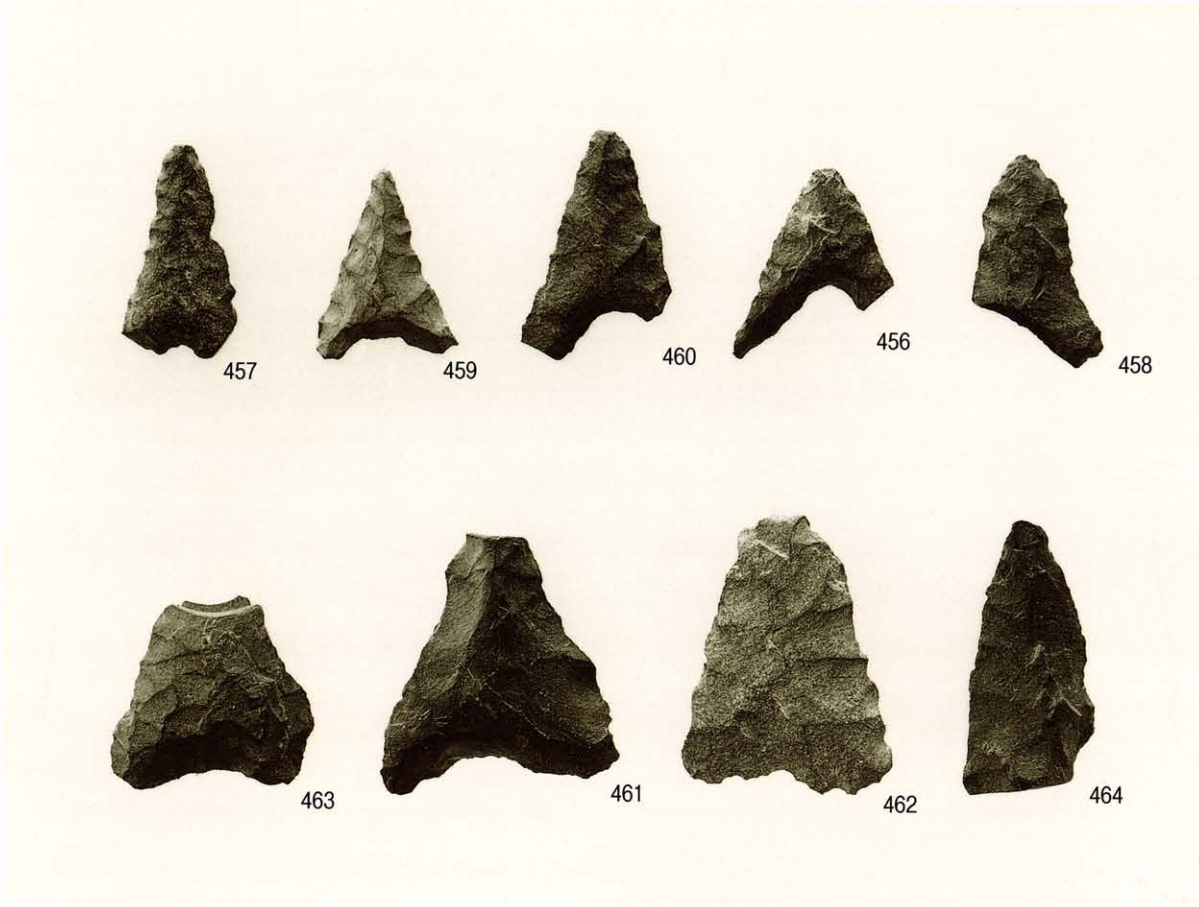
土製品



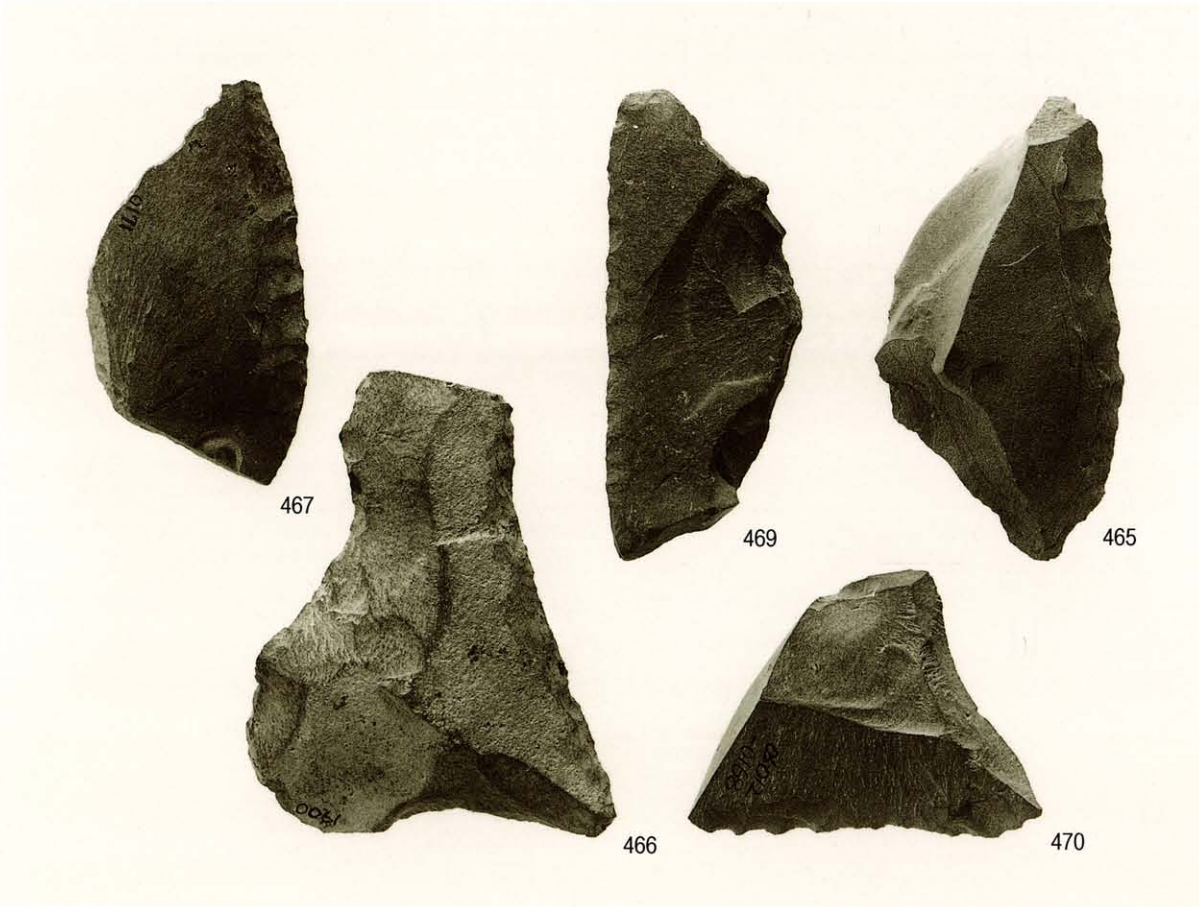

縄文土器　底部



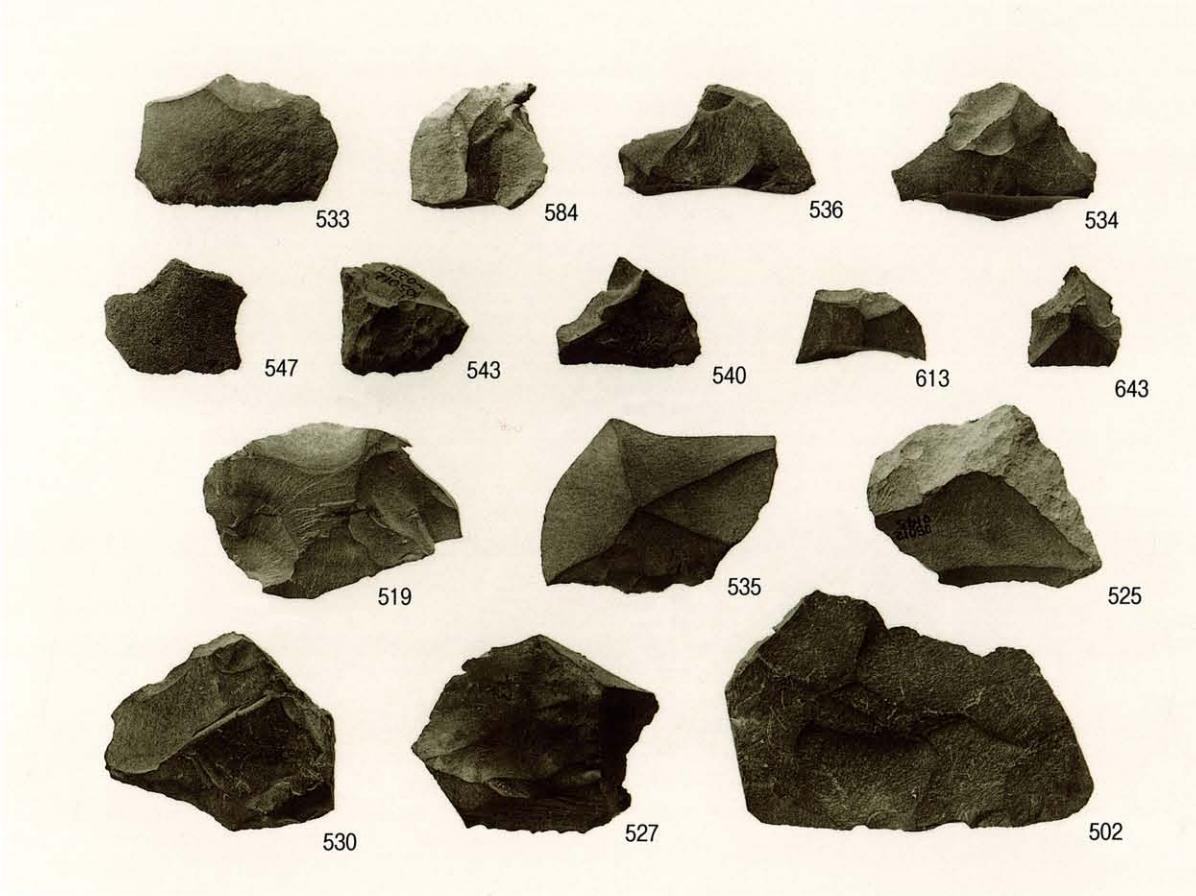

縄文土器　底部



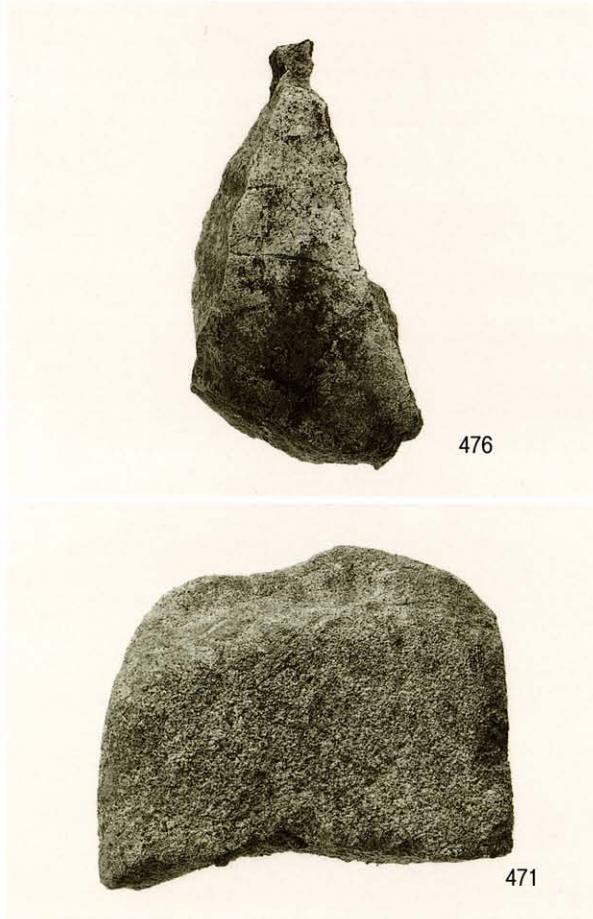

縄文石器　石鏃




縄文石器　石刃




縄文石器　剥片




縄文石器　石皿

木製樋管全形

木製樋管小口部

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | おおとりひがしまちよんちょういせき |
| 書名 | 鳳東町４丁遺跡 |
| 副書名 | 堺南警察署庁舎建て替えに伴う発掘調査 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 大阪府埋蔵文化財調査報告 |
| シリーズ番号 | ２００７－５ |
| 編著者名 | 三木　弘　河本純一 |
| 編集機関 | 大阪府教育委員会文化財保護課 |
| 所在地 | 〒540－0008　大阪府大阪市中央区大手前２丁目　℡06－6941－0351（代表） |
| 発行年月日 | 2008年３月31日 |

| ふりがな | ふりがな | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 面積(㎡) | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 所収遺跡名 | 所在地 | 市町村 | 遺跡番号 | °′″ | °′″ | | | |
| おおとりひがしまちよんちょう<br>鳳東町４丁<br>いせき<br>遺跡 | さかいしにしく<br>堺市西区<br>おおとりひがしまち<br>鳳東町４丁 | 27201 | 9288 | 34°<br>31′<br>53″ | 135°<br>27′<br>45″ | 2005年６月<br>～<br>2006年１月 | 2,284 | 堺南警察署建て替え工事 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 鳳東町４丁遺跡 | 集落<br>生産域 | 縄文時代 | 自然河道 | 土器、石器 | 大溝と周辺に広がる水田域を発見。縄文時代の河道から土器、石器が出土。 |
| | | 古代 | 溝、水田、木製樋管 | 土器、須恵器 | |
| | | 中世 | 畦、側溝 | 瓦器、瓦 | |


要約

鳳東町４丁遺跡は、本調査の前年に行なった試掘調査によって新規発見された遺跡である。したがって今回が遺跡の性格を解明する、初めての発掘調査であった。

その結果、奈良時代に開削されたと考えられる大溝と、それに並行する２条の溝、さらに周辺に広がる水田域を発見した。これらの溝と水田は平安時代末頃に廃絶するが、その後、中世にかけて水田域は畠地化したとみられる。

その他の主要遺構としては、古墳時代後期の可能性がある２棟の掘立柱建物がある。この時期の遺構とみられるものは、他にはなかった。

さらに、古代の遺構検出面下には縄文時代後・晩期の土器・石器を包含した層が存在した。この包含層は、自然河道を埋めた堆積土により形成されている。

出土遺物は、上述した縄文後・晩期の土器・石器を始め、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、須恵質土器、陶器、磁器、瓦などである。

大阪府埋蔵文化財調査報告２００７－５

鳳東町４丁遺跡

発行年月日　2008年３月31日
編集・発行　大阪府教育委員会
〒540－0008
大阪市中央区大手前２丁目
TEL 06－6941－0351㈹
印　　刷　㈲ウェイク
〒582－0001
柏原市本郷５丁目７－８